北陸自動車道遺跡調査報告

――朝日町編４――

境Ａ遺跡
遺構編

1989年3月

富山県教育委員会

全景（西より）

全景（東より）

全景（西より）

昭和60年度調査区（上空より）

北陸自動車道遺跡調査報告

――朝日町編４――

境Ａ遺跡
遺構編

1989年3月

富山県教育委員会

序

北陸自動車道は，昭和63年７月富山県朝日ICと新潟県名立谷浜IC間の開通により全線が完成し，これによって富山県も全国高速自動車道路網に組み込まれることになりました。

富山県教育委員会では，本道の着工以来，路線内に所在する遺跡の発掘調査に全力をあげて対応してまいりました。

県境部の朝日町境A遺跡は，昭和59・60年の２ヶ年にわたり発掘調査を実施しました。ここでは，縄文時代の集落の跡が発見され，“ひすい”の玉類をはじめ多くの遺物が発見されました。

これらの考古資料を通して，本県の原始・古代の人々の生活の解明を更に進めることが可能になったのであります。

この発掘調査で出土した考古資料はぼう大な数量にのぼり，それらの整理には多くの時間を必要としますが，このたびその一部として，本書―遺構編―を刊行いたします。このあと，石器・土器・総括などについての報告を行う予定です。

本書が広く，原始・古代の研究と埋蔵文化財の理解に役立つことを願う次第であります。

最後に，調査にあたりあたたかいご協力をいただきました朝日町の方々をはじめ，関係各位に対して深く感謝の意を表します。

平成元年３月

富山県埋蔵文化財センター
所　長　奥　村　　宏

例　　言

1．本書は，高速自動車国道北陸自動車道建設に伴う朝日町境地内境（さかい）Ａ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査は，日本道路公団新潟建設局の委託を受け，富山県教育委員会が昭和59・60年度の二箇年に亘り実施した。

3．調査遺跡名・調査期間・路線内調査面積は，以下のとおりである。

境Ａ遺跡　昭和59年４月26日～11月30日と昭和60年４月22日～11月28日　調査面積　12,000㎡

4．調査は富山県教育委員会が主体となり富山県埋蔵文化財センターが担当して実施した。

発掘調査年度及び調査・遺物整理事務局

昭和59年度　所長　前田英雄・主任　出村昭夫・文化財保護主事　池野正男・酒井重洋

昭和60年度　所長　前田英雄・主任　高見三郎・文化財保護主事　酒井重洋・宮田進一

昭和61年度　所長　千秋謙治・主任　高見三郎・文化財保護主事　宮田進一・斎藤　隆

昭和62年度　所長　千秋謙治・主任　肥田啓章・主任　岸本雅敏・斎藤　隆

昭和63年度　所長　奥村　宏・主任　肥田啓章・主任　岸本雅敏・久々忠義

調査担当者

昭和59年度　文化財保護主事　関　　清・同山本正敏・同狩野　睦・同神保孝造・同斎藤　隆・同久々忠義
同橋本正春・同松島吉信

昭和60年度　文化財保護主事　関　　清・同山本正敏・同狩野　睦・同池野正男・同斎藤　隆・同久々忠義
同橋本正春・同松島吉信

5．本書の執筆は，調査担当者が行い，文責は各文末に示した。

執筆者一覧

山本正敏　第Ⅱ章　調査結果　３遺構　第20号住居跡

狩野　睦　第Ⅱ章　調査結果　３遺構　第25・32号住居跡

斎藤　隆　第Ⅱ章　調査結果　３遺構　穴群

神保孝造　第Ⅱ章　調査結果　３遺構　第４・５号住居跡

橋本正春　第Ⅰ・Ⅲ章，第Ⅱ章１・２・４・３遺構　第１～３・６～19・21～24・26～31・33～36号住居跡・穴群他

6．本書は，朝日町境Ａ遺跡調査報告書第一分冊遺構編である。

境Ａ遺跡の報告書は，調査が二箇年わたる大規模な調査となり，遺構数と遺物量（特に縄文時代の土器）が多いことなどから，報告書作成計画を数年度にまたがることとし，遺構編・石器編・土器編・総括編の四部作として編集する計画である。

なお，石器編以後の三部は，平成元年度以降順次刊行する予定である。

7．写真は，狩野・橋本が担当し，写真図版は橋本が編集した。

8．遺構実測は，各調査担当者が担当し，橋本が編集した。

一部を富山大学卒業生及び学生の宮田佐和子・北川美佐子・藤野良子・高畑寿恵・吉田正人・大竹　豊の協力を得た。

9．調査から本書作成に至るまで，多くの諸氏・諸機関から指導・助言及び協力などを受けた。あらためて謝意を表し，お礼を申し上げます。

日本道路公団新潟建設局・同魚津工事事務所・熊谷建設・大林組他工事関係者・朝日町・同町境地区・同町宮崎地区・同町南保地区他地元関係者・境地区公民館・文化庁・富山県食品研究所・元興寺文化財研究所

藤井昭二・金子浩昌・三辻利一・広岡公夫・吉井亮一・松田隆継・布目順郎・市毛　勲・山口晴司・水島　保・酒井英夫・小島俊彰・藤田冨士夫・麻柄一志・高慶　孝・渡辺　誠・寺村光晴・前島巳基・高橋　保・折谷隆志　藁科哲男・市川　修・舘野　孝・石岡憲雄・浜野美代子・松浦宿一郎・西野秀和・工藤俊樹

10．本書の編集は，橋本が主に行い，センター職員の指導・協力を得た。

なお，図面整理などの作業は，下記の方々の協力を得た。

島田修一・岡本淳一郎・宮田佐和子・藤野良子・北川美佐子・高畑寿恵・大浦靖子・清水友博・大滝ひろみ・杉崎容子・土田節子・山口チズ子・坪田和子・土田ユキ子・安部利子・発田美智代・尾崎靖子・村井睦子・浦沢純子・西野美和子・斎藤裕代・山上文子・清水征子・北村はま子・吉田　都・鈴木千代子・鷲本かをる・西野さわ子・中沖恵子・酒井由美子・入井智子・津川絵里・佐々木敬子・岡田知亜紀・名苗静子・中嶋恵子・西野恭子・石田　薫　恵田妙子・常岡美保・西本佐知子・竹内勤子・太田弘子・向井しづ子・島崎良子・城石孝子

11．図版類の縮尺は，できるだけ統一を図り，図版下に表示するようにした。

方位は，真北を用いた。

住居跡平面図は，四十分の一・炉平面図は二十分の一を基本とし，その他はスケールを入れた。

土器・石・焼土・貼り床には，スクリーントーンを貼った。凡例は，下図に示した。

12．遺構計測表などでは，言葉を省略して表現した所がある。

遺物の時代は，現時点の土器観察からの時代であり，今後変更することがあるが，目安となりえる。また，時期決定に際して，明確に時期比定が出来ないときは幅を持たせた。

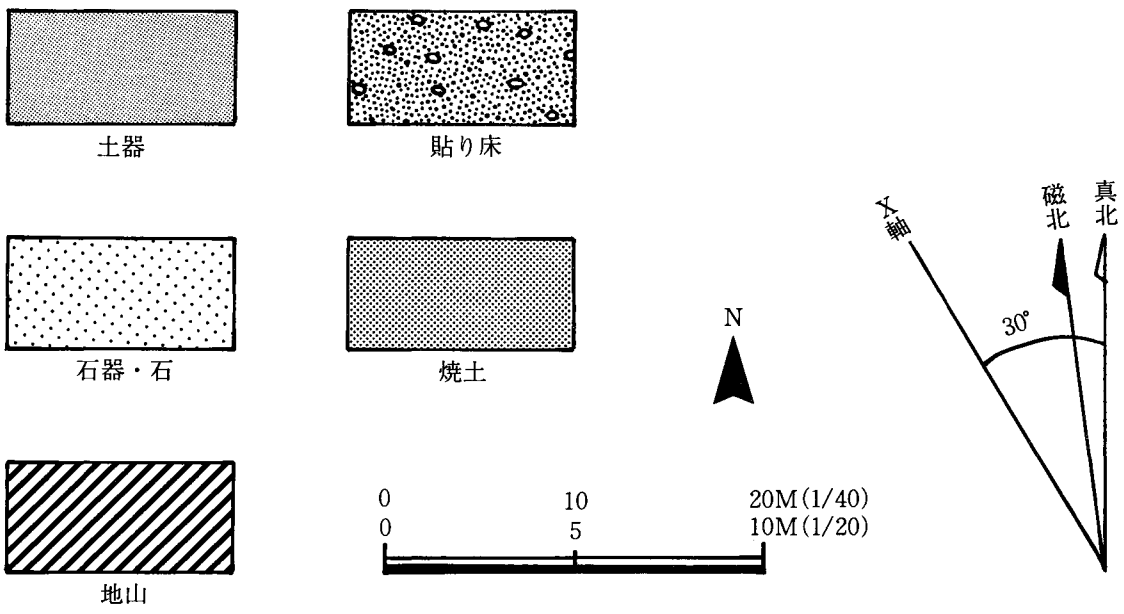
時代では，中は中期，中中は中期中葉という具合である。

遺物では，項目後の数字は個数を表し，項目後の他はその他の項目がまだあることである。

規模では，不整形の穴が多いため，代表すると思われる場所の長さを測っている。そのため，長軸×短軸が面積とならないものが多い。

13．参考図は，遺構編刊行時点での編集図であり，今後，追補訂正をする。

凡例（スクリーントーン一覧表）



本文目次

序

例言

Ⅰ　序章

1　調査に至る経緯……1

2　調査の経緯……1

A　予備調査……1

B　記録保存調査……1

3　位置と環境……2

A　位　置……2

B　地理的景観……2

C　歴史的景観……2

Ⅱ　調査結果

1　調査経過……5

2　地形と層位……7

3　遺　構……8

地形と遺構配置……8

第4・5号住居跡群……9

第4号住居跡……9

第5号住居跡……9

第1・15・28・36号住居跡群……10

第1号住居跡……10

第15号住居跡……11

第28号住居跡……11

第36号住居跡……12

第29・30・33号住居跡群……12

第29号住居跡……12

第30号住居跡……13

第33号住居跡……13

第2・19・20号住居跡群……14

第2号住居跡……14

第20号住居跡……14

第19号住居跡……15

住居跡集中区……16

第3号住居跡……16

第6号住居跡……17

第12号住居跡……17

第8号住居跡……17

第13号住居跡……18

第24号住居跡……18

第14号住居跡……19

第25号住居跡……19

第32号住居跡……19

第18号住居跡……10

第9号住居跡……20

第10・11号住居跡……21

第22号住居跡……21

第21号住居跡……22

第23号住居跡……22

第26号住居跡……23

第35号住居跡……24

第7号住居跡……24

第31号住居跡……24

第16号住居跡……25

第17号住居跡……25

埋　甕……26

焼　土……26

配石と集石……27

穴　群……29

4　まとめ……30

Ⅲ　引用・参考文献

遺構計測表

遺構実測図

写真図版

表・図版目次

表1　調査・報告書作成計画他工程表
表2　調査工程表
表3　住居跡計測表　1～　17号住
表4　住居跡計測表　18～　36号住
表5　穴計測表　1～ 129号穴
表6　穴計測表　130～ 181号穴
表7　穴計測表　182～ 241号穴
表8　穴計測表　242～ 291号穴
表9　穴計測表　292～ 358号穴
表10　穴計測表　359～ 409号穴
表11　穴計測表　410～ 511号穴
表12　穴計測表　512～ 562号穴
表13　穴計測表　563～ 609号穴
表14　穴計測表　610～ 657号穴
表15　穴計測表　658～ 702号穴
表16　穴計測表　703～ 752号穴
表17　穴計測表　753～ 807号穴
表18　穴計測表　808～ 855号穴
表19　穴計測表　856～ 906号穴
表20　穴計測表　907～ 956号穴
表21　穴計測表　957～1006号穴
表22　穴計測表　1007～1113号穴
表23　穴計測表　1114～1166号穴
表24　穴計測表　1167～1219号穴
表25　穴計測表　1220～1337号穴
表26　穴計測表　1338～1387号穴
表27　穴計測表　1388～1513号穴
表28　穴計測表　1514～2004号穴
表29　穴計測表　2005～2017号穴

第1図　周辺の主な遺跡
第2図　周辺の地形と発掘区区割図
第3図　基本土層図
第4図　主な遺構概略図
第5図　試掘調査区と区割図
第6図　住居跡配置図
第7図　第4号住居跡
第8図　第4・5号住居跡炉
第9図　第4・5号住居跡遺物出土状況図
第10図　第5号住居跡
第11図　第1号住居跡
第12図　第15・1号住居跡炉
第13図　第15号住居跡
第14図　第28号住居跡
第15図　第28・36号住居跡炉
第16図　第36号住居跡
第17図　住居跡配置図
第18図　第29号住居跡，第2・3号埋甕，第8～10号焼土
第19図　第29・30号住居跡炉
第20図　第30号住居跡，第7号焼土，第1号埋甕
第21図　第33号住居跡
第22図　第33号住居跡炉
第23図　第2号住居跡
第24図　第2・20号住居跡炉
第25図　第20号住居跡
第26図　第20号住居跡遺物出土状況図
第27図　第19号住居跡，第1・2号焼土，第4号埋甕
第28図　第19号住居跡炉
第29図　住居跡配置図
第30図　第3号住居跡
第31図　第3・6号住居跡炉
第32図　第6号住居跡
第33図　第12号住居跡
第34図　第12・8号住居跡炉

図版目次

第35図　第８号住居跡
第36図　第13号住居跡
第37図　第13・24号住居跡炉
第38図　第24号住居跡，第13号焼土
第39図　第14号住居跡
第40図　第14・32号住居跡炉
第41図　第32号住居跡
第42図　第25号住居跡
第43図　第18・25号住居跡炉
第44図　第18号住居跡
第45図　第９号住居跡
第46図　第９号住居跡炉
第47図　第10・11号住居跡
第48図　第10・11号住居跡炉
第49図　第22号住居跡
第50図　第22号住居跡炉
第51図　第23号住居跡
第52図　第23号住居跡炉
第53図　第21号住居跡
第54図　第21号住居跡炉
第55図　第26号住居跡
第56図　第26号住居跡炉
第57図　第35号住居跡
第58図　第７・35号住居跡炉
第59図　第７号住居跡
第60図　第31号住居跡
第61図　第16号住居跡
第62図　第17号住居跡
第63図　第17号住居跡炉
第64図　木柱根出土穴実測図
第65図　木柱根出土穴実測図
第66図　焼土・埋甕他出土穴実測図
第67図　集石他出土状況図
第68図　集石他出土状況図
付図第１図　境A遺跡遺構実測図
付図第２図　境A遺跡遺構配置図

写真図版目次

巻頭カラー　全　景
巻頭カラー　全　景

図版第１図　全　景
図版第２図　遺構集中区
図版第３図　遺構集中区
図版第４図　遺構集中区
図版第５図　第４・５号住居跡
図版第６図　第４号住居跡
図版第７図　第５号住居跡
図版第８図　第５号住居跡
図版第９図　第１・15・28・36号住居跡
図版第10図　第１号住居跡
図版第11図　第15号住居跡
図版第12図　第28号住居跡
図版第13図　第36号住居跡
図版第14図　第29・30・33号住居跡
図版第15図　第29号住居跡
図版第16図　第30号住居跡
図版第17図　第33号住居跡
図版第18図　第２号住居跡
図版第19図　第19号住居跡
図版第20図　第20号住居跡
図版第21図　第20号住居跡
図版第22図　第３・６～14・16～18・21～26・31・34・35号住居跡
図版第23図　第３号住居跡
図版第24図　第６号住居跡
図版第25図　第７号住居跡
図版第26図　第８号住居跡
図版第27図　第９号住居跡
図版第28図　第10・11号住居跡
図版第29図　第12号住居跡
図版第30図　第13号住居跡
図版第31図　第14号住居跡
図版第32図　第16号住居跡
図版第33図　第17号住居跡
図版第34図　第18号住居跡
図版第35図　第21号住居跡
図版第36図　第22号住居跡
図版第37図　第23号住居跡
図版第38図　第24号住居跡
図版第39図　第25号住居跡
図版第40図　第26号住居跡
図版第41図　第31号住居跡
図版第42図　第32号住居跡
図版第43図　第35号住居跡
図版第44図　第１・３・５号埋甕・第１～３号焼土他
図版第45図　穴集中区全景・出土状況
図版第46図　穴出土状況
図版第47図　穴出土状況

Ⅰ 序　　章

1　調査に至る経緯

昭和43年春に，日本道路公団新潟建設局（以下公団）が北陸自動車道の富山県分について，路線計画を発表して以来，本県では順次工事が進められてきた。そして，昭和63年夏には，待望の工事最終区間である富山県朝日・新潟県名立谷浜間が開通した。これで北陸自動車道は，滋賀県米原から新潟県黒崎間の全線が開通し，全国の高速自動車道路網のなかに組み込まれた。

一方，富山県教育委員会（以下県教委）は，工事予定路線に係る埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に対して，遺跡の保護措置を講じ，出来るだけ遺跡を保存することとしてきた。その中で，昭和45～47年度には，小杉町上野遺跡他の調査を行い，昭和54～56年度には立山町～魚津市間の遺跡群の調査（18遺跡）をし，さらに，昭和58～62年度までは朝日町の遺跡群の調査（７遺跡）を実施してきた。

2　調査の経緯

A　予備調査

県教委は，昭和47年度までに県内の分布調査を行い，約1,200遺跡を確認し『富山県遺跡地図』〔県教委1973〕として公表した。その後，公団から富山・朝日間の路線計画が発表されたため，県教委は昭和47年度にその区間の分布調査を実施し，新発見の41遺跡を含む71遺跡が工事予定路線内に含まれていることが判った。なお，朝日町小更以東は海岸寄りルートで周知の遺跡は含まれないものの，路線変更を考慮して24遺跡を参考として付け，公表した「県教委1974」。特に，朝日町小更以東については，公団と遺跡を避ける協議を行ってきた。ところが，昭和57年度になり，朝日町小更以東のあらたな路線変更案を示してきたため，昭和57年度に分布調査を実施した。その結果，周知の３遺跡と新発見の３遺跡，合計６遺跡が工事予定地内に含まれることが判った。その後，県教委と公団は，遺跡の保護措置について協議を行ってきたが、昭和58年度から遺跡の範囲・規模・内容などを把握するための試掘調査を行うこととなった。その調査結果（『朝日町編２』〔橋本他1985〕に収録）を基に，県教委と公団は協議を重ねたが，引き続き記録保存調査（本調査）に入ることとなった。

B　記録保存調査

調査は，公団の委託を受けて，県教委が調査主体となり，富山県埋蔵文化財センターが担当し，地元朝日町の協力を得て昭和59年６月～昭和60年11月までの２箇年の長きにわたり実施した（表１参照）。

本書では，境A遺跡の調査結果を扱うが，朝日町宮崎地区内に所在する馬場山遺跡群（馬場山D～H遺跡）については、『朝日町編２』と『朝日町編３』〔橋本他1985・1987〕に収録・報告済みであるので参照願いたい。

なお，境A遺跡の調査結果は，遺構・石器・土器・総括の四部構成（四箇年で刊行予定）としており，本書は，第一分冊遺構編である。他の三部は，次年度以降に，順次刊行予定である（表１参照）。　　（橋本正春）

	面　積	昭和57・58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	平成元年	平成２	平成３	平成４
境 A 遺 跡	12,100㎡	分布調査	試・本	本調査	遺物整理	報告書作成	遺構編	石器編	土器編	総括編
馬場山D遺跡	6,000㎡	分布調査	試	本調査	本調査・報告書『朝日町編３』					
〃 E遺跡	600㎡	分布調査	試							
〃 F遺跡	3,000㎡	分布調査	試・本・報告書『朝日町編２』							
〃 G遺跡	5,000㎡	分布調査	試		本調査・報告書『朝日町編３』					
〃 H遺跡	3,600㎡	分布調査	試	試・本・報告書『朝日町編３』						

表１　調査・報告書作成計画他工程表

3　位置と環境

A　位　置

富山県の東北端に位置する朝日町は，東を新潟県青海町・糸魚川市に接し，西は入善町に接し，南は宇奈月町に接し，北側には富山湾（日本海）が広がる町である。そして，朝日町は富山県の東端という位置などから，関東・東北・信越地区と関西方面との文化交流など陸路の中継点として，古来より栄えてきた町である。また，海路では，石川県能登半島・新潟県佐渡島とも交流がある。町の東部には，遺跡の所在する宮崎・境地区があり，隣町は新潟県青海町という地である。両地区は，平野部が少なく，山が海岸近くまでせり出している地形であり，平野部幅は500ｍあまりである。遺跡は，両地区の中程で，山地形が平野部に移り変わるところにある。

B　地理的景観

朝日町の地形は，大別すると，標高が3,000m級の北アルプス後立山連峰から続く山地形，黒部川・小川により形成された扇状地平野部，町東端で日本海に面した狭い海岸平野部の三地形からなる。黒部川は，北アルプスから日本海へ北流する河川で，流長が約60km・海までの距離約15kmという急流河川である。そして，同様の大小河川が幾条も日本海へ流れ込む地形である。

山地形は東南地区でみられ，標高2,418mの朝日岳や標高2,933mの白馬岳をはじめとする3,000m級の高山性山地までを含み，町の大半をしめている。

扇状地形は西側でみられ，町の中心部である泊地区が含まれ，棚山・南保地区から伸びる棚山台地山麓・南保山地山麓・舟見野隆起・小川扇状地である。

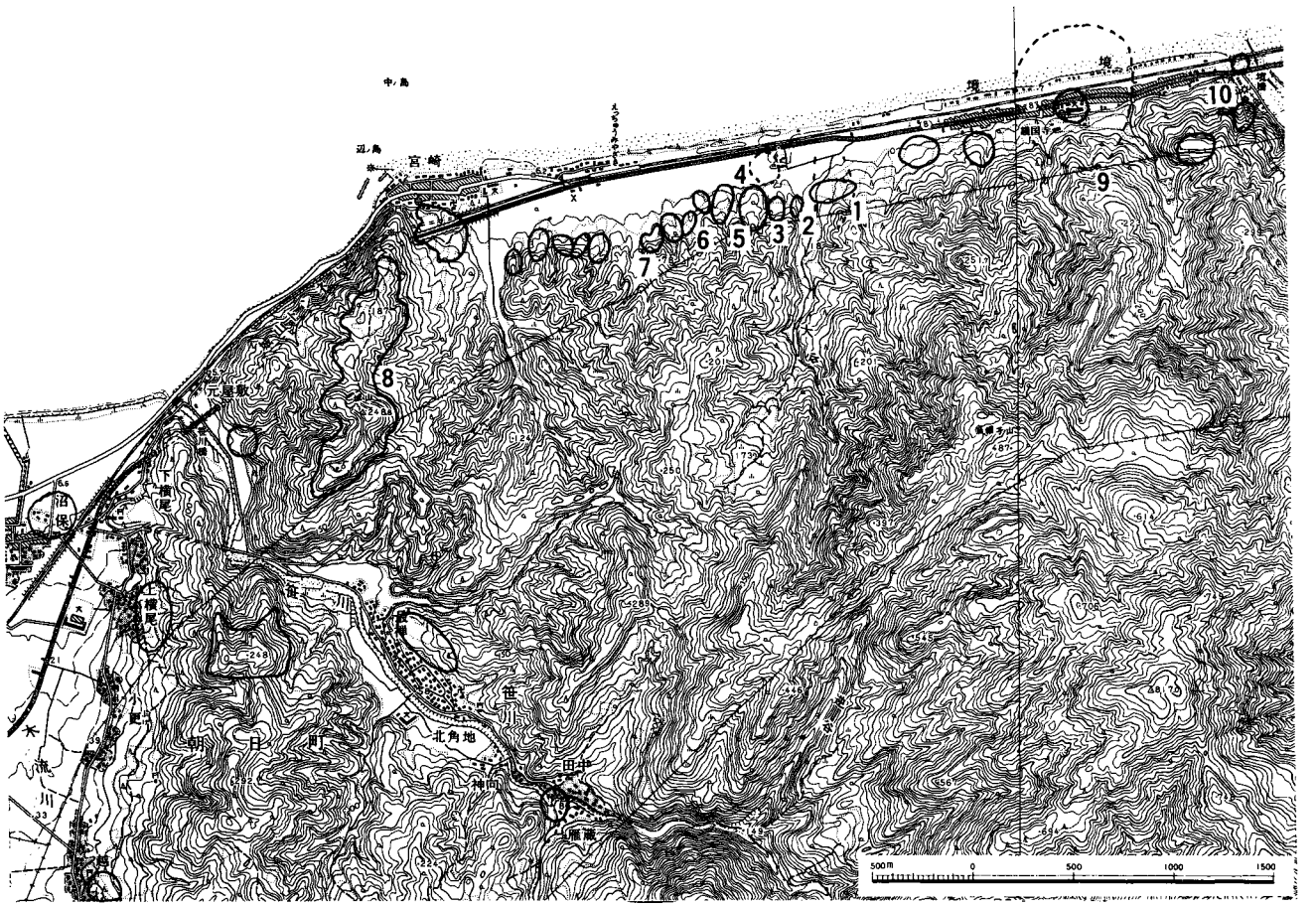
海岸平野は，東部の富山湾と日本海に面した地区で，新潟県青海町付近まで続き，宮崎・境地区の海岸平野は山地形の一つで宮崎城跡が存在する城山により隔てられている。宮崎・境地区の海岸平野は，東西約５km・南北約500mの細長い平野となっている。同様の地形は，日本海海岸沿いに新潟県市振まで続く。海岸平野は，海に向かって北流する小河川が平行するかのように何条も見られる。山地形から平野部へ移り変わる場所では，小河川により小谷と小丘陵が形成される。小丘陵は，北に向かって細長く伸び，河川と同様に平行して，連続的に見られる。境Ａ遺跡は，大谷川により形成された小丘陵とそこからつながる平野部上に所在し，南西側では別な小河川による小扇状地形が接している。当遺跡に西接する馬場山遺跡群は，小河川の一つである大谷川を隔てた小丘陵群上に所在する。

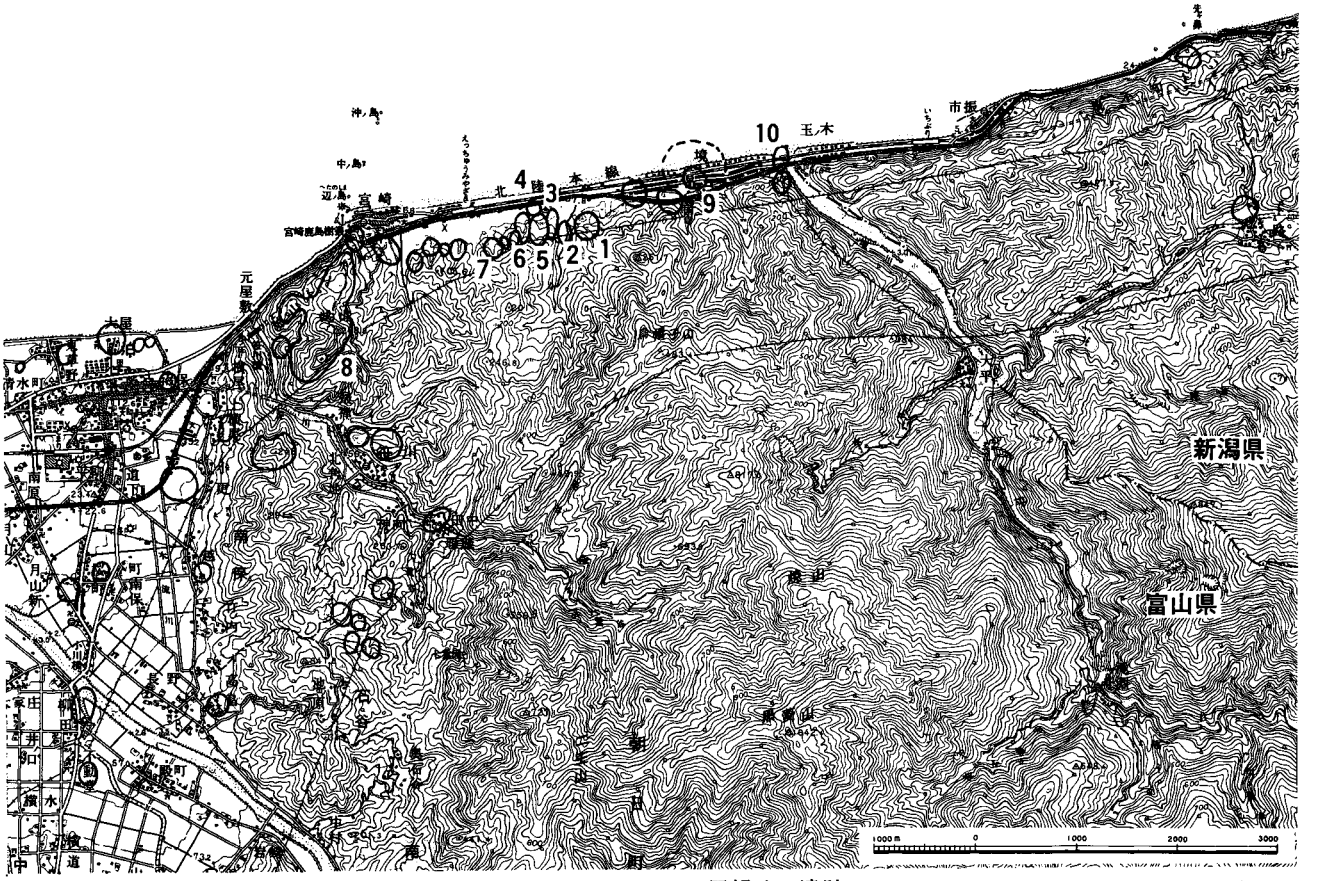
境Ａ遺跡と馬場山遺跡群の背後の山は，標高が600m前後で，傾斜度が20～30度の山地形となっている。

富山県東部地区の現海岸線は，過去100年間の間に約100mの侵食を受けており，日本一と言われている。江戸時代の境関所浜番所などは，現海岸線近くにあり，それよりはるか沖合約50～60mに汀線があったらしい。それが，現在は消失しており，当地区の海岸線侵食のすさまじさを表わしている。海水面の変動については，地球規模の研究があるが，小地域での海水面移動については詳しく判っていない。朝日町付近の最近の研究成果〔山田他1978〕・〔朝日町編1964〕・〔能都町教委1986〕などによると，次のような現象であったらしい。朝日町の海岸線は，約２万年前の最終永期頃は現海水面下約80～100m，約１万年前の先土器時代末頃は現海水面下約40m，約6500年前の縄文時代前期頃は標高約５ｍのところに海岸線があったらしい。その後，縄文時代中期～後期頃にかけて海が後退し，現海水面下約10ｍくらいまで下がったらしい。そして，現在に至るまで海岸線侵食を受けている。この海水面変動を現地形とあわせて模式化したものを『朝日町編３』〔橋本他1987〕で示した。

C　歴史的景観

朝日町は，富山県の東の県境という位置的要因と山が海近くまでせまっている地形的要因などから，古来より境の地として，また，近世では加賀藩と富山藩の主要な関所として利用・重要視されている。さらに東西文化の接点入り組み地として独自の文化を形成してきている。そして，目前の海を利用した海上交通により，新潟県佐渡島や石川県





第1図　周辺の主な遺跡 1.境A遺跡　2.馬場山E遺跡　3.馬場山D遺跡　4.馬場山F遺跡　5.馬場山G遺跡　6.馬場山H遺跡　7.浜山遺跡　8.宮崎城跡　9.境関所跡　10.境一里塚

能登半島などとも交流・交易がある。

境A遺跡とその周辺の遺跡をみてみると，次のような遺跡の変遷がたどれる。

先土器時代の遺跡は，朝日町では北野遺跡出土の石器が示されているが，確実な資料では先土器時代終末から縄文時代早創期にかけての馬場山D遺跡があげられる。

縄文時代早創期から中期までの遺跡では，発掘調査による馬場山遺跡群があり，早・前期では馬場山F・D・G・H遺跡があげられる。しかし，町内では遺跡数がまだ少なく，境・馬場山遺跡群に近い宮崎地区の明石A遺跡（前期）などである。

縄文時代中期の遺跡になると，町内では遺跡数が増大しピークとなり，調査された遺跡も多くなる。なかでも国指定史跡（昭和49年）の不動堂遺跡は著名である。遺跡は，黒部川扇状地末端部にあり，長軸17m短軸８mの大型住居跡一棟を含む集落跡である。大型住居跡は，当時の集会所的な性格をもつらしく，東西二室に別れて構成されている〔細見1982〕。また，土器では，新潟県と関連のある火炎土器が出土している。そして，現在は，環境整備が進められている。また，その周辺地では，住居跡・多数の穴群とともに有孔鍔付土器・釣手土器・獣体表現の深鉢土器などを出土した下山新遺跡や柳田遺跡などがある。境・馬場山遺跡群では，ほとんどの遺跡の中心時期であり，住居跡数も多くなる。その中で，馬場山F・D・G遺跡では，石器生産や滑石の玉つくりもさることながら中期前葉住居跡内でのヒスイの玉つくりが注目される。

縄文時代後・晩期になると，町内では遺跡数が少なくなる。これは，海水面や気温の低下によるのかも知れない。町内では，不動堂北遺跡・柳田遺跡などがある。このほかに南接する宇奈月町では，後期が主体となる愛本新遺跡がよく知られている。境・馬場山遺跡群では馬場山D・G・H遺跡があげられる。

弥生時代は，県内でも遺跡数が少ない時代で，朝日町も同様である。今後の研究成果を待たなければならないが，現段階では境A遺跡から同期の土器が出土している。

古墳時代では，昭和42・43年に発掘調査が行われ，工房跡２棟が検出された中期の浜山玉つくり遺跡（県史跡　昭和47年）がよく知られている。遺跡では，ヒスイを主とした玉つくりが行われており，特にヒスイの勾玉の製作方法が明らかとなっている。

平安時代頃では，馬場山D遺跡の製塩と石組遺構が注目される。また，馬場山F遺跡でも土師器が出土している。

平安時代から中世にかけてでは，昭和58年に調査した道下遺跡がある。調査では，平安時代の製塩土器をはじめ，建物とそれに属する施設が検出されている。また，中・近世の土器も出土している。同時期頃の著名な遺跡として，西接する入善町じょうべのま遺跡がある。遺跡は，黒部川扇状地末端部で海岸に面してあり，調査により整然と配置された建物群や木簡などが検出された。その結果，平安時代の荘家跡であることが判り，昭和54年に国指定史跡となり，現在は，環境整備が進められている。

中世頃では，町中心部と県境部を区切る城山に中世の山城として知られている宮崎城跡（県史跡）がある。城は，平安時代末から近世まで利用されており，現在は本丸跡や土塁跡などが残っている。また，この城山一帯は，宮崎鹿島樹叢という名称で国の天然記念物指定（昭和11年）を受けており，この樹叢は，日本海側の暖温帯性植物の北上分布の境界となっている。この他に，明石A遺跡では，室町時代末期の埋納されたと推定されている中国古銭約一万枚が出土している。

中世以後では，現存する遺跡として県史跡の境一里塚がある。塚は，新潟県との境を流れる境川の左岸にあり，最近まで二基あったが現在は一基しか残っていない。一里塚のすぐ西には，加賀藩の東口関所である境関所がある。当時の境関所は，箱根の関所を上回る大規模なものであったといい，現在の境小学校付近が中心部となる。また，当時は，海岸の砂浜が50～60mあり，浜番所も設置され，舟の通行に対しても注意を払っていた。　　（橋本正春）

Ⅱ　調査結果

1　調査経過

A　予備調査

分布調査は，公団の委託を受けて県教委が昭和57年12月に行った。調査の結果に基づき，県教委と公団は遺跡の保護措置の協議を行ったが，遺跡の範囲・内容などを把握するための試掘調査を昭和59年度に実施することとなった。

試掘調査

試掘調査は，１～２ｍ幅のトレンチを用い，昭和59年４月～６月まで行った。一部，表土・盛土が厚い地点や湧水の強いところでは，機械を用いて調査した。調査の結果，路線内に含まれる面積は，12,000㎡である。

境Ａ遺跡では，道路本線工事に関係する関連工事として，国道８号線からの取付道路拡幅があり，これに対しても昭和59年４月24日と11月21日の２回（２日間）に試掘調査を実施した。

これらの調査結果を基に協議を重ねたが，引き続き記録保存調査（本調査）を実施することとなった。

B　記録保存調査（本調査）

境Ａ遺跡は，県遺跡台帳№1172〔県教委1973〕縄文時代の遺跡として知られていた。遺跡は，丘陵部から平地部にかけて所在し，標高は５～30ｍを測る。遺跡は，朝日町境地区の西約0.5kmに所在し，馬場山遺跡群とは大谷川をはさむ位置にある。現状は，水田・畑・雑木林である。

これまで，遺跡は丘陵上が中心であると考えられていたが，昭和57年12月の分布調査の結果，遺跡の範囲は丘陵下の平地部（水田）までかなり広がることと時代が縄文時代から中世までの複合遺跡であることが判った。遺跡の推定範囲は45,000㎡で，そのうち路線内面積は11,200㎡である。この他に，遺跡内を横切る町道の拡幅工事があるため，その試掘をしたところ，遺跡は北（海）へ伸びて広がることが判った。

調査は公団の委託を受けて，県教委が調査主体となり，センターが担当し，昭和59年と60年の二箇年にわたり本調査を実施した。境A遺跡の，対象面積12,000㎡の内5,700㎡は昭和59年度に調査し，残りは昭和60年度に行った。

昭和59年度

調査は，調査区のほぼ中央を北流する竹屋川用水により二分された東側地区から開始した。調査区は，地形の傾斜と海方向にあわせてX軸をとり，遺物などの取り上げには２×２Ｍの小グリッドを基本とし，さらに10×10Mの大グリッドもあわせて用いた。東側調査区は，山地形で表土が薄いため人力とベルトコンベアーを使い掘り進んだ。しかし中央部近くになるに従い表土が厚くなったため，機械を使い表土排土を行った。東側調査区では，縄文時代の住居跡２棟と平安時代頃の掘建柱建物群を検出した。また，西側調査区の一部は，人力と機械を使い表土排土を行った。西側調査区の南で，平安時代頃の掘建柱建物群を検出し，その外に縄文時代の炉跡を数個確認して調査を一時中断した。

昭和60年度

調査は，昭和59年度に引き続き西側調査区で行い，北東部では表土が厚かったため，機械を使い表土排土を先行して行った。遺物は，西側調査区の中程から北東部にかけて多くなり，それとともに遺構数も増してきた。縄文時代の住居跡は，南西部に集中し，穴群は北部で多くみられた。

前年度の調査の課程で，ヒスイの小さな玉や破片などと骨類などが多数出土するため，土を水洗して微小遺物を検出することとした。土壌水洗は，調査地脇で同時に行い，水洗後の遺物他をセンターへ運びこんだ。

なお，地元の方々を初め朝日町教育委員会にも一方ならぬご協力を受け，調査を無事終了することが出来ました。また，調査期間中に，朝日町教育委員会の協力のもと現地説明会や講演会などを行ったところ，多数の方々のご参加を得て，盛況のうちに終了することが出来ました。改めて，感謝の意を表します。　（橋本正春）

第２図　周辺の地形と発掘区区割図 (1/1500)

2　地形と層位

地　形

遺跡は，日本海に向かって北流する大谷川右岸の丘陵上から平野部にかけて所在する。丘陵は，北と西に向かい，小河川により解析され，大谷川に向かって開く小さな扇状地形をつくっている。遺跡の位置する丘陵は，背後の急な山地形から平野部へ移りかわる地点であるため比較的緩やかに傾斜し，北と西に向かう小さな尾根筋がみられ，台形に張り出す形である。現地形は，耕作による畑境の段があるが，当時は緩やかな傾斜地形である。平野部は，台形に張り出す丘陵の北と西縁部から北西に傾斜する。現地形は平坦で，遺構検出面では緩やかな傾斜地形が続く。

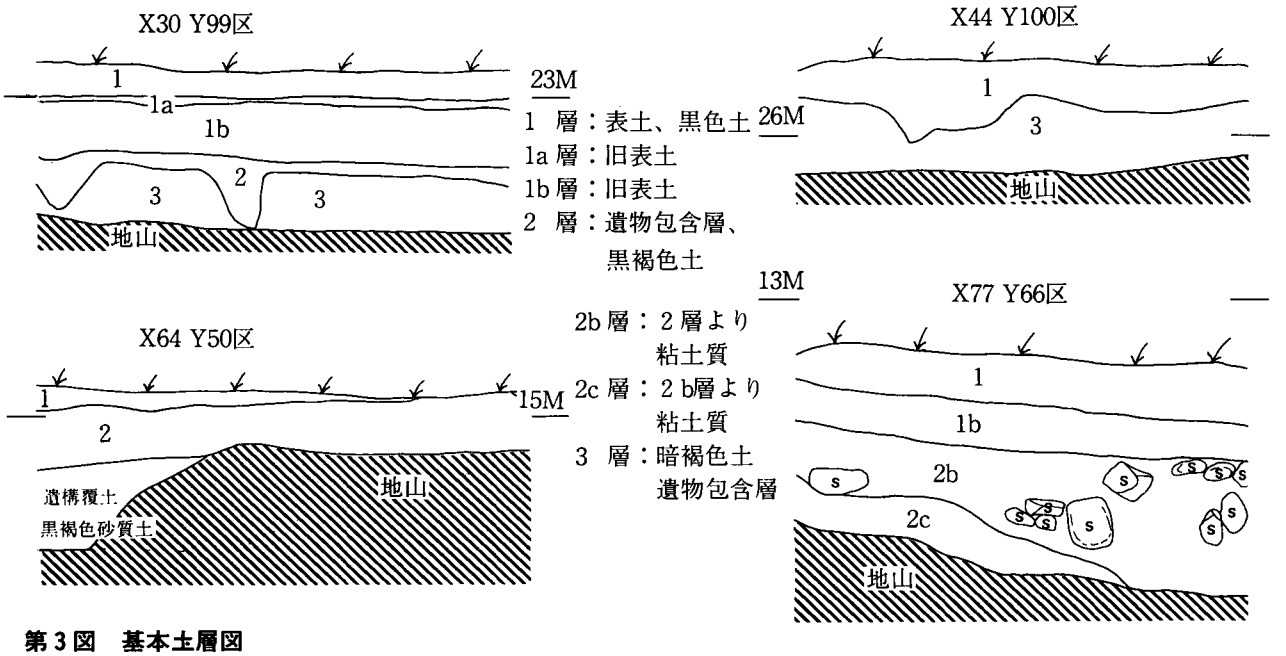
層　位

境A遺跡の基本的な土層は，大きく二大別できる。また，下図を参照願いたい。

丘陵部（昭和59年度調査区）の土層は，下図の上二つである。1層表土と耕作土：5～20cm，2層遺物包含層：黒褐色粘質土：0～10cm，3層遺物包含層：暗褐色粘質土：5～20cm，地山：黄褐色粘質土である。場所により1層表土が50～60cmの地点があり，これは畑を作る時の盛土が厚く堆積しているためで，a～cまでにわけている。

一つは，平野部（昭和60年度調査区）の土層で，下図の下二つである。1層表土と耕作土：10～60cm，2層遺物包含層：黒褐色粘質土：10～30cm，3層遺物包含層：暗褐色粘質土：10～30cm，地山：黄褐色粘質土・砂利層・灰黄色粘質土他である。1層表土は，丘陵部と同様である。2・3層は，同様の遺物包含層で，2層は場所により1mに達するところがある。地山は，場所により様々である。丘陵部と同様の黄褐色粘質土の所は，北側約半分の穴群所在の地点で，灰黄色粘質土の所もある。南側の約半分は，大半が砂利層で住居跡群や川跡などが所在し，小石から人頭大の石も含む。住居跡付近では，人頭大以上の石が少ない。南東部では，黄褐色粘質土と砂利層の入り組んだ地山となっており，さらに人頭大以上の巨大な岩石が地山にくい込んでいる。また，この岩石は，川跡と丘陵のせりだしに合うかのように中央部までみられる。西側では，砂利層と暗青灰色粘質土の入り組んだ地山である。

縄文時代の遺構検出面は，地山であるが，平安時代頃の遺構検出面は縄文時代遺構の上面で，2・3層となる。いわゆる二枚の文化層である。昭和59年度調査区では，西縁辺部地区で建物群が検出されており，黄褐色粘質土と3層が混じった層中である。昭和60年度調査区では，南縁辺部地区で建物群と製塩遺構が検出されており，黄褐色粘質土と砂利層の入り組んだ層中である。その遺構下には，河跡が検出されている。　（橋本正春）



第3図　基本土層図

3 遺 構

地形と遺構配置

境Ａ遺跡の調査で検出した遺構は，現在も研究中のため明確にはしえないが現時点で概略すると次のようになる。

縄文時代は，中期から後期の住居跡約35棟・中期から晩期の穴群約1500個・時期未決定の焼土と川跡・埋甕・柱の根元部分を残す穴などがある。平安時代から中世では，掘立柱建物数棟・製塩関係遺構と焼土他である。

住居跡群は，大きく五群にわかれる。その内の一群は，東側地区（昭和59年度調査区）に所在する第４・５号住居跡の２棟である。残りの四群は，西側地区にあり，一群は北東部に所在し，三群は南半分に所在する。最後の三群は，川跡の両側にわかれて所在する。川跡西側の住居跡群は，中間にある岩石の多い高まりをはさみ三つにわかれる。

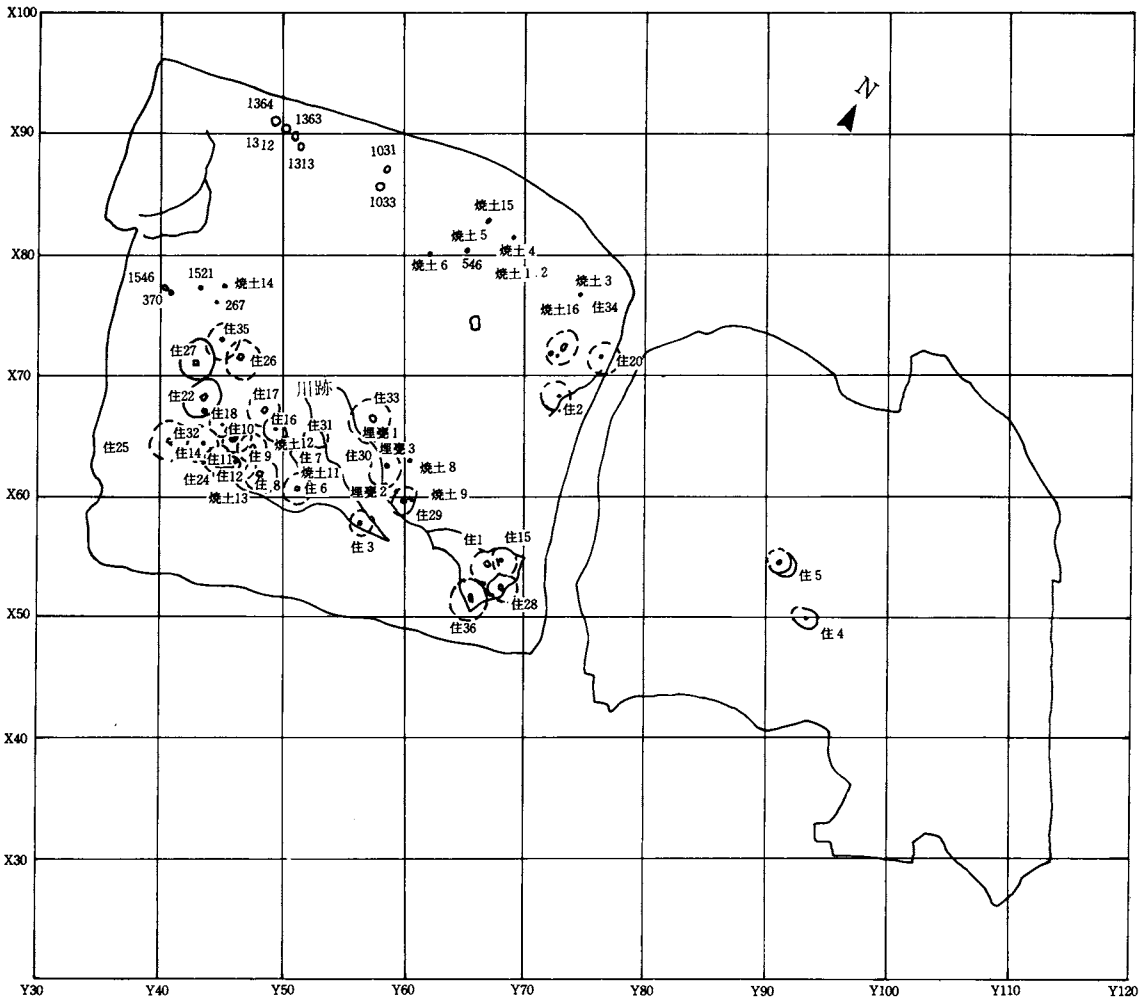
穴群は，住居跡集中区の北にあり，西側地区の北半分を占め，北東部の住居跡群に接する。柱の根元部分を残す穴は，二地点でみられる。一つは，穴群西部でみられ，穴の規模がほぼ同じで，弧を描くように並ぶ。他は，住居跡集中区の北縁で検出されており，先の穴規模より小さい群で，現段階ではまとまりが認められない。

埋甕他は，西側地区に散在しており，住居跡と接する例もある。

遺構は，岩石が少なく，地山が黄褐色粘質土や砂利層の所に集中している。南側の住居跡集中区と穴群との間には遺構が少ない地帯があり，岩石も多い。

掘立柱建物は，東側地区の西縁部と西側地区の南縁部に所在し，製塩関係遺構は後者と重なる。西側地区の掘立柱建物と製塩関係遺構は，南東から西へ向かう一条の川跡の上で検出されている。

本書では縄文時代を扱い，それ以後の時代は第四分冊総括編に収録する予定である。　（橋本正春）



第４図　主な遺構概略図（1/1500）

第４・５号住居跡群（昭和59年度・東側調査区）

第４・５号住居跡は，境Ａ遺跡東側地区の昭和59年度調査区に所在し，丘陵上の少し高い位置に二棟並んでおり，標高は約22～24ｍである。二棟の炉の主軸方向は，ほぼ同じく東西方向で，西側（昭和59年度調査区）の住居跡集中区を向いている。周辺には耕作による段があり，それらにより両住居跡の西側はいずれも壊されているが，当時は同じ傾斜が続いていたらしい。住居跡間の距離は，約６ｍと近接している。（橋本正春）

第４号住居跡（第６～９図，図版第５・６図）

住居跡は，東側調査地区中央部のX50・51Y93～95区に位置する。この周辺は，東から西にのびる小さな尾根の南西斜面部にあたり，第４・５号の２つの住居跡が立地する。標高は22.5ｍ～24ｍで，一帯には後世の削平による階段状の地形が見られる。その法面の一部は，当住居跡にもかかり，西壁がまったく痕跡を止めていない。また西方に約６ｍの間を隔て位置する第５号住居跡も，その削平を受け北西側ほぼ半分が比高差約１ｍの崖となっている。

４号住居跡の平面形は，西壁がつかめずはっきりしないが，長円形もしくは馬蹄形で，長軸約４ｍ・短軸約3.5ｍの規模をもつと推定される。柱穴は，Ｐ１～Ｐ４が主柱に関係するもので，床面から深さ30cm～50cmを測る。主軸をＮ―80°―Ｅの方位にとる４本主柱X型の住居とみたいが，西側の床面には主柱穴状のP13・P14が位置しており，６本主柱X型の可能性も残す。ただその場合，両穴とも他の主柱穴に比べて掘り込みが浅く，覆土の色合にも差異が認められ，主柱穴としての確実性に疑問も残る。また，主柱穴のＰ１～Ｐ３では，柱穴の重複が見られ，小規模な建て替えも合わせて考慮される。その他，当住居に付随した穴として，東壁沿などで主柱穴より浅くて小さい柱穴状の小穴を検出したが，その性格はつかめなかった。

住居跡の床面は，黄色粘質土の地山中に位置し西に向かって緩やかな傾斜をもち，中央部ほどしまりが強い。周壁は，その床面に対しほぼ垂直に作られたものと考えられるが，検出しえた東・南・北壁ともかなりの勾配がみられ，壁高が東壁で最大60cmを測った。また，周壁溝については東壁沿いで溝状の掘り込みを確認したが，遺存状況が悪く明確な検出はできなかった。

炉は，石組炉で中央部に深鉢形土器が埋設されている。その規模は，北・南側の炉石が抜き取られ全容はしれないが，掘り方から推定すれば長方形を呈した60cm×40cmの炉と考えられる。現存する炉石は，長方形の自然礫が横づかいされており，炉の内側ほどよく焼ける。埋設土器は，胴部下半から下を欠く中期後葉の土器で，当初の炉底よりういた状態で埋設されており，周囲の炉覆土中にも焼土・炭粒が含まれることから，炉は数度の作り替えを受けたものと考えられる。

住居跡内の遺物は，いわゆるかたづけ行為がなされたようで，出土量が極めて少ない。わずかに，暗褐色の覆土中から磨製石斧未完成品・砥石・敲石・蛇紋岩原石・ヒスイ原石などがみられたが，住居跡の時期を確定できるものは炉内の埋設土器にとどまった。

第５号住居跡（第６・８～10図，図版第７・８図）

住居跡は，４号住居跡の東方X54～56Y91～93区に位置する。少なくとも１回の建て替えを受けており，調査では新旧の炉跡とそれに伴う主柱穴などが確認できた。

旧の炉跡（１号炉）は，炉石が全て抜き取られていたが，その痕跡から80cm×70cmの長方形を呈した石組炉と考えられる。炉内には，全体にわたって厚さ約３cmの焼土が見られ，それを覆うように貼り床を施して，新しい炉跡（第２号炉）を構築している。新しい炉跡は方形の石組炉で，旧の炉跡より炉１個分東にずれる。炉の規模は60cm×60cmを測り，炉内全体に厚さ約５cmの焼土が見られる。炉石は扁平な自然礫を東西に配し，それをむすぶように大小の自

然礫を並べている。いずれも横づかいされており，西側の炉石が旧の炉底を掘りぬいて設置される。また，南側の炉石は，抜き取られていたが残された炉石には火熱による割れやヒビ割れなどが著しい。

新旧の炉跡に対応する主柱穴は，P1～P3が旧のものに，P5～P7・P9が新のものに属すと考えられる。いずれも黄色粘質土の床面より40cm～70cmほど掘り下げられており，各炉跡を中心に反転して消失部分を復元すれば，前者が主軸をN—40°—Wの方向にとる4本主柱X型の住居，後者が主軸をN—38°—Wの方位にとる6本主柱X型の住居となり，ほぼ同一軸上で新しいほうへと拡大されたことになる。

住居跡の壁や床面などの新旧関係は，調査では明確にできなかった。ただ図示しえたものが，新しい段階の主柱穴の並びにわりあい対応するとみてとれることから，建て替え後の住居は，黄色粘質土の地山を約30cmほど掘り下げた長軸約4m・短軸約3mの長円形のものになる可能性が強い。

その他，調査では北・東壁側でテラス状の張りだし部を検出したが，当住居に関連した施設かどうかはっきりしない。住居跡の埋没過程における壁の倒壊部分，あるいは黒い染み状の覆土をもつことから，住居跡の周辺に見られたような後世の抜根跡とも考えられる。

遺物の出土は，4号住居跡と同様に極めて少ない。出土遺物としては，暗褐色の住居跡覆土中や主柱穴内から，合わせて14点のヒスイ原石が出土したのを最高に，磨製石斧・同未完成品・砥石・敲石・台石などの石器や中期中葉～後期の土器細片，晩期の有孔球状土製品が混在してわずかにみられる程度あり，住居跡の時期を明確に裏付けるものはなかった。このため，当住居跡の時期については，今のところ検出された炉跡の形態を考慮し中期中葉～後葉の幅の中で理解しておきたい。（神保孝造）

第1・15・28・36号住居跡群（昭和60年度・西側調査区）

第1・15・28・36号住居跡の四棟は，境A遺跡西側地区の昭和60年度調査区南東に所在し，平野部への移りかわる地点に位置し，川跡右岸となる。四棟は，互いに少しづつ重複しあい，南側の一部は川跡に壊されている。

第36号住居跡の上には，小高く寄せ集められたかのような人頭大の石の集石があった。標高は約16m前後で，後ろ（北）側には地山に岩石を含んだ高まりがある。住居跡の主軸方向は，第28号住居跡がほぼ東西となり他の三棟が川跡と同方向の西北を向く。この住居跡群の東北には，別の住居跡群が川跡に沿って存在する。

第1号住居跡（第11・12〔下〕図，図版第9・10図）

住居跡の位置は，西側地区南東部のX53～56Y66～68区で，標高は16.5mを測り，第15・28・36号住居跡に接して検出した。

平面形は，円形もしくは長円形と思われるが，他の住居跡により壁が壊されているため不明確であり，特に南壁はみられない。北壁は，良く残っており最高で30cmを測り，立ち上がりは，わりと急である。住居跡の規模は，約4×4mで，主軸方向はN—61°—Wとなり，P1・P2・P10・P3・P10の5本主柱XY型〔橋本1976〕(以下文献省略)である。

西側壁近くには，1×0.8mのピットがあり，炉とは20cmの距離である。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，貼り床があるため，わりとしっかりとしている。

炉は，台形の石組炉で，75×66×深さ28cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。炉内部には，焼土が比較的厚く堆積しており，10cmを測り，周辺部になると薄くなる。

炉石は，砂岩系の長方形で扁平な石を用い，砥石を再利用している。西側の一個が欠けるが，長軸方向は二個，短軸方向は一個の石を左右対称に配置し，大きな石の間を小石で埋める。炉石の内面全体が焼けており，石頂部からの深さは約30cmある。

住居跡内からは，土器と石器が出土しており，北東部の壁には砥石が置かれたような状態であった。住居跡北側の床面近くには，自然石と石器が多くみられ，ピット上面にもあった。

石器では，石鏃・磨製石斧・磨製石斧未完成品・平砥石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等が出土している。土製品には後～晩期の円盤状土製品がある。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第15号住居跡（第12〔上〕·13図，図版第９・11図）

住居跡は，西側地区南東部のX54～56Y68～70区で，標高は17mを測り，第１・28・36号住居跡に接して検出した。

平面形は長円形で，他の住居跡により壁が壊されているため不明確であり，特に西側の第１号住居跡が炉近くまで重複してきているため，西側の大半が壊されている。壁は，南と西はみられず，北壁は良く残っており最高位で約40cmを測る。住居跡の規模は，約3.8×３mで，主軸方向はN—57°—Wとなる。主柱穴は，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ７・P10・P19 P17の６本主柱X型で，壁の斜面上を円を描くように主柱穴が掘り込まれている。このような例は他にはみられない。この他にＰ４・Ｐ９・P11なども柱穴となるかも知れない。

炉の北西（長軸方向）には，直径約30cm深さ約30cmの小ピットがある。

床面は，第１号住居跡と同様で，砂利層中に掘り込まれているがわりあいしっかりとしている。

炉は，台形の石組炉で，56×36×深さ23cmの規模を持ち，住居跡の主軸と合い，住居跡のほぼ中央部に位置する。炉内中央部では，焼土は薄く堆積しており，周辺部になるとみられなくなる。炉石は，第１号住居跡と同様で，砂岩系の長方形で扁平な石を用い，砥石も再利用している。

炉石は長軸方向は二個，短軸方向は一個の石を左右対称に配置し，間を小石で埋める。しかし，西側の石は一個の石が二個に割れているのかも知れない。炉石内面全体が焼けており，石頂部からの深さは約30cmある。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。自然石と石器は，第１号住居跡と同様で，北側とピット上でみられる。石器では，磨製石斧・平砥石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等が出土し，土製品には円盤状土製品がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第28号住居跡（第14・15〔上〕図，図版第９・12図）

位置は，西側地区南東部のX52～54Y68～70区で，標高は16.5mを測り，第１号住居跡などに接して検出した。

平面形は長円形で，川跡により壁が壊されているため不明確であり，特に東側の大半がない。壁は，西側半分が良く残っており最高で30cmを測る。住居跡の規模は，推定で約５×４mと思われ，炉の主軸方向はN—55°—Eとなり，P３・P７と穴１の３本が主柱穴と思われ，他の穴は，検出できず，６本もしくは８本主柱X型と思われる。

炉の北東・北壁側には，直径約1.8m深さ約40cmのピットがある。ピットは，約半分が川跡により壊されている。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，貼り床があるため，わりあいしっかりとしている。炉の西側には，貼り床が接してみられ，1.5×0.6mの広さを持ちP４の穴を覆っている。

炉は長方形の石組炉で，67×61×深さ25cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。炉の東北側には，小ピットP５があり，炉に切られている。焼土は，炉内中央部から周辺部にかけて薄く堆積し，厚さは中央部で３cmを測る。

炉石は，長方形で扁平な自然石（地山にくい込む石）を用いている。炉石の長軸・短軸ともに一個の石を対称に配置している。第１号住居跡などとは異なり，石と石の間には隙間を埋める小石はみられない。しかし，炉石は熱などにより割れている。炉内面全体が焼けており，石頂部からの深さは約40cmある。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧・磨製石斧未完成品・平砥石・玉・ヒスイ原石

等がある。その他に，魚骨や炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第36号住居跡（第15〔下〕·16図，図版第９・13図）

住居跡は，西側地区南東部のX51～54Y66～68区に位置し，標高は16mを測り，第１号住居跡に接して検出した。

平面形は長円形で，川跡により壁が壊されているため不明確であり，特に南側の大半がない。壁は，北から東側半分が良く残っており最高で40cmを測る。住居跡の規模は，推定で約６×５mと思われ，炉の主軸方向はN—60°—Wとなり，P2・P3・P4・P9の４本が主柱穴と思われ，他の穴は，検出できず，６本主柱X型と思われる。

炉の西側には，１×0.6m深さ約50cmの長円形ピットがある。ピット上面には，自然石・石器・土器などが集中している。また，内部床面にも石が検出されている。

床面は，第１号住居跡と同様で，砂利層中に掘り込まれているがわりあいしっかりとしている。炉の東側には，接して土器と石がある。

炉は，長方形の石組炉で，80×57×深さ13cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉内全面に厚く堆積し，厚さは中央部で５cmを測る。

炉石は，長方形で角がない丸みをもつ自然石を用いている。炉石の長軸・短軸ともに二個の石を対称に配置し，第28号住居跡と同様で，石と石の間には隙間を埋める小石をもたない。炉石は，北側半分と南西角の一個が抜き取られており，床面（地山）に炉石痕跡がはっきりとみえる。炉内は僅かに焼けており，石頂部からの深さは約40cmある。

炉内には，蛇紋岩の磨製石斧が一個焼土上面にある。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉の浅鉢・深鉢形土器と中期後葉の深鉢形土器がある。石器では，磨製石斧・削器等がある。

住居跡の時期は，出土遺物の新しい土器をとるとすれば中期後葉となる。

第29・30・33号住居跡（昭和60年度・西側調査区）

第29・30・33号住居跡の三棟は，西側地区中央部近くに所在し，南東部の住居跡群と同様川跡右岸となる。三棟は互いに約２m程の間隔をもって一列に並び，南側の一部は川跡に壊されている。住居跡の内部と周辺には，焼土と埋甕が数個あり，他の住居跡群より多い。標高は約15m前後で，北側は岩石を含んだ地山と高まりがある。方向は，二棟が川跡と同一で第29号住居跡がほぼ南北となる。川跡の対岸は，住居跡集中区の空白地帯である。

第29号住居跡（第15〔下〕·16図，図版９・13図）

住居跡は，西側地区中央部のX59～62Y60～62区に位置し，標高は14.5mを測り，第30号住居跡の南隣で検出された。

平面形は長円形で，川跡により壁が一部壊されている。壁は，南・北壁がなく，東・西壁が良く残っており最高で30cmを測る。住居跡の規模は約5.5×3.5mで，炉の主軸方向はN—14°—Eとなり，P1・P12・P19の３本が主柱穴と思われ，他の穴は，検出できず，４本主柱X型と思われる。柱穴は，住居跡の南西部になると少なくなる。

炉の東側には，第10号焼土が1.2×0.8mの範囲で広がる。炉と焼土との間には，貼り床があり，炉から東壁にかけてある。また，住居跡の北側には，同様の焼土が二箇所みられる。炉の北側には，約10cmの段が東西に伸び，壁際で消失する。このような段は，初めてである。住居跡内には，遺物や石などが少なかった。北西隅には，第２号埋甕が壁を切って存在している。住居跡との新旧関係は，現段階では不明であり，附属するかも知れない。この他に，第３号埋甕が住居跡の西約２mで，第30号住居跡との間の地点にある。両者ともに口縁部を下にしており，本住居跡と関

係があるかも知れない。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，貼り床や焼土があるため，わりあいしっかりとしている。炉の東には，接して石などがある。

炉は，長方形の石組炉で，85×62×深さ10cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉内全面に薄く堆積し，厚さは中央部で1cmを測る。炉石は，長方形で角がない丸みをもつ自然石と扁平な自然石の両方を用いる。炉石は長軸方向は二個もしくは小石を数個，短軸方向は二個の石を左右対称に配置し，間を小石で埋める。炉石は，南の一個だけが残っており，他の石は全て抜き取られており，床面（地山）に炉石痕跡がはっきりとみえる。

炉内は焼けており，石頂部からの深さは約25cmある。炉内に土器と石が点在し，炉石痕跡上にもみられた。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・蛇紋岩原石・ヒスイ破片等がある。他には，魚・サメの歯と骨，炭化物が出土している。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第30号住居跡（第19〔下〕·20図，図版第14・16図）

住居跡は，中央部のX61～65Y59～61区に位置し，標高は15mを測り，第29号と第33号住居跡との中間で検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明で，南西側半分は川跡により壊されている。壁は，検出されていない。住居跡の規模は，推定で約5×4mと思われ，炉の主軸方向はN—18°—Wとなり，P6・P15・P34・P35の4本が主柱穴と思われ，他の穴は，検出できず，6本主柱X型と思われる。P24は，炉の中軸線上にのる。

炉の北側には，住居跡に伴う可能性がある第1号埋甕があり，第29号住居跡に似る。第7号焼土は，炉の北東約4mの地点に60×40cmの範囲である。炉の北東部には，住居跡に伴う（覆土中）石と地山にくい込む大きな石が存在している。

床面は，わりあいしっかりとしており，砂利層中に掘り込まれている。

炉は，台形の石組炉で，80×59×深さ25cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉全体に薄く堆積し，厚さは中央部で1cmを測る。炉石は，長方形で扁平な自然石を用い，石は二個だけが残っており他の石は全て抜き取られている。隙間を埋めていたと思われる小石がみられる。炉内面全体が焼けており，石頂部からの深さは約25cmある。炉内には，石が数個あり，炉石の可能性がある。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，後期初頭の深鉢形土器がある。石器では，打製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・蛇紋岩原石・ヒスイ破片等がある。他に，骨と炭化物が少量出土している。

住居跡の時期は，出土土器から後期初頭と思われる。

第33号住居跡（第21・22図，図版第14・17図）

住居跡は，中央部のX65～68Y57～60区に位置し，標高は14.5mを測り，第30号住居跡の西側約2m離れて検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明で，南西側の縁辺部は川跡により壊されている。壁は，ほとんど検出されず，東壁の一部がわずかにみられる。住居跡の規模は，推定で約6×5mと思われ，炉の主軸方向はN—45°—Wとなり，P4・P11・P18・P22の4本主柱X型と思われる。この他に，P9・P23の2本が主柱穴となるかも知れない。

住居跡の東側には，大きなピットがいくつかあるが住居跡に伴うかは不明である。また，東側には，地山にくい込む大きな石が存在している。

床面は，わりあいしっかりとしており，砂利層中に掘り込まれている。

炉は，長方形の石組炉で，145×110×深さ17cmと比較的大規模で，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉の西側半分でみられ，厚さは1～2cmを測る。炉石は，長方形で扁平な自然石を用い，石は数個残っている。炉石と思えるのは焼土中の石とその反対にある石の二個である。他の石は全て抜き取られており，床面（地山）に炉石痕跡が二箇所みえる。炉内の石数個と炉石痕跡上の石は，炉石の可能性があり，炉石の一部は焼けており，石頂部からの深さは約30cmある。また，炉内北西部には後期初頭深鉢形土器片があり，その下に白色の粘土が直径約30cmの範囲で存在していた。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，後期初頭の深鉢形土器がある。石器では，磨製石斧未完成品・凹石等がある。

住居跡の時期は，出土土器から後期初頭と思われる。

第2・19・20号住居跡（昭和60年度・西側調査区）

第2・19・20号住居跡の三棟は，西側地区北東部に所在し，穴群の東側にあたり，第1・15・28・36号住居跡群と第29・30・33号住居跡群の北に位置し，住居跡群との間には岩石を含んだ地山と高まりがある。三棟は，互いに約2m程の間隔をもち重複しない。住居跡周辺には，焼土と埋甕がある。標高は約14m前後で，南側には岩石を含んだ地山と高まりがある。方向は，二棟がほぼ北を向く。

住居跡群の東側を，現在の用水が北流しているが，それを挟んだ東側に第4・5号住居跡群と平安時代頃の建物群が検出されている。

第2号住居跡（第23・24〔上〕図，図版第18図）

住居跡は，西側地区北東部のX67～70Y72～75区に位置し，標高は14.5mを測り，第30号住居跡群の北で検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明である。東側は，第1号住居跡群から伸びる川跡により壊されている。壁は，ほとんど検出されなかった。住居跡の規模は，推定で約5×4mと思われ，炉の主軸方向はN—10°—Wとなり，P1・P10・P9の3本が主柱穴で，他の穴は検出できず，4本主柱X型と思われる。

住居跡の北と西側には，大きなピットがいくつかあり，さらに，南西隅には角をもつ一条の段があり，住居跡に伴うかも知れない。南と西側は，地山に石がくい込む地帯と高まりとが存在している。

床面は，わりあいしっかりとしており，黄色粘質土層中に掘り込まれている。

炉は，長方形の石組炉で，70×60×深さ25cmの中規模で，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉の中央部北で僅かにあり，厚さは1～2cmを測る。炉石は，長方形で扁平な自然石と砥石を用い，炉石は長軸・短軸方向はともに二個の石を左右対称に配置している。石は北側の一個が抜け，内面は焼けている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉の深鉢形土器が多く，後期後葉の深鉢形土器一個体がみられる。土製品では，後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，石鏃・打製石斧・磨製石斧・玉・ヒスイ原石等がある。その他として，炭化物・骨がある。

住居跡の時期は，出土土器のうち新しい時期をとれば，後期後葉となるが，床面近くの土器は中期中葉の深鉢形土器であるため中期中葉とする。

（橋本正春）

第20号住居跡（第24〔下〕・25・26図，図版第20・21図）

第20号住居跡は，第19号住居跡と共に，縄文時代中期の住居跡群中最も北側に位置する。グリッド位置でいえば，X70～74Y75～78付近である。西側には19号住居跡が隣接し，南西側には2号住居跡が近接する。本住居跡の床面レ

ベルは，19号住居跡床面レベルより一段低くなるが，遺構面の切り合いによる新旧関係は確認できなかった。地形的には，住居跡東側に浅い谷が入るため，北及び東側に向って，緩やかに下る傾斜地となっている。なお，住居跡の東側は，竹屋川の用水改修工事によって破壊されてしまっている。

住居跡の平面形及び規模は，床面が地山への漸移層である黒色土ないし暗褐色土中にあるため，壁の立ち上りが検出できず不明である。柱穴は，石組炉の西側と北西側に少し離れて25ヶ所程，検出されているが，配列は不規則でさらに住居跡東側が削平されていることもあって，全体的な主柱穴の配置は明らかにできなかった。このため住居跡の主軸方位も不明確であるが，この住居跡に伴う石組炉が，北西―南東方向に軸を持つ長方形に近いので，これとほぼ一致すると考えられる。

住居跡は，谷部に近い傾斜地に設けられており，石組炉の周辺をはじめ床面の大部分は，地山への漸移層である暗褐色土中に形成されている。このため，床面の検出は困難で，明瞭な貼り床も確認できなかった。なお，石組炉南側で検出された貼り床は，レベル差もあり，別の住居跡のものである可能性が強い。

壁についても前述のように確認できず，周溝は無いものと考えられる。また，石組炉周辺には，細長い自然礫がやや放射状に，石組炉を取り巻くように配置されている。その他に，住居跡に付帯する，特別な施設は検出されなかった。

住居跡覆土中からは，若干の石器類と土製品のほかに大量の土器が出土している。石器の内訳は凹石１，磨製石斧未成品４，砥石Ａ（平砥石）２，砥石Ｂ（筋砥石）３，敲石４，台石１蛇紋岩原石３，硬玉原石２などである。

縄文土器は，住居跡覆土から，更に南側の２号住居跡東側の斜面にかけて，何層にも，折り重なるように出土している。この中には，所謂双子土器をはじめ，復元できるものを多く含む。時期的には，中期前葉の新しい段階のものを若干含むが，大部分は中期中葉期のものである。中期中葉期の土器も細かくみれば，更に数時期に分けられる可能性がある。

住居跡覆土中に土器を廃棄する例は多いが，このように大量の出土をみた例は，あまりないようである。このことは，本住居跡が，丁度谷部に近い斜面に形成されており，これと無関係ではない。土器の住居内廃棄と，集落の縁辺における谷部への大量一括廃棄とが重なったために，このような状況が生まれたものであろう。廃棄は第19号住居跡や第２号住居跡の側から行われたものと考えられる。

以上の他に若干の土製品と炭化物がある。前者は，後期～晩期にかけての円盤状土製品（メンコ）で，後の混入と考えられる。

石組炉は，X72Y77区で検出している。住居跡内での位置は不明である。平面形は，北西側の辺がやや外側にふくらんで丸みをもつものの，ほぼ長方形を呈する。規模は長さ66cm，幅47cmである。大小あわせて，８個の自然石や砥石（筋砥石）で囲み，地山面から約10cm浮いた 暗褐色土中に構築される。

焼土は炉内に約８cmの厚さで堆積する。石組炉の主軸方位は，ほぼ北西―南東方向である。炉内には，土器片や砥石片などが含まれているほか，北西辺内側のほぼ中央に，炉内埋設土器がある。胴部から上を欠き，底部を下にやや傾けて，中央を向くように設置されている。（山本正敏）

第19号住居跡（第27・28図，図版第19図）

住居跡は，西側地区北東部のX71～74Y72～75区に位置し，標高は13mを測り，第20号住居跡の西で検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明である。壁は，ほとんど検出されなかった。規模は，４×３mで，炉の主軸方向は，N―９°―Wとなり，Ｐ６・P11・P39・P40の４本主柱X型と思われる。この他に，P10とP12が主柱穴となるかも知れない。

住居跡の南には，第１・２号焼土があり，第２号焼土は直径約１ｍ程の広さで，住居跡に伴うかも知れない。また北には大きなピットと段があり，ピット内の南西隅には第４号埋甕があり，埋甕内に土器とヒスイ原石が入っていた。

住居跡の北西側は，穴群が広がり，地山に石が入り込む地帯が存在している。

床面は，わりあいしっかりとしており，黄色粘質土層中に掘り込まれている。

炉は，長方形の石組炉で，124×82×深さ15cmの大規模で，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉の中央部で埋設土器の周囲にあり，厚さは１～２cmを測る。炉石は，中央部で埋設土器を挟むように自然石と砥石の二個しかなく，抜取り痕跡も確認できなかった。埋設土器は，中期後葉の深鉢形土器で，口縁部と底部を欠き，炉中央部底面を凹めて土器を埋めている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期後葉の深鉢形土器がある。土製品では，後期と思われる円盤状土製品がある。石器では，石鏃・磨製石斧・磨製石斧未完成品・ヒスイ破片等がある。

住居跡の時期は，中期後葉と思われる。

住居跡集中区・第１・３・６～14・16～18・21～26・31・32・34・35号住居跡（昭和60年度・西側調査区）

西側地区中央から西部に所在する住居跡群は，両側を旧川跡に挟まれ，第３号住居跡を頂点とする三角形地帯に24棟が集中している。標高は11～15ｍを測り，緩やかな傾斜地形となっている。22棟の内第３号住居跡以外は，互いに近接・重複しあっており，半径数ｍの所に四棟が集中する例もある。また，第３号と他住居跡群との間には，空白地帯が存在し，他の群とは異なる住居跡配置である。北と南側の縁辺部は川跡により，壊されている。北西部では，高さ約30～50cmの段が数本と溝などがある。そして，これらの段は住居跡の壁となったり，つながったり，また逆に壊したりしているようにみられる。

住居跡の内部と周辺には，焼土が数個ある。住居跡と炉の主軸方向は，大半が北及び北西となる。北西部の北側には，穴群が広がり，配石遺構（扁平な石の集中地）も接して存在する。

西側調査区の中央に横たわる川跡の対岸には，第29・30・33号住居跡群があり，第３号住居跡の北東には第１・15 28・36号住居跡群が所在する。

本住居跡群の西側には，人頭大までの石を含む砂利層・暗灰黄色粘質土の地帯が川跡から続く。住居跡群南側川跡遺構の上面には，平安時代頃の建物群と製塩遺構が検出されている。

第３号住居跡（第30・31〔上〕図，図版第22・23図）

住居跡は，X57～59Y56～58区の西側地区住居跡集中区にあり，他の21棟の住居跡群とは空白地帯を挟んで東端に位置する。標高は15ｍを測り，第６号住居跡の東で検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明で，南側半分は川跡により壊されている。壁は，検出されていない。住居跡の規模は，推定で約４×３ｍと思われ，炉の主軸方向はN―11°―Wとなり，Ｐ１～Ｐ６の６本が主柱穴と思われ，他の穴は，検出できず，８本主柱XY型と思われる。もしかすると，Ｐ１とＰ５は，主柱穴とならず，６本主柱X型となるかも知れない。

炉の北と西には，貼り床があり，幅50cmで巡る。住居跡の北と南側には，川跡があり，住居跡の一部を壊している。炉の西には，扁平な石が数個あり，平坦な面を作っている。

床面は，貼り床などがありわりあいしっかりとしており，砂利層中に掘り込まれている。

炉は，長方形の石組炉で，50×50×深さ33cmの規模で，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉の内面が少し焼けている。炉石は，長方形で扁平な自然石と角張る地山の石を用いている。炉石の長軸・短軸ともに一個の石

を対称に配置し，石と石の間には隙間を埋める小石をもつ。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧未完成品・石棒・平砥石・敲石・削器・ヒスイ原石等がある。他に，炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第6号住居跡（第31〔下〕·32図，図版第22・24図）

住居跡は，西側地区住居跡集中区の中程で，第3号住居跡を除く20棟の住居跡群の東端に位置し，X60～62Y50～53区にあり，他の住居跡と重複しない。標高は15mを測り，第12号住居跡の西・第7号住居跡の南で検出された。

平面形は長円形と思われるがプランは不明である。壁は，検出されていない。住居跡の規模は，推定で約4×3mと思われ，炉の主軸方向はN—68°—Eとなり，P1～P3・P7の4本が主柱穴と思われる。

炉の周辺には，貼り床が巡る。住居跡の南側には，川跡があり，住居跡の一部を壊しているかも知れない。炉の東には，直径約1m・深さ約30cmのピットがあり，反対の西には長さ1.2m・幅0.2mの短い溝がある。

床面は，貼り床などがありわりあいしっかりとしており，砂利層中に掘り込まれている。

炉は，長方形の石組炉で，61×47×深さ21cmの規模で，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は中央部に少しあり炉の内面も少し焼けている。炉石は，長方形で丸みをもつ自然石を用いている。炉石の長軸は，一個の石で，短軸は二個の石を対称に配置し，隙間を埋める小石をもつ。南東の石は小さな石で隙間が多くなる。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧未完成品・平砥石・敲石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。他に，炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第12号住居跡（第33・34〔上〕図，図版第22・29図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，第8号住居跡と重複し，本住居跡の方が新しい。炉の東約1mの地点にあり，第6号住居跡とは約4m離れている。標高は14mを測り，X60～62Y48～50区で検出された。

平面形は長円形と思われ，プランは第8号住居跡に壊されて不明である。壁は，検出されていない。住居跡の規模は，推定で約3×3mと思われ，炉の主軸方向はN—81°—Eとなり，4本主柱X型と思われるが，P1～P3の3本が主柱穴となり，他の1本が検出されていない。炉は，直径約50cm・深さ約20cmのピット上に構築されている。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，わりあいしっかりとしている。

炉は，長方形の小さな石組炉で，44×39×深さ30cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，内面は焼けている。炉石は，長方形で丸みをもつ自然石を用いている。炉石の長軸と短軸はともに一個の石を対称に配置している。炉内東部には，土器下半部を埋設土器としており，炉底面を約40cm掘り込んでいる。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧未完成品・ヒスイ原石等がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第8号住居跡（第34〔下〕·35図，図版第22・26図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，第12号住居跡と重複し，一部第9・13号住居跡と重複する。標高は14mを測りX61～64Y48～50区で検出された。平面形は，隅丸方形で，規模は約6×5mである。壁は西半分を欠くが，東側は良く残っており，最高50cmの壁高を測る。炉の主軸方向はN—79°—Eとなり，P2・P1・P11・P12・P6・P21・P14の8本が主柱穴と思われる。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，わりあいしっかりとしており，炉の南側に貼り床がある。

炉は，長方形の大きな石組炉で，90×76×深さ31cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，中央部に比較的厚く堆積し，２～３cmである。炉面は焼けている。炉石は，長方形で扁平な自然石と砥石などを用いている。炉石の長軸と短軸はともに二個の石を対称に配置し，隙間を小石でうめている。炉内には，石と円盤状土製品があった。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期後葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，中期中葉と後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，磨製石斧未完成品・玉・砥石・ヒスイ原石等がある。その他に骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期後葉と思われる。

第13号住居跡（第36・37〔上〕図，図版第22・30図）

住居跡は，住居跡集中区中程のX62～64Y47～48区で検出され，第８・24号住居跡と重複し，一部第９号住居跡と重複する。標高は14mを測る。平面形は第８・24号住居跡に切られているため不明で，規模は約３×３mと思われ，壁は検出されなかった。炉の主軸方向はN—14°—Wとなり，P2・P4・P5・P6の４本が主柱穴と思われる。この他に南側のP1・P11の２本が主柱穴となり，５本柱XY型となるかも知れない。

床面は，炉の周辺と東側に貼り床があり，わりあいしっかりとしており，掘り込みは砂利層中である。

炉は，正方形の小さな石組炉で，33×33×深さ22cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はないが炉内面は焼けている。炉石は，長方形で角張らない自然石を用い，炉石の長軸と短軸はともに一個の石を対称に配置している。

住居跡内から，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，磨製石斧未完成品・打製石斧未完成品・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。

その他に，炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第24号住居跡（第37〔下〕·38図，図版第22・38図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，第13・14号住居跡と重複し，一部第９号住居跡と重複する。標高は約13.5mを測り，X62～64Y45～47区で検出された。平面形は，隅丸方形と思われるが，主柱穴配列と壁の位置とが少しずれるため断定できない。また，南側半分は川跡により削平されている。規模は，約４×４mと思われ，壁は西南半分を欠き北東側は良く残っており，最高20cmの壁高を測る。炉の主軸方向はN—37°—Eとなり，P1とP3の２本が主柱穴と思われるが，何本の柱で構築されているかは不明である。炉の北には，扁平な石が一個接してある。また，炉の東に貼り床が，北東には第13号焼土がある。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，わりあいしっかりとしており，炉の南側に貼り床がある。

炉は，長方形の石組炉で，60×52×深さ19cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉内面は少し焼けている。炉石は，長方形で扁平な自然石と地山などを用いている。炉石の長軸は二個，短軸は一個の石を対称に配置しているが，長軸方向で南東隅の石は小石二個で他の石一個分としている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・ヒスイ原石等がある。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第14号住居跡（第39・40〔上〕，図版第22・31図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，第24号住居跡と重複し，一部第32号住居跡と重複する。標高は13.5mを測り，X63～65Y45～46区で検出された。平面形は，住居跡の北側に角を持ち，巡るような壁があり，それからみると長円形に近い五角形と思われる。南側のほぼ半分は，川跡により壊されている。規模は，推定で約３×2.5mである。壁の残り具合はあまり良くなく，北東部の約1.5mが残ってるだけで，最高約15cmの壁高を測る。炉の主軸方向はN－８°－Wとなり，P１・P３～P５の４本が主柱穴と思われ，川跡で壊されている残りの柱穴とともに５本もしくは６本が主柱穴になると思われる。炉の北と東側には貼り床が，幅約30cmで巡る。

炉は，台形の石組炉で，55×50×深さ21cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉内面は僅かに焼けている。炉石は，長方形で扁平な石と角張る自然石とを用いている。炉石の長軸と短軸はともに二個の石を対称に配置しているが，短軸の南辺は一個の大きな（長い）石とし，隙間を小石でうめている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，中期後葉の土偶と後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，打製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・ヒスイ原石等がある。その他に，骨がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。（橋本正春）

第25号住居跡（第42・43〔下〕図，図版第39図）

住居跡は，住居跡集中区の南西端でX64～66Y41～43区に位置し，第32号住居跡の西側で第22・23号住居跡の北側に隣接する。標高は約12.6mを測る。

住居跡の平面形は，半分近くが旧河川により消滅し，東壁及び北壁の一部が残存するだけで全体のプランは不明である。ただ比較的残りの良い東壁南端部が緩くカーブしており，住居跡の時期も考慮に入れると隅円方形となる可能性が高いが，断定できない。

柱穴ないし穴は，石組炉の東側で６箇所検出している。P６以外は深さ31～43cmあり一定の深さを持つが，配置から考えると北東隅のP１と，石組炉の長軸方向にあるP５が主柱穴と考えられる。

住居跡の主軸方向は，平面プラン及び主柱穴が不明のため判断しかねるが，石組炉の短軸方向を通ると考えるとN－13°－Wと思われる。

住居跡はやや粘質を帯びた砂利層中を掘り込み，床面は多少凸凹しているが程よく締まっている。

石組炉は，床面を斜めに掘り込み上方が開くように，大形で扁平な石を四方に組合せている。形は長方形で長軸約88cm，短軸約75cm，深さ約15cmの規模を持つ。炉石は内側が焼け，黒色の煤状の物が付着している。また炉の底も全面的に焼け，厚い部分で約５cm程焼土化している。炉内には底に接して土器が敷かれており，土器の表面は加熱を受けたと思われ部分的に赤化し，器面の剝離が見られる。

住居跡覆土からは，土器・石器・土製品・骨片・炭化物等が出土している。土器は量的に少ないが，縄文時代中期中葉と後葉に属するものがある。石器には磨製石斧・磨製石斧未完成品・擦石・砥石・敲石・ヒスイ等がある。土製品は円盤状土製品が若干出土している。

住居跡の時期は，炉内の土器が中期後葉に比定できることにより，同期に位置づけられよう。

第32号住居跡（第40〔下〕・41図，図版第42図）

住居跡は，住居跡集中地区の南西区域でX64～66Y43～45区に位置し，東側に第11・14号住居跡，西側に第25号住居跡が隣接する。標高は約13.3mを測る。

住居跡の平面形は，東壁と一部西壁が残り，南と北壁が消失しているため全体についてはうかがえない。ただ東壁が緩く弧状を描く事と，またその東壁を石組炉を中心に長軸で折り返せば，大体長円形のプランが復原できる。規模は推定で南北約４ｍ，東西約3.1ｍと考えられる。

柱穴及び穴は，推定プラン内で11箇所検出した。そのうち主柱穴と考えられるものは，Ｐ２・５・６・９・17で５本主柱XY型と思われる。主柱穴の深さは７～32cmとばらつきがある。

住居跡の主軸は，住居跡の長軸方向で石組炉とＰ９を通るものと考えられ，N—17°—Wの方位と思われる。

住居跡の掘り込みは，東壁側で約25cm，西壁側で約10cmあり，やや粘質を帯び，多少礫が混じる砂利層中に構築している。床面は石組炉の周辺が締まっているが，周壁近くではあまり締まりがない。

石組炉は，住居跡の中央部に位置し，長軸52cm，短軸47cm，深さ14cmで円礫と角礫を組み合わせ，不整円形状を呈す。炉の底は全面的に焼土化し，厚い部分で約４cm程焼けている。

住居跡の覆土からは，土器・石器・炭化物等が出土している。土器は量的に少なく，縄文時代中期中葉を主体として，他に若干ではあるが，中期前葉と後葉に属するものがある。石器には，磨製石斧・敲石・ヒスイ等がある。

住居跡の時期は，覆土中に中期前葉と後葉の土器が見られるが，中期中葉の物を主体としている点と，石組炉内出土の土器も中期中葉に比定されることより，同期に属すると考えられる。（狩野　睦）

第18号住居跡（第43〔上〕・44図，図版第22・34図）

住居跡は，住居跡集中区の中程やや西よりで，一部が第10・11・23号住居跡と重複する。標高は13ｍを測り，X65～67Y45～46区で検出された。平面形は，北東部の壁からみれば隅丸方形と思われる。住居跡の周辺には，数本の段がみられ，うち一本は炉の西側にみられる。規模は，推定で約３×2.5ｍである。壁の残り具合はあまり良くなく，北東部と東側で僅かにみられ，最高約10cmの壁高を測る。炉の主軸方向はN—10°—Eとなり，Ｐ２・Ｐ６・Ｐ８の３本が主柱穴と思われ，残り１本の柱穴とともに４本が主柱穴になると思われる。炉の東側Ｐ４ピットにかけて貼り床があり，ほんの少しで厚さも薄かった。第10・11号住居跡との間には，長方形で角が丸い自然石が二個立っており，立石状である。一個は，炉の東で，本住居跡に伴うと思われる。他の一個は炉の北東で，他の住居跡からみれば本住居跡に伴う可能性が強い。このような立石は，第23号住居跡東の大ピットＰ３でもみられ，本住居跡近辺に集中している。

炉は，五角形の石組炉で，一辺45cm深さ16cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉内面は僅かに焼けている。炉石は，長方形で扁平な石と地山の自然石を用いている。炉石は，各辺ともに一個の石を対称に配置しているが，南と西側の辺は一個石が割れて二個となっている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，磨製石斧未完成品・ヒスイ原石等がある。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第９号住居跡（第45・46図，図版第22・27図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，一部を第８・10・11・13・24号住居跡と重複する。標高は14ｍを測り，X63～65Y46～49区で検出された。平面形は，推定で長円形と思われる。壁と周溝は，検出していない。規模は，推定で約６×3.5ｍである。炉の主軸方向はN—10.5°—Eとなり，Ｐ２～Ｐ４・P14～P16の６本が主柱穴と思われる。炉の周辺には貼り床が，幅広く巡り，西側では少ない。炉の東と西には，大きなピットが一個づつ約50cm離れてあり，対称的に配置されているのかもしれない。

炉は，大型の長方形石組炉で，南部に添炉を二個もつ複式炉であり，第13・17・22号住居跡と少し異なる形態であ

る。規模は，153×71×深さ32cmで，主炉は93×75×深さ32cm・中央部添炉は45×30×深さ13cmで，南部添炉は同法量で形が三角形状となり，外側に突き出す形となっている。炉は，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，主炉の中央部に多く厚くみられ，中央部で厚さ約２cmを測り，中央部添炉ではほんの僅かであった。炉内面は，いずれも焼けているが，添炉の焼け方はわずかである。

炉石は，長方形で扁平な石と砥石を主に用い，隙間を小石で埋めている。各炉間は，大型で扁平な石を間仕切りとしている。隙間を埋める小石は，主炉が主である。主炉内部の焼土上には，土器片があった。主炉の炉石は，短軸の辺が一個の石，長軸の辺が一個である。中央部添炉は，短軸と長軸の辺がともに一個で，短軸の辺は両隣の炉石と共有の形をとり，西側の石の位置がずれている。南部添炉は，三角形に近く，中央部添炉側と外側西の辺は一個の石で，さらに両辺の隙間を扁平な石で埋めている。外側東の辺は，三個の小石である。最初に主炉を深く作り，次に南部添炉を浅く作り，最後に間をつなぐように中央部添炉の石を配していると思われる。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土製品では，後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，磨製石斧・磨製石斧未完成品・砥石等がある。現段階で（土壌水洗を完全に全体に実施していない現状も含めて）、ヒスイ原石がないのは，本住居跡のみである。その他に，サメの歯・サメの骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第10・11号住居跡（第47・48図，図版第22・28図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，第９・18号住居跡と重複する。標高は13.5mを測り，X64～66Y45～48区で検出された。本住居跡は，二個の炉からなり，本来ならば二棟とすべきところであるが，炉が近接していることとそれぞれの柱穴が不明であるため，ここでは同時に扱うこととする。

平面形は，不明であるが，他の住居跡例からみると長円形と思われる。壁は，みられない。

第10号住居跡の炉の主軸方向はN—11°—Wとなり，第11号住居跡の炉の主軸方向はN—８°—Eである。二個の炉の間と第11号住居跡の炉の東側には石がある。

第10号住居跡の炉は，長方形の石組炉で，74×62×深さ20cmの規模を持ち，第11号住居跡の炉は，正方形の石組炉で，50×40×深さ30cmの規模を持つ。両炉ともに焼土はなく，炉内面は僅かに焼けている。

第10号住居跡の炉石は，長方形で扁平な石と角張る自然石とを用い，長軸は二個・短軸は一個の石を対称に配置している。長軸の東辺側の石は，炉内に崩れているようでもあり，抜き取られているのかも知れない。また，炉底面には小石が敷き詰められている。第11号住居跡の炉石は，長方形で扁平な自然石を用い，長軸と短軸はともに一個の石を対称に配置している。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期後葉の深鉢形土器が出土している。石器では，石錘・磨製石斧・磨製石斧未完成品・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期後葉と思われる。

第22号住居跡（第49・50図，図版第22・36図）

住居跡は，住居跡集中区の西端にあり，第23号住居跡と重複し，一部が第18号住居跡と重複するかも知れない。標高は13mを測り，X67～70Y43～45区で検出された。平面形は，周溝からみれば隅丸方形と思われ，その外側の壁からみれば長円形とみれる。ここでは，長円形としておく。住居跡の周辺には幾つかの段がみられ，西側の段により住居跡東辺が壊されている。住居跡は大規模で，推定で約７×6.5mである。壁は，東側半分が良く残っており，北側では周溝と接する。壁高は，床面から約25cmを測り，周溝底面から約40cmを測る。炉の主軸方向はN—34°—Eとなり，P6・

P11・P12・P17の4本が主柱穴になる。炉の北に比較的大きなP7ピットがあり，南東には一条の段が短く東西に伸びている。炉の東には，扁平な石が四個敷いたように存在する。第18号住居跡との間には，立石があり，とくに第18号住居跡P3ピットの立石は当住居跡に伴うかも知れない。

周溝は,「C」の字状に巡り，幅約30～40cmで，深さ約10～15cmである。周溝が巡る例は，第21号住居跡と二例である。住居跡の南側では，周溝と壁との間に平坦面がみられる。

炉は，大型の長方形石組炉で，南部に添炉をもつ複式炉であり，複式炉はこの集中区だけでみられ，第9・13・17号住居跡の四例である。規模は，132×85×深さ37cmで，主炉は105×95×深さ37cm・添炉は60×27×深さ21cmで，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，主炉の内面全体にみられ，中央部で厚さ約2cmを測り，添炉ではほんの僅かであった。炉内面は，両方共に焼けている。

炉石は，長方形で扁平な石と砥石を主に用い，周囲は小石としている。主炉と添炉の間は，大型で扁平な砥石を間仕切りとしている。周囲を埋める小石は，主炉東辺だけである。主炉内部には，長方形で角の丸い自然石一個が，主炉北東隅から南西隅にかけて対角線上に置かれている。炉石は，短軸の辺が一個の石で，主炉の長軸の辺が三個・添炉の長軸の辺が二個の石で，対称に配置している。添炉の長軸の辺のうち一個は，大きな石で，もう一個分は小石としている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土製品では，後期および後～晩期の円盤状土製品がある。そして，他の住居跡と比較して数量と遺構内出土も多いと言える。石器では，打製石斧・石錘・磨製石斧・磨製石斧未完成品石棒・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。その他に，サメの歯・サメの骨・魚の歯・動物の頭骨片？・その他の骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第23号住居跡（第51・52図，図版第22・37図）

住居跡は，住居跡集中区の西端にあり，第22号住居跡と重複し，一部が第18号住居跡と重複する。標高は13mを測り，X66～69Y42～45区で検出された。平面形は，不明であるが長円形と思われる。住居跡の周辺には幾つかの段がみられる。住居跡は大規模と思われ，推定で約5×3.5mで，壁は残っていない。炉の主軸方向はN－10°－Eとなり，P1～P5の5本が主柱穴になる。炉の西側には，貼り床が巡る。第18号住居跡との間には，立石がある。

炉は，円形に近い正方形の石組炉で，規模は81×78×深さ23cmで，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，無く炉内面は，少し焼けている。

炉石は，小石と中型の石を多数に用いて炉を形成している。炉内中央部に円形の自然石一個の半分を置き，しかも平らな面を上にしいる。その石の下には，土器片と石器を含む石数個があった。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期後葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，後～晩期の円盤状土製品がある。石器では，石鏃・石皿・石錘・磨製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期後葉と思われる。

第21号住居跡（第53・54図，図版第22・35図）

住居跡は，住居跡集中区の西北端にあり，一部が第22・35号住居跡と重複する。標高は12.5mを測り，X70～73Y42～45区で検出された。平面形は，周溝からみれば長円形である。住居跡の南には段がみられ，第22号住居跡との境となっている。住居跡は，第22号住居跡同様大規模で，推定で約7×6.5mである。壁は，南の段がほぼ該当すると思わ

れ，最高で約20cmを測る。炉の主軸方向はN—28°—Wとなり，P2・P16・P20・P35の4本が主柱穴になる。炉の東に大きなP30ピットがありピットの上に炉が構築されている。また，北には上面に石をもつピットがある。住居跡の北には，大ピットP27がある。本住居跡内のピットでは，石をもつ例が多い。

周溝は，第22号住居跡同様Cの字状に巡り，幅約20cmで，深さ約10～20cmである。周溝内には，小ピットがいくつかあり，周溝と一体となっている。

炉は，正方形の石組炉で，84×77×深さ27cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉内面は僅かに焼けている。炉石は，長方形で角張らない自然石を用いている。炉石の長軸と短軸はともに一個の石を対称に配置している。南と北の角の隙間を小石でうめる。炉内中央部に円形に近い自然石一個を置き，第22号住居跡同様平らな面を上にしている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，後期初頭の深鉢形土器が床上面から出土している。

土製品では，後期および後～晩期の円盤状土製品が多数あり，他の住居跡より出土量が多い。また，土錘もある。石器では，石鏃・打製石斧・石皿・凹石・石錘・磨製石斧・磨製石斧未完成品・砥石・石棒・三脚石器・玉・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等ほとんどの石器が出土している。また，石鏃・磨製石斧未完成品・ヒスイ原石・蛇紋岩原石の出土量は最多である。その他に，サメの歯・サメの骨・その他の骨と炭化物と木片がある。これらの遺物の他に，覆土上面で，混入と思われる古墳時代の土師器と中世の磁器もある。

住居跡の時期は，後期初頭と思われる。

第26号住居跡（第55・56図，図版第22・40図）

住居跡は，住居跡集中区の西北端にあり，一部が第35号住居跡と重複する。標高は12.5mを測り，X70～73Y46～49区で検出された。平面形は，推定で長円形と思われる。炉の南約4mにはL字状の段がみられるが，壁になるとは思われないが，第8・21・22・32号住居跡のように壁と段がつながる例もある。炉の東では，柱穴が連続して溝状となっており，住居跡の東端（へり）のようにみえる。住居跡は，推定で約4×3.5mと思われる。壁は，現段階ではなく，前述の段が該当するかも知れない。炉の主軸方向はN—11°—Eとなり，P12～P14・P39の4本が主柱穴になると思われる。ただ，P22・P37・P8・P60の4本も主柱穴に加わる可能性がある。炉の南には，大きなP18ピットがあり，その穴から東に向かって小さな段がある。そして，穴と段の周囲には，扁平な石数個がある。

炉は，大型の正方形石組炉で，110×103×深さ48cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土はなく，炉内面はすこし焼けている。炉石は，長方形で扁平な自然石と砥石の両方を用い，周囲を小石で囲む。炉石の長軸は一個の石・短軸は三個の石を対称に配置している。炉内中央部には，第23号住居跡のように長方形の自然石一個を置き，さらに石の上下に土器をもつ。とくに石上の土器は，何回も土器を丁寧に重ね，内面を上にして少しの凹みをもたせ，平らな面を作っている。また，石下の土器もその傾向が伺え，石を包むようにしている。周囲の小石は，幅約30cmで取り囲むようにしており，北では扁平な石二個をその代わりとする。南と西側の小石は，すこしなくなっている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉と思われる深鉢形土器・中期後葉の深鉢形土器が出土している。炉内からは，中期中葉・後葉と後期と思われる土器が出土しているが，後期でも初めの可能性がある。この他に，中期中葉と思われる深鉢形土器一個を埋甕としている。土製品では，後期および後～晩期の円盤状土製品が多数あり，比較的出土量が多い。石器では，石鏃・石錘・磨製石斧・磨製石斧未完成品・玉・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等が出土している。また，磨製石斧未完成品・ヒスイ原石・蛇紋岩原石の出土量は多い。その他に，サメの歯・サメの骨・その他の骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，出土土器の新しい時代をとれば後期初頭となるが，ここでは中期後葉としておく。

第35号住居跡（第57・58〔下〕図，図版第22・43図）

住居は，住居跡集中区の西北端にあり，一部が第21・26号住居跡と重複する。標高は12mを測り，X72～75Y45～47区で検出された。平面形は，推定で長円形と思われる。壁はみられない。炉の東では，大きなピットが数個ある。住居跡は，推定で約５×4.5mと思われる。炉の主軸方向はN—99°—Eとなり，P33・P41・P45・穴84・穴211の５本が主柱穴になると思われる。炉の北には，P１ピットが近接してある。第21・26号住居跡との重複する付近では，扁平な石を含む石数個がある。また，北でも石がみられる。

炉は，長方形石組炉で，78×65×深さ36cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，炉全体にあり中央部で厚く，約５cmを測り，炉内面は焼けている。炉石は，第26号住居跡と同様で，長方形で扁平な自然石と長方形で角張らない自然石との両方を用い，周囲を小石で囲む。炉石の長軸は，二個の石・短軸は二個の石を対称に配置したと考えている。炉底面には，小石を敷きつめている。周囲の小石は，幅約20cmで取り囲むようにしている。西側の石は，抜き取られている。炉内には，小石の他に土器も出土している。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期後葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，後期と思われる円盤状土製品がある。石器では，磨製石斧未完成品・砥石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等が出土している。その他に，炭化物がある。

住居跡の時期は，中期後葉と思われる。

第７号住居跡（第58〔上〕・59図，図版第22・25図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，一部第31号住居跡と重複する。標高は14.5mを測り，X63～65Y51～53区で検出された。平面形は，隅丸方形で，本遺跡中では判る方の例である。規模は約3.5×３mと小さく，壁は南側で一部を欠き，最高15cmの壁高を測る。炉の主軸方向はN—31°—Eとなる。住居跡は建て替えられており，P１～P３・P14の４本が古段階の主柱穴となり，P１・P２・P８・P13の４本が新しい主柱穴となる。住居跡の北東隅には，第11号焼土が壁にかけてある。本住居跡にともなうかも知れない。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，わりあいしっかりとしており，炉の周辺に広く貼り床があり，焼土を含んでいる。周溝はない。

炉は，長方形の石組炉で，78×52×深さ25cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，中央部に少し堆積し，炉内面は焼けている。炉石は，長方形で扁平な自然石と地山の石の両方を用いている。炉石の長軸は三個の石・短軸は一個の石を対称に配置すると思われるが，南側がない。また，炉の南側は，他のピット等により一部が壊されている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。石器では，砥石・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等がある。その他に，骨がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第31号住居跡（第60図，図版第22・41図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，一部第７号住居跡と重複する。標高は14.5mを測り，X65～66Y52～54区で検出された。平面形は，隅丸方形で，第７号住居跡と同じく形の判る例である。規模は約４×3.5mと小さい。住居跡の西には，第16号住居跡から伸びてくる段にぶつかり，東には川跡があり，住居跡の一部を壊している。壁は，西と南側の

辺が良く残っており，最高25cmの壁高を測る。炉は第11号焼土で，他の住居跡と異なり長円形の地床炉である。規模は70×30×深さ３cmで，貼り床上に作られており同例は第16号住居跡である。住居跡の床面のほぼ半分には，貼り床があり，とくに東側に広くみられる。炉の主軸方向はN—30°—Wとなり，Ｐ８・Ｐ８・P12の３本が主柱穴となり，残りの１本とで４本柱X型となる。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，しっかりとしており，炉の周辺に広く貼り床がある。周溝はない。

炉は，長方形の地床炉で，70×30×深さ２cmの規模を持ち，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，中央部に少し堆積している。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期前葉の深鉢形土器が出土している。土製品では，後期から晩期と思われる円盤状土製品がある。石器では，磨製石斧・ヒスイ原石等が出土している。その他に，炭化物がある。

住居跡の時期は，中期前葉と思われる。

第16号住居跡（第61図，図版第22・32図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，一部第17号住居跡と重複する。標高は14ｍを測り，X65～67Y49～51区で検出された。平面形は，長円形で，規模は約４×3.5ｍと小さい。住居跡の周辺には，いくつかの段があり，第18号住居跡までの間には幅約50cmの溝が走る。第31号住居跡とは段で結ばれる。壁はほぼ全周し，一部北東側でみられなくなり，南壁が最高で約40cmを測る。炉は，第31号住居跡と同様の地床炉である。地床炉は，隅丸長方形で，住居跡のほぼ中央の貼り床上にあり，規模は約50×30×深さ２cmで，周辺には貼り床が広く巡り，とくに東側にみられる。住居跡の主軸方向はN—61°—Wとなり，Ｐ１・Ｐ２の２本が主柱穴と思われる。周溝はない。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，炉の周辺に広く貼り床があるためしっかりしている。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期中葉の深鉢形土器・浅鉢形土器・有孔鍔付土器が出土している。石器では，打製石斧・砥石・石錘・玉・ヒスイ原石・蛇紋岩原石等が出土している。その他に，炭化物がある。その他にサメの骨とその他の骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

第17号住居跡（第62・63図，図版第22・33図）

住居跡は，住居跡集中区の中程で，一部第16号住居跡と重複する。標高は14ｍを測り，X66～68Y48～50区で検出された。平面形は，推定で長円形と思われ，規模は約４×４ｍである。住居跡の南には，第16号住居跡から伸びてくる段があり，これが壁になるかもしれない。住居跡の周辺には，段と溝があり，西側の段により住居跡の一部が壊されている。壁と周溝は，見られない。炉の周辺には，貼り床があり，とくに北側に広くみられる。炉の主軸方向はN—15°—Eとなり，Ｐ３・P10・P25の３本が主柱穴となり，残りの１本とで４本柱X型となる。周溝はない。

床面は，砂利層中に掘り込まれているが，広く貼り床があり，しっかりしている。

炉は，第９号住居跡と同様の大型長方形石組炉で，南部に添炉をもつ複式炉である。規模は，112×80×深さ38cmで主炉は93×80×深さ37cm・添炉は60×20×深さ12cmで，住居跡のほぼ中央部に位置する。焼土は，主炉の内面にみられ，中央部にはほとんどなく，厚さ約２cmを測る。添炉は焼土の上に作られており内部にはみられない。炉石は，長方形で扁平な石と砥石を主に用い，隙間を小石で埋めている。主炉と添炉の間は，扁平な石を間仕切りとしている。炉石は，短軸の辺が一個の石で，主炉の長軸の辺が二個・添炉の長軸の辺が一個の石で，対称に配置している。主炉長軸の辺のうち一個は，大きな石で，もう一個分は小石としており，東側では一個が欠ける。添炉長軸の西側の石が

ない。

住居跡内からは，土器と石器が出土している。土器では，中期の深鉢形土器が出土している。石器では，磨製石斧未完成品・砥石・ヒスイ原石等が出土している。その他に，骨と炭化物がある。

住居跡の時期は，中期中葉と思われる。

埋甕

境Ａ遺跡で検出した埋甕は，５個あり，うち半分くらいが第29・30・33号住居跡集中区にかたまっている。この他に埋甕状の土器がもう少しあり，番号は付けなかったが出来るだけ示すようにした。

埋甕は，大半が土器一個体分の半分を埋めており，しかも胴部下半例が多い。住居跡内にあるのは，第30号住居跡だけで，他は壁際か近接している。住居跡に近接しない例は，穴群でみられた。

第１号埋甕（第20図，図版第44図）

検出区は，X64Y59区で，第30号住居跡の炉の北西約２ｍの所にあり，胴部下半を埋めており，口縁部側を下にしている。縄文を地文とする土器で，時期は，中期中葉である。

第２号埋甕（第18図，図版第44図）

第２号埋甕は，X61Y60区で検出されており，第29号住居跡北西壁に接している。第１号埋甕同様胴部下半を埋め，口縁部側を下にしている。条線文を地文とする土器で，時期は，中期後葉である。

第３号埋甕（第18図，図版第44図）

検出区は，X61Y60区で，第２号埋甕の西約２ｍの所にあり，これも口縁部から胴部を埋めており，口縁部を下にしている。土器の地文は縄文で，口縁部に無文帯を持ち，時期は中期と思われる。

第４号埋甕（第27図，図版第19図）

X61Y60区で検出されており，第２・19・20号住居跡集中区西で，第19号住居跡の炉から北西約３ｍの地点にある。埋甕は，段と穴が接している第132号穴内で，さらに穴西側の一段掘り窪められた穴で検出されている。そして，埋甕内には，大珠状で拳大のヒスイ原石が入っていた。第１号埋甕とは異なり口縁部を上にしている。縄文を地文とする土器で，時期は，中期中葉である。

第５号埋甕（第20図，図版第44図）

西側調査区北縁部の，X61Y60区の 第794号穴で検出されている。胴部下半の底部を下にしている。縄文を地文とする土器で，時期は，中期中葉である。

この他に図版第44図で示しているような埋甕状の，土器を掘り窪めた所に埋めているらしい例がいくつかあった。その中で，X64Y44区例などがあり，胴部を用いる例が多い。

焼土

境Ａ遺跡で検出した焼土は，第１～15号焼土までの15個あり，住居跡付近と穴群東側に集中しており，とくに第29号住居跡付近に三例がかたまっている。焼土の時代・性格などは，第四分冊総括編で述べるため，ここでは検出状況を主に記述する。また，焼土は，住居跡炉とともに，理化学的手法による熱残留磁気測定を行い，時代決定の参考としている。この測定結果も総括編で扱うため，ここでは，縄文時代以外の時期に属する焼土も含まれる。

第１～３号焼土（第27図，図版第44図）

第１～３号焼土は，第19号住居跡付近に三例がかたまっており，第３号焼土は炉から約10ｍ離れる。第１・２号焼土は，第19号住居跡に隣接するか，ともなうかは，不明である。第２号焼土の範囲は40cmと比較的広く，厚さも約３cm

と厚く，検出例中大きい。第１～３号焼土周辺からは，中期中葉の土器が出土しており，同時期の可能性がある。

第７～10号焼土（第18・20図）

第７～10号焼土は，第29・30・33号住居跡付近に点在している。第９号焼土は，第29号住居跡の炉内焼土である。第10号焼土は，第29号住居跡内にあり，第８号焼土は第29号住居跡の北近くにある。また，第７号焼土は第30号住居跡の北近くにある。第７号焼土は住居跡にともなうかは不明であるが，その他の焼土はともなう可能性がある。第８号焼土は，住居跡東側床面を広く覆っている。

第11～13号焼土（第38図）

第11～13号焼土は，第31・16・24号住居跡付近にある。第13号焼土は，第24号住居跡内にあり，第12号焼土は第16号住居跡の東側にある。第11号焼土は，第31号住居跡の地床炉となっている。第12号焼土は住居跡にともなうかは不明であるが，その他の焼土はともなう可能性がある。

第４～６・15号焼土（第66図，図版第44図）

第４～６・15号焼土は，穴群東側にある。いづれも，穴の遺構検出面近くで検出されており，厚さも薄い例が多い。焼土周辺の穴の時期が，現段階では決定していないため，時期は不明で，平安時代以降となる可能性もある。

配石と集石（第18図，図版第44図）

ここで述べる配石とは，扁平な自然石を地山に敷並べたような石群のことをさし，集石は扁平な石も含む自然石の集合（高まり）のことを示す。

配石（第68図）

配石は，住居跡集中区の北西部で，第21号住居跡と第35号住居跡との中間でみられた。図で示した石は，大半が扁平な自然石で，平らな面を上にしていた。石群は，まとまりや規則性がなく，15×10mの範囲内に集中しており，一面隙間なく敷詰めた状態ではなかった。石は，大半が人頭大位の石で，細長い石もある。

集石（第67図）

集石は，西側地区南東部の住居跡群で，第36号住居跡上面の川跡沿いで検出された。図では，断面図を示していないが，約１m位の高さがあり，６×４mの範囲内に集中している。石群の北端では，大型の彫刻石棒があった。石は大半が人頭大以上の石で，細長く角張らない自然石が多く，直立する例はなかった。中には，砥石なども含まれていた。

木柱根を持つ穴

この種の穴は，穴群中二地点で確認できた。

１．穴群の西部で見られ，穴の規模がほぼ同じで，孤を描くように配置している。

第1312号穴　X89Y51・52区に位置する。標高は9.1mを測り，大きさは，長軸１m×短軸0.86m，深さ0.6mの楕円形で，柱根の径は，0.42mである。出土遺物は，土器（縄文時代後～晩期）と磨製石斧未完成品・台石・凹石・硬玉原石などが，出土している。

第1313号穴　穴は，X83・84Y51・52区に位置する。標高は，9.2mを測り，大きさは，直径約90cmのほぼ円形を呈し，深さ0.64mで，柱根の径は，50cmである。出土遺物は，土器（後～晩期），磨製石斧未完成品・蛇紋岩原石・硬玉原石などが出土している。

第1352号穴　X91・92Y47・48区である。標高は，9.2mを測り，穴の規模は，長軸が1.60m・短軸が1.0mで，深さ0.6mを測る。柱根の直径は，約30cmである。出土遺物は，土器（後～晩期），磨製石斧未完成品・敲石・台石・硬玉原

石などが出土している。

第1363号穴　X90・91Y50・51区に位置し，標高は9.1mである。大きさは，径10mのほぼ円形で，深さ0.4mで，柱根の径は14cmを測る。出土遺物は，土器（後期？晩期）と円盤状土製品があり，他には磨製石斧未完成品・敲石・石棒・硬玉原石などが出土している。

第1364号穴　X91Y49・50区に位置する。標高は９mで，大きさは，長軸1.2m×短軸1.15m，深さ0.5mで，柱根の径は40cmを測る。出土遺物は，土器（中期中葉・後～晩期），礫器・磨製石斧未完成品・硬玉原石などが出土している。

２．住居跡集中地区北西に位置し，まとまりが見られない穴。（１より小さい穴）

第247号穴　X77・78Y42・43区に位置し，標高は，11.5mを測る。長軸は58cm，短軸は48cmで，深さ0.55mとなり柱根の円径は30cmである。出土遺物では，土器（中期中葉～中期末）があり，石器類の出土はない。

第370号穴　X76・77Y41区に位置する。標高は11.4mで，長軸70cm×短軸45cm，深さ20cmで，柱根は半裁されている。出土遺物では，土器片が出土しているだけである。

第1546号穴　X77・78Y40・41区に位置する。標高は12.1mで，長軸68cm×短軸62cmで，深さ30cmとなる。同一穴に半裁の柱根と，径26cmの柱根の２個がある。出土遺物はない。

第1549号穴　X78・79Y39・40区に位置する。標高は11mで，径50cmの円形の穴である。深さは22cmで，柱根の径は30cmである。出土遺物は，土器（中期後葉～後期前葉）がある。

３．以上の穴群の柱根は，そのほとんどがクリ材である。なお，１の所属時期は，縄文時代晩期と考えられ，同様の例は新潟県寺地遺跡〔寺村他1987〕・石川県真脇遺跡〔高堀他1965〕・石川県新保本町チカモリ遺跡〔南他1986〕がある。

石組を持つ穴

第546号穴　X73～75Y66・67区に位置する。標高は12.5m～12.8mである。長軸は北西～南東方向である。偏平な自然石を利用し，長軸2.33m×短軸117cmの掘り方を持ち，石は長方形に組まれており，やや歪んでいる。

側壁面の石は，ほぼ垂直につまれている。

地表下約50cmの深さに底面があり，ほぼ水平であり，底面には石はみられない。また，組まれた石は，熱をうけたような痕跡，または，なんらかの変化をうけたような様子はない。なお，西側壁のところに，筋砥石が再利用されている。この石組み西側にも，約80cm×60cmの穴があり，この部分の石が欠除しており，この底面より約20cm深い。この穴は，石組み構築後に形成されたと思われ，両者の具体的関係を知る手がかりは得られなかった。

出土遺物としては，縄文時代中期と後期の土器と，円盤状土製品，石鏃・磨製石斧未完成品・平砥石・台石・蛇紋岩原石がある。この他に，熱を受けた骨片などが出土している。

この石組みを持つ例は，本県の縄文時代では初見である。他に例を求めると新潟・山梨・長野・群馬県などで確認されている。名称も「石棺状配石」・「組石遺構」・「石棺」などとよばれており，時期としては後期から晩期に多くある。用途としては「墓」の説が多い。しかし，当遺跡の例は単独で存在しており，不明な点が多く，この結論はきたる総括編でまとめたい。

土製品出土穴（参考図４図）

土偶　土偶は，穴群東部で若干確認されている。第584号穴，629号穴，928号穴などがある。穴の形は様々であるが深さは約40cm前後である。時期は，後～晩期である。なお，第629号穴には，石棒と打製石斧が伴う。

土錘　土器片利用の土錘は，穴群東部と西部より若干出土している。時期は，中期～後期である。なお，穴群以外では有溝土錘も出土している。

円盤状土製品（メンコ）　円盤状土製品は，穴群全体にわたり出土しており，出土量は多い部類に入る。そのほとんどが，土器破片を利用し，周辺をすこし成形したものである。時期は，中期～後期（一部晩期も多い）である。

有孔球状土製品　有孔球状土製品は，穴群中央部～西部にかけて多く確認されている。この遺物は，遺構に伴う例が少なく当遺跡は好例である。時期は，後期～晩期である。

石器類出土穴（参考図４・５図）

打製石斧　打製石斧は，穴群全体にまばらに確認され，とくに，未完成品は少ない。

磨製石斧　磨製石斧は，打製石斧と同様で，穴群全体にまばらに確認されている。磨製石斧未完成品は，穴群全域に確認され，石器類の中では出土量の多い例である。

石錘　石錘は，穴群全体にまばらに出土し，時期は，後期～晩期である。また，北部で一箇所集中するところがある。

石棒　石棒は，穴群の北側に確認されている。第17号穴，1354号穴などであり，時期は，前者が中期～後期，後者は後期～晩期である。

ヒスイ(硬玉・翡翠)原石　ヒスイ原石は，穴群のほぼ全域にわたり確認され，とくに第956号穴，第1316号穴では多く出土している。原石の多くは，豆粒大の剝片が多い。

蛇紋岩原石　蛇紋岩原石は，穴群の東部と西部に若干確認され，ヒスイ原石と比較すれば著しく少ない。

玉製品　玉は，穴群中央部に確認されている。(第988号穴では，垂飾品が出土している。〔図版第46図〕)

骨類（自然遺物）　骨片は，穴群東部及び西部北側に多く確認され（穴群の上位で)，種類は，鳥・獣・魚類などで多くは熱を受けており，残りは良かった。第243号穴よりは，サメの歯が出土している。(遺跡全体としては，サメは比較的多く確認されている。) また，種子類も検出されているが，骨同様同定中である。

穴群について

遺物及び自然石の出土した穴は，1213箇所で，穴の所属時期をみてみると，全体の一割弱が中期，六割が後期，三割が晩期，時期不確定は二割となる。

遺物は，ほぼ九割の穴よりの出土がある。穴群の用途については，現在，性格づけは検討中で確定できていない。

いま，既往の調査例（県内）を列記し，それに基づき推定したい。

朝日町下山新遺跡（小島1974）

第４地点のピット群は，住居区とは切り離された，限定された場所に位置する。有孔鍔付土器や，大型丹塗土器などが確認され，儀場（例えば葬送儀礼に伴う）と推定された。時期は，中期中葉である。同様例を境Ａ遺跡で求めるなら，第929・945号穴があたる（図版第46図)。

福光町　竹林Ｉ遺跡（神保1980）

住居跡に近接した位置に，穴群が確認された。土偶・ヒスイの玉の出土した穴がある。穴の所属時期は，明確には区分されない。時期は，中期前葉～後期初頭，穴の所在する地域を公共的な場所（広場）と推定し，穴の用途を土坑墓又は，貯蔵穴などと想定している。これにあたる境Ａ遺跡例は，現段階では明示しにくいが，玉出土例は，第111・223・438・988・1532号穴があげられ，土偶例は，第584・629・928号穴があたる。しかし，境Ａ遺跡では，広場的な考えはもちにくい。

平村　東中江遺跡（岸本他1982）

発掘地区は，第１・第２地区がある。両地区とも，住居跡に近接した位置に穴群が確認され，土坑墓又は，貯蔵穴などと推定された。又，河原石などを持つ穴は，土坑墓と推定，時期は中期中葉末，中期末～後期初頭である。境Ａ遺跡では，自然石をもつ例もあるが，穴の上面・中・底面とさまざまであり，ここでは概当例はひかえておく。

現段階での境Ａ遺跡の穴群をまとめると，縄文時代中期頃から作られはじめ，後期から晩期を中心とした貯蔵穴と墓的な穴などが混在しているとしておく。

（斎藤　隆・橋本正春）

4　まとめ

本書は，昭和59・60年度の二箇年にわたり調査した，朝日町境Ａ遺跡の調査報告書であり，報告書は前章でも述べたように四部構成で計画しており，今回は「第一分冊　遺構編」である。そして，平成元年度以降に，順次「第二分冊　石器編」・「第三分冊　土器編」・「第四分冊　総括編」を刊行する予定である。

今回の「第一分冊　遺構編」では，縄文時代の遺構のみを扱い，他の時代の遺構は「第四分冊　総括編」で検討することとしている。ただし，本書は最初の報告書であるため，遺構配置図や概略説明のところでは全ての時代の遺構を扱い記述している。このまとめでは，縄文時代の遺構でのまとめをし，境Ａ遺跡全体の性格・時代と時期・遺構配置・文化交流や交易などの総合的なまとめは,「第四分冊　総括編」で行なう予定である。

縄文時代の遺構

境Ａ遺跡で検出された遺構としては，竪穴住居跡34棟・焼土・埋甕・多量の穴群・所属時期不明の川跡がある。これら遺構の大半は，昭和60年度調査区（西側調査区）に集中し，竪穴住居跡２棟だけが昭和59年度調査区（東側調査区）で検出されている。

竪穴住居跡　住居跡34棟のうち，２棟が東側調査区にあり，32棟が西側調査区にある。西側調査区の32棟は，四つの集中区にわかれ，さらに西側南西部の集中区に22棟がかたまっている。住居跡は，合計五群に別れている。これらの遺構配置については，それぞれの群についての記述を参考としていただきたい。つぎに時期ごとでみてみると以下のようになる。

縄文時代中期前葉　当遺跡では，１棟だけで西側南西部の住居跡集中区北東端で検出されている。第31号住居跡で規模は４×3.5mの中規模で，炉は70×30cmの中規模地床炉であり，住居跡の中央やや北よりで検出されている。地床炉は，中期中葉の第16号住居跡との二例だけである。住居跡内には，張り床が広くあった。現段階で，この時期は境Ａ遺跡の人々の活動の（住居跡構築）出発点と言え，西側地区を利用している。

縄文時代中期中葉　住居跡数は遺跡最高の18棟で，東側地区で２棟，西側地区の南東部で３棟・北東部で２棟・中央部川跡東で１棟・中央部集中区で10棟がそれぞれ検出されている。比較的大型の住居跡は２棟で，ともに大型の複式石組炉をともなう。中型の住居跡は13棟で，炉は大型の複式石組炉１基・中型の地床炉１基の他は長方形を基本とする石組炉である。小型の住居跡は３棟で，中～小型の石組炉である。これらの住居跡は，各群中で互いに重複する例があり，それを考慮してみると一度に２～３棟が建っていたと思われる。また，この時期は，当時の人々が遺跡全体を使って生活をしていたと考えれる。

縄文時代中期後葉　住居跡数は中葉についで多く12棟である。住居跡は西側地区の南東部で１棟・北東部で１棟・中央部集中区で９棟が検出されている。大型の住居跡２棟は，ともに大型の石組炉である。中型の住居跡は７棟で，炉は大～小型の石組炉となっている。中型の住居跡３棟は，ともに中型の石組炉である。住居跡は，中葉と同様で互いに重複しており，一度に２～３棟が建っていたと思われる。なお，この時期は，西側地区だけを利用している。

縄文時代後期前葉　住居跡数は，３棟と急に少なくなる。住居跡は西側地区の中央部川跡東側で２棟・中央部集中区で１棟である。大型の住居跡１棟と中型の住居跡は２棟であり，炉は大～中型の石組炉である。住居跡は，１～２棟が同時に建っていたと思われる。なお，この時期は，西側地区の中央部だけを利用している。

穴群　境Ａ遺跡では，数多くの穴が住居跡群とは別の地点で検出されている。これらの穴の性格などについては，現時点では解明されていない事柄の方が多いため，ここでは触れないでおく。穴の規模は，大小様々で，しかも長く溝状になる例や数個の穴が連続してつながる例などがあり，規則性やまとまりをみいだすことは現時点では難しい。ただ，西側でみられる，柱の根元部分を内胞する比較的大きな穴五個が，弧状に並ぶ。この柱をもつ穴は，住居跡集中区の北で検出されている同様の穴群とともに建物となる可能性は大きい。しかし，連続的に人が生活した住居とな

るかは不明である。穴群中程では，穴が連続して溝状になり，方形の区画を呈する例がある。また，その方形の穴の南側で，長方形の石組をもつ穴があり，現段階では「墓」と断定できないが，その可能性もあるとしておく。穴の遺物では，土器の完形品を初め多種多様な石器・骨・炭化物などが出土している（参考図４・５参照)。穴では，遺物を伴う穴と無遺物の二者があり，今後，これらの穴は所属時代も含めて性格などを検討しなければならない。

埋甕　埋甕は，確実な例として五個体分が検出されているが，現在も整理・研究中であるため，住居跡に伴うかどうかの点などを含めてここでは，中期中葉から後葉にかけての埋甕で，住居跡に伴う可能性があるとしておく。また遺構の記述でも触れているが，西側地区の中央部川跡東側で３個が集中している。

焼土　焼土は，住居跡の炉に成る例も含めて15基が検出されている。これらの所属時代と時期については，熱残留磁気測定結果をも参考とし，総括編でまとめたい。ここでは，縄文時代の住居跡に伴う可能性がある焼土が多く，とくに西側地区の中央部川跡東側と集中区例がそうであるとしておく。

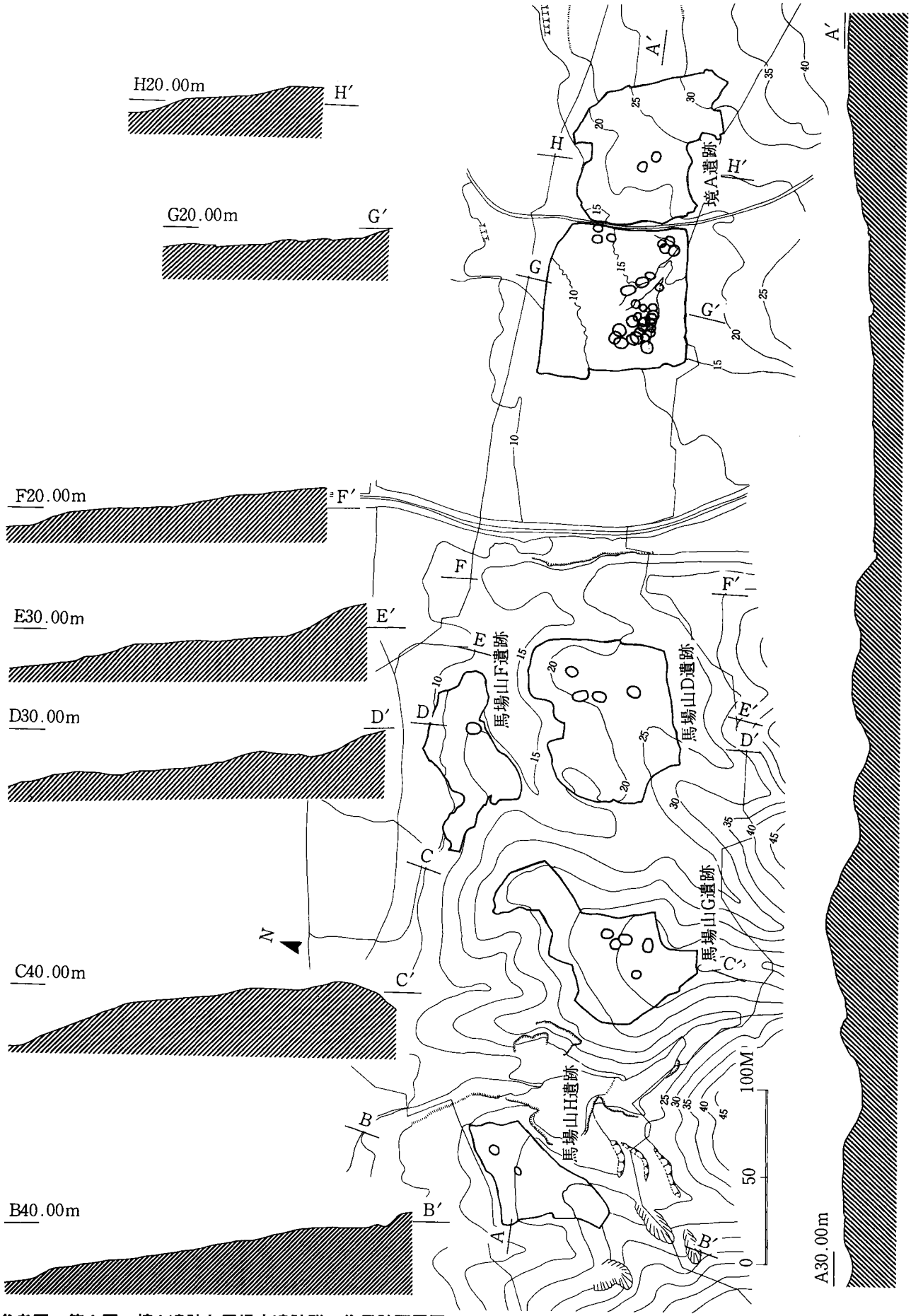
川跡　川跡は，西側地区の中央部で検出されている。川跡は，南東部の第１・15・28・36号住居跡群が所在する地点から，北と西に向かって二条の川（跡）となって伸びる。そして，西に向かう川（跡）は，中央部の住居跡集中群の第３号住居跡を頂点として西と北西方向に分岐する。また，西側調査区西では，山地帯からのびる川（跡）と合流して北方向へ向かう一条の川（跡）となる。これらの川跡は，縄文時代の後半頃には流れており，いくつかの住居跡の一部を破壊している。そして，平安時代頃には完全に埋まっており，その川跡の上に製塩関係遺構や掘立柱建物などが構築されている。現時点では，川跡と住居跡の関係はつかめていない。

以上が，縄文時代の遺構と配置などについてのまとめといえ，町内の他遺跡と境Ａ遺跡とを比較してみる。

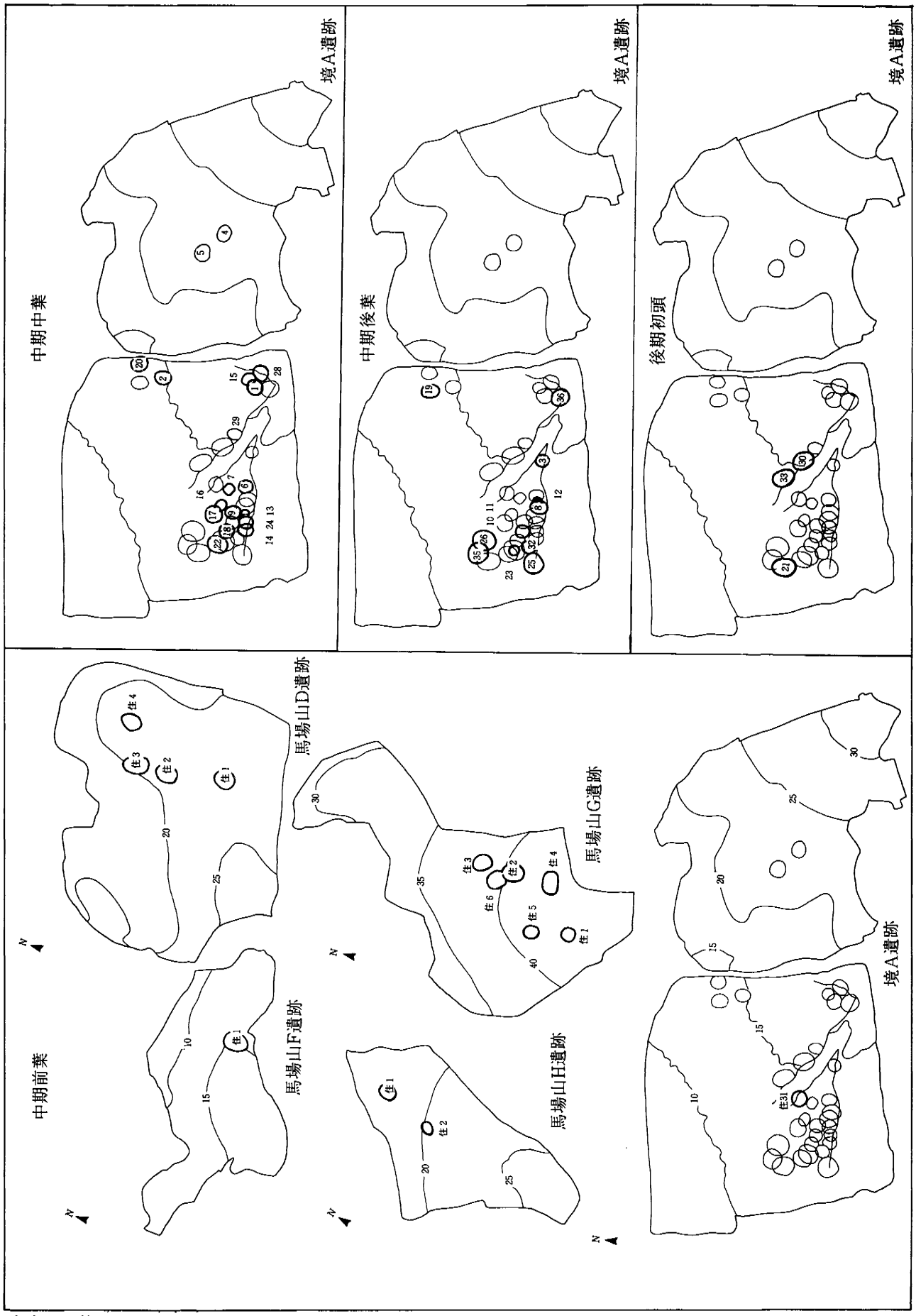
遺構配置　境Ａ遺跡では，縄文時代中期前葉から後期にかけての竪穴住居跡34棟が主体となる。住居跡は，丘陵の平坦面に作っており，多量の穴群とは区別されている。町内では，下山新遺跡が同様な遺構配置となっており，不動堂遺跡では中央に広場をもつようである。境Ａ遺跡は，中期前葉から住居を建て始め，中葉から後葉の時期に多くの人々が生活し大多数の住居を作ったとみてよい。そして，住居跡の重複などからみると一時期に２～３棟もしくは多くみて数棟が建っていたと思える。一方，隣接する馬場山遺跡群は，中期前葉期に営まれた四遺跡であり，それぞれ１～６棟の住居跡で構成されている（参考図１・２参照)。この馬場山遺跡群は，２～３棟程度が一単位としてとらえられそうである。そして，このような人々の動きは，馬場山遺跡群からはじまるのかもしれない。中葉から後葉になると，同じように町内でも遺跡数と住居跡数が多くなる。

住居跡　中期前葉から後期前葉までの住居跡と炉の変遷は，参考図１～３で示した。住居跡は，中期前葉に長円形・小判形の例が多く，中葉以降になると長円形例が主となり，隅丸長方形などもみられだす。主柱穴は，４～８本と様々である。境Ａ遺跡の住居跡は，遺構の所在する平坦面の傾斜方向に合わせるかのように長軸方向をとっており，とくに住居跡集中区は第３号住居跡を頂点として，扇形に長軸方向が広がる。地床炉は，中期前葉に多く，中葉になると複式の大型石組炉と単式の石組炉が加わり，多種となる。炉の形では，長方形を基本とし，中には正方形例もあり，中葉頃は大型炉がふえだす。炉石は，石の大小は別にして，偏平な石もしくは角の丸い自然石を左右対称に配置するようにしている。石が足りないときには，向かい合う石の長さ分の石を二から三個で一個分としている。
境Ａ遺跡では，周囲に小石を巡らす例や砥石を再利用している例もあった。この傾向は，町内の他遺跡でもみられる。

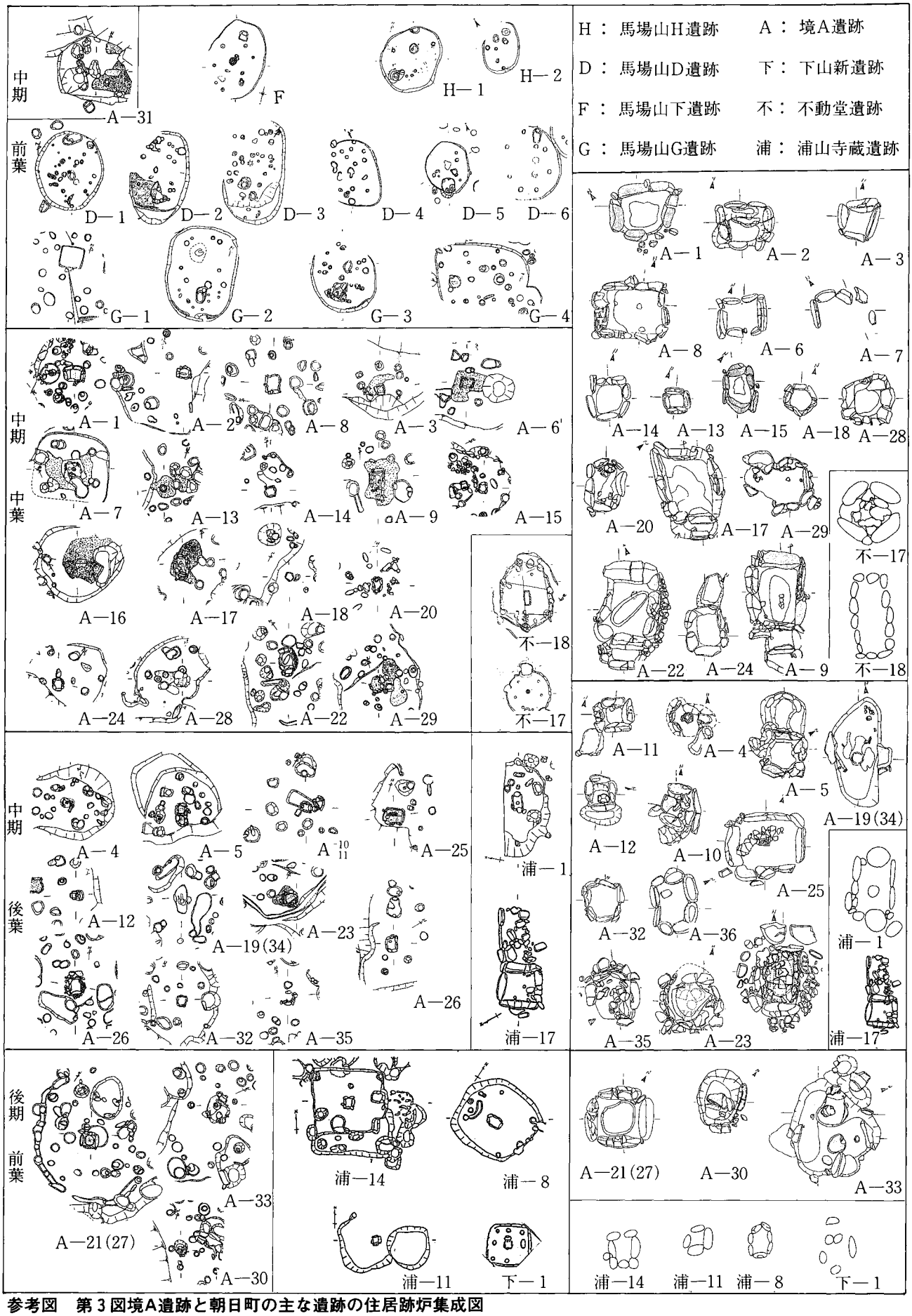
境Ａ遺跡と隣接する馬場山遺跡群をみてみると，次の事柄が現時点で予想できる。縄文時代中期前葉に，人々が馬場山遺跡群全体と境Ａ遺跡の一部に住居を作り，玉と石器類の生産を始める。中期中葉は，境Ａ遺跡だけが主に使われ，人口が増え，住居跡数も多くなる。そして，玉と石器類の生産も積極的に行ったらしい。中期後葉も同様に生活し，後期後葉になり住居跡数が減る。ただ，晩期まで住居はみられないものの人々の活動と石器生産があったらしい。玉などの生産については，積極的に言えないが，石器と未完成品の量の多さはそれを示すようである。（橋本正春）



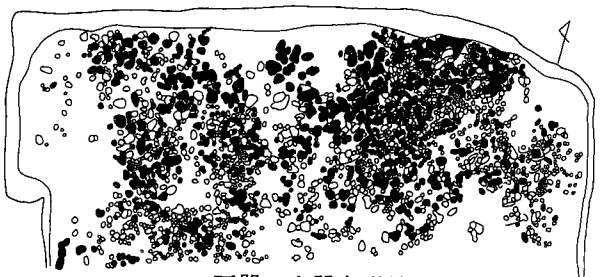
参考図　第１図　境A遺跡と馬場山遺跡群の住居跡配置図



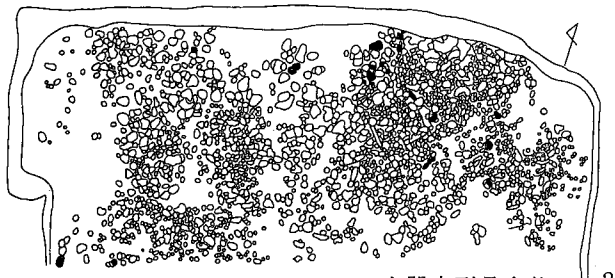
参考図　第２図　境A遺跡と馬場山遺跡群の住居跡配置図



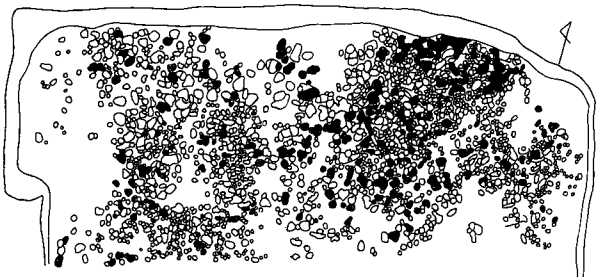
参考図　第3図境A遺跡と朝日町の主な遺跡の住居跡炉集成図



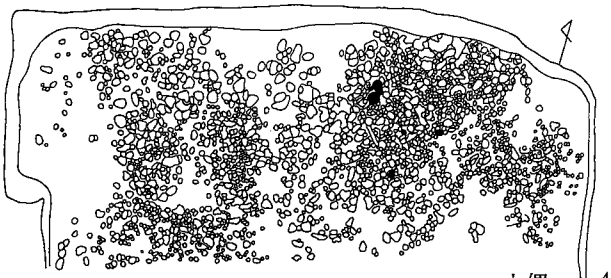
石器・土器完形品・土製品全体　1



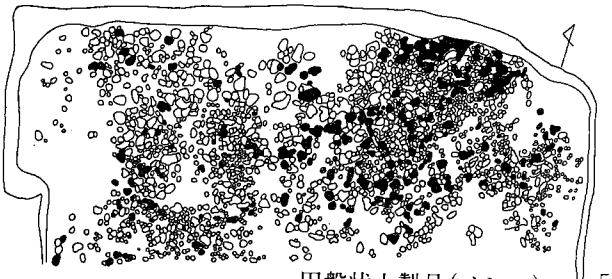
土器完形品全体　2



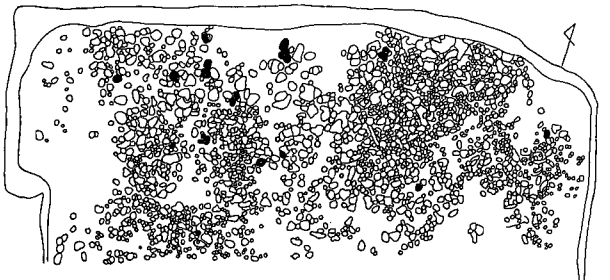
土製品全体　3



土偶　4

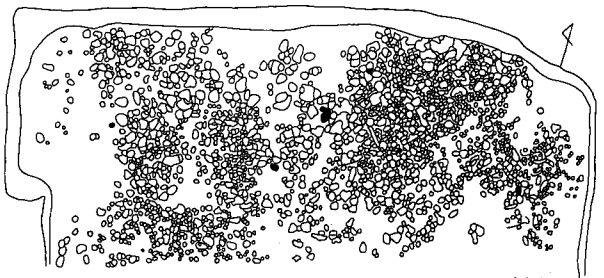


円盤状土製品(メンコ)　5

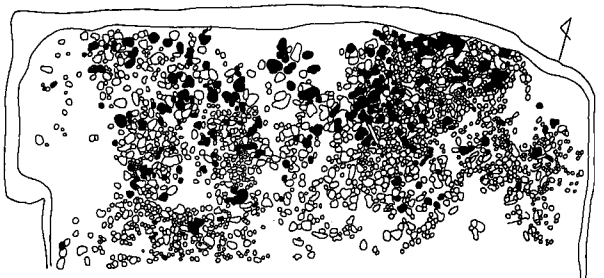


有孔球状土製品　6

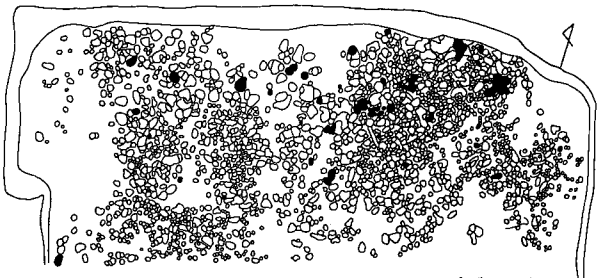
石器全体　7



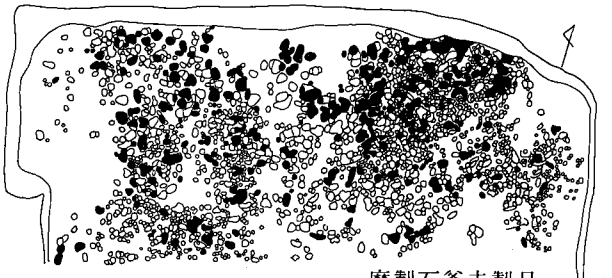
玉類　8



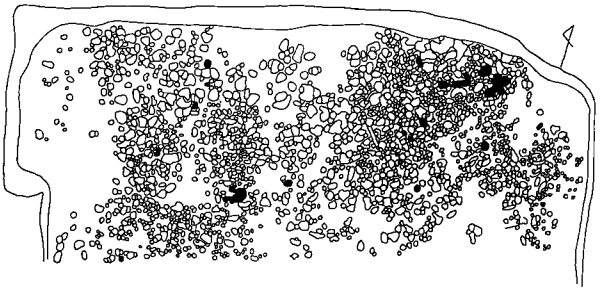
硬石(ヒスイ)原石　9



磨製石斧　10

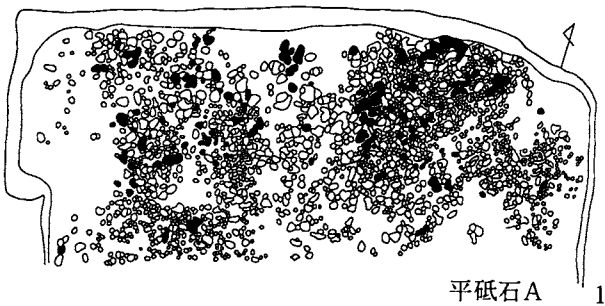


磨製石斧未製品　11

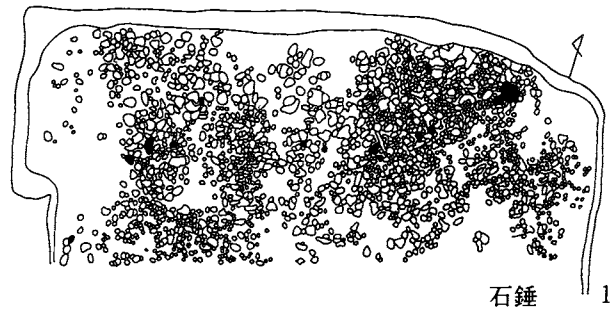


打製石斧　12

参考図　第4図　穴群出土遺物状況図1



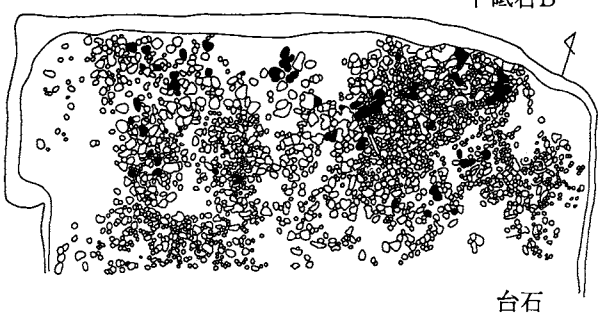
平砥石A 13



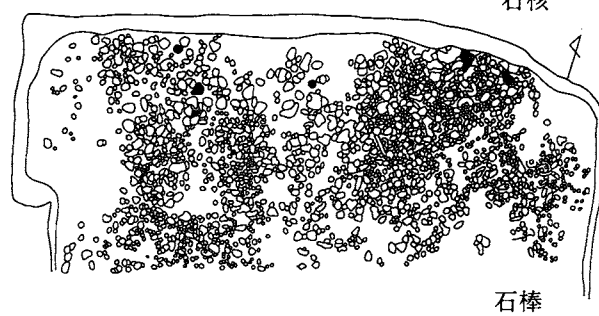
石錘 19

平砥石B 14

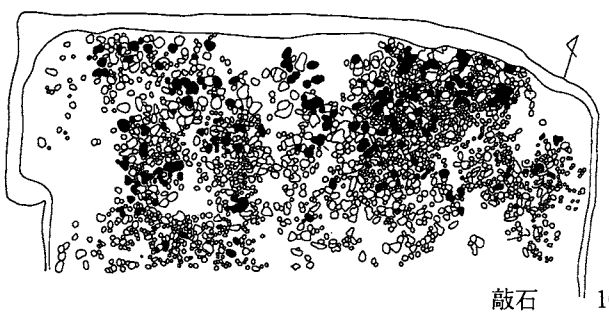
石核 20



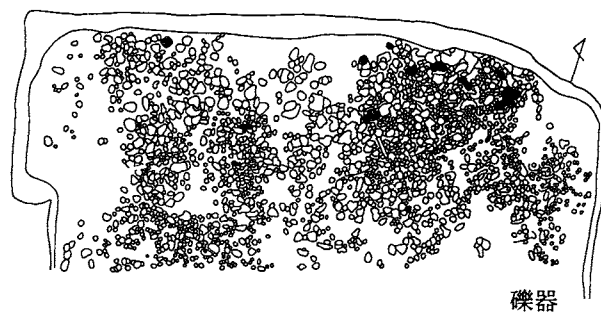
台石 15



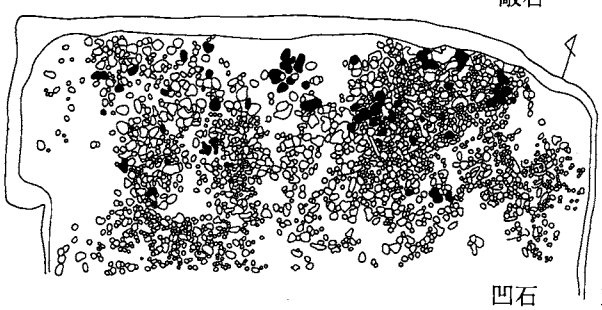
石棒 21



敲石 16



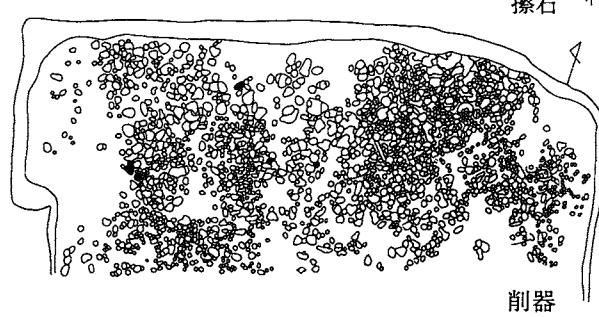
礫器 22



凹石 17

擦石 23

擦切石器 18



削器 24

参考図第５図　穴群遺物出土状況図２

Ⅲ　参考・引用文献

ア　**朝日町教育委員会編**　1979　『富山県朝日町不動堂遺跡第２次発掘調査概報』

朝日町教育委員会編　1980　『富山県朝日町不堂動遺跡第３次発掘調査概報』

安藤文一　1982　「５．交易　翡翠」『縄文文化の研究』８　雄山閣

イ　**伊藤隆三・上野　章・神保孝造**　1979　『富山県小矢部市平桜川東遺跡発掘調査概要』小矢部市教育委員会

オ　**大場磐雄**　監修　1969　『勾玉の故郷はまやま』　富山県教育委員会・朝日町教育委員会

大参義一　1972　「縄文時代」『岐阜県史通史編』　岐阜県

岡上進一　1979　「境金剛遺跡」『昭和53年度富山県埋蔵文化財調査一覧』　富山県教育委員会

カ　**狩野　睦・橋本正春他**　1981・1982・1983　『北陸自動車道遺跡調査報告―立山町―遺構編，土器・石器編，木製品・総括編』　富山県教育委員会

狩野　睦・森　秀典　1985　『富山県立山町総合公園内野沢狐幅遺跡緊急発掘調査概報』　立山町教育委員会

金沢市教育委員会　1989　『金沢市新保本町チカモリ遺跡―遺構編―』

キ　**岸本雅敏・山本正敏・橋本正春**　1982　『北陸自動車道遺跡調査報告―魚津編―』　富山県教育委員会

岸本雅敏・山本正敏・松島吉信　1985　『じょうべのま遺跡―C･K地区の調査―』　入善町教育委員会

ク　**日下部善己**　1983　「環状石斧」『縄文文化の研究』　7　雄山閣

コ　**小林行雄・佐原　眞**　1964　『紫雲出』　詫間町文化財保護委員会

小島俊彰　1965　『極楽寺遺跡発掘調査報告書』　富山県教育委員会

小島俊彰　1968　「北陸における縄文前期末の様相」『信濃』　第20巻第４号　信濃史学会

小島俊彰　1984　「巨大住居とヒスイ文化圏」『シンポジウム古代の日本海諸地域』　小学館

小島俊彰　「本江遺跡」『滑川市史―考古資料編―』　滑川市

越坂一也　1983　「北陸における縄文時代前期中・後葉の土器について」『北陸の考古学』　石川県考古学研究会

サ　**酒井重洋・橋本正春**　1977　『富山県宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会

酒井重洋・岡上進一　1978　『富山県朝日町大家庄地区内埋蔵文化予備調査概要』　朝日町教育委員会

シ　**神保孝造**　1980　『竹林Ⅰ遺跡緊急発掘調査概要』　福光町教育委員会

タ　**高堀勝喜**　1965　「縄文文化の発展と地域性―北陸―」『日本の考古学』　Ⅱ　河出書房新社

竹内俊一　1966　『宮崎遺跡』

平村教育委員会　1982　『東中江遺跡』

高橋修宏　1982　「北陸縄文前期後・末葉土器編年の再考」『小泉遺跡』大門町教育委員会

高橋　保・小池義人・柳　恒雄・竹田和夫　1986　『北陸自動車道　糸魚川地区発掘調査報告書Ⅰ』　新潟県教育委員会

ツ　**都出比呂志**　1975　「第５章　家とムラ」『日本生活文化史』　1　河出書房新社

富山県教育委員会　1972　『富山県遺跡地図』

富山県編　1972『富山県史―考古編―』

富山県教育委員会　1973　『富山県朝日町下山新遺跡第１次発掘調査概報』

富山市教育委員会　1973　『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』「富山市上堤池遺跡」

富山県教育委員会　1974　『富山県朝日町下山新遺跡第２次発掘調査概報』

富山県教育委員会編　1974　『高速自動車国道北陸自動車道関係埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書 ― 富山市・朝日町間―』

富山県教育委員会編　1974　『富山県朝日町不動堂遺跡第１次発掘調査概報』

テ　**寺村光晴他**　1987　『史跡寺地遺跡』　青海町

ナ　**中村奇霙・小島俊彰**　1976　「朝日町馬場山D遺跡採集の遺物」『大境』第６号　富山考古学会

中村奇霙　1967　「郷土文化の夜あけ」『入善町誌』　入善町

ノ　**能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団**　1986　『石川県能都町真脇遺跡』

ハ　**橋本　正**　1971　『小杉町中山南遺跡調査報告書』　富山県教育委員会

橋本　正　1972　『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』　富山県教育委員会

橋本　正　1976　「竪穴住居の分類と系譜」『考古学研究』　第23巻第３号　考古学研究会

橋本　正他　1980　『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』　井口村教育委員会

橋本正春他　1984　『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編―道下遺跡』　富山県教育委員会

橋本正春他　1985　『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編２―境Ａ遺跡他５遺跡』　富山県教育委員会

橋本　正他　1981・1982・1983　『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町―遺構編，土器・石器編，木製品・総括編』　上市町教育委員会

橋本正春他　1987　『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編３―馬場山D.G.H遺跡』　富山県教育委員会

フ　**深井三郎**　1977　「黒部川扇状地の地形と杉沢の成立」『黒部川扇状地』　創刊号　黒部川扇状地地域社会研究所

ホ　**細見啓三他**　1982　『富山県朝日町国指定史跡不動堂遺跡―その概要と整備のあらまし―』　朝日町

マ　**松村和男**　1985　「堤東遺跡出土の縄文時代の遺物について―前期の石器を中心として―」『群馬文化』第203号

ミ　**湊　　晨・竹内俊一**　1971　『愛本新遺跡調査概要』　宇奈月町教育委員会

南　久和　1986　『金沢市新保本町チカモリ遺跡』　金沢市教育委員会

ヤ　**柳井　睦・神保孝造**　1975　『富山県立山町吉峰遺跡第４次緊急発掘調査概報』　富山県教育委員会

柳井　睦・池野正男　1976　『富山県立山町岩峅野遺跡緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会

柳井　睦・池野正男・久々忠義　1977　『富山県大沢野町布尻遺跡緊急発掘調査概要』　大沢野町教育委員会

山本正敏・柳井　睦・久々忠義　1975　『富山県黒部市前沢遺跡緊急発掘調査報告書』　黒部市教育委員会

山本正敏・橋本正春・奥村吉信　1985　『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編２―』　富山県教育委員会

ワ　**渡辺　誠**　1980　「雪国の縄文家屋」『小田原考古学研究会会報』　第９号　小田原考古学研究会

表・図版

住居跡番号	住居跡						炉				時期 その他
	出土区		平面形態	規模		主柱穴	平面形態	規模			
	X	Y		長軸	短軸			長軸	短軸	深さ	
1	53～56	66～68	長円形?	4?	4?	5	台形	75	66	28	土製品，硬玉原16，磨斧5,磨斧未13他27，炭化物，骨　中中
2	67～70	72～75	長円形?	5?	4?	4	長方形	70	60	25	土器5,土製品，玉1,硬玉原1,磨斧2 他16，炭化物，骨　中中
3	57～59	56～58	長円形?	4?	3?	6	長方形	50	50	33	土器1,硬玉原4,磨斧未3 他7,炭化物　中中
4	50～51	93～95	長円形?	4?	3.5?	4?	長方形?	60	40	25	土器1,硬玉原石5,磨斧未4 他6 炭化物，土製品，骨　中後
5	54～56	91～93	長円形	4	3	6	長方 正方	旧80 新60	70 60	3 5	硬玉原石14，磨斧1,磨斧未3,蛇紋岩原石2 他13，土製品 埋設土器　中後？
6	60～62	50～53	長円形?	4?	3?	4	長方形	61	47	21	土製品，硬玉原石1,磨斧未1 他5 炭化物　中中
7	63～65	51～53	隅丸方形	3.5?	3?	4	長方形	78	52	25	土製品，硬玉原石2,蛇紋岩原石2 他5,骨　中中
8	61～64	48～50	隅丸方形	6?	5?	8	長方形	90	76	31	土器1,土製品，玉1,硬原1,磨斧未2 他22，炭化物，骨　中中
9	63～65	46～49	長円形?	6?	3.5?	6	長方複式	153	71	32	土製品，玉1,磨斧1,磨斧未2,他12，炭化物，骨　中中
10	64～66	45～48	長円形?	―	―	5	長方形	74	62	20	土器1,硬玉原石8,磨斧1,磨斧未2,他2,炭化物　中後
11	64～66	45～48	長円形?	―	―	5	正方形	50	40	30	土器1,硬玉原石4,蛇紋岩原石1 他2　中後
12	60～62	48～50	長円形?	3?	3?	3	長方形	44	39	30	土器1,土製品，硬玉原石1,磨斧未1,埋設土器　中中
13	62～64	47～48	?	3?	3?	5?	正方形	33	33	22	土器1,土製品，玉1,硬玉原石4 磨斧未4 他4,炭化物　中中
14	63～65	45～46	長円形?	3?	2.5?	5? 6?	台形	55	50	21	土器1,土製品，硬玉原10，磨斧未16他21，骨　中中
15	54～56	68～70	長円形	3.8?	3?	6	台形	56	36	23	土製品，硬玉原石6,磨斧1,蛇紋岩原石1 他2　中中
16	65～67	49～51	長円形	4?	3.5?	2	隅丸長方	50	30	2	土器4,土製品，玉1,硬玉原石1 他5,炭化物，骨　中中
17	66～68	48～50	長円形?	4?	4?	8	長方複式	112	80	38	土器2,土製品，玉1,硬玉原石5 磨斧未2 他12，炭化物　中中

住居跡番号	住居跡						炉				時期 その他
	出土区		平面形態	規模		主柱穴	平面形態	規模			
	X	Y		長軸	短軸			長軸	短軸	深さ	
18	65～67	45～46	隅丸方?	3?	2.5?	4	五角形	45	45	16	硬玉原石5,磨斧未1,炭化物 ,骨 中中
19	71～74	72～75	長円形?	4?	3?	4	長方形	124	82	15	硬玉原石1,磨斧2,磨斧未2 他1 土製品, 土器1,埋設土器 中後
20	70～74	75～78	長円形	—	—	4?	長方形	66	47	13	土製品, 硬玉原石2,磨斧未4,蛇紋岩原石3 他11埋設土器 中中
21	70～73	42～45	長円形?	7?	6.5?	4	正方形	84	77	27	土器1,土製品, 硬玉原70, 玉10 磨斧13他262,炭化物, 骨 後初
22	67～70	43～45	長円形?	7?	6.5?	4	長方形	132	85	37	土製品, 硬玉原13, 磨斧6,磨斧未21他36, 炭化物, 骨 中中
23	66～69	42～45	長円形?	5?	3.5?	5	正方形	81	78	23	土器1,土製品, 硬玉原3,磨斧3 他29, 炭化物, 骨 中後
24	62～64	45～47	隅丸方?	4?	4?	2	長方形	60	52	19	硬玉原石3,磨斧4,磨斧未1 他3 炭化物, 骨 中中
25	64～66	41～43	隅丸方?	6.5	6	4	長方形	88	75	15?	土器1,土製品, 硬玉原15, 磨斧4,他35, 炭化物 中後
26	70～73	46～49	長円形?	4?	3.5?	4?	正方形	110	103	48	土器8,土製品, 玉2,硬玉原27磨斧3 他91, 炭化物, 骨 中後
28	52～54	68～70	長円形	5?	4?	6?	長方形	67	61	25	土製品, 玉1,硬玉原11, 磨斧1 他31, 炭化物, 骨 中中
29	59～62	60～62	長円形?	5.5?	3.5?	4	長方形	85	62	10	土製品, 硬玉原石3,磨斧2,磨斧未5 他11, 炭化物, 骨 中中
30	61～65	59～61	長円形?	5?	4?	4?	台形	80	59	25	土器1,土製品, 硬玉原石3,磨斧未2 他6,炭化物, 骨 後初
31	65～66	52～54	隅丸方形	4	3.5	4	長円形	70	30	3	土器1,土製品, 硬玉原石1,磨製石斧1,炭化物 中前
32	64～66	43～45	長円形?	3?	2.5?	5	不整円形	52	47	14	土器1,土製品, 硬玉原[illegible],磨斧未4 他2,炭化物 中後
33	65～68	57～60	長円形?	6?	5?	4?	長方形	145	110	17	土器1,土製品, 磨斧未2 他2 後初
35	72～75	45～47	長円形?	5?	4.5?	5	長方形	78	65	36	土器1,土製品, 硬玉原2,磨斧未9 他10, 炭化物 中後
36	51～54	66～68	長円形?	6?	5?	6	長方形	80	57	13	土器3,土製品, 磨斧1 他1 中後

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
1	1	68～69	72～73	不整円形	105	81		種子他
2	5	63～64	53	隅丸方形	42	41		
3	8	63～64	50	不整長円	71	36	縄	風倒木
4	10	63～64	53	隅丸方形	47	38		
5	11	63～64	49～50	円形	50	40		土器
6	12	63～64	50	不整円形	128	109		
7	16	66	52～53	円形	45	43	縄中中	土器
8	17	64～65	50～51	長円形	50	29	縄中中～後中	土器，石棒1
9	18	65	50～51	円形	36	35	縄中中	土器
10	20	67	46	隅丸方形	54	53	縄中前？	土器
11	21	67～68	46～47	円形	35	35	縄中中	土器
12	22	67～68	47	円形	44	43	縄中中	土器　炭化物
13	25	66	42～44	不整円形	279	233	縄中中～後前	硬玉原石1 他9,甕，風倒木
14	26	66～67	50～51	不整長円	166	88	縄中前～後期	石器2
15	41	70	50～51	不整円形	96	62		
16	42	70	52～53	円形	55	48	縄中中～後？	
17	59	64～65	58～60	不整円形	202	130	縄中中	
18	61	64～65	57～58	円形	36	33	縄	
19	62	64	58～59	円形	28	26		
20	64	61～62	60～61	隅丸長方	140	95	縄中前～中後	石器2
21	76	72～73	49～50	円形	44	41	縄	
22	77	73	48～49	円形	33	25	縄後期	
23	78	73～74	49	円形	48	38	縄	
24	79	74～75	48～49	円形	91	74	縄後中	円盤状土製品1,石器2
25	80	74	47～48	不整円形	62	52	縄中後～後末	
26	81	74～75	47	不整長円	48	24	縄	
27	82	75	47	円形	48	39	縄中後～後中	石器5
28	84	73～74	45～46	円形	64	48	縄中中	石器3
29	86	75	47	円形	69	56	縄後？	
30	91	73～74	49～50	円形	35	35	縄	円盤状土製品1
31	92	75	49～50	円形	48	42	縄中中～後後	
32	93	74～75	48～49	円形	26	23	縄後後	
33	94	74～75	46～47	円形	24	24	縄	
34	95	74～75	46～47	円形	39	28	縄後期	
35	96	74～75	48	円形	30	21	縄後中	硬玉原石1
36	100	68～69	71～72	長円形	155	68	縄中中	石器2
37	101	69～70	71	円形	51	47	縄中中～後期	石器2
38	105	69～70	73～74	不整円形	92	78	縄中中～後後	円盤状土製品3
39	106	69～70	73～74	不整円形	87	80	縄中中～後後	円盤状土製品1
40	110	71～72	71～72	隅丸方形	104	88	縄前期～後期	
41	111	72	71～72	不整長円	110	59	縄中中～後中	円盤状土製品1,玉1,硬玉原石1
42	115	73	73～74	隅丸長方	202	52	縄中中	埋甕，ヒスイ
43	120	73	72～73	不整円形	65	50	縄	
44	121	71～72	71～72	不整円形	57	48	縄中中～後後	敲石1
45	124	70	71～72	不整長円	123	64	縄中中～後後	円盤状土製品1
46	125	73	70～71	不整長円	98	52	縄中中～後中	磨製石斧未製品1
47	126	73	71～72	隅丸長方	92	55	縄中中～後後	
48	127	73	72	円形	64	57	縄中中～後後	円盤状土製品1
49	128	73～74	73	円形	59	49	縄中中～後前	円盤状土製品1
50	129	74	73	不整円形	67	57	縄後前？	円盤状土製品1,敲石1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
51	130	73～74	72～73	不整円形	77	65	縄中中～後中	磨製石斧1
52	131	74～75	72～73	不整長円	200	93	縄後前～後期	
53	133	74～75	73～74	隅丸方形	63	54	縄	
54	135	73～74	74～75	不整長円	202	70	縄中中～後期	
55	136	74	76	隅丸方形	72	70	縄中中～後期	磨製石斧1,円盤状土製品1
56	137	74～75	74	円形	52	45	縄後期	
57	138	74	76～77	不整長円	74	25	縄中中	
58	139	75	74～75	不整長円	72	32	縄中末～後後	
59	140	75～76	75	長円形	125	88	縄中前～後中	土製品2,硬玉原石1 他1
60	141	74～75	75～76	隅丸方形	105	80		
61	142	74～75	75～76	不整円形	33	22	縄中中	
62	143	74～75	75～76	隅丸長方	152	70	縄中中	円盤状土製品2
63	144	75～76	75～76	不整円			縄中中～後中	円盤状土製品3,硬玉原石1 他5
64	145	76	75	不整長円	114	56	縄中中～後中	円盤状土製品1,石器3
65	146	75～76	74～75	不整円形	39	37	縄中中～後？	
66	147	74～75	70～71	隅丸長方	161	65	縄中中～後後	
67	148	75	70～71	不整長円	64	53	縄後中	硬玉原石1
68	149	76	70～71	隅丸方形	132	97	縄中中～後後	土後初深，円土1,硬玉原石2 他4
69	150	75	71～72	不整円形	43	32	縄中中	
70	151	74～75	72	隅丸方形	53	43	縄中中～後後	円盤状土製品1,石器2
71	152	75～76	72～73	不整円形	59	46	縄	
72	153	76	72～73	円形	61	49		
73	154	76	72	円形	51	41		
74	155	76	71～72	長円形	43	32		敲石1
75	156	76	71～72	不整長円	67	38	縄後期	
76	157	76～77	71～72	不整円形	38	35	縄中中～後？	円盤状土製品1
77	158	76～77	72～73	隅丸長方	104	48	縄中中	硬玉原石1
78	159	76～77	72～73	円形	40	35	縄後後	
79	160	76～77	72	不整円形	36	32	縄	
80	161	73～74	70～71	長円形	39	33	縄後中	円盤状土製品1
81	162	73～74	70～71	円形	53	41	縄後前～中期	
82	163	72～73	71～72	不整円形	45	34	縄中中～後後	
83	164	72～73	70～71	不整長円	70	44	縄中中～後前	敲石1
84	165	76～77	70～71	隅丸方形	66	56	縄	
85	166	76～77	71～72	円形	29	27	縄	
86	167	76～77	71～72	円形	36	36	縄	磨製石斧未製品1
87	168	77	72	不整長円	57	31	縄中前～末期	硬玉原石1
88	169	77～78	72～73	不整長円	82	54	縄後前	
89	170	77	71～72	隅丸長方	114	53	縄中中～後晩	
90	171	77～78	71～72	不整円形	125	98	縄中中～後後	磨製石斧未製品1
91	172	77	70～71	長円形	58	39	縄後期？	
92	173	77～78	72	円形	30	26	縄後期	
93	174	78	72	隅丸長方	103	65	縄中後	台付深鉢1
94	175	78	71～72	円形	73	69	縄後後	
95	176	78	72～73	長円形	54	43		
96	177	78～79	73	不整円形	56	46	縄中後	
97	178	78～79	72～73	円形	50	45	縄後期	
98	179	78～79	72～73	隅丸方形	82	63	縄後前	
99	180	78～79	71～72	隅丸方形	53	49	縄中中～後中	
100	181	78～79	71～72	隅丸方形	60	56	縄中中～後？	

No	穴No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
101	182	78～79	71	不整長円	66	55	縄後前	
102	183	78	70～71	円形	38	33	縄	
103	184	78	71	円形	44	40	縄	
104	185	77～78	70～71	不整長円	70	33	縄後中	円盤状土製品1,石器5
105	186	78～79	70～71	隅丸方形	59	50	縄中中	硬玉原石1
106	187	79～80	70	隅丸長方	92	45	縄中中～後前	円盤状土製品1
107	188	79～80	70～71	不整長円	120	45	縄後期～晩期	
108	189	79～80	71～72	円形	40	40	縄後後	
109	190	79～80	71～72	隅丸方形	61	49	縄後中	
110	191	79	71～73	隅丸長方	160	55	縄中中～後前	
111	192	79	71	不整円形	52	48	縄後前	
112	193	79	73	隅丸方形	76	65	縄後期？	
113	194	77	73～74	不整長円	80	45	縄	
114	195	76	73	不整長円	70	40		
115	196	75～76	70～71	不整円形	30	26	縄	円盤状土製品1
116	197	75～76	71～72	円形	39	29	縄	
117	198	75～76	72	不整円形	28	23	縄中中	
118	199	73～74	72～73	不整円形	68	48	縄後後	硬玉原石1
119	203	74	43～44	不整円形	50	45	縄後前	硬玉原石1 他3
120	205	73～74	43	不整円形	78	68	縄中中～後後	土製品5,骨，硬玉原石1 他3
121	206	73～74	42～43	不整円形	82	53		磨製石斧未製品1
122	211	73～74	44～45	不整円形	58	55		
123	212	73～74	44～45	円形	36	33		
124	213	73～74	44～45	円形	40	35	縄後前	
125	214	74	44～45	不整円形	31	18		
126	215	74	44～45	円形	51	44	縄後前	
127	216	74～75	44～45	不整円形	63	48	縄後前	
128	217	74～75	44	円形	39	26	縄	
129	218	74～75	44	円形	27	22	縄中中～後前	
130	220	75	43～44	円形	72	60	縄中後～後前	硬玉原石3
131	221	75	43	隅丸方形	43	30	縄	
132	222	74～75	42～43	不整長円	120	86	縄中中～後後	硬玉原石2 他1,骨，炭化物
133	223	74～75	42	不整円形	120	100	縄中末～後後	円盤状土製品2,玉1 他2,種子
134	225	75	41～42	不整円形	63	35	縄中末～後？	円盤状土製品1
135	226	74～75	42～43	隅丸方形	105	47	縄中中～中後	
136	227	73～74	43～44	不整円形	68	66	縄後期	蛇紋岩原石1,炭化物
137	228	75～76	44～45	不整長円	70	40	縄後前	
138	229	75～76	44～45	不整円形	88	46	縄後前	
139	230	75～76	44～45	不整円形	67	40	縄後前	
140	231	75～76	42～43	円形	96	83	縄中末～後中	炭化物
141	232	75～76	42～43	不整円形	57	48	縄後前	円盤状土製品1,台石1,炭化物
142	233	76	42	不整長円	90	60	縄中中～後？	円盤状土製品1,炭化物
143	234	75～76	42～43	不整円形	65	68	縄後前	炭化物，打製石斧1
144	235	75～76	41～43	不整円形	120	90	縄中末	円盤状土製品1,土器完形
145	236	76～77	43	円形	40	40	縄	
146	237	77	42～43	不整円形	47	42	縄	
147	238	77	42～43	円形	44	40	縄後前	
148	239	77	43	長円形	45	28	縄後前	
149	240	77～78	42～43	不整円形	97	53	縄後前	
150	241	77～78	42	不整円形	50	50	縄	

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
151	242	77～78	42～43	隅丸方形	97	84	縄	木製品（柱）
152	243	78	42	不整円形	53	48	縄後前～後後	サメ歯，炭化物
153	244	77～78	41～42	長円形	55	31	縄後中	
154	245	78～79	40～41	円形	70	60		
155	246	78～79	41～42	長円形	86	56	縄中中～後後	
156	247	78～79	42	隅丸方形	58	48	縄中中～中末	炭化物
157	248	79	42～43	長円形	95	71	縄後前	炭化物
158	249	79	42～43	円形	48	35	縄後前～後後	炭化物，円盤状土製品2
159	250	79～80	73	長円形	68	50	縄	
160	251	79～80	43～44	長円形	130	60	縄中中～後前	円盤状土製品2,骨，敲石1
161	252	80	43～44	不整円形	55	46		
162	253	80	42～43	円形	49	41	縄中中～後？	
163	254	79～80	44	不整円形	63	45		
164	255	79～80	44～45	円形	53	47	縄中中～後中	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
165	256	78～80	43～44	不整円形	145	98	縄	炭化物
166	257	78～79	44	不整円形	107	76	縄後前	円盤状土製品1,炭化物
167	258	79～80	44～45	不整円形	51	41	縄後期	円盤状土製品3,敲石1
168	258a	79	45	不整円形	63	57		敲石1
169	259	78	43～44	円形	43	33		
170	260	78	43～44	円形	44	42	縄後期	
171	261	78	43	長円形	101	61		
172	262	77～78	44	隅丸方形	51	44		
173	263	78	44～45	円形	33	26		
174	264	77～78	44～45	不整円形	100	90	縄中末～後前	
175	265	77～78	45	長円形	54	30	縄中中	
176	266	77	45	長円形	110	40	縄中中～後後	炭化物，硬玉原石5 他1
177	267	76	44～45	隅丸方形	51	49		木製品（柱）
178	268	76～77	45	不整円形	69	62	縄後前	敲石1
179	269	75～76	44～45	円形	43	34	縄後期	
180	270	77	43～44	円形	41	29	縄中末～後前	円盤状土製品1
181	272	70	54～55	不整円形	62	42	縄中中～後前	
182	273	70～71	54	不整円形	66	54	縄中中	石器2
183	274	70～71	53～54	不整円形	64	54	縄中中	磁器1,打製石斧1
184	275	70	53～54	隅丸方形	66	58	縄中末～後前	敲石1
185	276	70	53	不整円形	73	43	縄後前	
186	277	70～71	53	不整円形	56	42	縄中中～後中	
187	278	70～71	53	長円形	94	67	縄中中～後前	円盤状土製品2,蛇紋岩原石1
188	279	70～71	51～52	円形	25	20	縄後後	
189	280	71～72	51	隅丸方形	85	78	縄中中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1,他2
190	281	71～72	53～54	不整円形	250	150	縄中中～後後	円盤状土製品2,石器3,土師器，甕
191	282	70～71	52～53	不整円形	82	69	縄中中～後後	
192	283	70～72	54～55	不整円形	210	150	縄後前～後中	石器2
193	284	72	54～55	不整円形	130	65		
194	285	72	51～52	不整長円	98	59	縄中中～後後	
195	286	71～72	50～51	円形	46	35	縄	円盤状土製品1
196	287	71～72	52～53	不整円形	75	65	縄	
197	288	72～73	51	円形	34	23	縄後前	
198	289	74～75	50～51	不整長円	135	75	縄後前～後中	石器1
199	290	74～75	51～52	円形	50	42	縄中末？	蛇紋岩原石1
200	291	74～75	51～52	円形	15	10		磨製石斧未製品1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
201	292	74～75	51～52	円形	60	52	縄	
202	293	74	51～52	不整円形	96	69	縄後中	
203	294	73～75	55～57	不整円形	240	160	縄中後～後後	
204	295	74～75	56	不整円形	91	71	縄中中～後前	円盤状土製品1
205	296	74～75	59～60	隅丸方形	97	90	縄中中～後後	円盤状土製品6,磨製石斧未製品1
206	297	75	58～59	隅丸方形	95	73	縄後前～後後	円盤状土製品1
207	298	73～74	59～60	不整長円	117	60	縄中後～後中	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
208	299	74～75	59～60	不整円形	66	55	縄後前～後後	円盤状土製品1
209	300	74	57	円形	63	50	縄後期	不明土製品1
210	301	72～73	58	不整長円	60	30		石錘1
211	302	73～74	56～58	不整長円	242	48		磨製石斧未製品1
212	303	71～72	59～60	不整長円	145	88	縄	
213	321	75	45～46	長円形	79	56	縄中中～後後	骨，硬玉原石1 他1
214	322	75	45～46	隅丸長方	65	45		
215	323	75～76	45～46	円形	38	35	縄後前	円盤状土製品1,骨
216	324	75～76	45～46	円形	38	32		
217	325	75～76	46～47	不整円形	63	59		
218	326	75～76	46～47	隅丸方形	106	77	縄後前	有孔球形土製品1,磨斧未製品1
219	327	75～76	47	隅丸方形	58	53	縄後前	石錘1
220	328	75～76	47～48	隅丸方形	85	60	縄後後	
221	329	75～76	47～48	円形	36	34	縄後期	
222	330	75～76	48	不整円形	55	46	縄後中	台石1
223	331	76	48～49	長円形	68	40	縄後前～後後	有孔球形土製品1
224	332	75～76	48	円形	35	31	縄後前	円盤状土製品1
225	333	75～76	48～49	隅丸長方	155	75	縄中中～後後	磨製石斧未製品1
226	334	75～76	48～49	円形	44	38	縄後期	敲石1
227	335	75～76	49～50	隅丸長方	103	50	縄後後	磨製石斧未製品1
228	336	76～77	45～46	不整長円	154	97	縄中中～後後	石器5
229	337	76	48	不整長円	160	80	縄後中～後後	石器4
230	338	76～77	47～48	隅丸長方	62	45	縄後前	円盤状土製品2,削器1
231	339	76～77	49～50	隅丸方形	103	61	縄中中～後中	
232	340	77	49	円形	33	32	縄中期～後後	円盤状土製品1,骨
233	341	78～79	50～51	不整長円	98	57	縄後前～後後	
234	342	77～78	50～51	不整長円	115	50	縄後前～後中	円盤状土製品1,硬玉原石3
235	343	78～80	45～46	不整長円	220	60	縄後前～後後	円盤状土製品2,硬玉原石3 他1
236	344	75	50～51	不整円形	59	53	縄中後～後中	硬玉原石1
237	345	77	53～54	長円形	59	42	縄中中～後後	
238	346	80	52～53	円形	61	58	縄後後	
239	347	80～81	45～46	円形	59	54	縄後前	石器2
240	348	78	46	不整長円	120	80	縄後前	土製品2,磨製石斧未製品1
241	349	77～78	44	隅丸長方	30	25	縄後前	
242	350	80～81	46	不整長円	140	90		
243	351	79～80	46	不整円形	101	72	縄後後	骨，石器7
244	352	80～81	46～47	不整円形	135	85	縄中中～後後	石器3
245	353	80～81	45	不整長円	107	37		骨
246	354	80～81	45～46	不整円形	63	62		
247	355	80～81	47～48	不整円形	72	54	縄後期～晩期	
248	356	81	47～48	不整長円	67	42	縄後前～晩期	
249	357	81	47	隅丸方形	66	61	縄後前～後後	硬玉原石2 他1
250	358	79～80	47～48	不整長円	175	98	縄後期？	

No	穴No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
251	359	80～81	48	隅丸長方	76	52	縄後前～後後	硬玉原石2 他3
252	360	79～80	49～50	不整長円	68	32		
253	361	76～77	46	不整長円	98	51		平砥石1
254	362	79～80	44～45	不整長円	94	68	縄中後～後前	骨，石器2
255	363	80	43～44	円形	34	32	縄	
256	364	80～81	44～45	不整円形	109	98	縄後前～後後	円盤状土製品1,硬玉原石1 他5
257	365	76～77	47～49	不整長円	290	210	縄後後	硬玉原石1 他2
258	366	78～79	45	不整長円	75	47	縄	
259	367	77～78	49	不整円形	59	42	縄	
260	368	79～80	46～47	不整円形	111	95	縄中期～後期	硬玉原石1
261	369	75～76	41	不整円形	63	52	縄中中～後後	
262	370	76～77	41	不整長円	70	45	縄	木製品（柱）
263	371	75	51	不整長円	96	65	縄後前～後後	石器3
264	372	76	51	隅丸長方	152	76	縄中後～晩期	円盤状土製品1
265	373	76	50～51	円形	43	41	縄後中	
266	374	76	51～52	隅丸方形	75	42	縄	平砥石1
267	375	76～77	52～53	隅丸長方	105	69	縄中後～後中	
268	376	76～77	52～53	長円形	83	44	縄後中	硬玉原石1 他1
269	377	76～77	52～53	隅丸長方	113	52	縄中期～後期	円盤状土製品2
270	379	74～75	52～53	不整円形	35	31	縄後中	
271	380	75	54～55	隅丸長方	82	61	縄	
272	381	75～76	54～55	隅丸方形	75	65	縄	
273	382	76～77	54～55	隅丸方形	53	51	縄後期？	硬玉原石1
274	383	76～77	54～55	隅丸方形	84	69	縄中後～後前	
275	384	77～78	53～54	不整円形	73	68		石器3
276	385	77～78	52～53	長円形	76	40	縄中中～後後	
277	386	78～79	53	隅丸長方	82	56		
278	387	78～79	52～53	長円形	61	25		
279	388	78～79	52～53	隅丸方形	45	37	縄中中～後中	
280	389	78～79	51～52	不整円形	100	95	縄後前～晩期	
281	390	76～77	50～51	円形	40	32	縄後期	
282	391	76～77	50～51	不整長円	53	34		
283	392	77～78	51	隅丸方形	54	36	縄後前～後後	磨製石斧
284	393	76	53～54	不整円形	54	40	縄	
285	394	76～77	53～54	不整円形	142	114	縄中後～中末	
286	395	77	53	不整円形	51	36		石鏃1
287	396	77～78	50～53	不整円形	350	110	縄後前～後後	円盤状土製品1,硬玉原石5 他8
288	397	76～77	52	不整長円	185	50	縄中末	
289	398	75	51～52	不整長円	74	51	縄後中	
290	399	78	53	不整円形	36	33	縄後前～後中	
291	400	79	53～54	隅丸方形	86	80	縄中中～後後	磨製石斧未製品2
292	401	79～80	54～55	隅丸方形	133	100	縄後前～後後	石器3,土製品3
293	402	80～81	54	不整円形	75	44	縄中中～後中	円盤状土製品1
294	403	79～80	54～55	不整円形	50	50	縄	
295	404	80～81	53～54	円形	45	37		敲石1
296	405	79	54	長円形	94	60		
297	406	80	53～54	長円形	106	51	縄後前～後後	
298	407	79～80	52～53	隅丸方形	62	47	縄後前～晩期	円盤状土製品1,石器5
299	408	80～81	53～54	長円形	49	21	縄中後～晩期	
300	409	79～80	52～53	不整円形	180	60	縄後後	石器2

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
301	410	79～80	52	長円形	55	32		石器2
302	411	80～81	51～52	隅丸方形	87	78	縄後前～晩期	円盤状土製品1
303	412	80～81	51	長円形	105	62	縄後期	硬玉原石2 他3
304	413	80～81	50	長円形	90	60	縄後中～晩期	円盤土製品1,骨，硬玉原石2 他1
305	414	79～80	50	不整円形	70	60		
306	415	78～79	51～52	長円形	84	40	縄後前	
307	416	75～76	56～57	不整長円	160	120	縄中中～後後	敲石2
308	417	75～76	59～60	不整円形	154	140	縄中後～後後	石器1
309	418	75～76	58～59	不整長円	155	120	縄後前～後中	円盤状土製品1
310	419	76～77	56～57	長円形	138	72	縄中中～後前	
311	420	77	55～56	円形	50	32	縄後前？	磨製石斧未製品1
312	421	77～78	55～56	円形	110	91	縄後前？	打製石斧1
313	422	78～79	56～57	円形	51	50		
314	423	78～79	58	長円形	100	75	縄後後～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石1 他2
315	424	78	59～60	長円形	62	47	縄後後～晩期	円盤状土製品2
316	425	78	59～60	円形	65	58	縄後中～晩期	円盤状土製品1
317	426	77～78	59	不整円形	144	90	縄後前～後中	円盤状土製品1,土師器，石器4
318	427	77～78	59～60	不整円形	58	46	縄後中	磨製石斧未製品1
319	428	76～77	59	円形	141	93	縄後後	
320	429	77～78	58～59	不整円形	82	71	縄前期～後後	円盤状土製品1
321	430	78	59～60	長円形	50	30	縄後後	
322	431	79～80	58	不整円形	76	74	縄中？～晩期	削器1
323	432	80	56	円形	108	106	縄後前～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石1 他1
324	433	78	56～57	円形	70	60		磨製石斧未製品1
325	434	76～77	56～57	円形	50	40	縄	
326	435	77	58～59	不整長円	118	72	縄中末～後後	石器4
327	436	79～80	58～59	円形	90	72	縄晩期	石錘1
328	437	79～80	57～58	不整長円	154	135	縄中中～晩期	
329	438	79	55	長円形	125	75	縄後前～後後	玉1,擦石1
330	439	79～80	55～56	不整長円	125	72	縄	
331	440	79～80	56	長円形	100	70	縄中中～後後	土製品2,土錘1
332	441	78～79	57～58	隅丸方形	80	68	縄後期	
333	442	79～80	59～60	不整円形	84	43		
334	443	77～78	59～60	円形	30	23	縄後期	
335	444	77～78	55～56	不整長円	100	70	縄中末	硬玉原石1
336	445	76～77	55～56	隅丸長方	190	95	縄中末～後中	円盤状土製品3,磨製石斧未製品1
337	446	75～76	54～55	円形	52	40		
338	447	79～80	51～52	円形	92	92	縄	
339	500	75	72	円形	50	44	縄中後	硬玉原石1 他3
340	501	75～76	71～72	長円形	62	30	縄後期	
341	502	75～76	71～72	円形	36	33	縄後前	
342	503	75～76	72～73	円形	32	27	縄中後～後中	
343	504	75～76	70～71	円形	72	61	縄中後	
344	505	75～76	70	長円形	98	61	縄後中	
345	506	76	70	長円形	86	46	縄中後～後後	石器2
346	507	76～77	70～71	円形	48	40	縄	
347	508	77～78	70	円形	50	40	縄後期	
348	509	74～75	70～71	不整長円	75	55	縄後期？	
349	510	73～74	70	円形	34	34	縄中後～後中	磨製石斧1(大)
350	511	73～74	70～71	円形	47	30	縄後後	硬玉原石2

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
351	512	73～74	69～70	長円形	64	42	縄後前～中	円盤状土製品1,硬玉原石2 他1
352	513	73～74	71～72	不整円形	57	50	縄後中	
353	514	73～74	69～70	不整長円	105	57	縄中前～後後	
354	515	73～74	70～71	不整長円	145	46	縄後前～後中	石器4
355	516	73～74	71～72	不整長円	156	84	縄中後～後後	円盤状土製品3
356	517	73～74	70～71	円形	49	39	縄後中～後後	
357	518	74～75	71～72	長円形	81	60	縄後前～後後	円盤状土製品1,石器2
358	519	74～75	71～72	不整長円	88	46	縄後期	石器2
359	520	74～75	70～71	円形	50	40	縄後中	
360	521	79～80	71～72	円形	41	40	縄後期	円盤状土製品1
361	522	74～75	71～72	不整長円	87	43	縄中中～後後	円盤状土製品1
362	523	74	71	不整円形	111	89	縄後期	
363	524	72～73	69～70	円形	72	62	縄中中～後後	石器2
364	526	74～75	69～70	不整長円	98	71	縄後中	磨製石斧未製品1
365	527	74～75	69～70	円形	88	69	縄後前～後後	
366	528	75～76	69～70	不整長円	147	40		
367	529	75	69～70	不整長円	101	43	縄	
368	530	74～75	69	長円形	139	50	縄中後	
369	531	74～75	68～69	円形	44	32	縄	
370	532	74～75	68～69	円形	36	31	縄	蛇紋岩原石1
371	533	74～75	69～70	円形	60	52	縄後中	
372	534	74～75	68～69	不整円形	110	100	縄中中～後後	円盤状土製品1,石器3
373	535	73～74	68	不整長円	120	80	縄中中～後後	石器3
374	536	74	67	不整長円	150	90	縄中中～後後	円盤状土製品1,石器6
375	537	73～74	68	円形	30	25	縄	石器1
376	538	73	67～68	不整円形	84	84	縄中後～後後	石器2
377	539	72～73	67～68	隅丸方形	109	80	縄中期？	石器1
378	540	72～73	67～68	円形	80	73	縄後中～後後	石器1
379	541	73	66～67	不整円形	91	89	縄後後	
380	542	73～74	67～68	不整長円	59	33	縄	
381	543	73	66～67	不整円形	87	72	縄中中～後後	硬玉原石1
382	544	73	65	不整長円	115	77	縄中中～後後	円盤状土製品1,, 硬玉原石1 他1
383	545	73～74	65～66	円形	62	62	縄中中～後？	
384	546	73～75	66～67	不整長円	233	117	縄中中～後後	円盤状土製品4,カン骨, 石器36
385	547	74～75	65～66	不整円形	100	67	縄後期	石器2
386	548	74～75	65	不整円形	123	107	縄中後～後後	有孔球状土製品1,硬玉原1 他1
387	549	75～76	66～67	長円形	116	88	縄中後	
388	550	75～76	66～67	円形	49	43	縄中後～後中	
389	551	75～76	66～67	円形	38	36	縄中中	
390	552	75～76	67～68	不整円形	143	122	縄中中～後後	円盤状土製品1,石器2
391	553	75～76	67～68	不整円形	78	56	縄中後	
392	554	74～75	66～67	不整円形	77	61	縄後中？	硬玉原石1
393	555	74～75	67	円形	61	41	縄後期	
394	556	74～75	67～68	長円形	132	87	縄中中～後後	円盤状土製品1,石器2
395	557	74～75	66～67	不整長円	115	62	縄後期	
396	558	75～76	68～69	円形	40	35	縄後期？	
397	559	75～76	69	不整長円	208	82	縄後中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1 他2
398	560	76	68～69	不整長円	109	60	縄中中～後後	石器2
399	561	76	67～68	円形	50	30	縄中期～後期	
400	562	76～77	68～69	長円形	100	60	縄中中～後後	台石1

No	穴No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
401	563	76～77	69～70	円形	51	49	縄後後	骨
402	564	76	69～70	不整円形	67	47	縄	骨
403	566	75～76	65	不整円形	120	90	縄中後～後前	円盤状土製品1
404	567	75～76	65～66	不整円形	86	59	縄中後～後期	硬玉原石1 他2
405	568	76～77	64～65	長円形	106	59	縄後前	円盤状土製品1
406	569	72～73	65～66	不整円形	110	80	縄後中	硬玉原石2
407	570	72～73	66～67	不整円形	92	73	縄中中～後中	骨
408	571	77	64～65	不整円形	97	67	縄中後	
409	572	76～77	66～67	不整円形	85	67	縄中中	円盤状土製品2,硬玉原石2
410	573	75～77	65～67	不整円形	100	60	縄中中～後中	硬玉原石1 他4
411	573a	76～77	66～67	円形	48	47	縄中中	円盤状土製品1
412	573b	76	65	隅丸長方	69	49	縄中中	円盤状土製品2
413	573c	75～76	65～66	長円形	106	63	縄中後～後前	骨（関節）
414	574	76～77	65～66	不整円形	61	40	縄後中	敲石1
415	575	77	65～66	不整円形	70	60	縄	
416	576	76～77	65～66	円形	20	20	縄	
417	577	76～77	66～67	長円形	61	42	縄中中～後前	
418	578	77	66～67	円形	45	27	縄後期？	
419	579	77～78	66～67	不整円形	75	65	縄中中～後中	円盤状土製品1
420	580	77～78	66～67	長円形	40	30	縄後中	磨製石斧未製品1
421	581	77	67～68	円形	54	38	縄中後？	
422	582	77	67	円形	30	25	縄	
423	583	77～78	67～68	円形	40	30	縄後前	
424	584	77～78	67～68	不整長円	114	69	縄後後～晩期	土偶片1
425	585	77～78	68	長円形	65	54	縄後期	円盤状土製品1
426	586	77～78	68～69	不整長円	98	48	縄後前～後中	硬玉原石2
427	587	77～78	68～69	不整円形	65	49	縄中後？	
428	588	77～78	69～70	不整長円	90	70	縄	
429	589	77～78	69～70	不整長円	48	31		
430	590	78	69	長円形	90	50	縄後前～後中	石器2
431	590a	78	69	円形	45	40	縄後後	
432	590b	77～78	69	円形	59	52		
433	591	78	69～70	不整円形	85	74	縄中中～後後	磨製石斧未製品1
434	592	78～79	70	不整長円	91	51	縄	
435	594	78～79	70～71	不整円形	60	50	縄	
436	595	77～78	69	不整円形	41	31	縄後後	硬玉原石2
437	596	78	68	不整円形	66	41	縄後中	
438	597	78	67～68	不整円形	50	39	縄後中	
439	598	78～79	67～68	不整長円	50	30	縄後期	
440	599	76～77	67～68	不整長円	61	45	縄中中～後前	平砥石1
441	600	78～79	67～68	円形	40	20	縄後前～後後	
442	601	78～79	67～68	隅丸方形	65	49	縄後中～後後	
443	602	77～78	66～67	隅丸方形	44	36	縄	
444	603	77～78	67	円形	30	25	縄中後～後前	
445	604	78	67	長円形	64	43	縄後後～晩期	円盤状土製品1
446	605	77～78	66～67	不整長円	145	70		石器2,円盤状土製品1
447	606	78	66～67	隅丸長方	153	66	縄後期	
448	607	78	67～68	長円形	77	47	縄中後～後前	
449	608	77～78	65～66	円形	50	48		磨製石斧未製品1
450	609	77	65～66	円形	33	30	縄後期	

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
451	610	77	65～66	長円形	120	78	縄中中～後前	円盤状土製品1,骨，硬玉原1 他1
452	611	77～78	65～66	円形	30	30	縄後前	
453	612	77～78	65	不整円形	94	75	縄	硬玉原石2
454	613	78～79	68～69	不整円形	168	116	縄中後～後後	円盤状土製品3,硬玉原石5 他3
455	614	78～79	69	長円形	64	38	縄中中～後後	石器3
456	615	78～79	69～70	長円形	99	71	縄中中～中後	
457	616	79～80	69～70	不整円形	63	61	縄後前	
458	617	79～80	69～70	隅丸方形	44	38	縄後前	
459	618	79～80	70～71	隅丸長方	75	60	縄後後	磨製石斧未製品1
460	619	79～80	70～71	円形	40	34	縄中前～晩期	台石1
461	620	79～80	70～71	円形	44	35	縄	
462	621	79	70	円形	45	40	縄	
463	622	78～79	69	隅丸長方	120	70	縄中末	
464	623	79	68～69	円形	73	66	縄後前～後中	
465	624	78～79	68	長円形	69	50	縄	
466	625	79～80	67～68	不整長円	150	59	縄中前～後後	石器4
467	626	78～79	66～67	不整長円	110	80	縄後後～晩期	石器2
468	627	78～79	65～66	不整長円	65	43	縄中中～後後	円盤状土製品1,骨，石器4
469	628	78～79	65～66	隅丸長方	120	90	縄中中～後後	円盤状土製品1,骨，硬玉原3 他6
470	629	78～79	65	円形	75	67	縄後中～晩期	土偶片1,骨，石器2
471	630	79～80	66～67	隅丸長方	148	68	縄中中～晩期	骨，硬玉原石2 他10
472	631	79～80	66～67	隅丸方形	65	50	縄中中～晩期	円盤状土製品3,蛇紋岩原石1
473	632	79～80	66～67	隅丸長方	80	65	縄中中～晩期	硬玉原石1
474	633	80	66～67	隅丸長方	88	51	縄中中～後後	凹石1
475	634	78～79	69～70	不整円形	107	70	縄	
476	635	78～79	69～70	不整円形	48	45	縄中後～後前	
477	636	79～80	69	隅丸方形	78	65	縄中後	
478	637	78～79	65～66	隅丸長方	161	60	縄後前～後中	円盤状土製品1,石器4
479	638	78	65～66	隅丸長方	92	43	縄中中～後中	磨製石斧未製品2
480	639	78	64～65	不整円形	85	85	縄中中～後中	硬玉原石2 他1,骨
481	640	78～79	64～65	不整円形	84	75	縄後前～後中	硬玉原石4 他3
482	641	80～81	70～71	隅丸長方	106	76	縄中前～後中	骨，硬玉原石1 他6
483	642	79～80	68～69	不整長円	48	36	縄後後	
484	643	79～80	67～68	不整円形	113	100	縄後期～晩期	敲石1
485	644	76～77	64～65	不整長円	74	47	縄中中	磨製石斧1
486	645	79～80	71～72	不整長円	56	40	縄後後	
487	646	79～80	71	円形	45	39	縄	台石1
488	648	80～81	71～72	隅丸長方	184	98	縄中中～晩期	
489	649	80～81	70～71	円形	52	51	縄中中	
490	650a	79～80	72～74	隅丸長方	240	150	縄中中～後後	円盤状土製品2,磨製石斧1
491	650b	79～80	72	不整円形	163	85	縄中中～晩期	円盤状土製品1
492	650c	80～81	73	不整長円	220	120	縄中後～後期	円盤状土製品1
493	650d	80	73～74	隅丸方形	160	115	縄中前～晩期	
494	651	79～80	72～73	隅丸長方	100	50	縄後期	
495	652	78～79	72～73	円形	40	37	縄	
496	653	79～80	74	不整長円	65	43	縄中中～後期	磨製石斧未製品1
497	654	80～81	74～75	隅丸方形	70	57	縄	
498	655	79～80	75	長円形	39	29	縄	
499	656	79～80	75	隅丸方形	95	72	縄中中	
500	657	79～80	73～74	不整円形	84	74	縄中中～後期	石器2

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
501	658	79～80	74～75	隅丸長方	107	66	縄中中～中後	
502	659	80	75	長円形	56	56	縄中中	石器2
503	660	81～82	74～75	不整円形	140	100	縄中中～晩期	
504	661	81～82	74～75	隅丸方形	51	46	縄後前	
505	662	80～81	74	円形	60	60	縄後前	硬玉原石2
506	663	80～81	72	円形	41	37	縄後期	
507	665	80～81	72～73	不整長円	72	45	縄後中	
508	666	81～82	74～75	隅丸方形	42	41	縄中中～中後	礫器1
509	667	79～80	71～72	円形	42	40	縄	
510	668	80～81	71～72	隅丸方形	110	70	縄中中～後中	
511	668a	80～81	71～72	隅丸長方	90	45		
512	668b	80～81	71～72	隅丸方形	60	40		
513	669	82	72～73	不整長円	114	90	縄中後～晩期	円盤状土製品1,石器4
514	670	82～83	72～73	隅丸方形	107	97	縄中中～後後	石器3
515	671	80～81	72	隅丸長方	73	39	縄中中～後後	磨製石斧1
516	672	81～82	71	不整長円	106	65	縄中後～後前	円盤状土製品1,石器2
517	673	80～81	72～73	円形	24	21	縄	
518	674	80～81	72～73	円形	27	27		
519	675	80～82	73～74	不整長円	280	112	縄中中～後後	石器7
520	675a	81～82	73～74	不整長円	80	40	縄	円盤状土製品1
521	676	81～83	70～71	不整長円	230	69	縄中中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1 他7
522	677	82	70～71	不整円形	75	54	縄後期？	石器3
523	678	82	72	隅丸長方	84	51	縄中中～後前	
524	679	82	71～72	不整円形	64	49	縄中中～晩期	
525	680	81～82	71～72	不整長円	61	39	縄中中～後後	平砥石1
526	681	82～83	70～71	不整長円	350	150	縄中中～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石2 他8
527	682	81～82	74～75	隅丸長方	85	53	縄中中～後前	骨
528	683	82～83	72～73	不整長円	66	41	縄	硬玉原石1
529	684	82～83	72～73	不整長円	45	35	縄中中～後前	
530	685	82～83	71～72	隅丸方形	135	96	縄中中～後前	円盤状土製品3,磨製石斧未製品1
531	686	82	71～72	円形	42	42		
532	687	82～83	71～72	不整長円	71	49	縄後前	
533	688	83	71～72	不整長円	161	100	縄中中～後前	
534	689	82	72～73	円形	56	40	縄	
535	690	83	72	不整円形	70	52	縄中中～後後	円盤状土製品1,蛇紋岩原石1
536	691	81～82	72～73	隅丸方形	100	90	縄中中～晩期	硬玉原石1 他3
537	691a	81～82	72～73	隅丸方形	105	87	縄後後～晩期	
538	691b	81	72～73	不整円形	50	38	縄中後～後後	
539	691c	81	72～73	不整長円	112	58		円盤状土製品1
540	692	82～83	73～74	不整長円	162	84	縄	円盤状土製品1
541	693	83～84	71～72	隅丸方形	43	41	縄中中～後前	
542	694	82～84	70～72	不整長円	330	150	縄中中～晩期	円盤状土製品7,硬玉原4 他43，骨
543	695	83～84	72～73	長円形	75	42	縄中後	円盤状土製品1
544	696	83～84	71～72	不整長円	196	69	縄中中～晩期	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
545	697	79～80	65～66	隅丸長方	145	87	縄中中～晩期	円盤状土製品1,骨，石器4
546	698	79～80	65～66	隅丸方形	112	99	縄後中	硬玉原石2 他4
547	699	80～81	66～67	不整長円	131	95	縄中中～晩期	円盤状土製品1,石器3
548	700	79～80	66～67	不整長円	55	45	縄中中～後前	
549	701	80～81	67～68	円形	29	27	縄後後	
550	702	80～81	67～68	長円形	80	45	縄中中～中後	磨製石斧未製品1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
551	703	79～80	68	円形	46	36	縄	
552	704	79～80	68～69	円形	110	80	縄後中～後後	円盤状土製品1,硬玉原石3 他6,骨
553	705	79～80	68～69	不整長円	100	90	縄中後～後前	
554	706	79～80	69	不整円形	91	70	縄中中～後後	円盤状土製品1,磨製石斧未製品2
555	707	80	69～70	不整円形	37	23	縄晩期？	
556	708	80～81	70	円形	30	30	縄	
557	709	79～80	69～70	隅丸方形	38	34	縄中後～晩期	平砥石1
558	710	80～81	68～69	円形	83	53	縄後前～晩期	円盤状土製品2,骨，磨斧未製品1
559	711	80～81	70	不整円形	47	37	縄中中～後前	石器3
560	712	79～80	69～70	不整円形	46	39	縄	
561	713	80～81	67～68	長円形	75	50	縄中中～晩期	円盤状土製品1,骨，石器2
562	714	80～81	66	不整長円	123	100	縄中中～後前	磨製石斧未製品1
563	715	80～81	67～68	不整円形	57	51	縄中中～後後	
564	716	80～81	67～68	不整長円	73	51	縄晩期	
565	717	80～81	68	円形	45	41	縄	
566	718	80～81	68	円形	33	30	縄晩期	
567	719	82～83	69～70	隅丸方形	68	58	縄後前	
568	720	82～83	67～68	円形	54	51	縄後期	敲石1
569	721	80～81	69～71	不整長円	240	78	縄中中～後期	甕，円盤状土製品1,土師器，石器
570	722	79～80	66～67	円形	87	48	縄中中？	
571	723	80～81	66～67	不整長円	75	36	縄後前～晩期	硬玉原石1 他2
572	724	80～81	67～68	円形	56	50	縄中中～晩期	硬玉原石1
573	725	81～83	66～68	不整長円	260	220	縄中中～晩期	骨，石器7
574	726	82	67～68	不整長円	104	41	縄後前～晩期	石器2
575	727	80～81	65～66	長円形	51	36	縄中後～後前	平砥石1
576	728	80～81	65～66	円形	45	29	縄後後	石器2
577	729	81	66～67	不整長円	146	52	縄中中～晩期	ツバ付土器小型NO434
578	730	80～81	65～66	円形	30	20	縄中中～後期	
579	731	84	66～67	隅丸長方	180	130	縄中中～晩期	円盤状土製品1,石器12
580	732	84～85	66～67	円形	90	70	縄中前～後後	骨，硬玉原石1 他6，NO406小型
581	733	84～85	67	不整長円	250	190	縄中中～晩期	円盤土製品2,骨，硬玉原石6 他8
582	734	84～85	67～69	不整長円	175	159	縄中前～晩期	円盤土製品1,骨，硬玉原石1 他13
583	735	82～83	67～68	円形	57	45	縄後期	
584	736	82	68	不整円形	31	28	縄中中～中後	
585	737	81～82	67～68	不整長円	150	100	縄前期～晩期	硬玉原石2 他3
586	738	85	70	不整長円	350	250	縄中中～晩期	土製品5,硬玉原石2 他6
587	739	83～84	67～68	不整長円	140	68	縄中期～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石1 他6
588	740	82～83	66～67	円形	48	48	縄中中？	
589	741	82～83	67～68	長円形	67	49	縄中中～後中	
590	742	80～81	67～68	不整長円	102	65	縄中後～後前	敲石1
591	743	79～80	68～69	円形	44	42	縄中期？	
592	744	79～80	68～69	隅丸方形	50	48	縄中後～後前	
593	745	83	67～68	円形	40	33	縄	
594	746	83	66～67	長円形	74	46	縄後前	
595	747	81～82	67～68	隅丸方形	92	90	縄中中～後前	硬玉原石1
596	748	76～77	65～66	不整長円	80	65		
597	749	76～77	66	不整長円	100	30		
598	750	79～80	65～66	不整長円	150	65	縄中中～後後	円盤状土製品1,磨斧未製品1
599	751	81～82	71～72	不整長円	124	91	縄中中～後中	骨，石器2
600	752	81	68～69	不整長円	76	43	縄後前	石器2

NO	穴 NO	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
601	753	80～81	68～69	不整長円	62	37	縄	
602	754	81～82	69～70	不整長円	145	82	縄中中～晩期	石器5
603	755	83～84	65～66	円形	72	55	縄後期？	硬玉原石1 他4
604	756	82～83	66～67	円形	39	35	縄	硬玉原石1
605	757	82～83	65～66	円形	65	57	縄中後？	
606	758	79～80	65～66	不整円形	43	39	縄中中～後中	硬玉原石1 他1
607	759	83～84	66～67	隅丸方形	87	68	縄中中～後後	石器4
608	760	83～84	66～67	不整長円	80	40	縄	
609	761	83～84	66～67	不整円形	58	35		石器2
610	762	82～83	69～70	不整円形	69	66	縄中中～後前	硬玉原石2 他1
611	763	81～82	68～69	不整長円	96	30	縄中中～晩期	打製石斧1
612	764	84	65～66	不整長円	47	33	縄後後	
613	765	82～83	65～66	不整円形	60	50	縄	硬玉原石1
614	766	84～85	66～67	円形	33	32		
615	767	82～83	72～73	長円形	129	69	縄中中～晩期	骨，石器3
616	768	80～81	65～66	不整円形	70	42	縄中中～後前	円盤状土製品1,石器3
617	769	81～82	65～66	不整円形	112	104	縄後前～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石2 他10
618	770	83～84	65～66	不整長円	95	55	縄後期？	硬玉原石1 他2
619	771	84～85	65～66	不整円形	189	113	縄中中～後後	土製品3
620	772	85～87	65～66	不整長円	202	78	縄中中～晩期	骨，石器8,埋甕(内部に自然石)
621	773	86	66～67	長円形	30	20	縄	
622	774	82～83	68～69	隅丸方形	110	65	縄中中～晩期	磨製石斧未製品1
623	775	83～84	67～68	円形	71	71	縄中中～後期	平砥石1
624	776	71～72	65～66	不整長円	208	112	縄中中～後後	
625	777	78～79	74～75	不整長円	100	56	縄中中	
626	778	81～82	68	不整円形	54	50	縄中中	
627	779	82	65～66	不整長円	66	44	縄中中～晩期	円盤状土製品1,磨製石斧未製品2
628	780	81	65～66	長円形	63	41	縄後期？	
629	781	80～81	65～66	円形	43	33	縄中中～晩期	円盤土製品3,骨，硬玉原石2 他1
630	782	81	65～66	不整長円	114	94	縄中期～後後	硬玉原石2 他2
631	783	81～82	69	不整円形	105	94	縄中中～後前	円盤状土製品2,磨製石斧未製品1
632	784	81～82	68～69	不整円形	70	49	縄中中～後中	円盤状土製品1
633	785	81～82	69～70	円形	55	49	縄中中～後後	
634	786	83～84	69～70	不整長円	99	57	縄中中	円盤状土製品1
635	787	82～83	70～71	長円形	110	62	縄中後	
636	788	82～84	68～69	不整円形	185	140	縄中中～晩期	円盤状土製品2,石器5
637	789	83～84	68～69	不整長円	263	115	縄晩期	円盤状土製品3,硬玉原石2 他6
638	790	86～87	66	隅丸方形	82	75	縄中中～後前	石器2
639	791	84～85	66～67	隅丸方形	80	50	縄中中～後後	骨，石器7
640	792	81～82	66	不整円形	43	30	縄後中～晩期	
641	793	81～82	67～68	隅丸方形	110	100	縄	敲石1
642	794	85～86	66～67	不整長円	110	70	縄後後	埋甕有孔ツバ付き126,硬玉原石 1
643	796	81～82	74	隅丸方形	169	110		硬玉原石1 他6
644	801	73	62～63	長円形	130	70	縄後後	
645	802	73～74	62	円形	116	70	縄後中～後後	
646	803	73～74	63～64	不整円形	116	70	縄中中～後後	硬玉原石1
647	804	72～73	63～64	隅丸長方	62	43	縄中中	
648	805	72～73	64～65	不整円形	74	71	縄後前～晩期	円盤状土製品2
649	806	74～75	63～64	円形	91	85	縄中後～後後	円盤状土製品2,石器3
650	807	74～75	63～64	不整円形	107	85	縄後前	円盤状土製品1,台石1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
651	808	75	62	長円形	86	43	縄中中～後前	
652	809	74～75	62	不整長円	119	72	縄中後～晩期	円盤状土製品4,敲石1
653	810	74～75	61～62	不整長円	70	49	縄中後	円盤状土製品2
654	811	76～77	60～61	不整円形	78	66	縄中後～後後	
655	812	75～77	61～62	不整長円	232	109	縄中中～後後	骨
656	812a	76～77	61～62	隅丸長方	100	70		円盤状土製品1
657	813	77	61	不整長円	150	99	縄後前	石器2
658	814	76～77	62～63	隅丸長方	185	78	縄後前～晩期	石器3
659	815	76～77	63～64	不整円形	110	88	縄中中～後中	円盤状土製品1,骨，敲石
660	816	77～78	63～64	不整長円	50	20	縄後期？	円盤状土製品2
661	817	79	64	長円形	60	42	縄中中～後後	石器3
662	818	78～79	64	不整長円	115	55	縄後前？	
663	819	76～78	60～61	不整長円	291	82	縄中後～晩期	円盤状土製品2,磨製石斧未製品2
664	820	75～76	61	不整長円	85	72	縄後前～後後	
665	821	74～75	60	不整円形	100	98		
666	822	76～77	57～58	不整円形	40	40		
667	823	75～76	62～63	不整円形	200	150	縄後前	円盤状土製品2
668	824	75～76	63～64	不整円形	145	85	縄中後～晩期	円盤状土製品4,硬玉原石1,壺他
669	825	70～71	62～63	隅丸方形	73	63	縄中後～後前	
670	826	70～71	63～64	円形	65	59	縄中中～後前	
671	827	71	64～65	不整長円	200	80	縄中中～後後	石器3
672	827a	71～72	65～66	不整円形	99	63		
673	828	71～72	62～63	不整円形	175	128	縄後前～後後	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
674	829	72～73	64～65	円形	51	51	縄	
675	830	73～74	64～65	長円形	121	62	縄	
676	831	74～75	63～64	円形	53	53	縄	
677	832	73～74	64	不整長円	118	40	縄晩期？	円盤状土製品1
678	833	70～71	63～64	隅丸方形	70	66	縄	
679	834	71	63～64	不整長円	170	100	縄後前～晩期	磨製石斧未製品2,N0439
680	835	72～73	64～65	円形	57	48		
681	836	73～74	63～64	不整長円	73	50	縄後期	
682	837	74	63	不整円形	98	76	縄中後～後前	硬玉原石1 他1,磁器
683	838	75～76	61～62	隅丸長方	49	48	縄後期？	
684	839	76	63～64	不整円形	115	100	縄後前～後後	土製品5,骨，石器3
685	840	76	63～64	不整長円	88	44	縄後前～後後	石器4
686	841	75～76	64～65	円形	51	42	縄	円盤状土製品1
687	842	76～77	64～65	不整円形	69	52	縄中中	円盤状土製品2,骨，打製石斧1
688	843	76～77	64	長円形	67	39	縄中中	磨製石斧未製品1
689	844	76～77	64～65	不整円形	46	45	縄中後	
690	845	76～77	62～63	不整円形	78	64	縄後前～後中	石器2
691	846	77～78	62～63	隅丸方形	67	47	縄中前	
692	847	74	62～63	不整長円	150	90	縄中中～後後	円盤状土製品1
693	848	71～72	63～64	不整長円	145	91		円盤状土製品1,石器2
694	849	71～72	65	不整長円	68	45	縄	
695	850	74	64～65	長円形	87	62		平砥石1
696	851	77	64～65	不整長円	115	92	縄中後～後前	平砥石1
697	852	70～71	64～65	不整長円	120	40	縄後前	
698	853	71～72	61～62	長円形	150	100	縄後前	
699	854	72～73	63～64	不整円形	105	87	縄中中～後後	円盤状土製品1
700	855	73～74	63～64	不整長円	53	49	縄中中～後期	

No	穴No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
701	856	75～76	64～65	不整長円	116	65	縄後前	
702	857	77～78	64	長円形	67	44	縄後前	
703	858	77～78	62～63	隅丸方形	82	65	縄後前	骨，敲石1
704	859	76～77	63～64	不整長円	72	37	縄後前～後後	骨，蛇紋岩原石1
705	860	77～78	63～64	隅丸方形	79	63	縄後前	土製品2
706	861	77～78	64～65	不整円形	52	42	縄後前～後中	骨
707	862	77～78	62～63	不整長円	115	61	縄中後～後前	円盤状土製品1,石器5
708	863	78～79	63～64	不整円形	125	96	縄後前～後後	骨，磨斧未製品1,円盤状土製品1
709	864	78～79	62～63	不整円形	54	50	縄中前	骨，硬玉原石1 他1
710	865	78～79	62～63	不整長円	210	70	縄後前～晩期	円盤土製品2,骨，硬玉原石4 他7
711	866	78～79	62	不整円形	60	57	縄	石器2
712	867	78	63～64	円形	39	33	縄後中	
713	868	70～71	64～65	長円形	50	46	縄後前？	
714	869	78～79	64～65	長円形	70	51	縄後前	石器2
715	870	78～79	63～64	不整長円	100	40	縄中後～後？	石器4
716	871	77～78	63～64	隅丸方形	87	84	縄中中	
717	872	78～79	62～63	長円形	36	36	縄後前	
718	873	77～78	64	不整長円	68	40	縄後期	
719	874	77～78	64～65	不整長円	53	47	縄後前？	打製石斧1
710	875	77～78	63	不整長円	73	39		硬玉原石1
721	875a	77～78	63	不整円形	40	30	縄中後	
722	875b	77～78	63～64	不整円形	50	40		
723	876	77～78	64～65	不整長円	81	51		玉1
724	877	79～80	62	不整長円	200	100	縄後前～晩期	骨，硬玉原石1 他11
725	878	70～71	64～65	不整長円	56	39	縄中中～後前	
726	879	78～79	63	隅丸長方	101	48	縄中期～後期	
727	880	77～78	62	不整長円	110	60	縄後前～後中	石器3
728	881	76～77	62～63	円形	30	22	縄後前？	
729	882	77～78	63～64	隅丸長方	25	23	縄	
730	883	79～80	64	不整長円	97	43	縄	
731	884	79～80	63～64	不整円形	40	20	縄後前	
732	885	77～78	63～64	長円形	40	20		
733	886	77～78	63～64	不整長円	40	30	縄	円盤状土製品1
734	888	76～77	62～63	円形	28	25	縄後前	
735	889	78	64	不整円形	60	70	縄	
736	890	79～80	64～65	隅丸方形	54	51	縄後前	
737	892	78	64～65	不整長円	60	30	縄	
738	893	79	62～63	隅丸長方	77	47	縄後前～後後	骨，石器5
739	894	77～78	63～64	隅丸長方	60	45	縄後期	円盤状土製品1,蛇紋岩原石1
740	895	79～80	63～64	隅丸長方	53	30	縄中後～後前	
741	896	78～79	65	円形	68	64	縄後期	
742	897	79～80	63～64	不整長円	108	50	縄後期	凹石1
743	899	77	61～62	円形	40	38		
744	900	77～78	61～62	不整長円	105	62	縄中後？	円盤状土製品1
745	901	79～81	64～65	不整長円	130	90	縄中中～後後	骨，硬玉原石1 他2
746	902	74～75	62～63	円形	30	30	縄中中？	
747	903	78～79	63～64	円形	44	41	縄後期？	玉
748	904	78～79	63～64	円形	52	49	縄後期？	敲石1
749	905	76～77	62	円形	50	35	縄	
750	906	77～78	61～62	円形	40	34	縄中中？	

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
751	907	75～76	63	円形	30	28	縄	硬玉原石1
752	908	79～80	60～61	不整円形	101	97	縄中期～後後	石器4
753	909	79～80	61	隅丸方形	150	130	縄中中～後期	円盤状土製品2
754	910	78～79	60～61	不整円形	120	110	縄中中～後後	
755	911	78～79	60	長円形	88	63		
756	912	76～77	61～62	円形	37	33		
757	913	79～80	62～63	長円形	175	45	縄後後	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
758	914	79～80	63～64	長円形	144	106	縄中中～後後	硬玉原石1 他4
759	915	74～75	63～64	隅丸方形	74	34	縄後期？	
760	916	79～80	63～64	円形	55	38	縄後前～後後	
761	917	76～77	59～60	円形	40	40	縄後前	
762	918	77～78	60	長円形	72	60	縄後後	
763	919	79～80	60～61	不整円形	105	73	縄後前～晩期	剥片1,円盤状土製品1
764	920	79	63～64	不整円形	50	40	縄後前	石器2
765	921	79	60～61	円形	45	38	縄	
766	922	80～81	61～62	隅丸方形	100	80	縄後後～晩期	
767	923	80	63～64	円形	145	108		
768	924	84～85	64～65	不整円形	65	40		石器2
769	925	83～84	65	不整長円	82	48	縄後前～後後	磨製石斧未製品3
770	926	83	65～66	隅丸方形	108	72	縄後期？	石核1,完形土器NO319
771	927	82～83	63～65	不整長円	157	128	縄後前	硬玉原石1
772	928	83～84	63～64	隅丸方形	170	117	縄中中～晩期	土偶片1,骨，硬玉原石5 他30
773	929	84	64～65	隅丸方形	105	55	縄中前～晩期	土NO319,419 骨，硬玉原石2 他5
774	930	82～83	63	不整長円	156	75	縄後期？	土器NO16，骨，石器3,甕
775	931	82	63～64	不整長円	88	63	縄中中～後期	硬玉原石1 他2
776	932	82	60～61	不整長円	145	72	縄後後	骨，石器2
777	933	82～83	62～63	不整長円	154	79	縄晩期	磨製石斧未製品1
778	934	85～86	63～64	不整円形	146	128	縄後前～後？	骨，硬玉原石1 他4
779	935	82～83	59～60	長円形	60	40	縄後中～晩期	硬玉原石1 他20
780	936	81～83	60	不整長円	250	148	縄中中～後後	硬玉原石8 他2
781	937	79～81	57～60	不整長円	400	150	縄後期～晩期	玉1 他6
782	938	82～83	59	隅丸長方	189	150	縄中中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1 他3
783	939	81～82	62	隅丸方形	73	64	縄後中～晩期	磨製石斧未製品1
784	940	83～84	62～63	不整長円	157	115	縄後後	
785	941	84～85	63～64	隅丸方形	110	96	縄後前～後後	骨
786	942	83～84	61～62	長円形	53	34	縄中中	磨製石斧未製品3
787	943	85～86	62～63	不整円形	87	51	縄	石器5
788	944	84～85	63	円形	144	110	縄後中	土器NO481,磨製石斧未製品1
789	945	85～86	64～65	隅丸方形	112	110	縄中末	石核1
790	946	84～85	63～64	隅丸方形	81	46	縄	土器NO124,磨製石斧未製品1
791	947	85	64～65	隅丸長方	150	100	縄後中	蛇紋岩原石1
792	948	82～83	65	長円形	86	55	縄中前～後前	硬玉原石1 他1
793	949	84	62～63	長円形	117	83	縄後期～晩期	敲石2
794	950	81～82	58～59	隅丸方形	110	93		
795	951	82～83	58	長円形	132	50	縄後前～晩期	円盤状土製品1,平砥石1
796	952	80～81	57～58	隅丸方形	105	90	縄後後	
797	953	82～83	63～64	円形	39	32	縄中中～晩期	硬玉原石1 他2
798	954	82	58～59	不整円形	36	28	縄後中	土器NO319,骨，硬玉原石4
799	955	81～82	60～61	不整円形	200	100	縄中中～後期	
800	956	81～82	62～64	隅丸方形	250	150	縄中中～晩期	骨，硬玉原石10他16

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
801	957	82～83	63～64	不整円形	51	44	縄後期？	
802	958	83	63～64	隅丸方形	70	50	縄後期？	
803	959	82～83	59～60	不整円形	94	63	縄後中	硬玉原石1 他5
804	960	81～82	58	円形	50	40	縄晩期	石器6
805	961	81～83	61～62	隅丸方形	191	111	縄後中～晩期	磨製石斧未製品1
806	962	82～83	62～63	円形	50	41	縄中中～後期	
807	963	85～86	63～64	長円形	116	54		磨製石斧未製品1
808	964	84～85	64～65	不整長円	80	35	縄	
809	965	84～85	64～65	長円形	100	50	縄	土器NO319
810	966	83～84	64～65	円形	61	54	縄	硬玉原石2 他1
811	967	81～82	56～58	隅丸方形	235	150	縄後前～晩期	
812	968	82	56～57	隅丸方形	65	50	縄	
813	969	83～84	62～63	円形	42	42		
814	970	81～82	64～65	不整円形	103	103	縄後前～晩期	
815	971	83～84	55	不整長円	80	60	縄後期～晩期	磨製石斧未製品1
816	972	82～83	55	隅丸方形	160	80	縄後前～晩期	硬玉原石4 他4
817	973	83～84	64～65	長円形	75	56	縄中中～後前	
818	974	83～84	64～65	隅丸方形	135	95	縄後前～後？	硬玉原石2 他3,骨
819	975	79～81	56～57	隅丸方形	280	80	縄後前	円盤状土製品3,磨製石斧未製品4
820	976	81	56	不整円形	67	52	縄後中	磨製石斧未製品1
821	977	82～83	58～59	隅丸方形	97	64	縄後後	
822	978	85～86	63～64	隅丸方形	119	80	縄後期？	
823	979	82～83	63	円形	44	42	縄後期？	
824	980	82～83	60～61	隅丸方形	107	93	縄	石器2
825	981	82～83	60～61	隅丸方形	173	105	縄後後	骨
826	982	83～84	56	円形	80	50	縄	
827	983	80～81	54～55	隅丸方形	115	85	縄中後～晩期	石器2
828	984	83～84	55	長円形	70	40	縄晩期？	
829	985	82～83	55	長円形	64	29		
830	986	81	56～57	不整長円	125	63		
831	987	82～83	58～59	長円形	40	30	縄	有孔球状土製品1,硬玉原石3 他2
832	988	84	64	不整長円	69	54		玉1,（ヒスイ，玉）
833	989	82～83	64～65	隅丸方形	87	77	縄後前	円盤状土製品1,硬玉原石1 他5
834	990	84	63	円形	66	55	縄後期	石器11
835	991	82	58	不整円形	55	33	縄後期	
836	992	81	55	隅丸方形	95	75	縄後中	
837	993	81～82	57～58	不整円形	50	30	縄後期～晩期	
838	994	82～83	64～65	隅丸方形	81	80	縄後期～晩期	硬玉原石1 他2
839	995	84	64	不整長円	70	40	縄後前～晩期	磨製石斧未製品2
840	996	81～82	61～62	隅丸方形	84	48	縄後期	
841	997	80～81	55	隅丸方形	127	105	縄中後～後前	
842	998	85～86	62～63	不整長円	80	60		
843	999	83～84	63～64	円形	60	59	縄中中	硬玉原石2 他4
844	1000	82～83	60～61	不整長円	110	63	縄中中～後後	
845	1001	80～81	57～58	不整長円	100	45	縄後前～後？	
846	1002	84	65	不整長円	70	40	縄後期？	
847	1003	85～86	65	隅丸方形	120	65	縄後中	
848	1004	80～81	64～65	隅丸方形	50	32	縄中後？	敲石1
849	1005	80～81	64～65	不整長円	72	43	縄後後～晩期	石器2
850	1006	80～81	63～64	円形	41	34	縄晩期	円盤状土製品1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
851	1007	80～81	62～63	不整長円	200	100	縄後前～晩期	円盤状土製品1,骨，硬玉原3 他13
852	1008	80～81	61～62	不整長円	210	150	縄後前～後後	
853	1010	80～81	60～61	隅丸方形	200	90	縄中中～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石3 他3
854	1011	83～84	63～64	不整長円	90	40		
855	1012	82	62～63	不整長円	51	48	縄後期？	
856	1013	81	61～62	不整円形	160	130	縄後前～後？	硬玉原石1 他3,円盤状土製品1
857	1014	83	65～66	円形	50	40	縄	骨
858	1015	80～81	63～64	円形	53	46		
859	1016	80～81	64～65	不整長円	48	35	縄後前	
860	1017	80～81	63～65	不整長円	90	60	縄後前～晩期	円盤状土製品2,硬玉原石11他16
861	1018	80～81	59～60	隅丸方形	180	100	縄後後	円盤状土製品1,石器4
862	1019	81～82	64	長円形	55	40	縄後後	
863	1020	82～83	61～62	円形	75	63	縄後期？	石器2
864	1021	81～82	64～65	長円形	77	53	縄後後	
865	1022	81～82	60～61	隅丸方形	80	76	縄後後	
866	1023	80～81	63～64	円形	58	43		
867	1024	85	60	長円形	175	105	縄中中～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石1 他1
868	1025	86～87	60	隅丸方形	155	113	縄後後	硬玉原石2 他3
869	1026	85	59～60	不整円形	111	107	縄後期～晩期	円盤状土製品1,石器4
870	1027	84～85	59～60	円形	56	48	縄後期～晩期	円盤状土製品1,石器3
871	1028	83～84	58～60	隅丸方形	240	183	縄後中～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石4 他13
872	1029	84	58～59	隅丸方形	80	60	縄後後～晩期	石器2
873	1030	86～87	57～58	隅丸方形	210	110	縄晩期	硬玉原石1 他2
874	1031	86～88	59～60	不整長円	270	180	縄中中～晩期	石器6,柱
875	1032	86～88	58～59	不整長円	350	150	縄中中～晩期	有孔球状土製品1,硬玉原石3 他7
876	1033	85～86	58～59	不整長円	206	110	縄後中～晩期	NO493,土製品2,骨，硬玉原5 他14
877	1034	85～86	57～58	不整長円	155	124	縄後後～晩期	凹石1
878	1035	87	55	円形	56	49	縄	台石1
879	1036	86～87	55～56	隅丸方形	120	100	縄後期？	
880	1037	86～87	56～57	不整長円	140	90	縄中前～中中	
881	1038	86	57～58	円形	100	86	縄中中～晩期	硬玉原石2 他1
882	1039	83	58～59	円形	50	30	縄中中～晩期	
883	1040	84～85	58～59	不整円形	130	114	縄後後	硬玉原石1 他2
884	1041	83	61～62	円形	46	45		骨，磨製石斧未製品1
885	1042	83	60～61	円形	47	37	縄後後～晩期	
886	1043	84	57	隅丸方形	180	130	縄後後	
887	1044	83～84	56～58	不整長円	320	120		
888	1101	83～84	54～55	長円形	85	39		
889	1102	80～82	53～55	不整長円	320	70	縄中中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1
890	1103	80～81	53～54	不整円形	73	60	縄中後～後前	
891	1104	81～82	54	円形	34	32	縄？	円盤状土製品1
892	1105	80～81	53	不整長円	46	27	縄	
893	1106	81～82	53～54	円形	44	39	縄後期	硬玉原石2 他2
894	1107	81	50～51	隅丸長方	157	61	縄中中～後前	磨製石斧未製品1
895	1108	82	54～55	不整長円	180	77	縄晩期	硬玉原石1 他4
896	1109	82～83	53～54	円形	32	29	縄後期	
897	1110	81～82	53～54	隅丸方形	69	64	縄	
898	1111	80～81	52～53	長円形	62	37	縄後後	
899	1112	80～81	52～53	不整長円	90	54	縄中後～後中	
900	1113	82～83	53～54	不整長円	120	80	縄後期？	磨製石斧未製品2

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
901	1114	82～83	54～55	円形	29	25	縄後中	
902	1115	83～84	54～55	長円形	149	61	縄晩期	
903	1116	83～84	53～54	不整長円	172		縄後後～晩期	石器6
904	1117	84	54～55	隅丸長方	140	87	縄後後～晩期	硬玉原石1 他1
905	1118	81～82	51～52	長円形	82	70	縄後後～晩期	硬玉原石2 他3
906	1119	80～81	53～54	円形	38	34	縄後期？	
907	1120	80	52～53	長円形	30	20	縄晩期	円盤状土製品1
908	1121	81～82	53～54	長円形	98	50	縄後期～晩期	
909	1122	80～81	53～54	不整円形	49	40	縄晩期	
910	1123	81～82	52～53	不整長円	68	52	縄後前～晩期	硬玉原石3 他23
911	1124	83	53～54	隅丸方形	72	52	縄中中～晩期	硬玉原石1 他1
912	1125	84～85	54	隅丸長方	202	95	縄中中～晩期	硬玉原石1
913	1126	82	51～52	長円形	44	26	縄後後～晩期	円盤状土製品1,石器3
914	1127	83～84	50～51	不整円形	111	88	縄晩期	硬玉原石1 他2
915	1128	81	48～49	不整長円	90	60	縄後中～後後	硬玉原石1 他1
916	1129	81～82	54～55	不整円形	121	101	縄後期～晩期	磨製石斧未製品1
917	1130	82～83	54～55	不整円形	54	50	縄晩期	硬玉原石2 他2
918	1131	81	52～53	隅丸長方	131	90	縄後前～晩期	硬玉原石6
919	1132	80～81	52	隅丸長方	123	62	縄中後～晩期	円盤状土製品1,石器4
920	1134	81	51～52	不整長円	110	40	縄後期？	
921	1135	82	53～54	円形	55	40	縄	
922	1136	81～82	53	隅丸方形	126	91	縄中中～後期	石器4
923	1137	82～83	51～52	円形	38	30	縄後後	
924	1138	83	52～53	円形	57	52		
925	1139	83	54	不整円形	63	54	縄晩期？	
926	1140	82～83	52～53	不整長円	60	45	縄後前～後中	硬玉原石2 他2
927	1141	82～83	51～52	不整長円	180	130	縄後前～晩期	硬玉原石10他6
928	1142	82～83	51	不整円形	150	140	縄中中～晩期	有孔球状土製品1,硬玉原石2 他17
929	1143	83～84	51～52	不整長円	100	50	縄晩期	
930	1144	81～82	51～52	不整円形	45	35	縄後前～晩期	
931	1145	84	53～54	不整円形	66	51	縄後期	硬玉原石3 他1
932	1146	83～84	52	不整長円	100	52	縄晩期	
933	1147	82	52	円形	30	25	縄後期？	
934	1148	84～85	52～53	隅丸長方	133	55	縄後中～晩期	硬玉原石5 他4
935	1149	85～86	50～51	隅丸方形	102	80	縄晩期	石器4
936	1150	82～83	53～54	長円形	70	35	縄後後	磨製石斧未製品1
937	1151	83	53	不整円形	69	68	縄後前	
938	1152	83～84	52～53	不整長円	120	50		硬玉原石1
939	1153	82～83	53	不整円形	65	62	縄	骨
940	1154	84～85	50～51	隅丸方形	125	48	縄後後	硬玉原石1 他1
941	1155	85	50	不整長円	160	114	縄後期～晩期	
942	1156	81	45～46	不整長円	162	105	縄後後～晩期	筋砥石1
943	1159	81～82	46～47	不整長円	134	69	縄後後	円盤状土製品1,石器3
944	1160	82	46～47	不整長円	150	88	縄後期？	石器3
945	1161	81～82	47～48	長円形	67	45	縄晩期	敲石1
946	1162	81～82	45	隅丸方形	70	64	縄中中～晩期	骨，硬玉原石1 他1
947	1163	81～82	46	不整円形	51	49	縄後期？	
948	1164	81～82	46	不整円形	190	170	縄中中～晩期	土製品1,骨，硬玉原石4 他5
949	1165	81～82	46～47	長円形	51	31	縄後後～晩期	硬玉原石6 他5
950	1166	81～82	45	長円形	52	26	縄後前～後中	磨製石斧1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
951	1167	82～83	45	円形	99	99	縄中中～晩期	骨，硬玉原石1 他16
952	1168	82～83	45～46	不整長円	45	28	縄後期？	
953	1169	82～83	45～46	長円形	40	20	縄	
954	1170	82～83	46	円形	54	45	縄晩期	
955	1171	82～83	47	不整長円	36	21	縄後後	台石1
956	1172	83～84	46～47	不整長円			縄後後	石器2
957	1173	82～83	48～49	不整円形	82	76	縄後後～晩期	硬玉原石1 他2
958	1174	84～85	46～47	不整長円	92	63	縄後中～後後	円盤状土製品1
959	1175	83～84	47～48	不整円形	77	60	縄後期	
960	1176	83～84	47～48	不整長円	76	52	縄後後	
961	1179	82～83	46～47	不整長円	120	60	縄中後～晩期	
962	1180	82～83	45～46	不整円形	89	66	縄後後	
963	1181	84	47～48	隅丸方形	123	91	縄後後～晩期	
964	1182	84	47～48	隅丸方形	78	74	縄後期～晩期	円盤状土製品1
965	1183	82～83	47～48	円形	72	69	縄後後	有孔球状土製品1,石器3
966	1184	84～85	48～49	隅丸方形	60	47	縄後後～晩期	磨製石斧未製品1
967	1185	83～84	45	不整長円	200	70	縄後期	
968	1186	83～84	45～46	隅丸長方	72	39	縄後期	石器2
969	1187	82～83	45～46	円形	23	21	縄	
970	1188	80～81	45～46	不整長円	68	44	縄後後？	凹石1
971	1189	82～83	45～46	不整長円	64	48	縄後期	
972	1190	82～83	47～48	不整円形	64	50	縄晩期	硬玉原石3
973	1191	81～82	47～49	不整長円	305	137	縄後後～晩期	石器3
974	1192	83～85	46～47	不整長円	204	105	縄後後～晩期	石器11
975	1193	84～85	48	不整円形	65	52	縄後後～晩期	石器3
976	1194	84～85	47～48	不整長円	181	91	縄後後	
977	1195	82～85	45～46	長円形	41	31	縄後期	
978	1196	81～82	47～48	不整円形	66	56	縄後後～晩期	
979	1197	83～84	48	不整長円	124	82	縄後後～晩期	石器3
980	1198	85	46～47	不整円形	136	104	縄後期～晩期	硬玉原石5 他10
981	1199	85～86	46	不整長円	140	50	縄晩期	磨製石斧未製品3
982	1200	81～82	46～47	隅丸方形	45	31	縄後期？	
983	1201	83～84	45～46	不整円形	131	100	縄後期？	
984	1202	83	46	不整円形	43	38	縄後後	
985	1203	85	48	不整長円	120	48		硬玉原石1 他9
986	1204	83～84	47～48	不整長円	66	34	縄後期	
987	1205	80～81	45～46	円形	29	26	縄後期？	磨製石斧1
988	1206	82～83	48	長円形	70	44	縄晩期	
989	1207	83～84	48～49	不整長円	103	56	縄中中～晩期	
990	1208	85	45～46	長円形	115	47	縄後期？	平砥石2
991	1209	83～84	49～50	円形	33	27	縄後後	
992	1210	84	48	円形	45	40	縄後前～後中	
993	1212	84	46～47	長円形	60	31		石器2
994	1213	84～85	48～49	円形	51	33	縄晩期	円盤状土製品1,台石1
995	1214	83～84	48～49	円形	29	28	縄晩期	
996	1215	83～84	51～52	不整長円	120	55	縄後後～晩期	
997	1216	84	52～53	不整長円	92	57	縄後後～晩期	
998	1217	84	53～54	長円形	78	28	縄晩期	
999	1218	81～82	50～51	隅丸方形	64	57	縄中後～晩期	平砥石1
1000	1219	84～85	51～52	円形	38	29	縄後期	

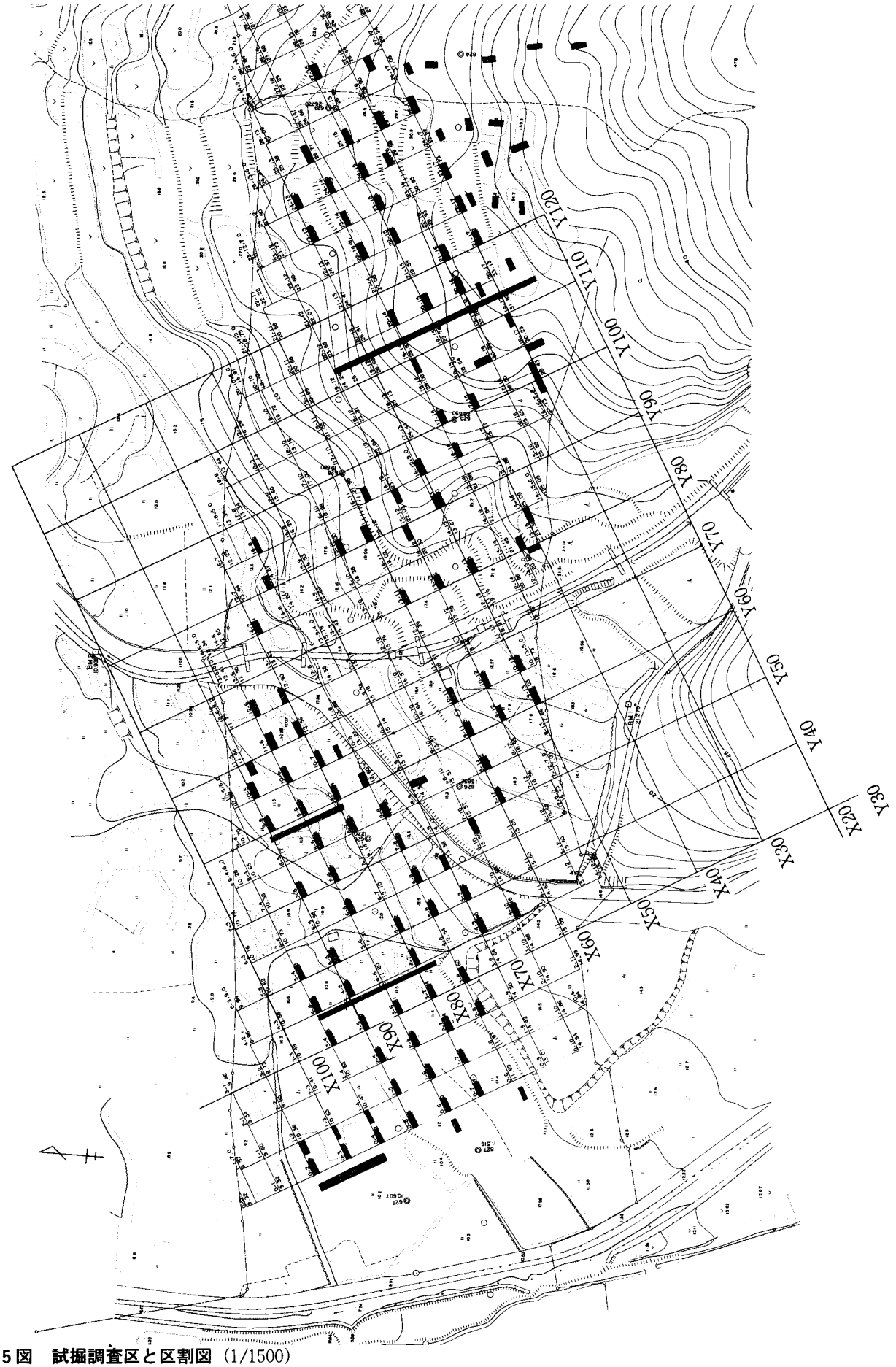
No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
1001	1220	82～83	52～53	不整長円	192	101	縄晩期	円盤状土製品1,敲石1
1002	1221	80～81	50～51	円形	31	28	縄	
1003	1222	82～83	49～50	隅丸方形	88	70	縄晩期	石器3
1004	1223	82～83	49～50	円形	82	78	縄晩期？	
1005	1225	84～85	54～55	不整長円	144	69	縄晩期？	石器4
1006	1226	83	48～49	不整円形	71	58	縄後期～晩期	
1007	1227	83～84	51～52	長円形	83	38	縄晩期	
1008	1228	84～85	52～53	円形	40	36	縄後期～晩期	磨製石斧未製品2
1009	1229	84～85	52～53	円形	50	45	縄中中～晩期	
1010	1230	84～85	49～50	隅丸方形	60	40	縄後後～晩期	硬玉原石1 他3
1011	1231	84～85	56～57	円形	70	50		石器2
1012	1232	84～85	56～57	隅丸方形	90	60		
1013	1233	84	51～52	円形	30	30	縄晩期	
1014	1301	85～86	52～53	不整長円	175	140	縄後後～晩期	硬玉原石1 他5
1015	1302	85～86	49～50	不整長円	62	62	縄後後～晩期	石器5
1016	1303	86～87	50～51	不整円形	175	173	縄晩期	硬玉原石3 他6
1017	1304	87	51	不整円形	161	133	縄後後～晩期	硬玉原石2 他7
1018	1305	87～88	50～51	隅丸方形	113	80	縄晩期	石器5
1019	1306	87～88	50～51	不整円形	81	70	縄後後～晩期	硬玉原石1 他2
1020	1307	87～88	50	不整長円	163	116	縄後期～晩期	土製品2,硬玉原4 他11，甕
1021	1308	88～89	49～50	隅丸方形	79	71	縄晩期	石器3
1022	1309	88～89	50～51	不整円形	127	91	縄後期	円盤状土製品1,石器2
1023	1310	88～89	51～52	不整円形	47	45	縄	
1024	1311	89～90	50～51	不整長円	107	60	縄後後	磨製石斧未製品1
1025	1312	89～90	51～52	隅丸長方	145	87	縄後後～晩期	硬玉原石4 他4,柱
1026	1313	88～90	51～52	円形	93	88	縄後期～晩期	硬玉原石3 他2,柱
1027	1314	89～90	52～53	隅丸長方	142	81	縄晩期	平砥石1
1028	1315	88～89	52～53	不整長円	50	30	縄中中～晩期	凹石1
1029	1316	89～90	53～54	不整円形	155	100	縄後後～晩期	有孔球状土製品1,硬玉原14他8,柱
1030	1317	88～89	53～54	円形	70	60	縄晩期	磨製石斧未製品1
1031	1318	86	52～53	不整円形	60	46	縄晩期	骨，硬玉原石3 他2
1032	1319	86～87	52～53	隅丸長方	70	40	縄後後	骨，硬玉原石3 他2
1033	1320	86～87	53～54	円形	30	30	縄後期～晩期	
1034	1321	86～87	49～50	不整長円	90	50	縄後期～晩期	硬玉原石1 他3
1035	1322	85～86	48～49	不整円形	210	120	縄後前～後後	円盤状土製品1,硬玉原石1 他3
1036	1323	88～89	45～46	隅丸方形	95	95	縄晩期	
1037	1324	86～87	48～50	不整長円	240	70	縄	
1038	1325	86～87	48	隅丸方形	79	62	縄後後	硬玉原石1
1039	1326	86～87	48	不整長円	53	23	縄後期～晩期	
1040	1327	86～87	47～48	不整長円	77	53	縄中後～後前	
1041	1328	89～90	48～49	不整円形	135	123	縄晩期	筋砥石1
1042	1329	88～89	48～49	不整円形	51	46	縄後期	
1043	1330	85～86	47～48	円形	107	95	縄後期～晩期	弥生土器，土師器，甕
1044	1331	87	46～47	不整長円	112	82	縄晩期	石器3
1045	1332	86～87	46～47	隅丸長方	110	70	縄後後～晩期	石器3
1046	1333	85～86	50	隅丸長方	144	101	縄後後	硬玉原石1 他1
1047	1334	85～87	49～50	不整円形	66	60	縄後期	
1048	1335	87～88	47～48	不整円形	91	69	縄	
1049	1336	86～87	46	不整円形	100	80	縄晩期	硬玉原石1 他1
1050	1337	86	45～46	隅丸方形	165	165	縄後期～晩期	硬玉原石1 他3

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器より	出土遺物その他
1051	1338	86～87	47～48	不整長円	97	55	縄	
1052	1339	88	46～47	不整長円	97	67	縄中中～後期	
1053	1340	87	47～48	長円形	58	35	縄後中	
1054	1341	87～88	49～50	不整長円	77	69	縄後後～晩期	敲石1
1055	1342	87～88	49	隅丸長方	115	63	縄後後	凹石1
1056	1343	88～89	48～49	隅丸長方	82	51	縄後期～晩期	
1057	1344	88～89	48～49	不整長円	95	47	縄	円盤状土製品1
1058	1345	89～90	47～48	不整長円	198	118	縄後後～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石2 他9
1059	1346	85～86	47～48	不整長円	140	70	縄中中～後後	
1060	1347	90～91	47～48	不整長円	180	80	縄晩期	硬玉原石2 他3
1061	1348	90～91	47	不整円形	150	100	縄晩期	円盤状土製品1,石器2
1062	1349	85～86	50～51	隅丸長方	118	52	縄後期？	硬玉原石1 他1
1063	1350	85～86	45～46	円形	66	59	縄中中～後期	硬玉原石1 他2
1064	1351	89～90	49～50	不整長円	115	90	縄後期～晩期	石器4
1065	1352	91～92	47～48	不整円形	160	100	縄後期～晩期	硬玉原石2 他8,柱
1066	1353	90～91	49	隅丸長方	70	30	縄中中～後期	
1067	1354	85～86	50～51	不整長円	115	58	縄後後～晩期	石棒1
1068	1355	87～88	51～52	円形	105	105	縄晩期	敲石2
1069	1356	87	53	不整長円	180	110	縄後中～晩期	石器6
1070	1357	86～87	51～52	円形	55	45		石器3
1071	1358	88	51～52	長円形	85	54	縄後後～晩期	平砥石1
1072	1359	87	52～53	隅丸方形	135	135	縄後後～晩期	有孔球状土製品1
1073	1360	89	52～53	隅丸方形	113	103	縄後後～晩期	骨，磨製石斧未製品2
1074	1361	89～90	51～52	隅丸方形	70	64	縄後後～晩期	骨，硬玉原石2 他3
1075	1362	86	51～52	不整長円	146	114	縄後期～晩期	
1076	1363	90～91	50～51	不整長円	140	111	縄後期～晩期	円盤状土製品1,骨
1077	1364	91	49～50	隅丸方形	120	120	縄中中～晩期	硬玉原石3 他3
1078	1365	90～91	48～49	不整円形	116	109	縄後期	石器3
1079	1366	91～92	49～50	隅丸長方	75	52	縄後期	
1080	1367	91～92	46～47	長円形	123	67	縄晩期	
1081	1368	86～87	53	不整円形	92	85	縄後後～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石8 他1
1082	1369	85～86	53～54	不整円形	120	90	縄後後～晩期	硬玉原石4 他4
1083	1370	85～86	54～55	不整長円	171	140	縄中中～晩期	硬玉原10他5
1084	1371	87～88	52～53	隅丸方形	107	92	縄後期～晩期	有孔球状土製品1,硬玉原石3 他5
1085	1372	86～87	54～55	不整長円	160	60	縄後期	土製品2,骨，硬玉原石2 他1
1086	1373	86～87	54～55	隅丸長方	148	83	縄後中～晩期	石器9
1087	1374	89～90	46～47	不整円形	101	93	縄晩期	磨製石斧未製品2
1088	1375	85～86	46～47	円形	43	43	縄後中～晩期	
1089	1376	85～86	50～51	不整長円	110	30	縄後後	
1090	1377	85	49～50	不整円形	145	117	縄晩期	
1091	1378	88～89	45～46	不整円形	104	83	縄晩期	有孔球状土製品1,凹石1
1092	1379	92	47～48	隅丸長方	126	93	縄晩期	円盤状土製品1,磨製石斧未製品1
1093	1380	86～87	54	円形	72	64	縄晩期	柱NO13
1094	1381	89～90	45～46	不整長円	121	90	縄後期～晩期	
1095	1382	89～90	46～47	不整長円	80	40		
1096	1383	90	45	不整長円	260	80	縄後期～晩期	円盤状土製品1,骨，硬玉原6 他9
1097	1384	91	45～46	不整円形	121	71	縄後後～晩期	石器4
1098	1385	90～92	46	不整長円	250	84	縄晩期	蛇紋岩原石2
1099	1386	91	47～48	長円形	81	44	縄晩期	石器4
1100	1387	89～90	46～47	長円形	66	48	縄晩期	

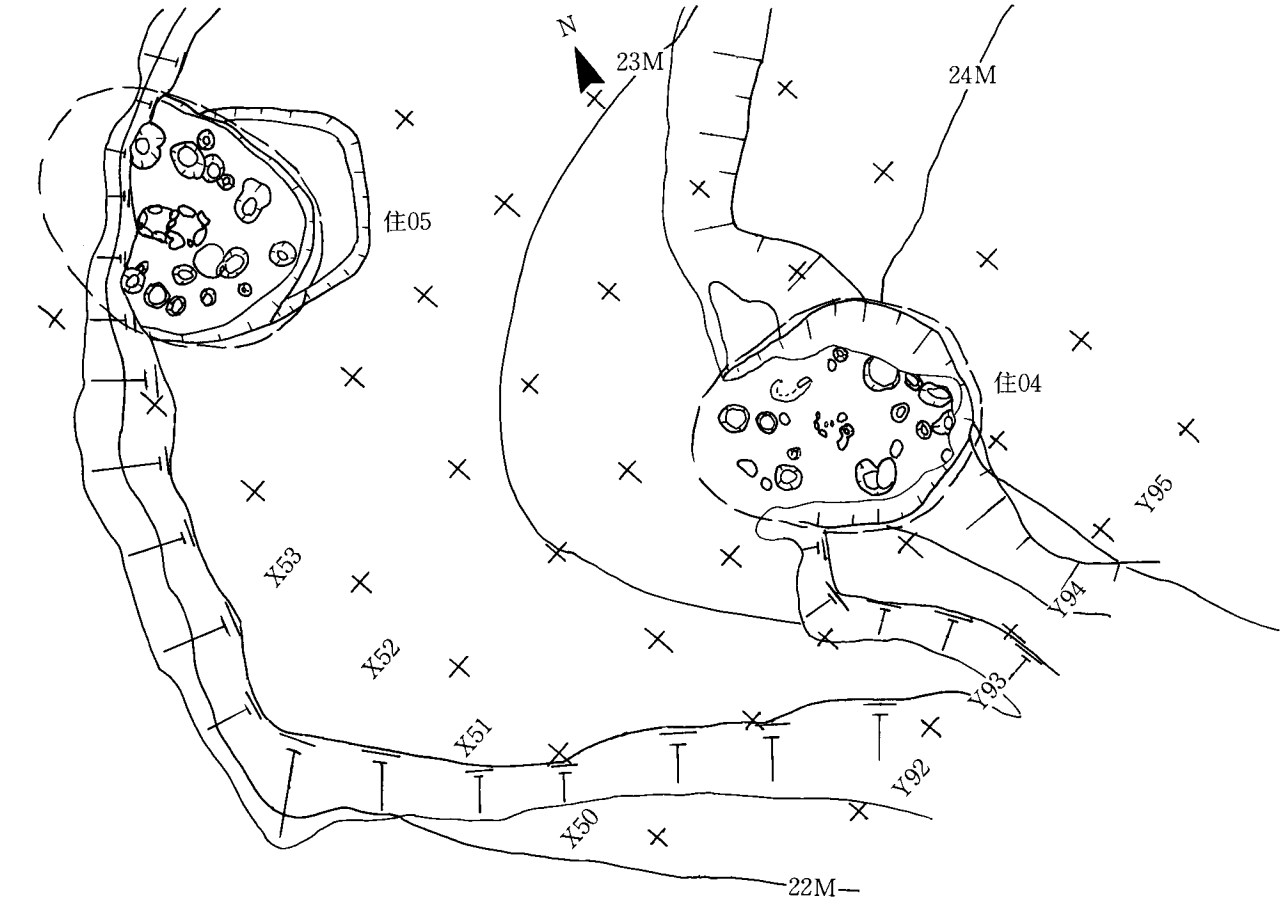
No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
1101	1388	92	45	不整長円	170	140	縄中中～晩期	骨，硬玉原石1 他2
1102	1389	91～92	46～47	隅丸長方	140	55	縄後期～晩期	硬玉原石1 他3
1103	1390	91～92	46～47	円形	56	40	縄晩期	
1104	1391	85～86	53	隅丸方形	80	60	縄後後	平砥石1
1105	1392	90～91	48～49	円形	35	33	縄後後～晩期	凹石1
1106	1393	91～92	46	円形	65	62	縄晩期	硬玉原石1
1107	1394	88～89	46～47	円形	69	57	縄晩期	
1108	1395	89～90	47～48	不整円形	62	61	縄	
1109	1396	88～89	51～52	不整円形	86	79	縄中中～後後	硬玉原石5 他1
1110	1397	84～85	53～54	隅丸方形	44	36	縄後後	円盤状土製品1,硬玉原石2
1111	1398	84～85	54～55	隅丸長方	71	47	縄晩期	石器6
1112	1399	90～91	46～47	不整長円	196	91	縄晩期	
1113	1400	91～92	48～49	円形	91	82	縄後後～晩初	
1114	1401	89～90	50	隅丸方形	52	50	縄晩期	
1115	1402	87～88	50	不整円形	66	48	縄後後	骨，台石1
1116	1403	91～92	45～46	不整長円	81	37	縄後後	
1117	1404	92～93	45～46	不整長円	123	53	縄後中	
1118	1405	92～93	46～47	不整長円	132	91	縄晩期	
1119	1406	91～92	48～49	円形	73	63	縄晩期	石器2
1120	1407	89～90	48	不整長円	70	51	縄後前～晩期	台石1
1121	1408	88～89	49～50	円形	50	35	縄晩期	
1122	1409	89～90	50～51	円形	52	50	縄晩期	
1123	1410	88～89	50～51	不整長円	109	55	縄晩期	
1124	1411	90～91	51～52	不整長円	125	125	縄後期	
1125	1412	90～91	53～54	不整長円	58	32	縄後期	硬玉原石1
1126	1413	92～93	46～47	不整円形	71	71	縄晩期	
1127	1414	89	51～52	不整円形	40	30	縄後期	
1128	1415	87～88	45～46	隅丸方形	176	142	縄後後	
1129	1416	90～91	53～54	不整円形	40	30	縄後前	石器3
1130	1417	87～88	49～50	隅丸方形	70	60		骨，石器2
1131	1418	84～85	51	円形	46	34	縄後後	
1132	1419	85～86	49～50	隅丸方形	76	60	縄	
1133	1420	86～87	47～48	長円形	65	23	縄	
1134	1421	87～88	48	長円形	73	35	縄後期	
1135	1422	90～91	49～50	円形			縄晩期	
1136	1423	85～86	48～49	不整長円	79	38	縄晩前	
1137	1424	90～91	45～46	円形	58	52	縄後期～晩期	
1138	1425	91～92	44～45	円形	59	57	縄晩期	磨製石斧未製品1
1139	1426	88～89	45～46	不整長円	70	41		
1140	1427	90	46～47	円形	42	37	縄後期	
1141	1428	88～89	54～55	円形	70	60	縄後期	
1142	1501	83～84	44～45	不整長円	200	120	縄後前～後後	円盤状土製品1,骨，石器16
1143	1502	77～78	75～76	円形	100	85	縄中中～後後	円盤状土製品2,硬玉原石1 他2
1144	1503	71～72	75	円形	44	30	縄中中	
1145	1505	70～71	72～73	円形	30	20	縄中中	
1146	1506	70	70～71	円形	64	48	縄	
1147	1507	69～70	72～73	円形	30	30	縄中中	
1148	1511	80～81	43～44	円形	58	47	縄	円盤状土製品1
1149	1512	79～80	42～43	円形	41	30	縄中中～後前	
1150	1513	79～80	41～42	隅丸方形	122	75	縄後前～後中	磨製石斧未製品1

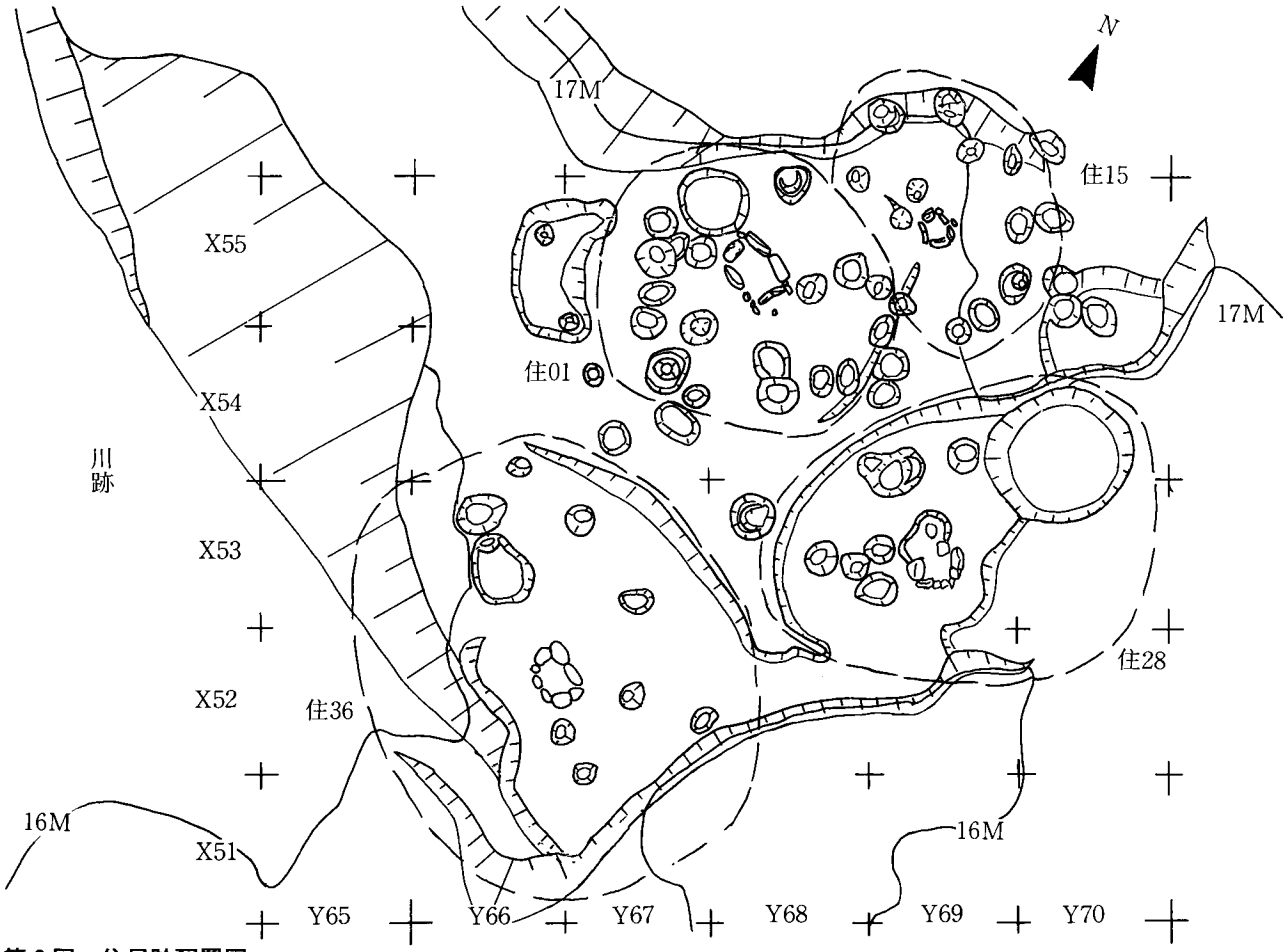
No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
1151	1514	81～82	43～44	隅丸方形	86	59	縄後前	円盤状土製品1,骨，平砥石1
1152	1518	81	44～45	不整長円	148	65	縄後後～晩期	円盤状土製品1,硬玉原石1 他5
1153	1519	81～82	44～45	隅丸方形	130	88	縄前？～後後	敲石1
1154	1520	79～80	44～45	円形	69	55	縄？	
1155	1521	77～78	43～44	円形	42	36		柱NO7
1156	1522	84～85	44～45	円形	81	68	縄後中～後後	硬玉原石2 他1
1157	1523	84～85	45	円形	77	76	縄晩期	
1158	1525	76～77	47～48	隅丸方形	160	79		敲石1
1159	1526	78～79	45～46	円形	38	34	縄後期	石器2
1160	1527	77～78	47～48	円形	45	42	縄後前	平砥石1
1161	1528	88	44～45	不整円形	92	71	縄晩期	
1162	1529	91～92	44～45	円形	57	55	縄晩期	硬玉原石6 他5
1163	1530	87～88	44～45	円形	72	68	縄後中～後後	骨，硬玉原石1 他1
1164	1531	89～90	42～43	円形	43	39	縄後前～後後	
1165	1532	85～86	44～45	長円形	78	56	縄後後～晩期	玉1 他1
1166	1533	87～88	45	長円形	51	30	縄後中？	
1167	1534	88～89	45～46	隅丸方形	59	38	縄後中	
1168	1535	90	41～42	長円形	102	44	縄	硬玉原石1 他1
1169	1536	83～84	44～45	円形	59	40	縄後中～晩期	石器4
1170	1537	90	40～41	円形	42	34	縄後後	硬玉原石1
1171	1538	87～88	41～42	不整円形	72	47	縄晩期？	
1172	1539	86～87	41～42	円形	25	24	縄後後	
1173	1540	86～87	39～40	不整円形	142	102	縄後中	
1174	1541	89～90	44～45	不整円形	84	56		
1175	1543	73～74	50～51	長円形	36	26		石器2
1176	1544	75～76	42	隅丸方形	100	60	縄中中？	
1177	1545	77～78	40～41	円形	60	40	縄	
1178	1546	77～78	40～41	不整円形	68	62		柱2 NO22-A,B石器1
1179	1548	81～82	44～45	円形	30	20	縄	筋砥石1
1180	1549	78～79	39～40	不整長円	82	37	縄中後～後前	柱NO23
1181	1601	78～79	38～39	長円形	117	76	縄中中～中後	硬玉原石2
1182	1602	77～78	39～40	不整円形	136	108	縄後前～後後	石器3
1183	1603	77	37～38	不整長円	145	85	縄中前～後後	土器NO123,489 土製品1,石器3
1184	1604	75～76	37～38	不整円形	83	77		
1185	1605	74～75	37～38	不整円形	95	68		
1186	1606	74～75	39～40	不整円形	85	80	縄後前？	風倒木
1187	1607	78～79	38～39	不整円形	93	73	縄中後～後中	円盤状土製品1,石錘1
1188	1609	76～77	39～40	不整長円	117	65	縄後前～後後	
1189	1610	75～76	39～40	不整長円	76	47	縄後前～後中	
1190	1611	73～74	39～40	円形	70	62	縄後後～晩前	
1191	1612	77～78	38～39	不整円形	115	93	縄中前～中後	石器2
1192	1613	75～76	39～40	隅丸方形	101	88	縄中後	
1193	1614	73～74	37～38	長円形	122	62	縄後後	
1194	1615	71	38	不整長円	111	33	縄中後？	
1195	1616	79～80	39～40	円形	81	72	縄後前～後中	
1196	2000	73	57	長円形	89	53		磨製石斧未製品1
1197	2001	76	46～47	不整円形	86	78		
1198	2002	77～78	45～46	不整長円	80	60	縄後前～後中	硬玉原石1 他1,円盤状土製品1
1199	2003	76～77	50	不整長円	84	52	縄後前～後後	円盤状土製品2,硬玉原石3 他2
1200	2004	76～77	47	隅丸方形	64	51	縄中後～後中	硬玉原石1

No	穴 No	出土区 X	出土区 Y	平面形	規模 長軸	規模 短軸	時代時期 出土土器 より	出土遺物その他
1201	2005	78	45～46	不整円形	65	43	縄中中～後後	
1202	2006	77～78	46～47	不整円形	32	23		
1203	2007	75～76	55～56	円形	48	47	縄後期	磨製石斧1
1204	2008	75～76	75	円形	43	42		
1205	2009	78～79	67～68	円形	32	30		
1206	2010	77～78	65～66	不整長円	103	51		磨製石斧未製品2
1207	2011	81	74～76	不整長円	320	90	縄中中～晩期	円盤状土製品1,硬玉原5 他45，骨
1208	2012	80～81	68～69	不整長円	160	55	縄中後～晩期	
1209	2013	81	67～68	円形	33	26		
1210	2014	75	64～65	不整長円	112	79	縄中中～後後	石器3
1211	2015	82～83	63～64	円形	36	31	縄中中～後中	石器3
1212	2016	82	46	円形	35	27	縄後後	石器2
1213	2017	82～83	47～48	不整長円	120	70	縄晩期	硬玉原石2 他2

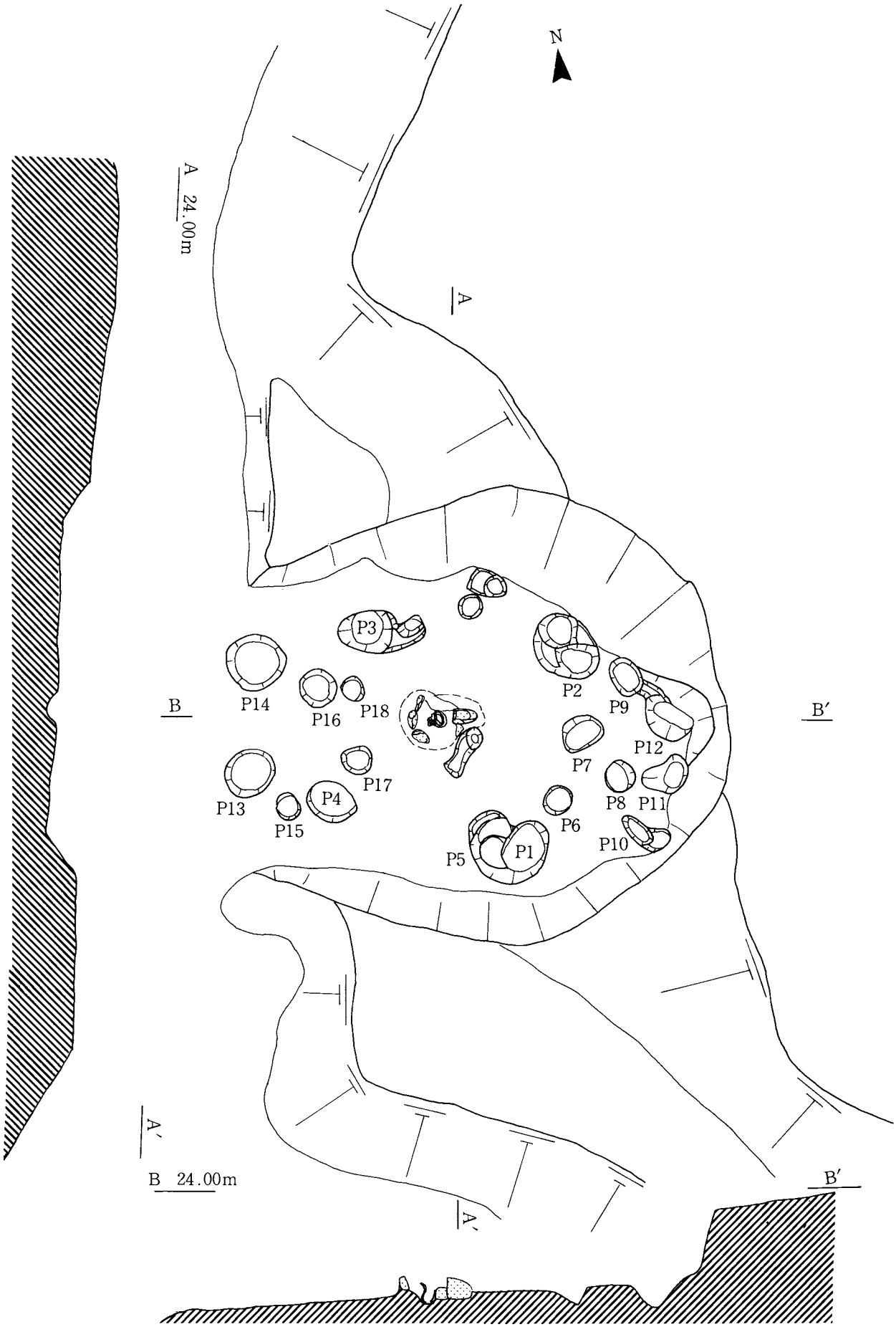


第５図　試掘調査区と区割図（1/1500）

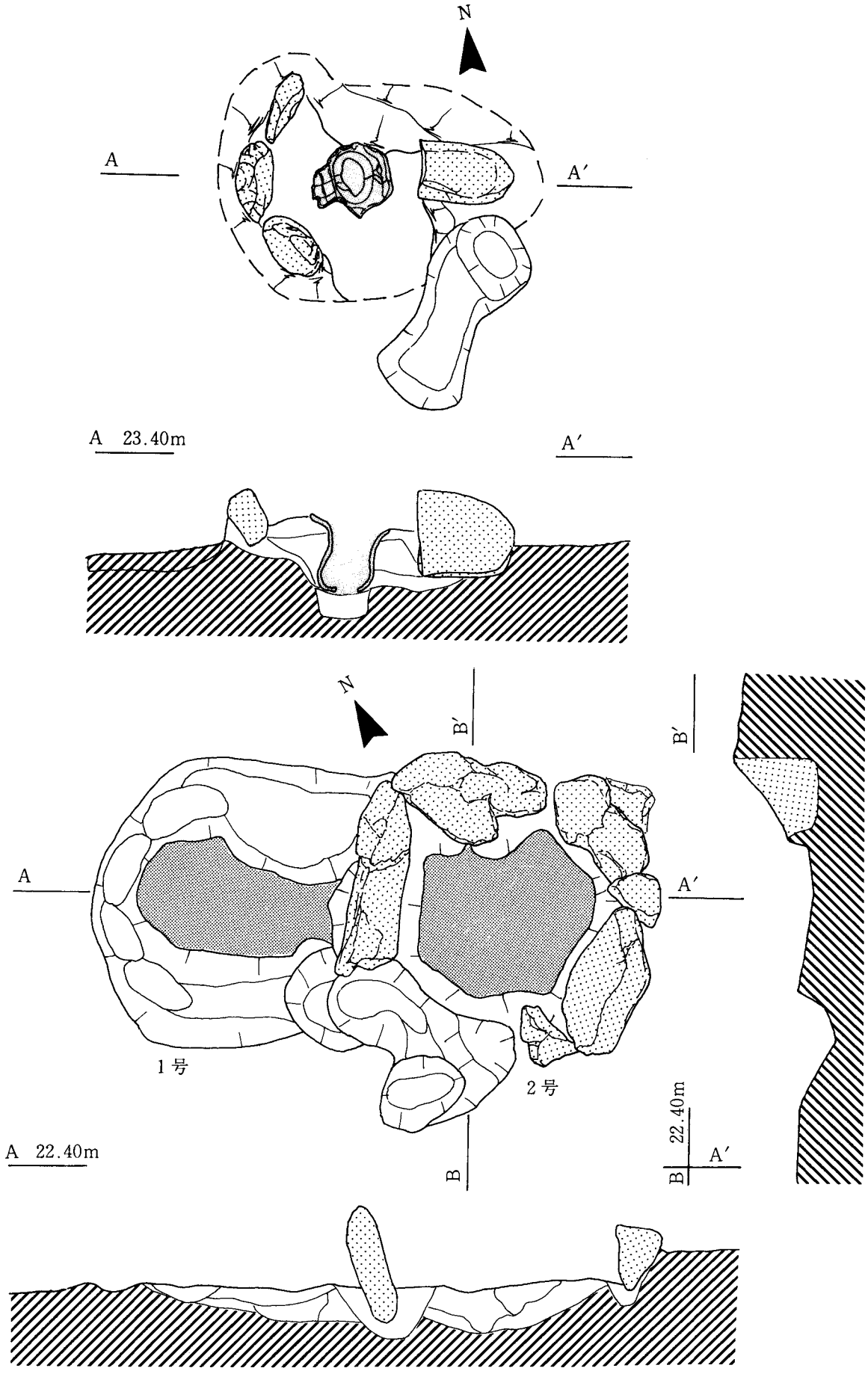

N
23M
24M
住05
住04
X53
X52
X51
X50
Y95
Y94
Y93
Y92
22M


N
17M
住15
17M
X55
住01
X54
川
跡
X53
住28
X52
住36
16M
X51
16M
Y65
Y66
Y67
Y68
Y69
Y70

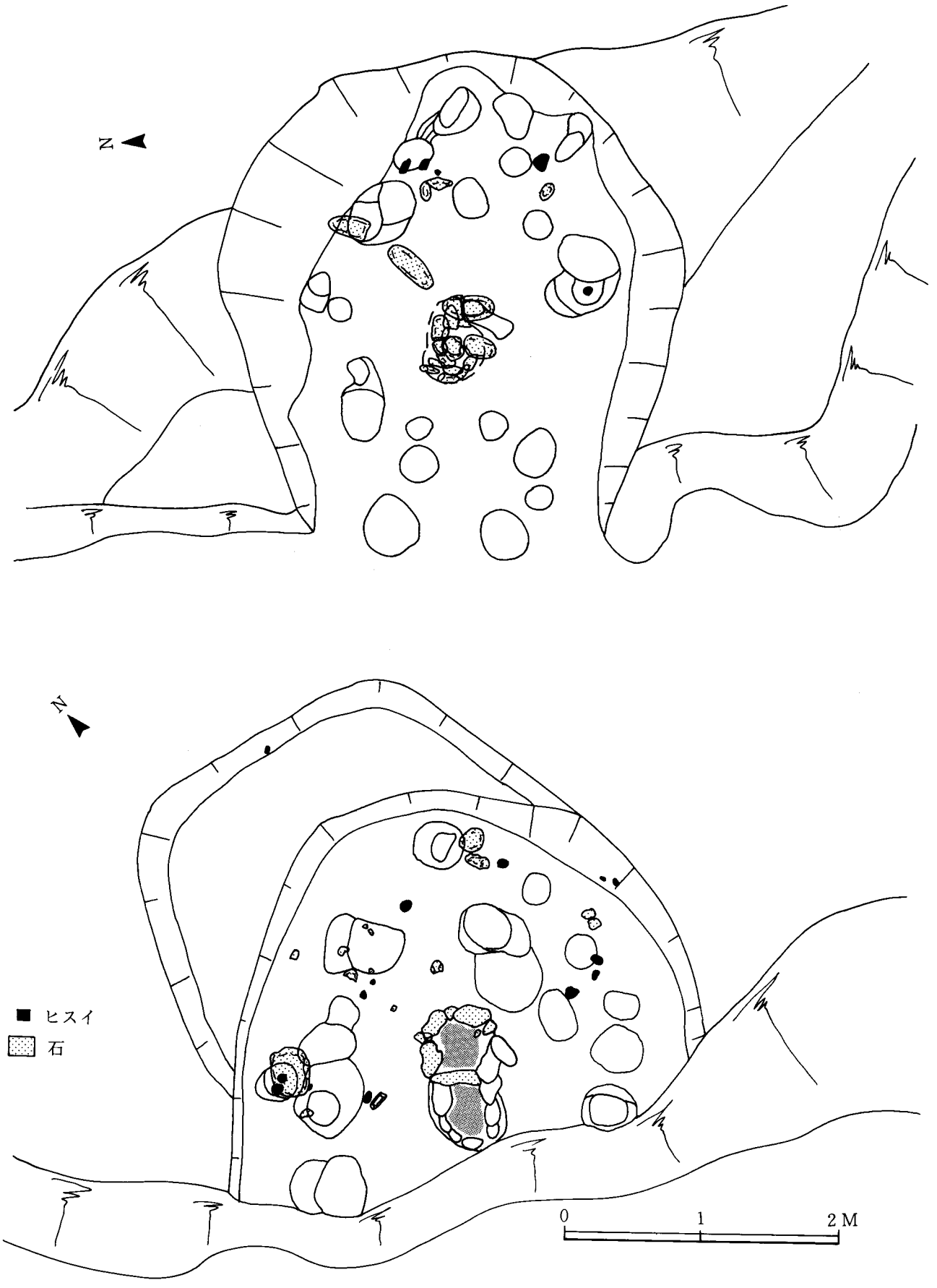
第6図　住居跡配置図


N
A 24.00m
A
B
B′
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
A′
B 24.00m
B′
A′

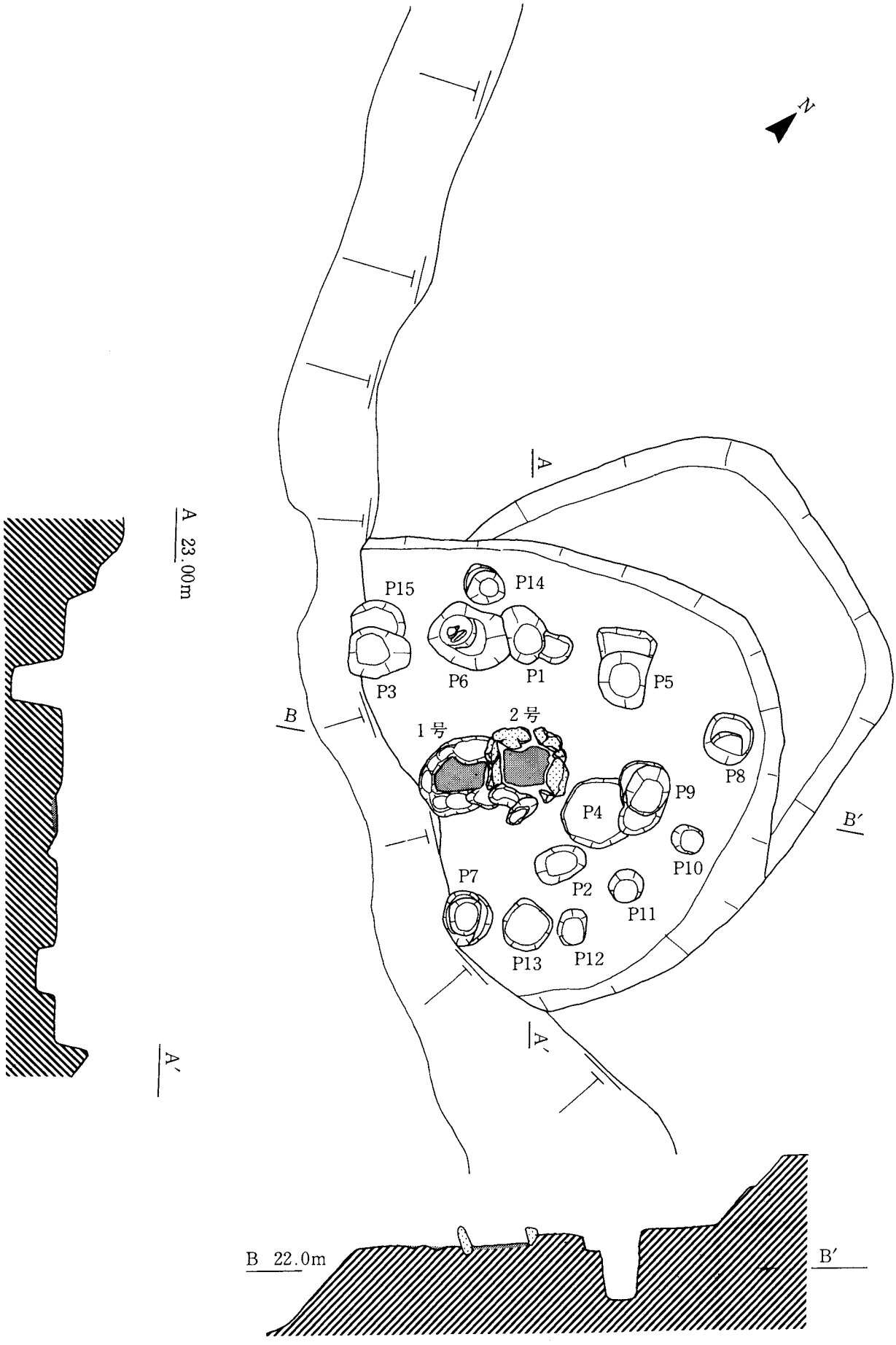
第７図　第４号住居跡



第8図　第4・5号住居跡炉



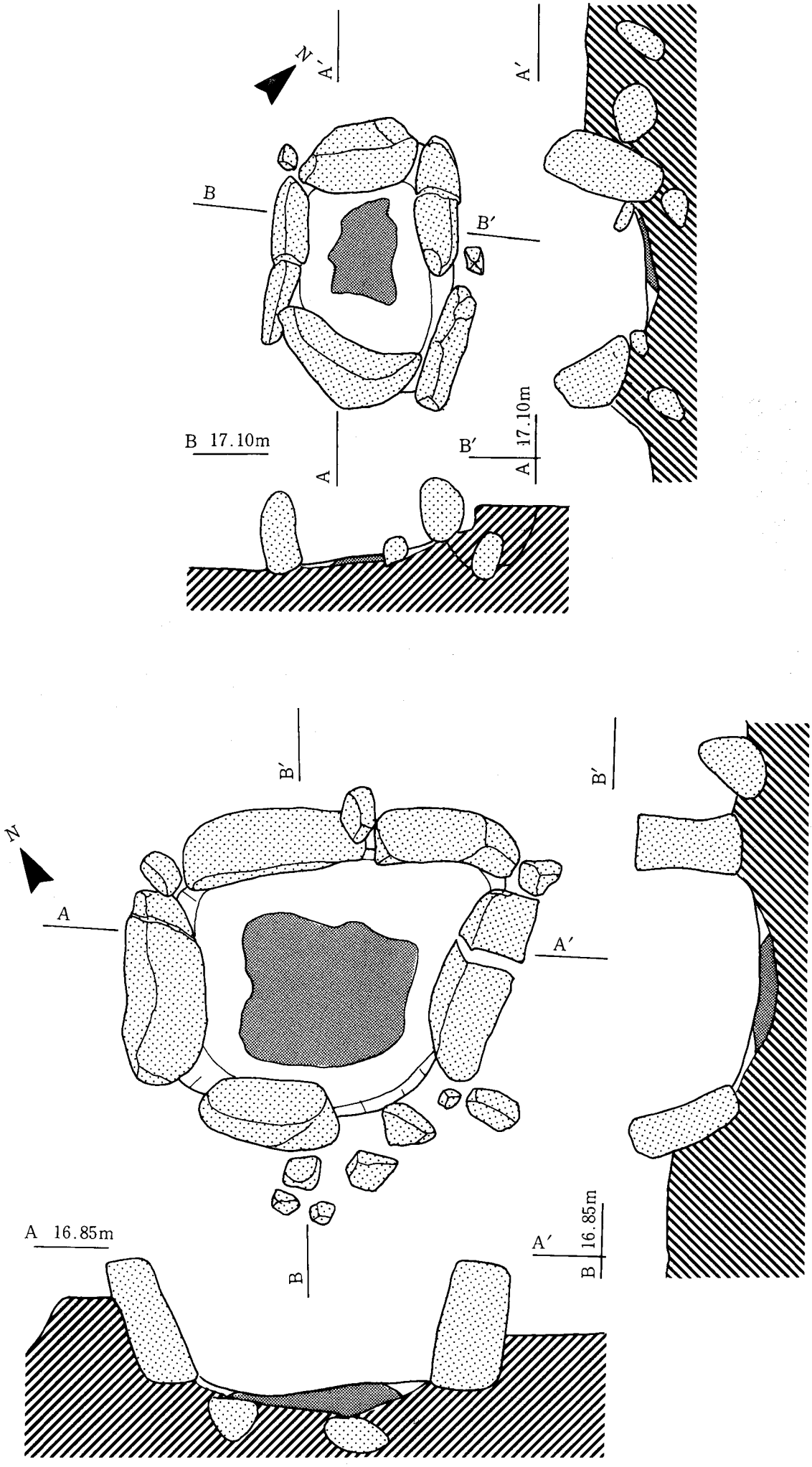
第９図　第４・５号住居跡遺物出土状況図


N
A
A′
B
B′
A 23.00m
B 22.0m
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
1号
2号

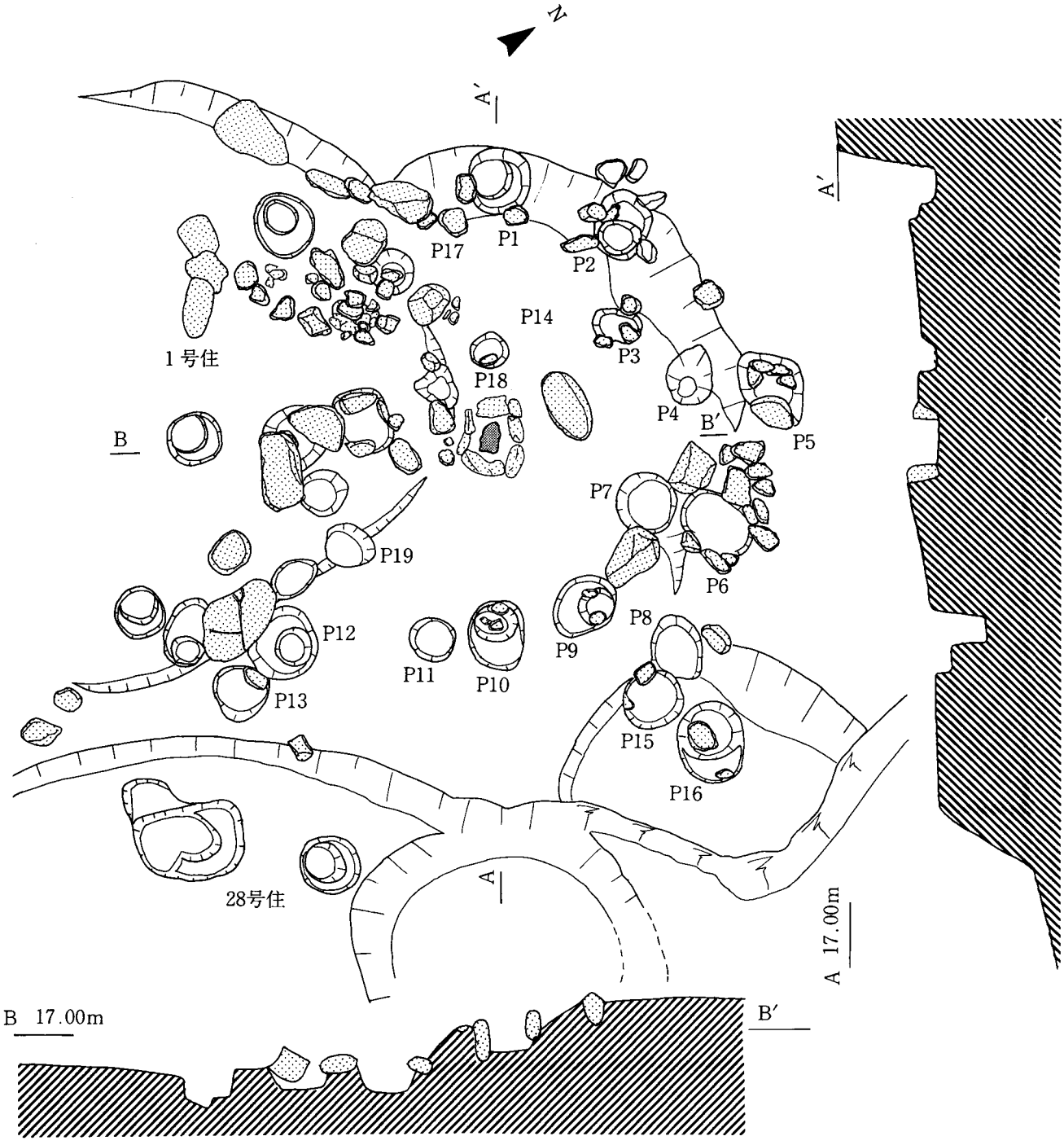
第10図　第5号住居跡

N
A 17.00m
A
A′
B
B′
B 18.00m
穴1
穴2
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P8
P10
P13
P14
P15
P16
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P28
焼土
貼床
15号住
28号住

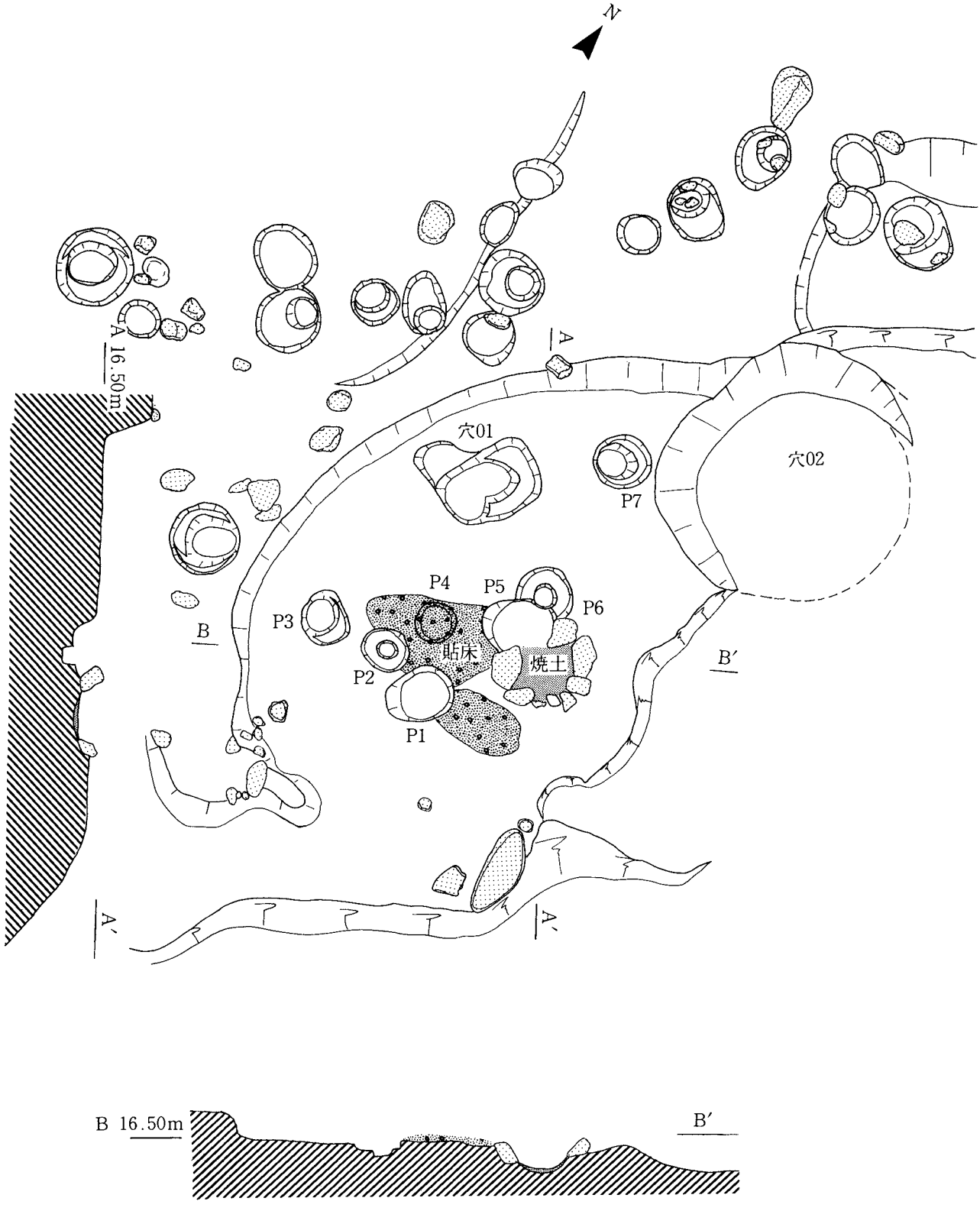
第11図　第1号住居跡



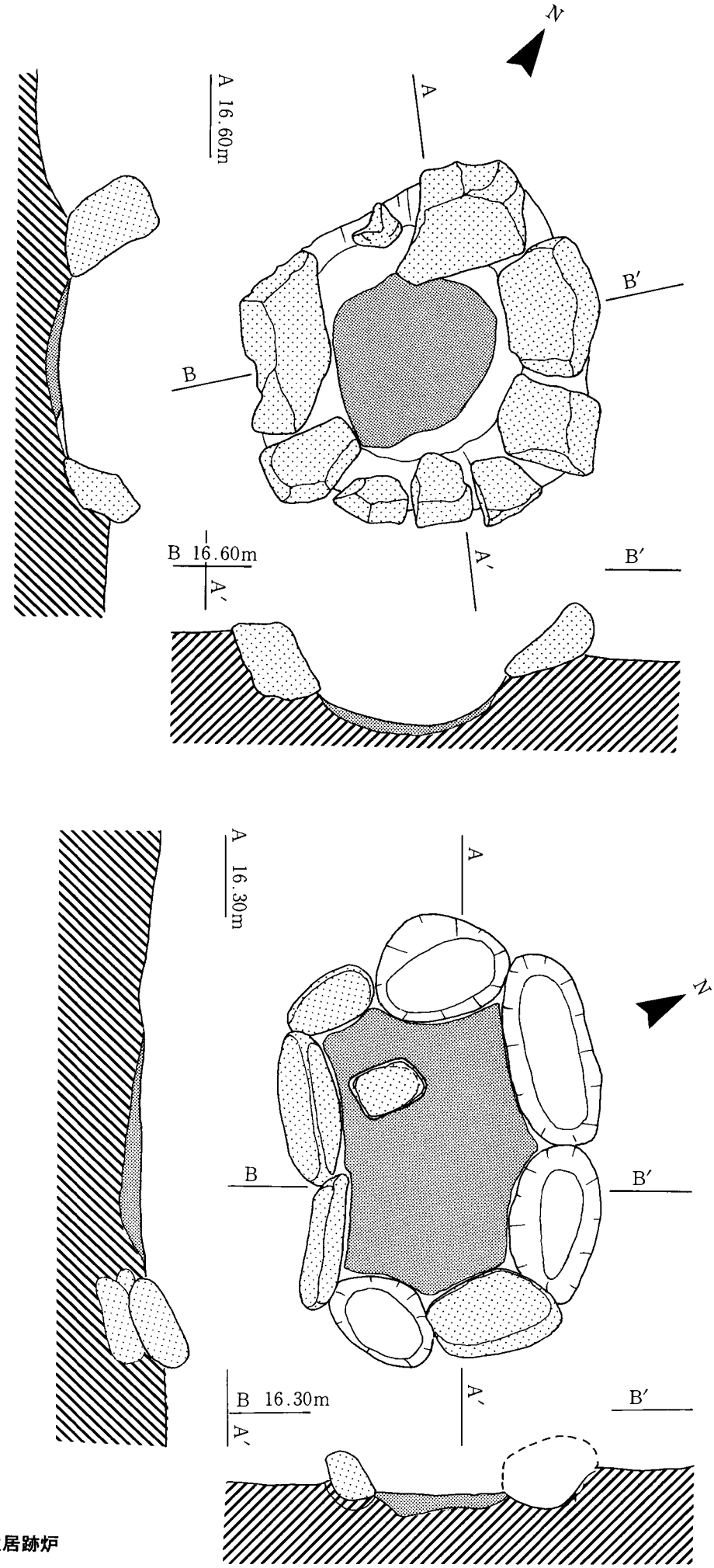
第12図　第５・１号住居跡炉



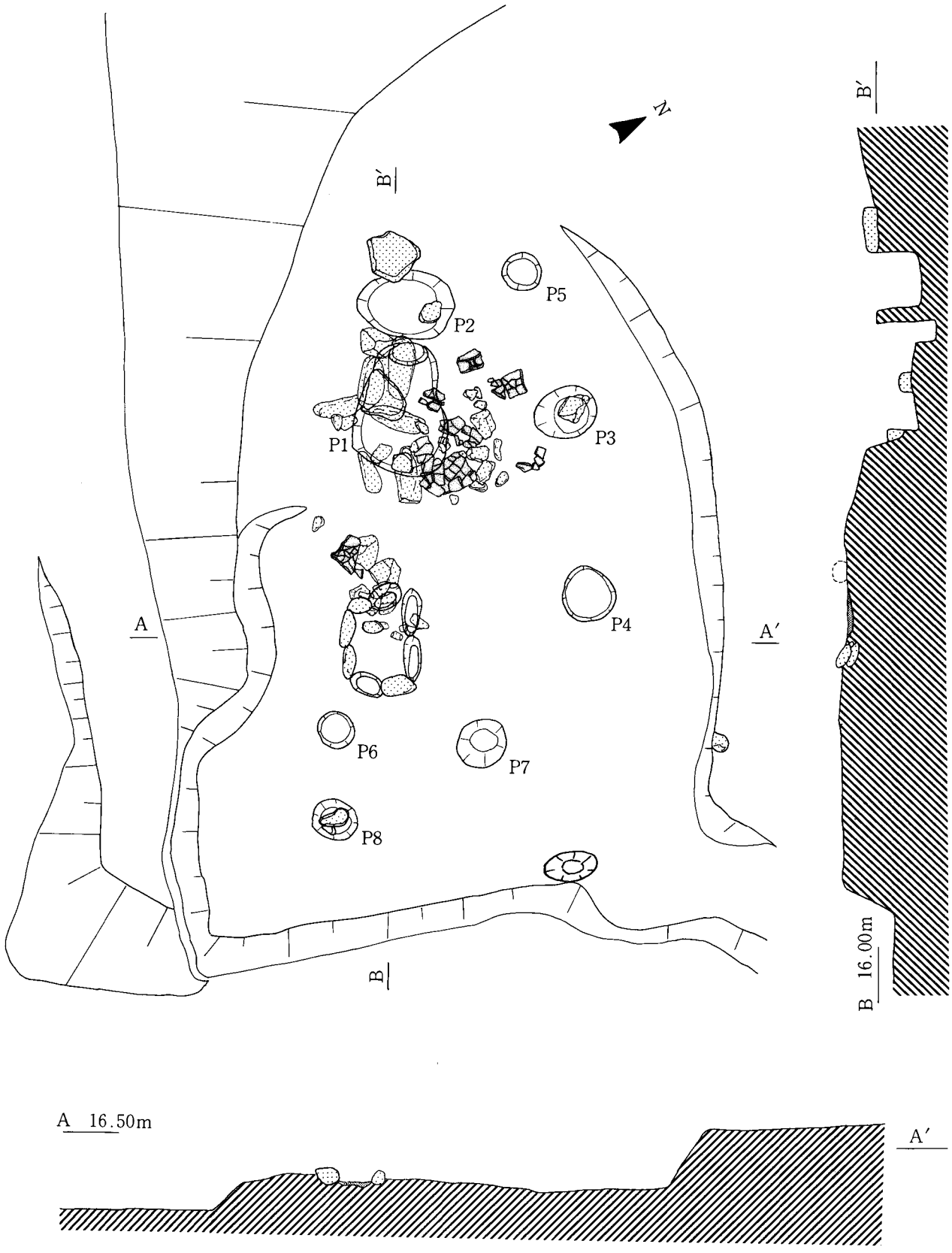
第13図　第15号住居跡



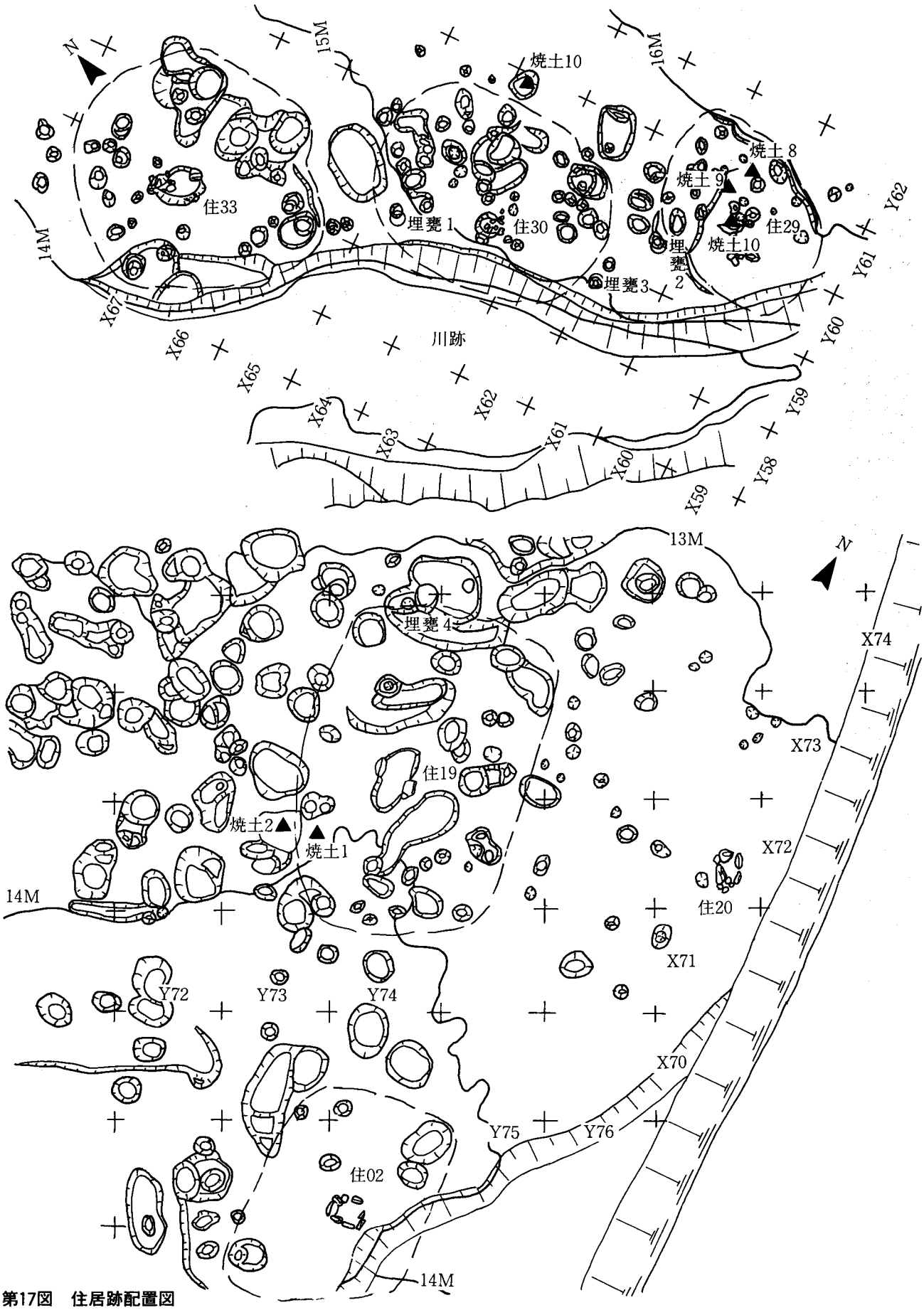
第14図　第28号住居跡



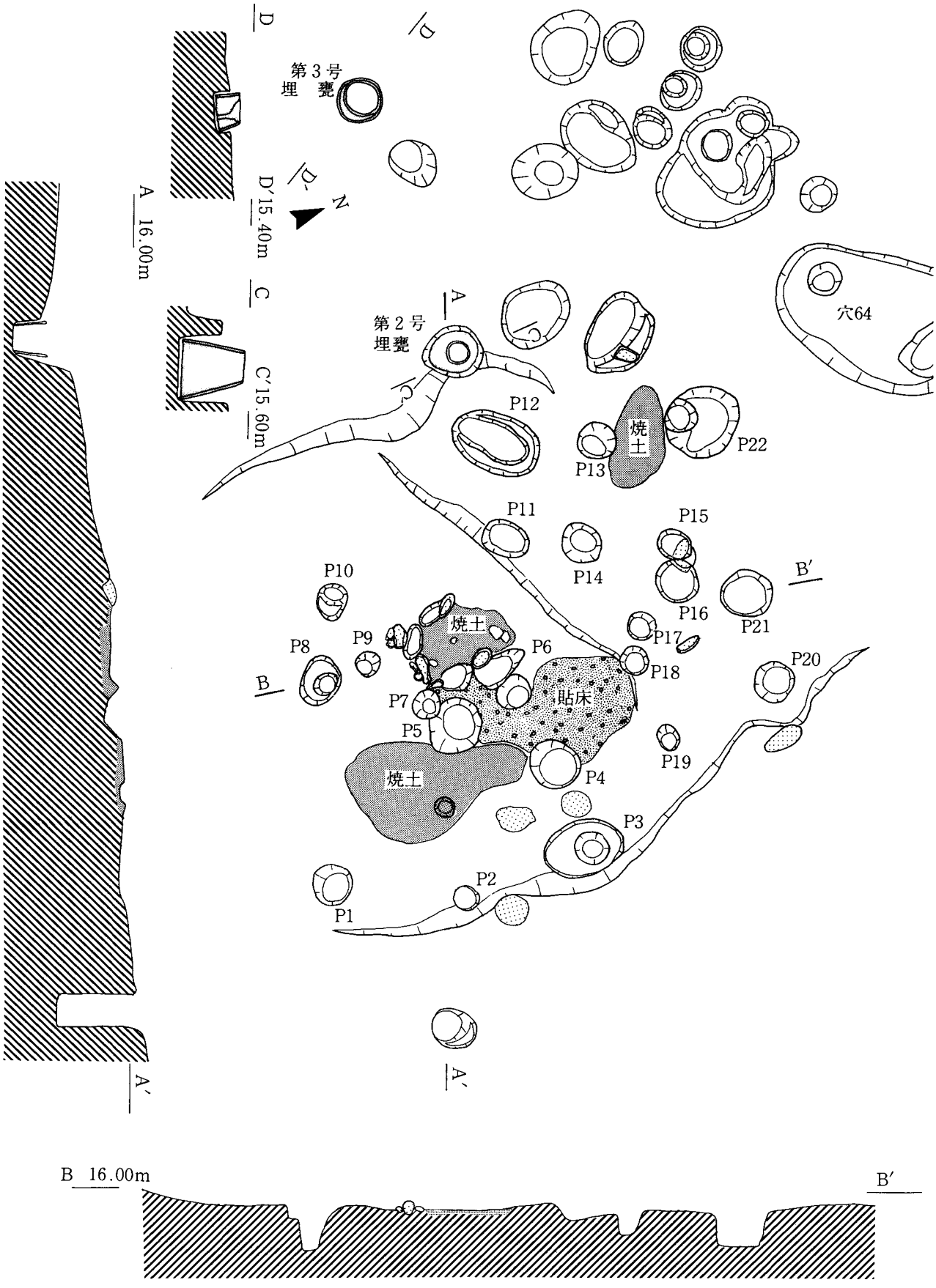
第15図　第28・36号住居跡炉



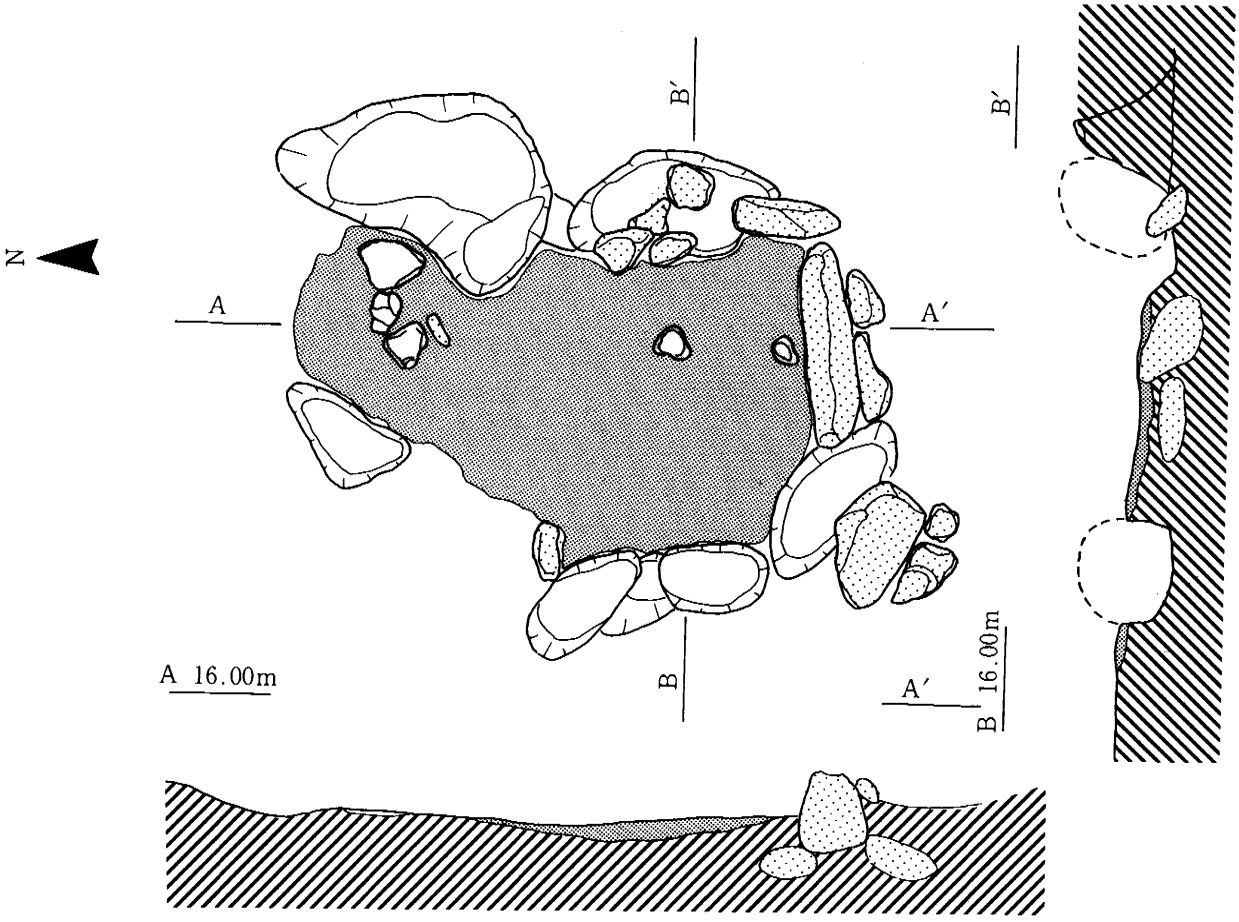
第16図　第36号住居跡

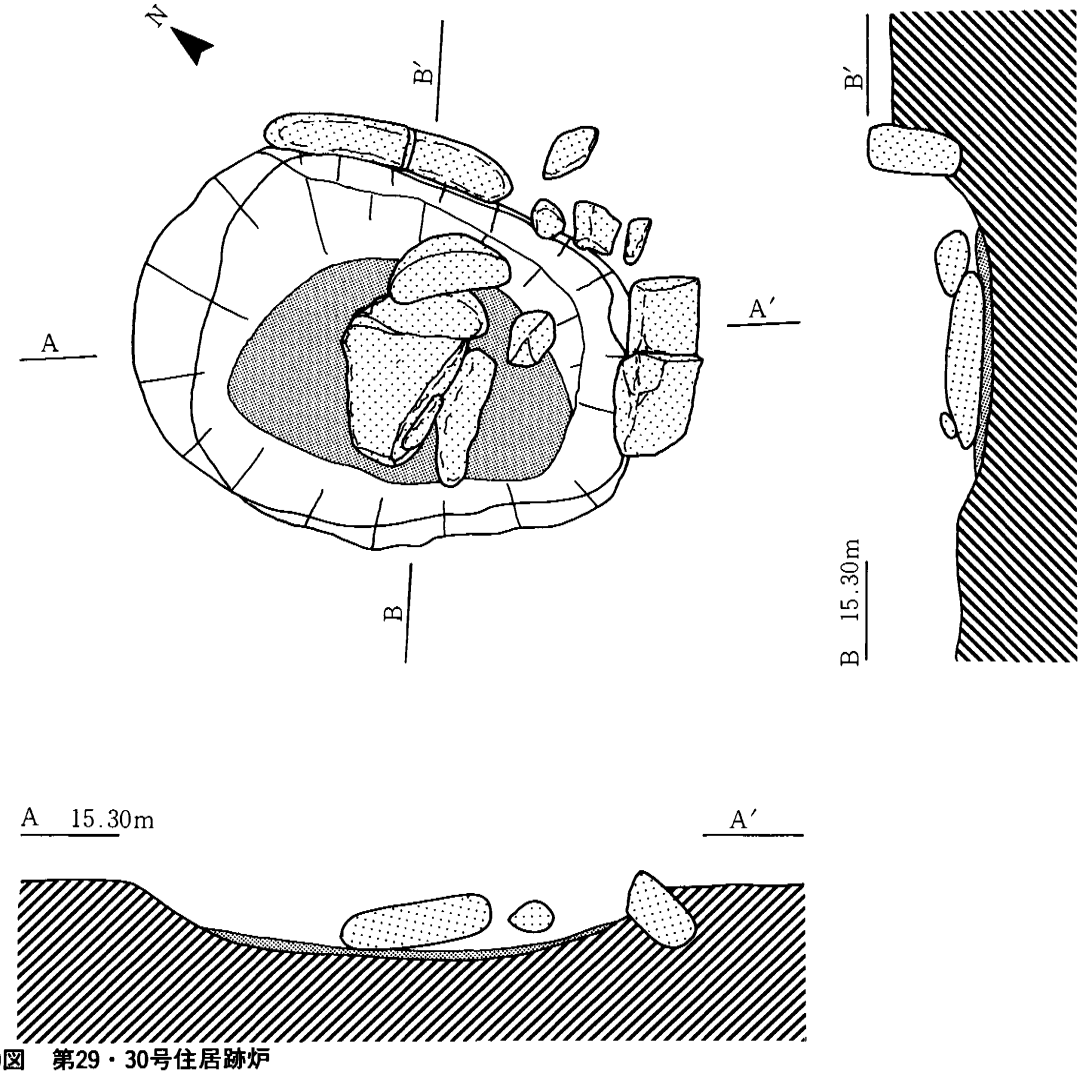

N
15M
16M
焼土10
焼土8
焼土9
住33
埋甕1
住30
埋甕2
住29
焼土10
埋甕3
14M
X67
X66
X65
X64
X63
X62
X61
X60
X59
X58
Y62
Y61
Y60
Y59
川跡
13M
埋甕4
X74
X73
住19
焼土2
焼土1
X72
住20
X71
Y72
Y73
Y74
X70
Y75
Y76
住02

第17図　住居跡配置図

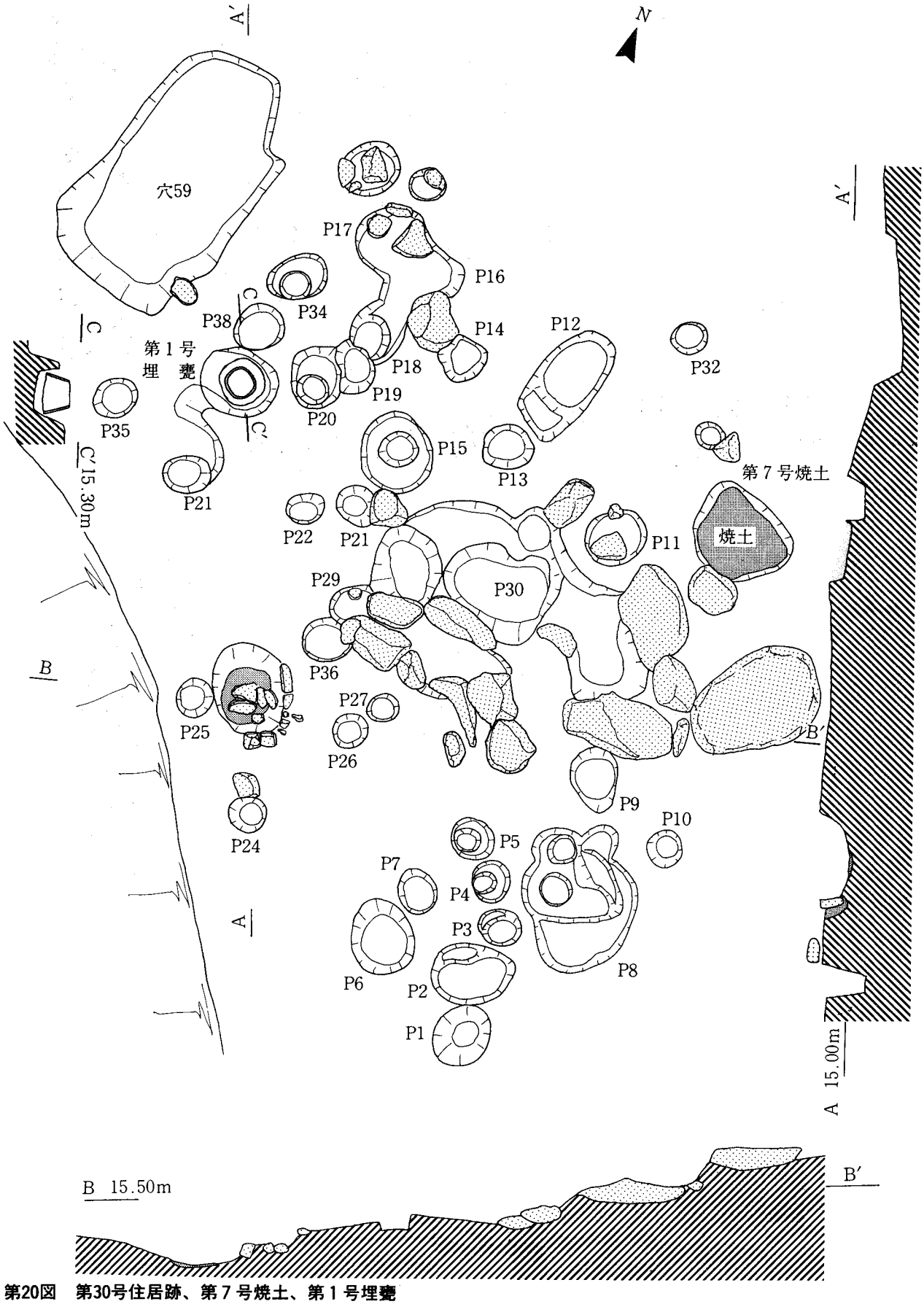


第18図　第29号住居跡、第2・3号埋甕

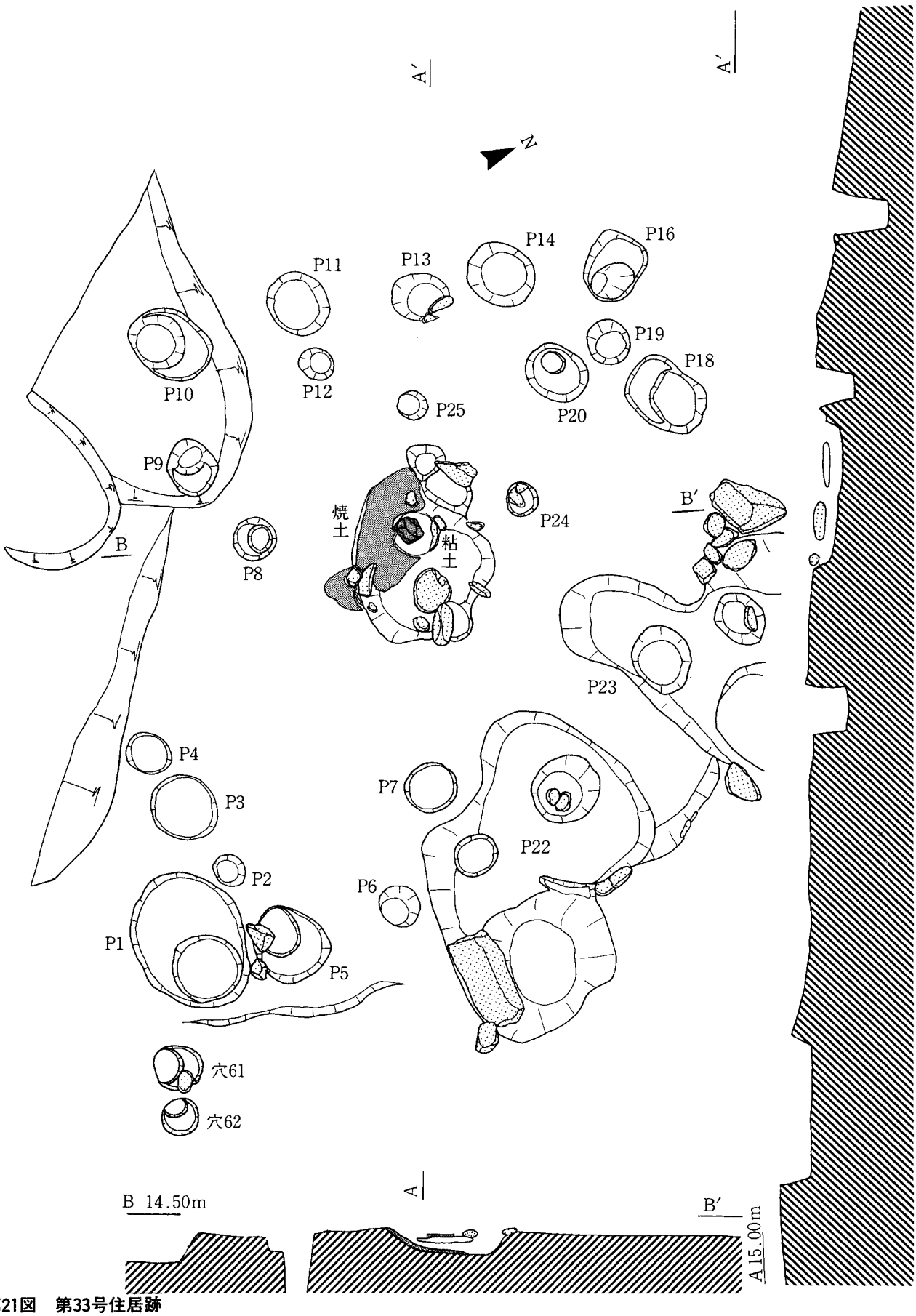




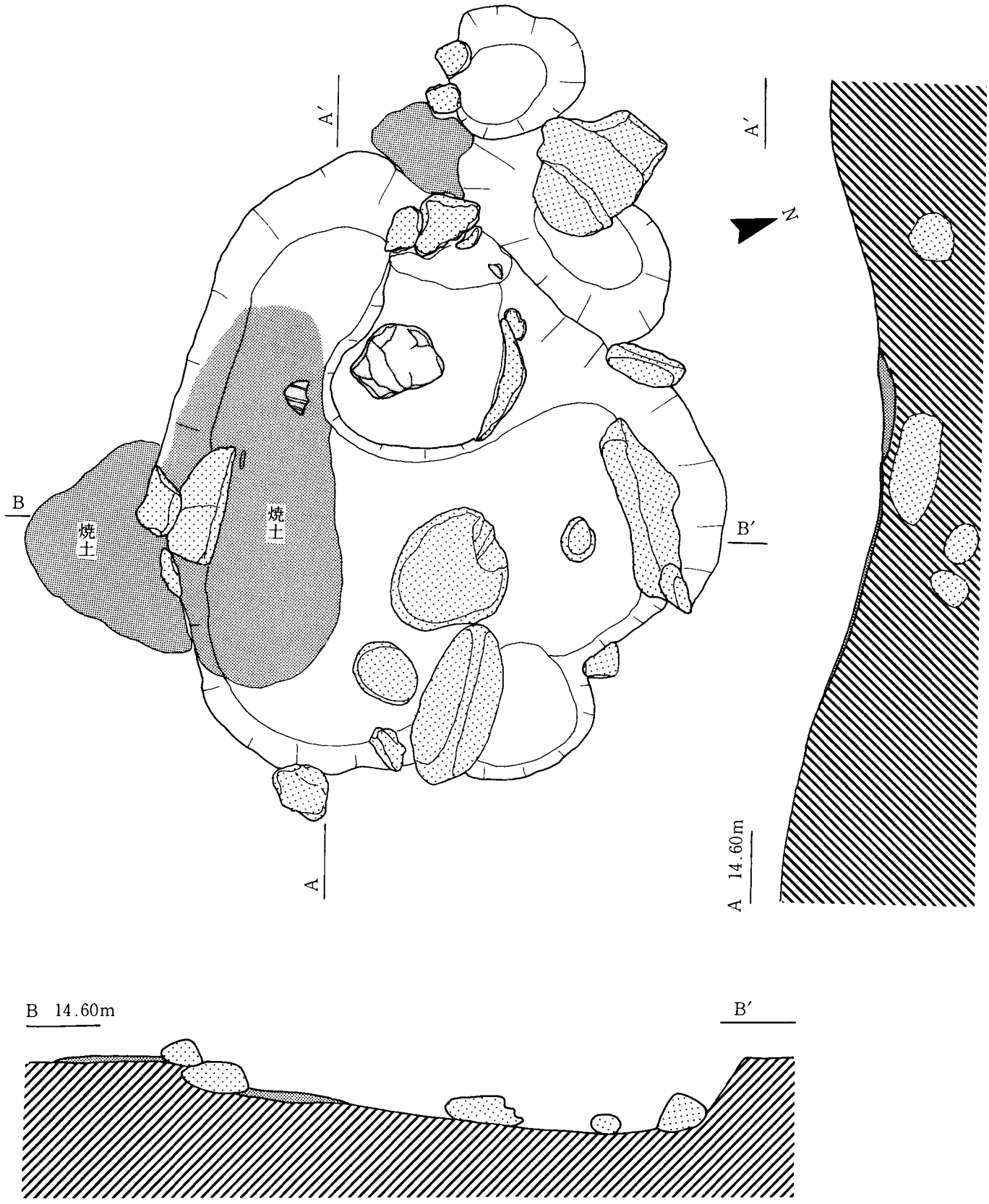
第19図　第29・30号住居跡炉



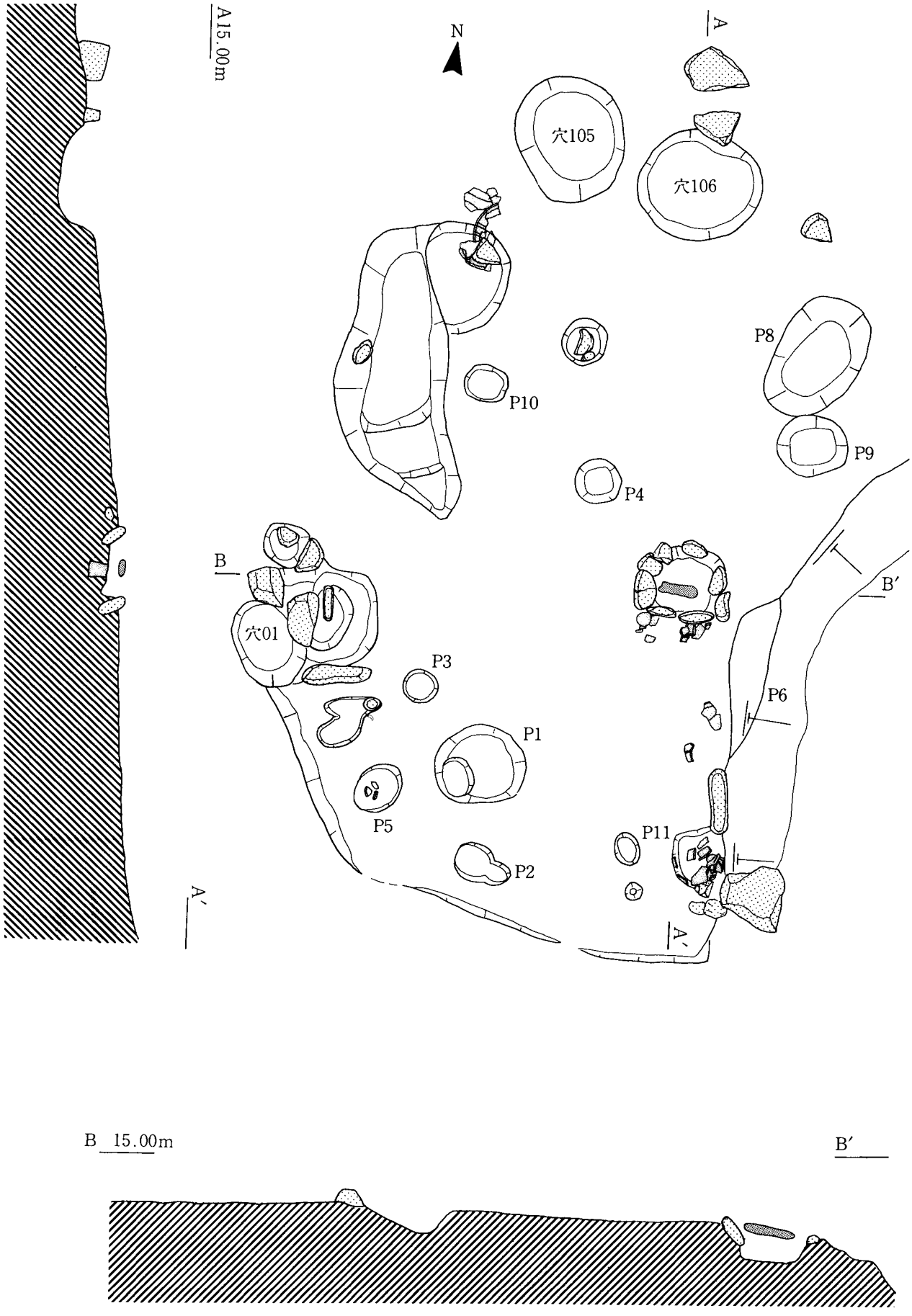
第20図　第30号住居跡、第7号焼土、第1号埋甕



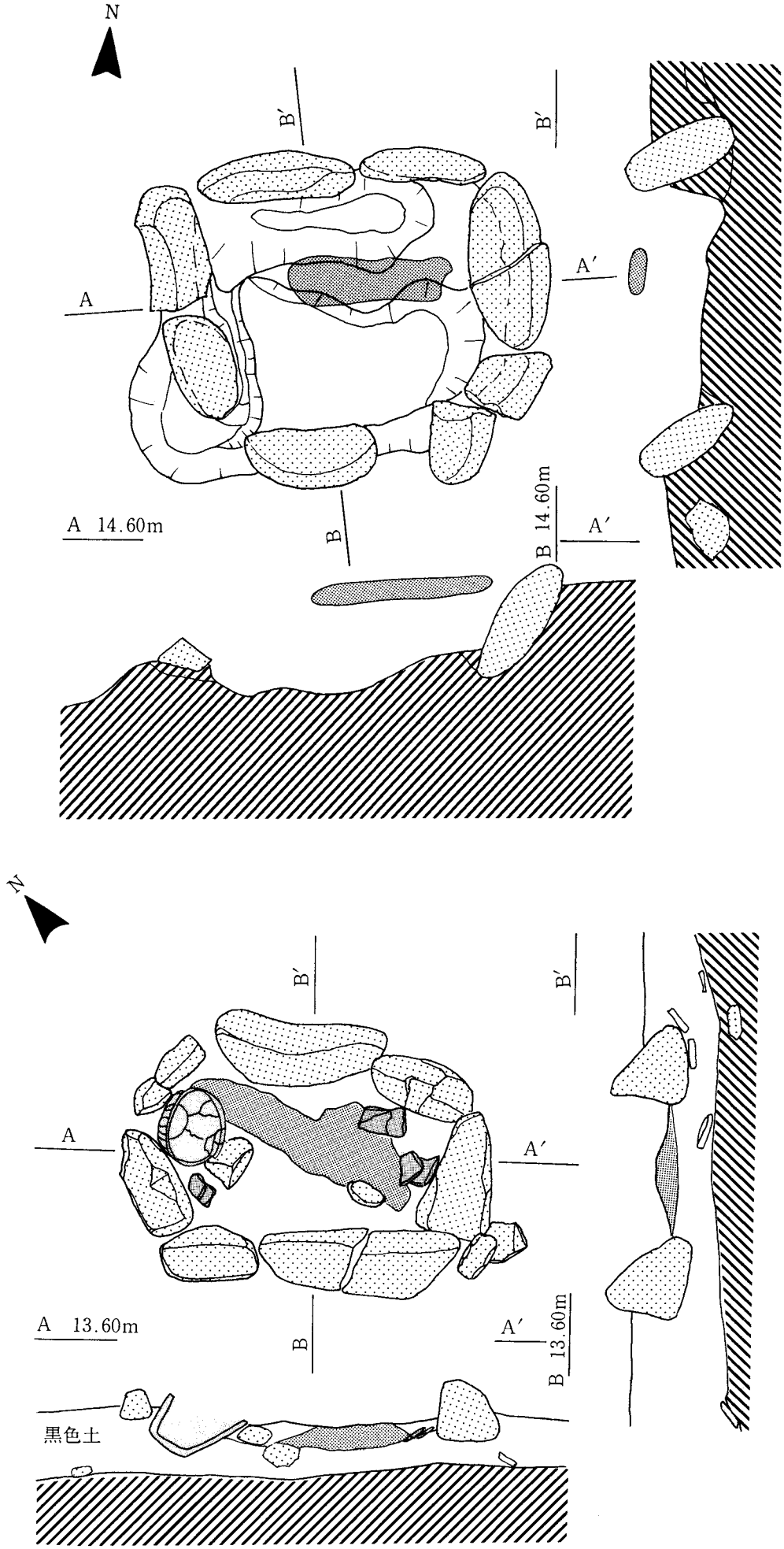
第21図　第33号住居跡



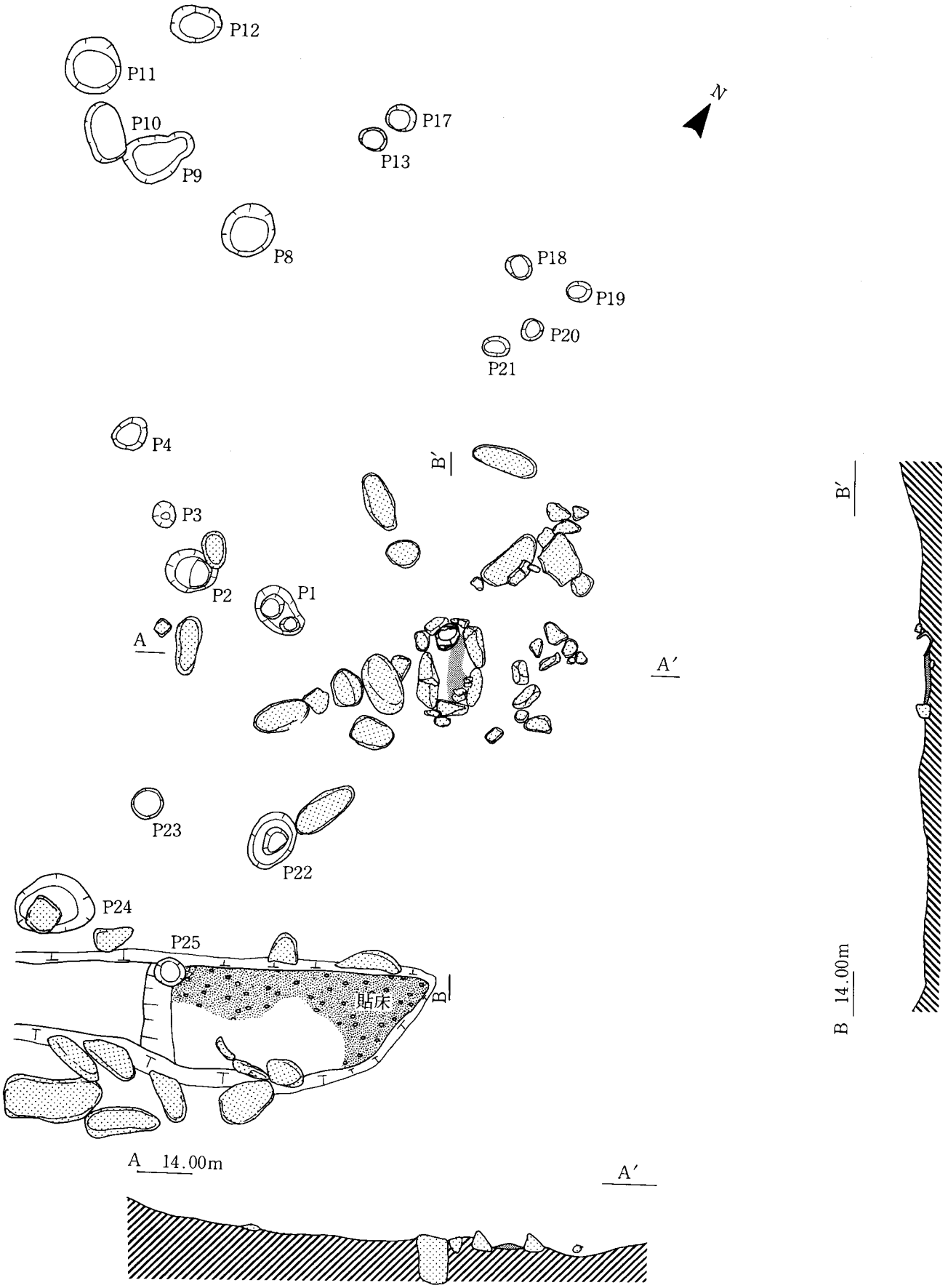
第22図　第33号住居跡炉


A 15.00m
N
A
穴105
穴106
P8
P10
P9
P4
B
B′
穴01
P3
P6
P1
P5
P11
P2
A′
A′
B 15.00m
B′

第23図　第２号住居跡

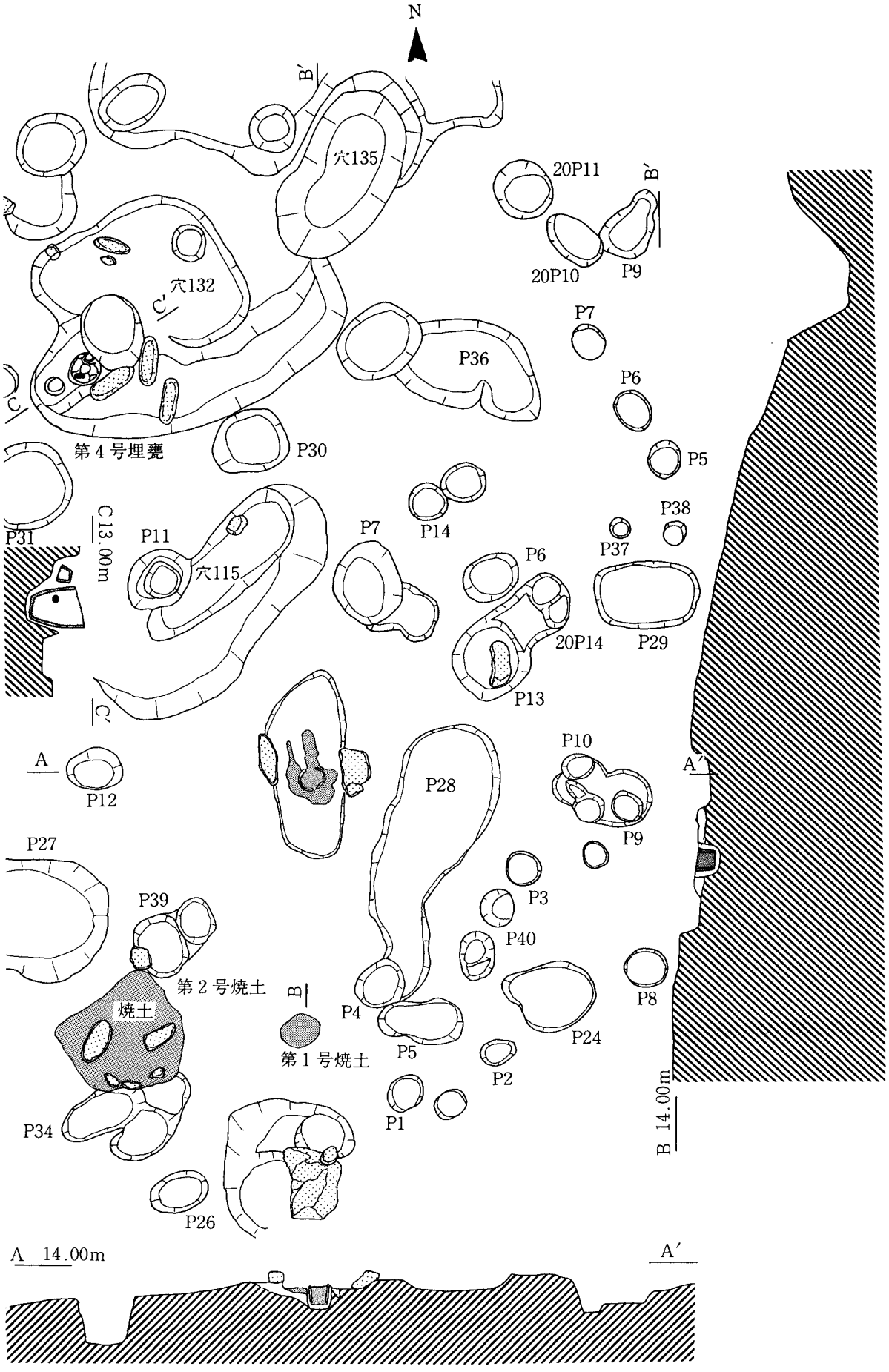


第24図　第２・20号住居跡炉

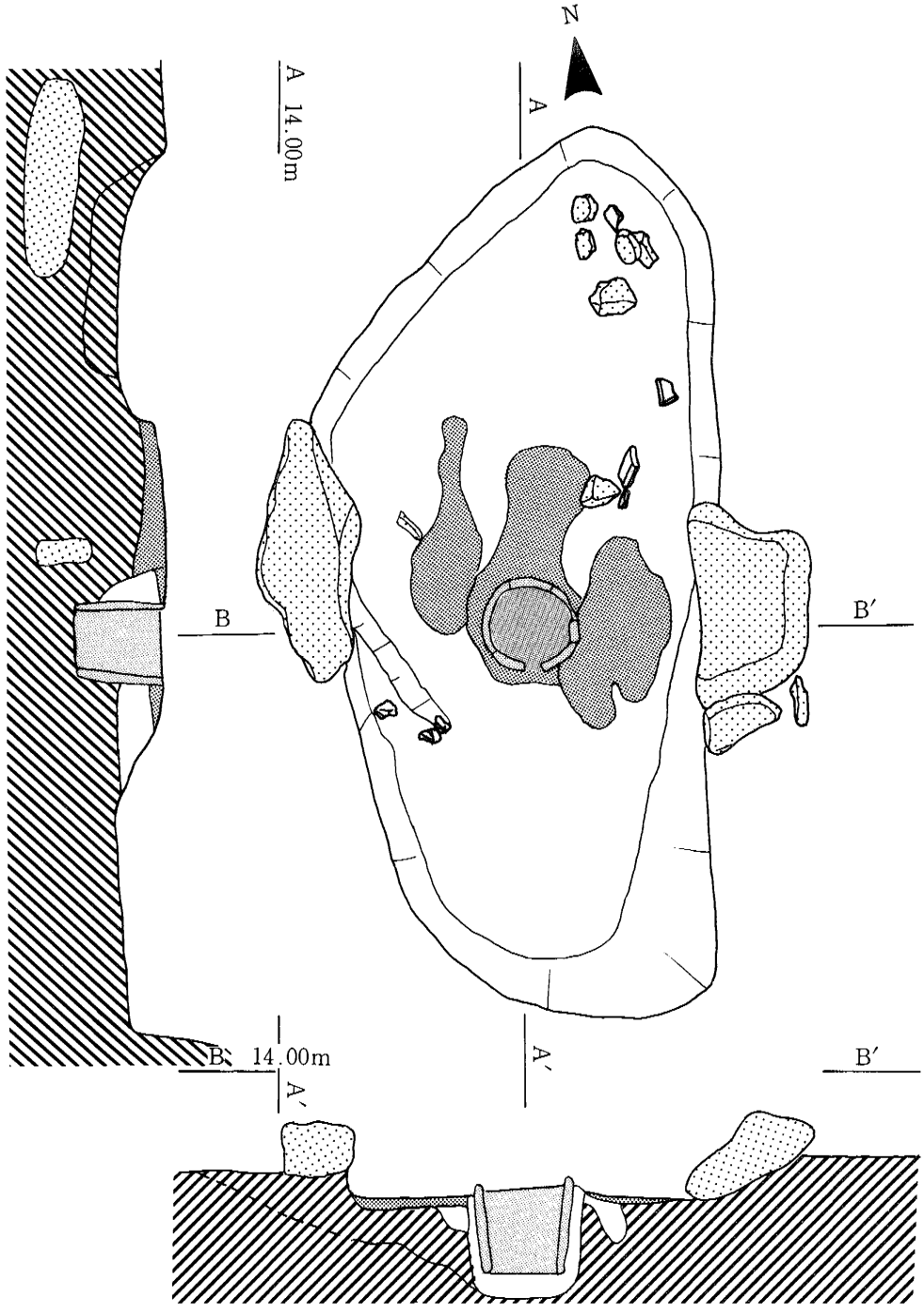


第25図　第20号住居跡

第26図　第20号住居遺物出土状況図(投影図)



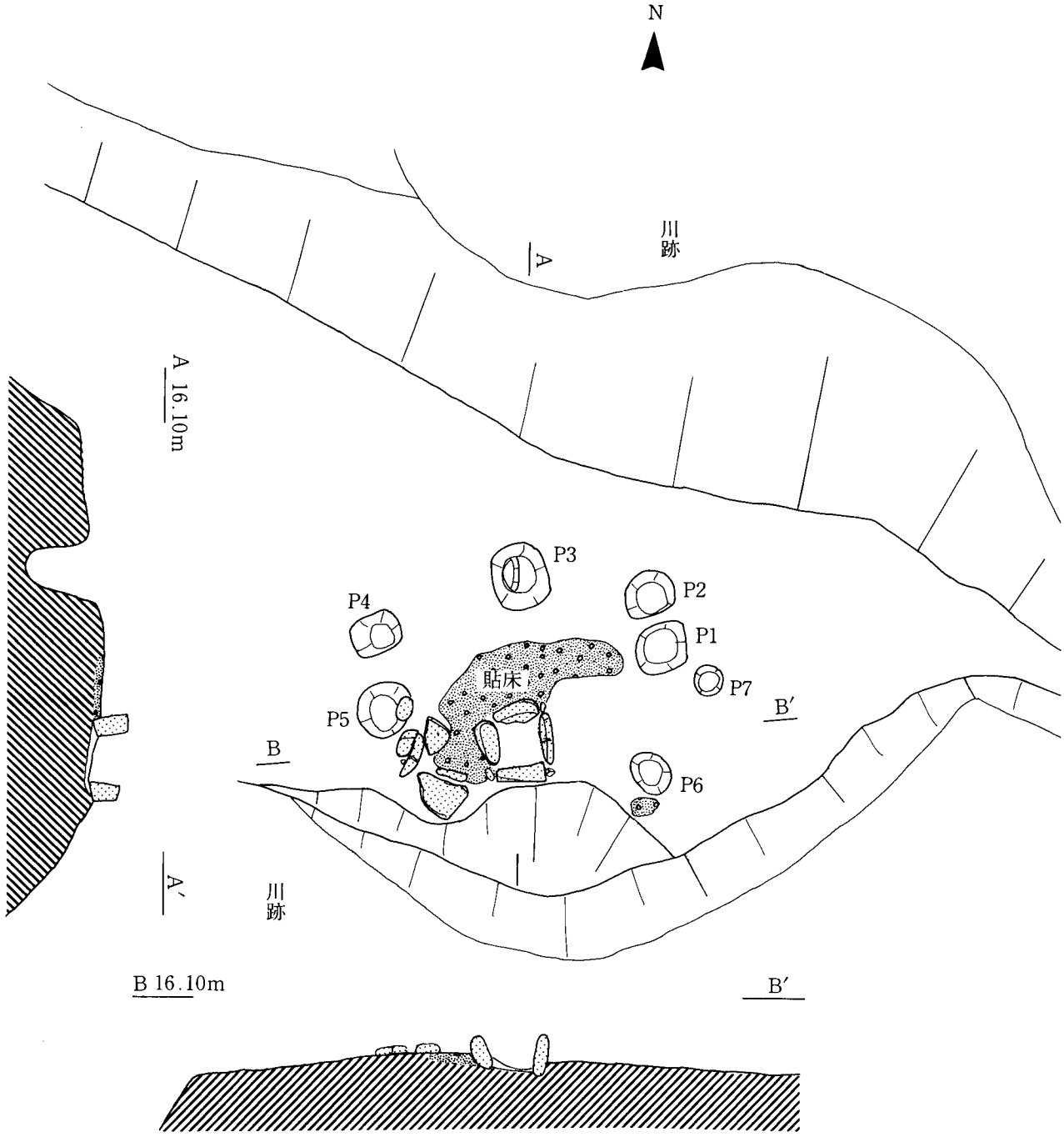
第27図　第19号住居跡、第１・２号焼土、第４号埋甕



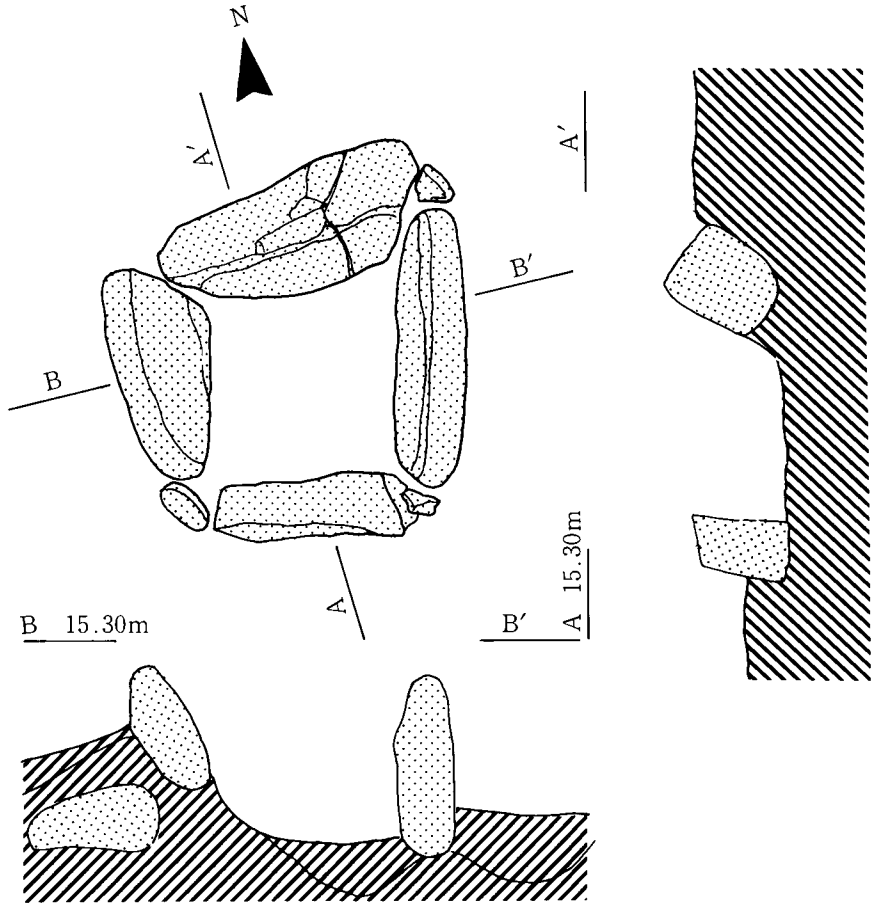
第28図　第19号住居跡炉

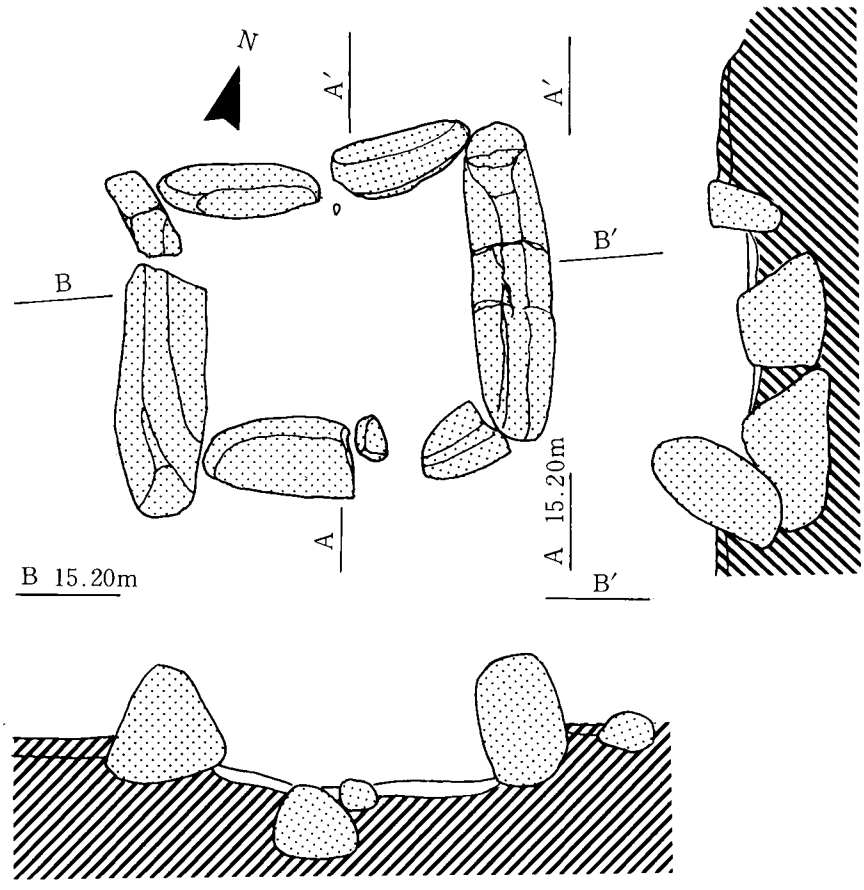
N
焼土14
住21
住35
住26
住22
住23
住25
住18
住32
住11
住10
住17
住14
住16
住24
焼土13
住09
住13
焼土12
住08
住31
住12
住07
焼土11
住06
住33
川跡
住30
住03
住29
Y30
Y35
Y40
Y45
X55
X60
X65
X70

第29図　住居跡配置図

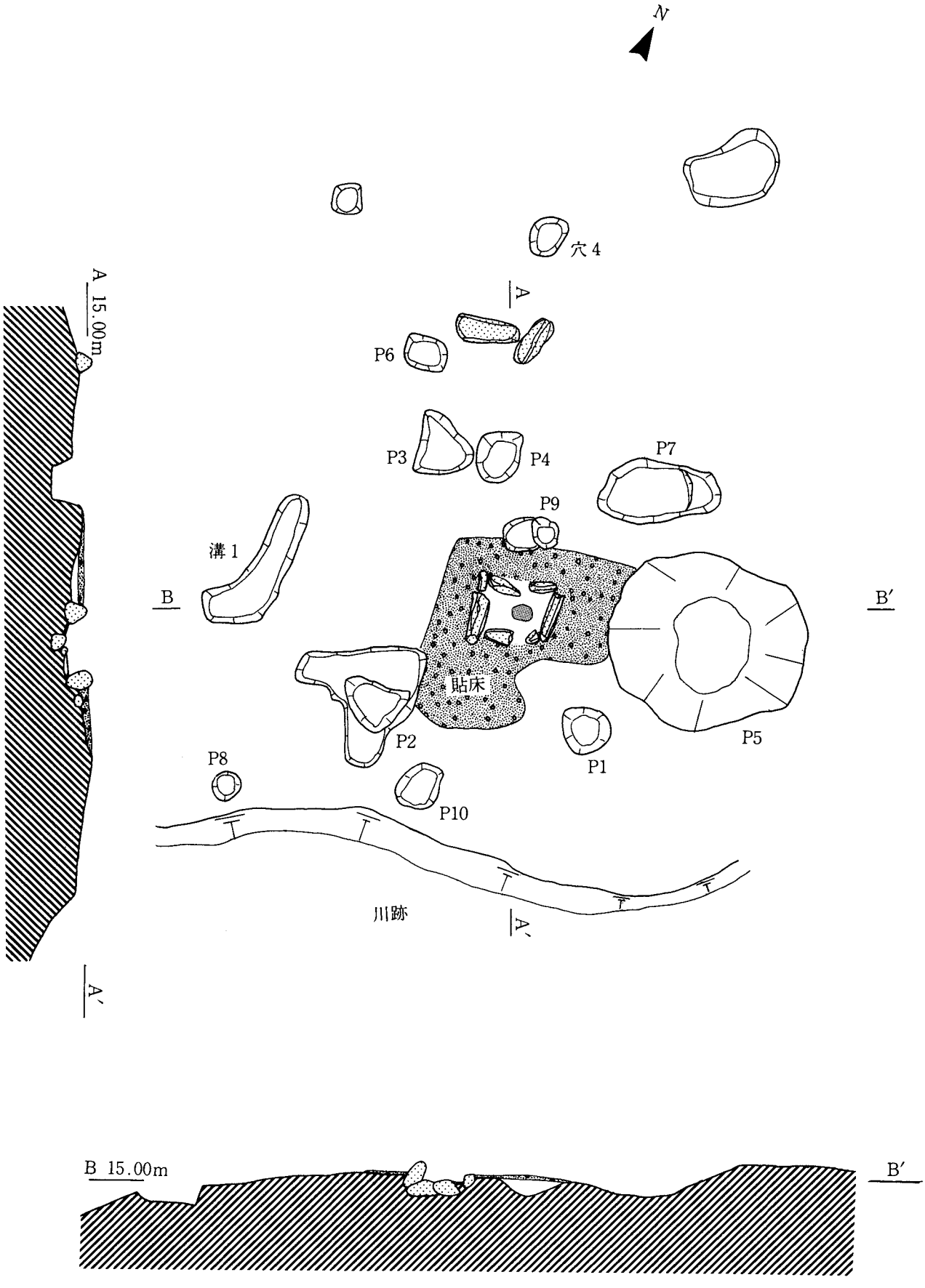


第30図　第３号住居跡

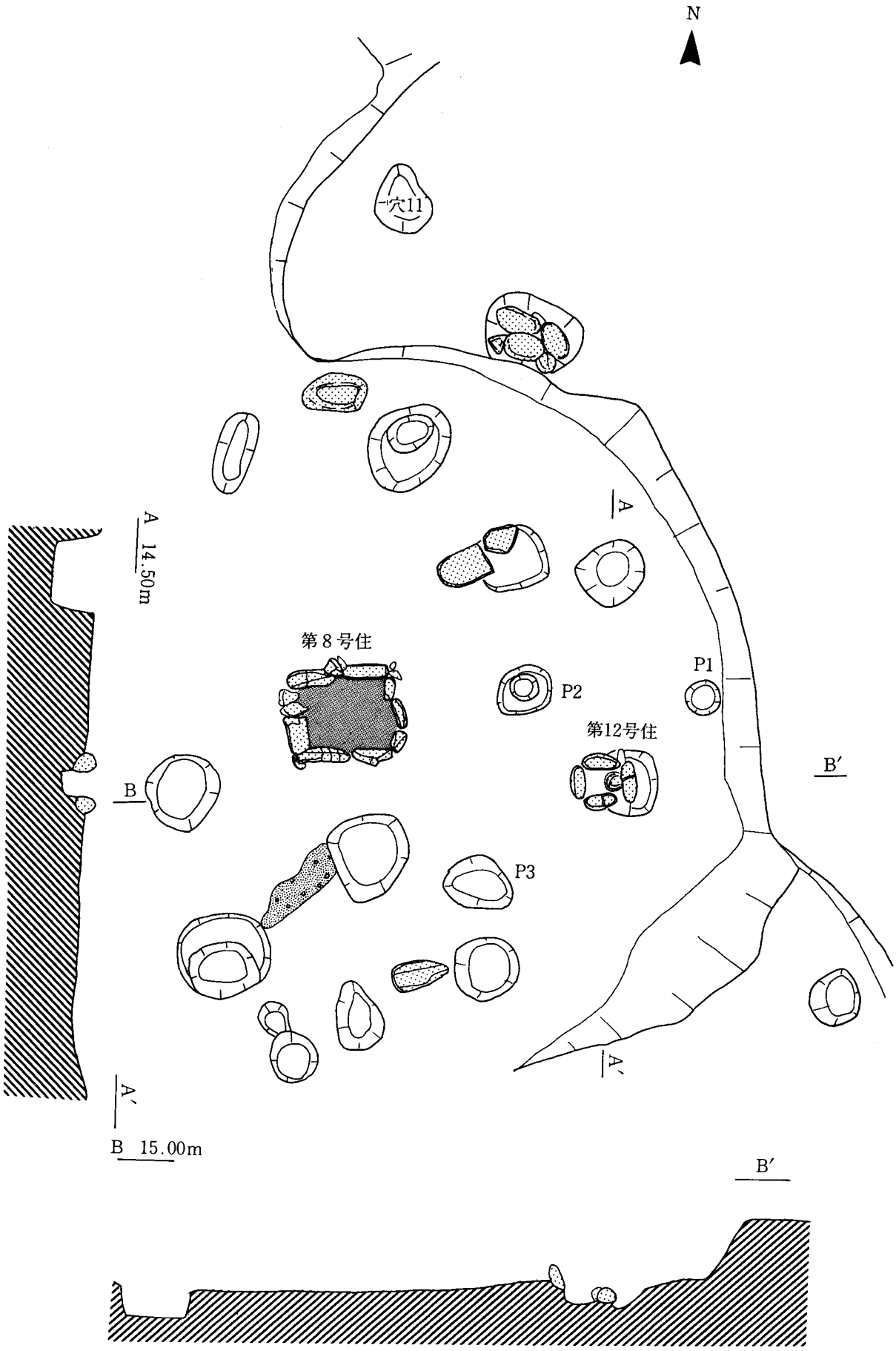




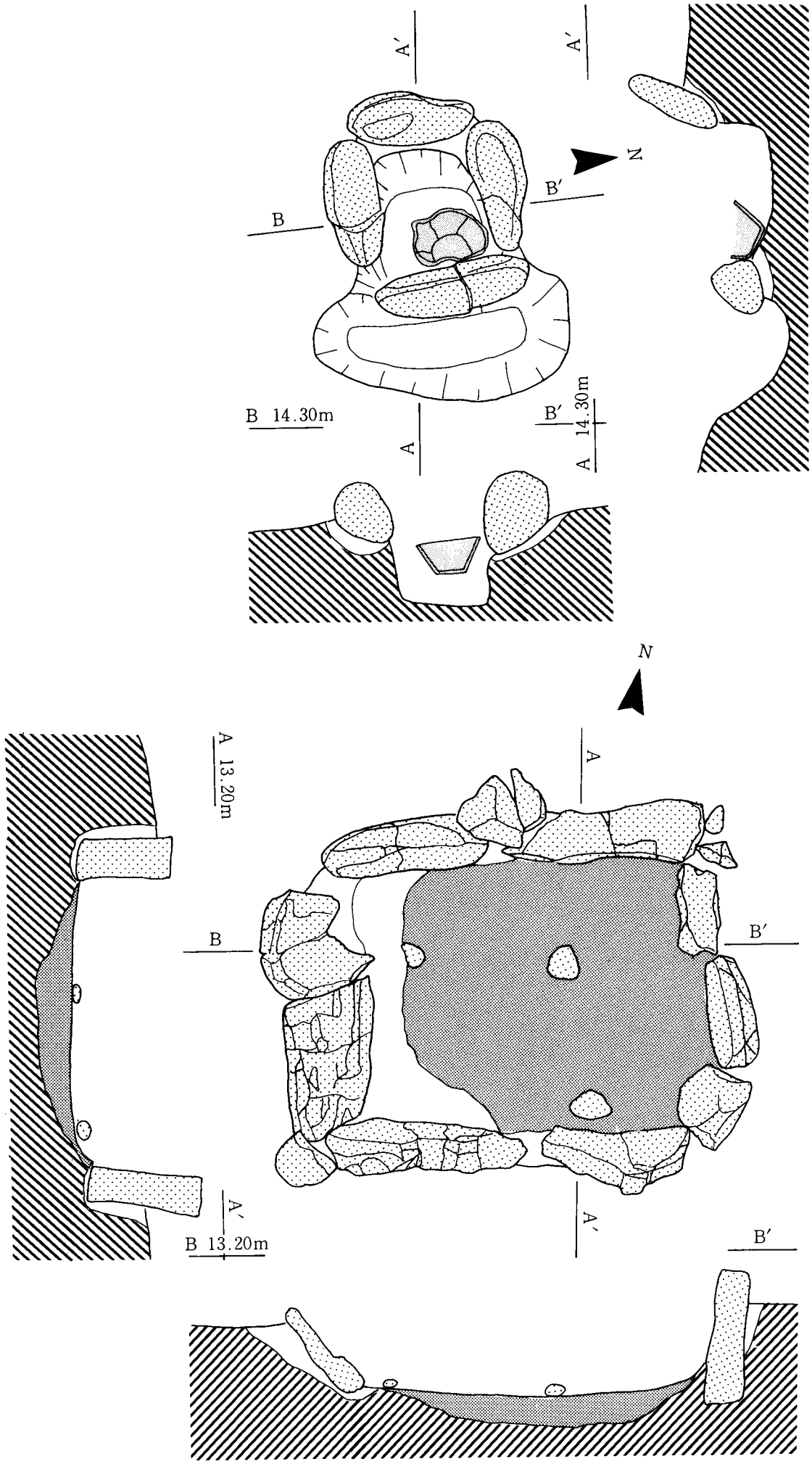
第31図　第３・６号住居跡炉



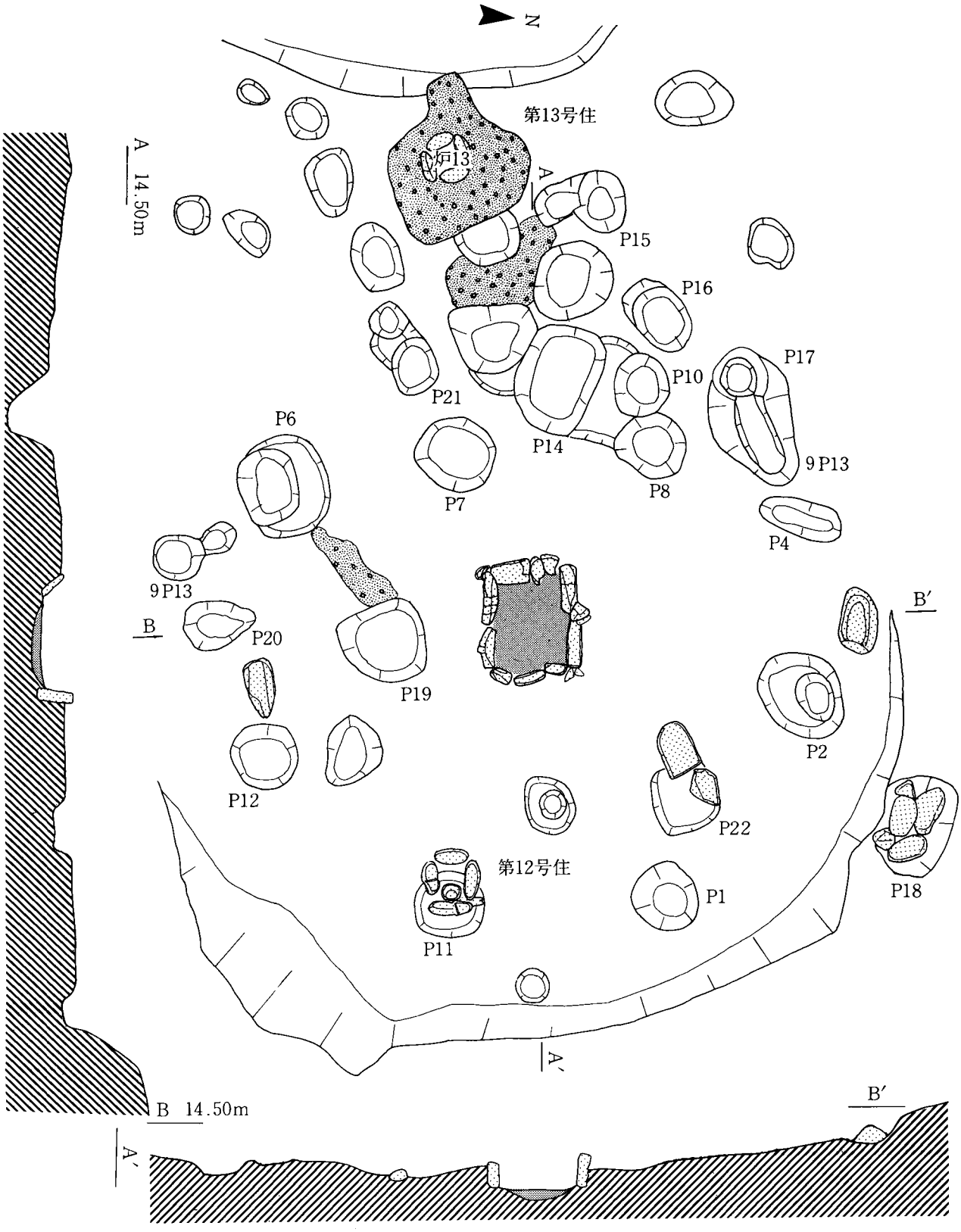
第32図　第6号住居跡



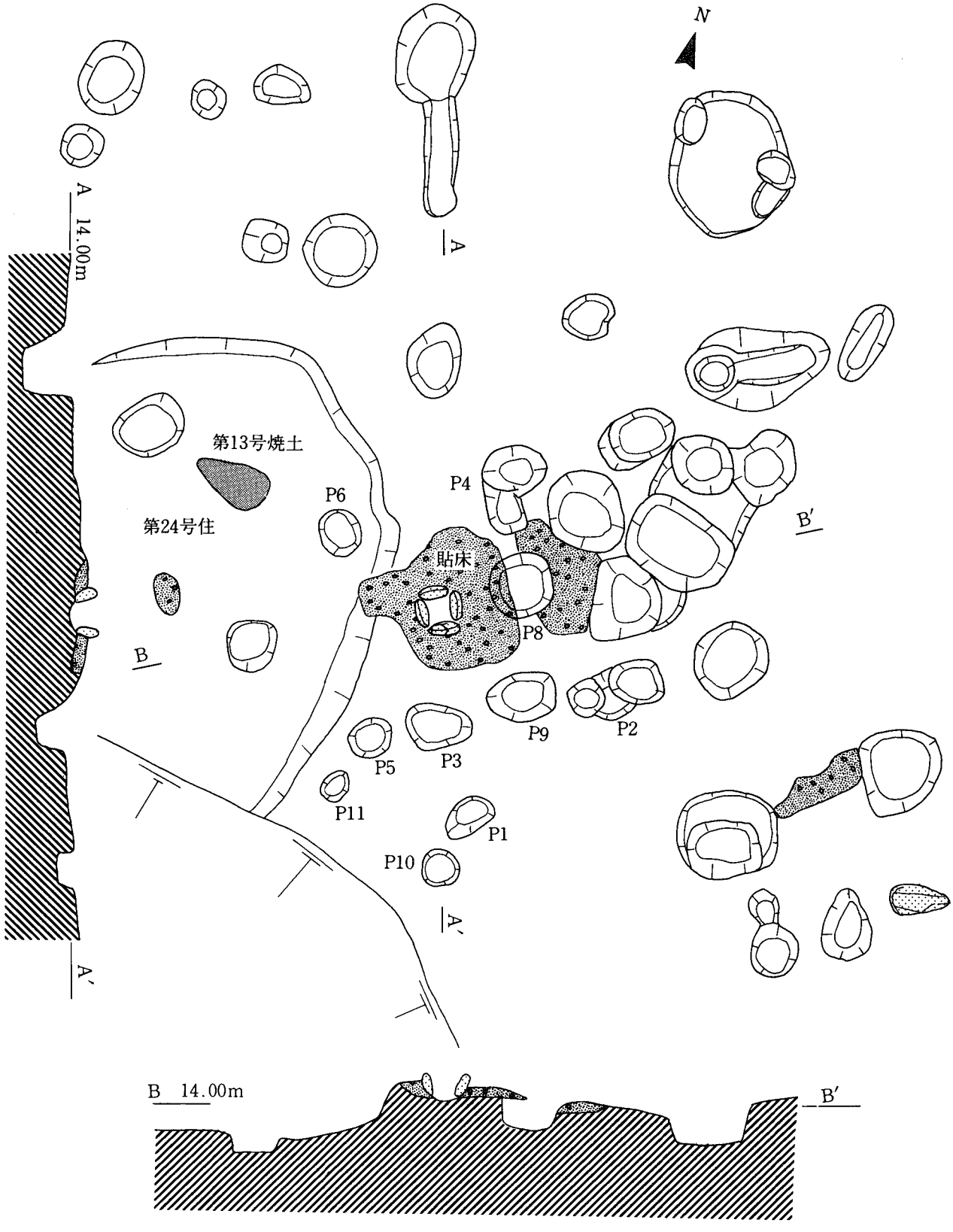
第33図　第12号住居跡



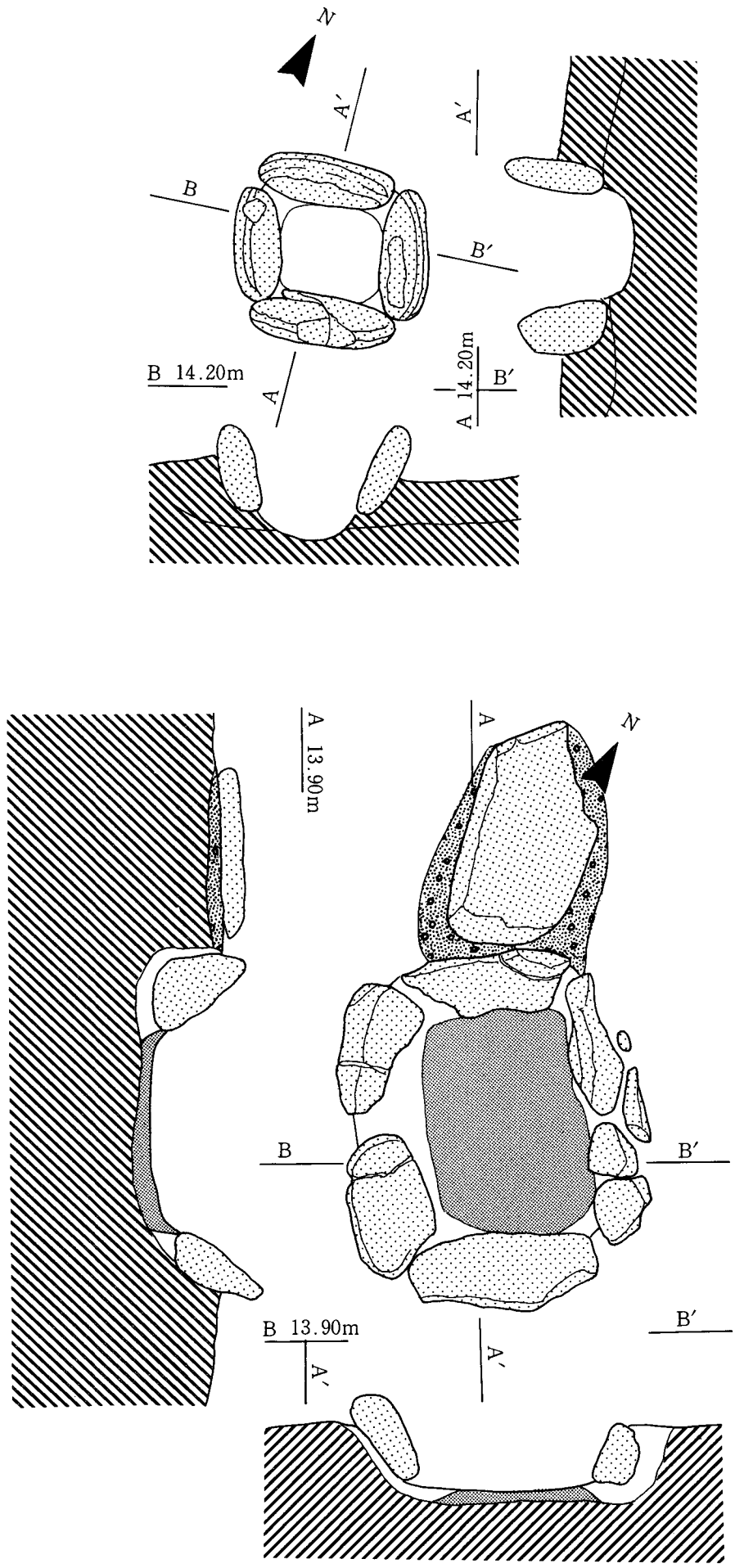
第34図　第12・8号住居跡炉


N
第13号住
炉13
A
A 14.50m
P15
P16
P17
P10
P21
P14
P8
9P13
P6
P7
P4
9P13
B
P20
P19
B′
P2
P12
P22
第12号住
P1
P18
P11
A′
B 14.50m
B′
A′

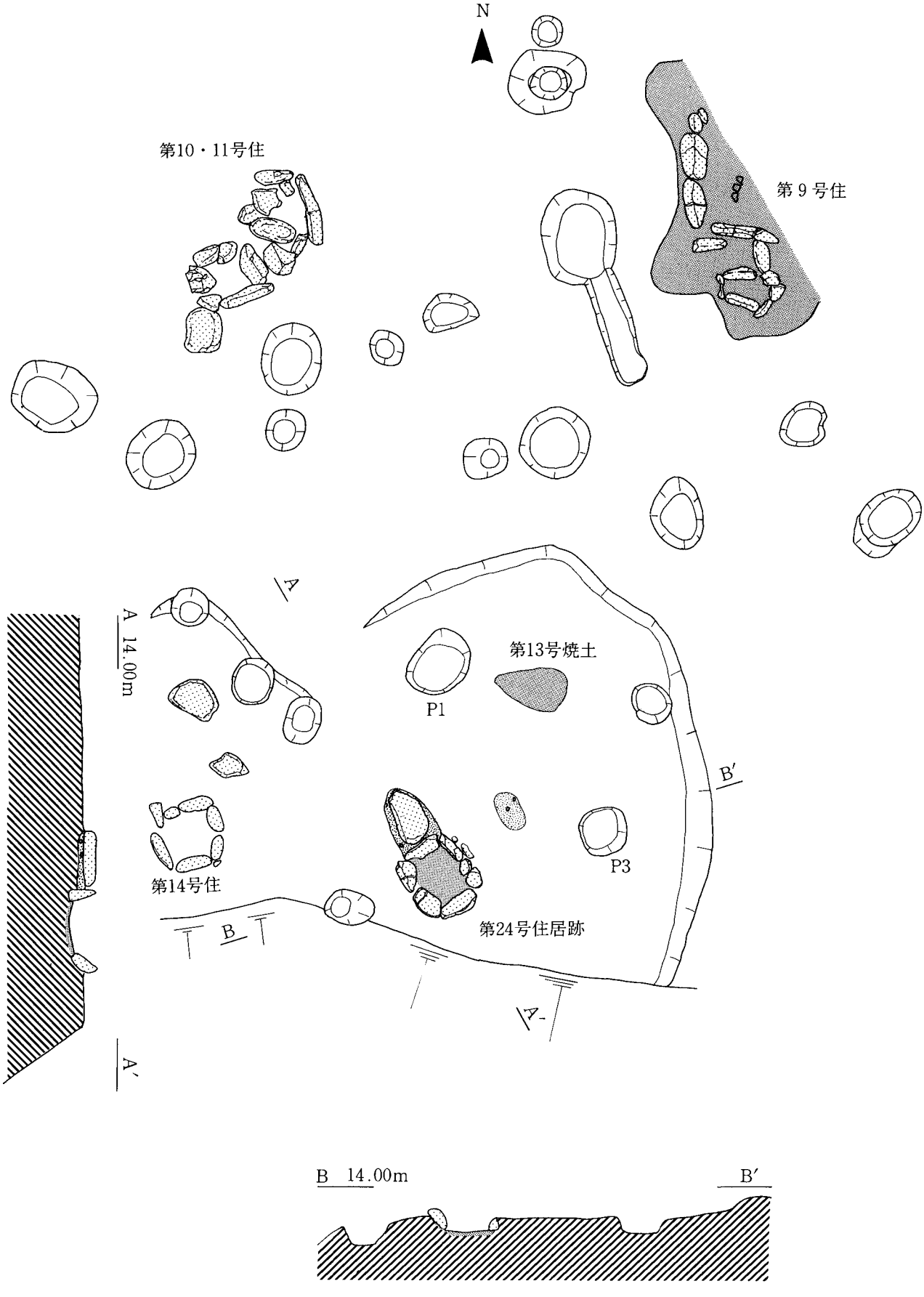
第35図　第８号住居跡



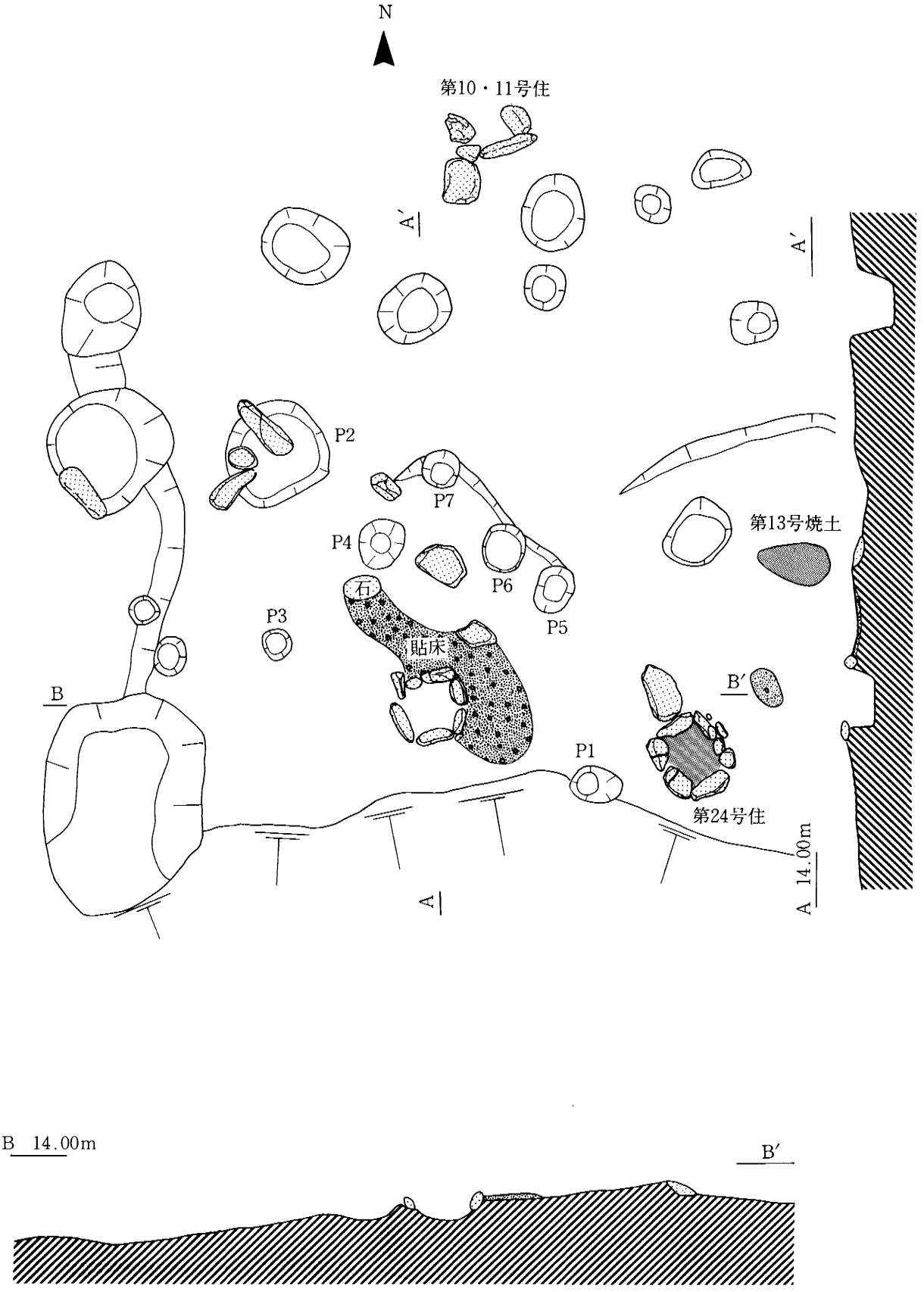
第36図　第13号住居跡



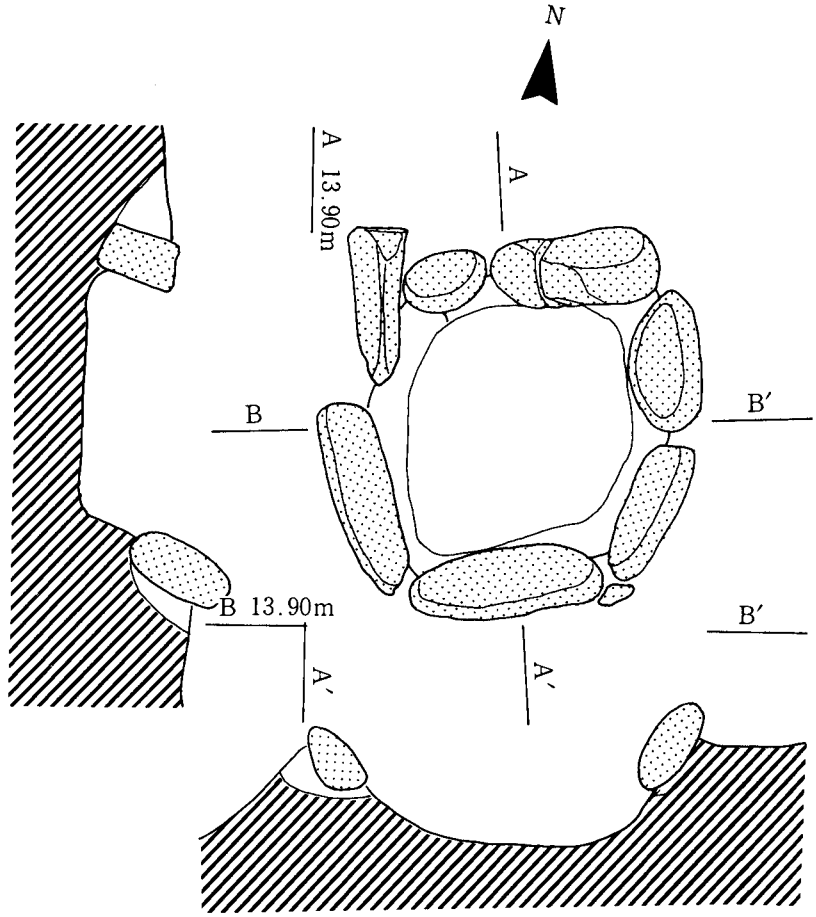
第37図　第13・24号住居跡炉

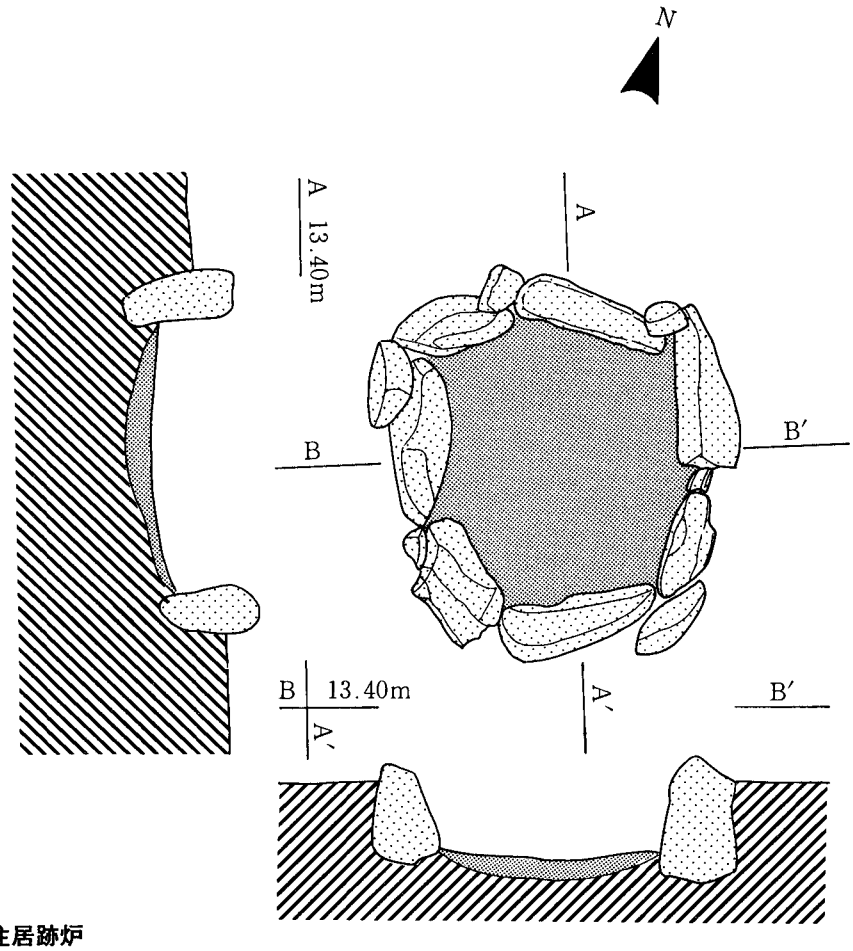


第38図　第24号住居跡、第13号焼土

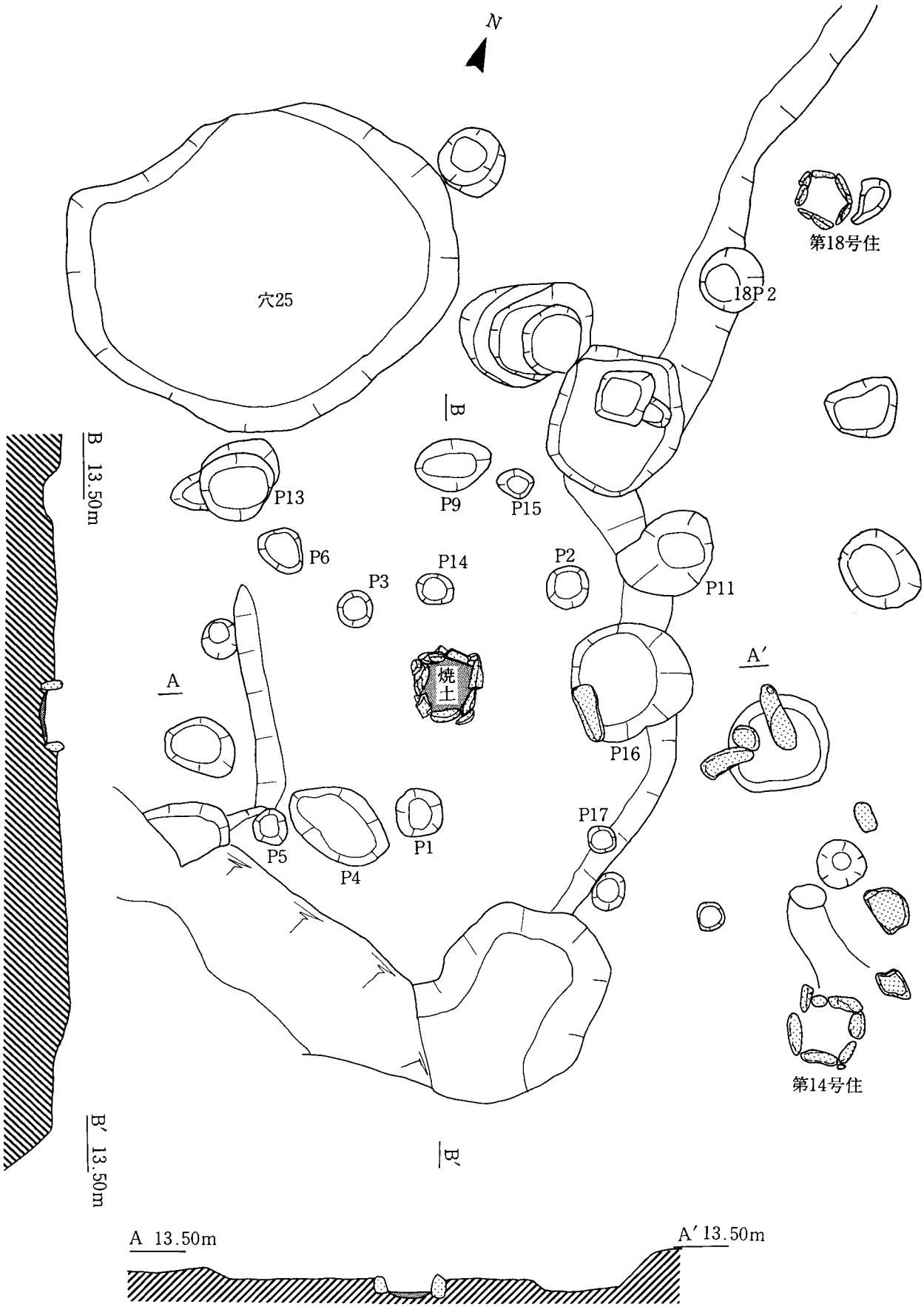


第39図　第14号住居跡

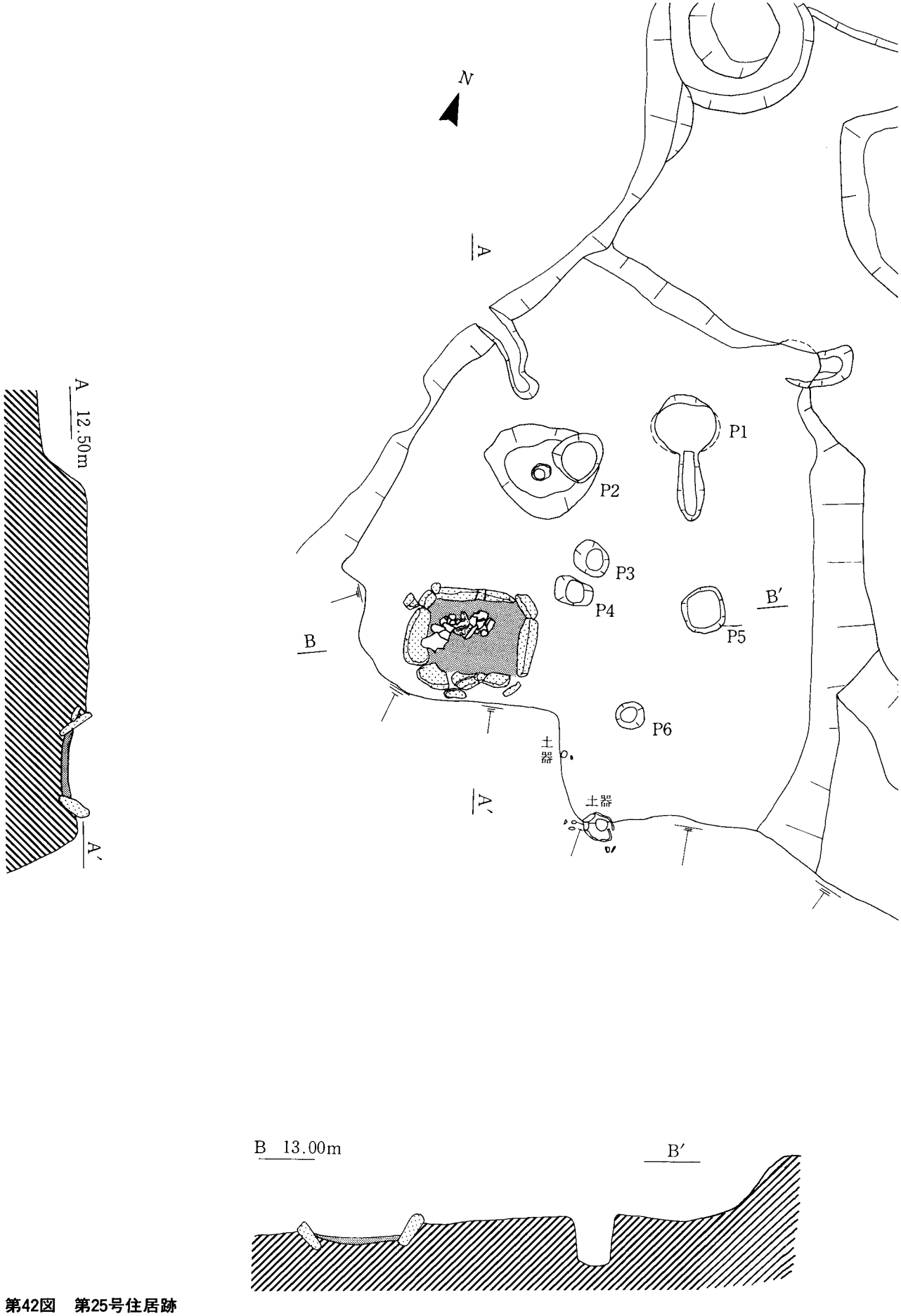




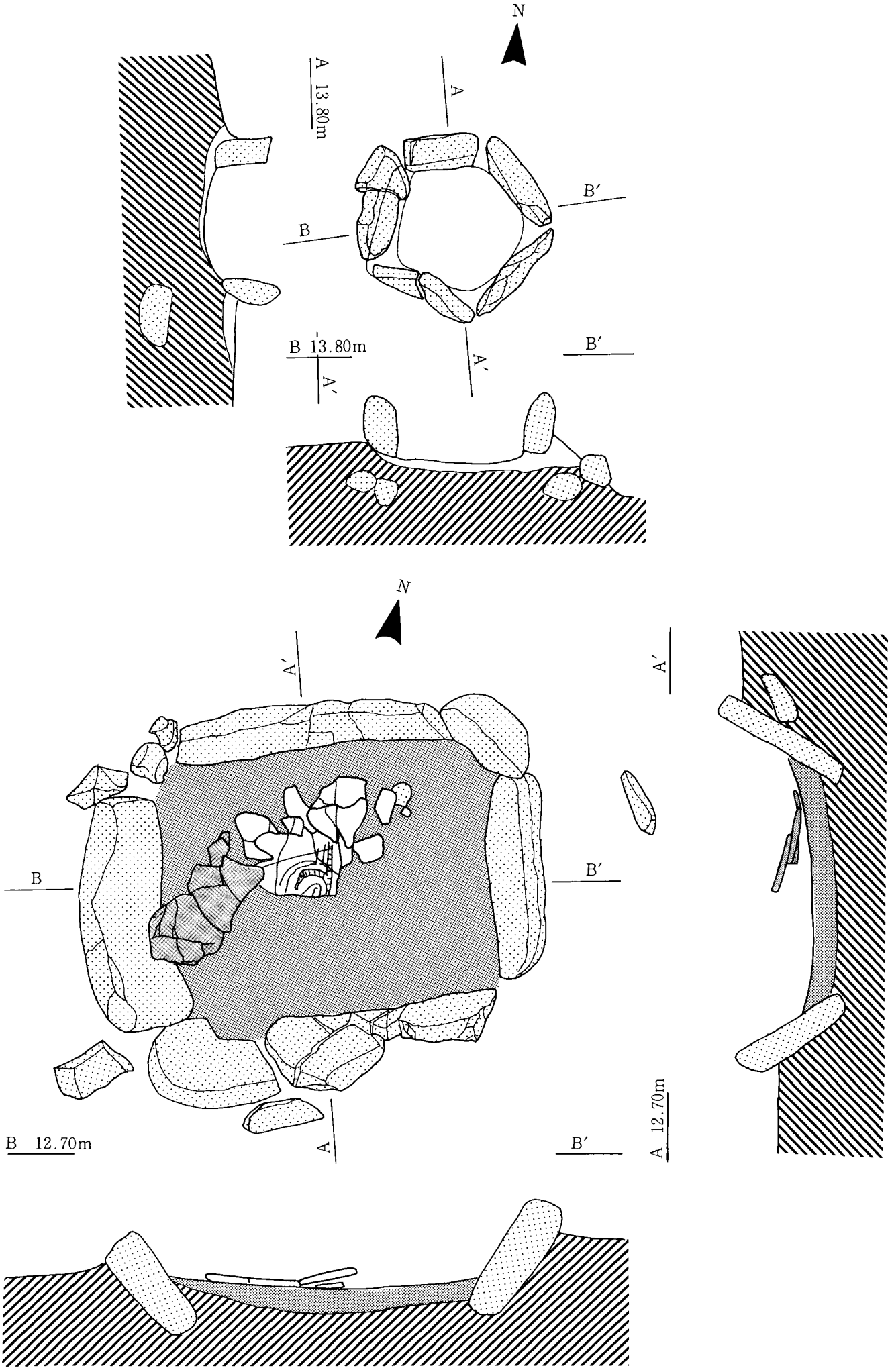
第40図　第14・32号住居跡炉



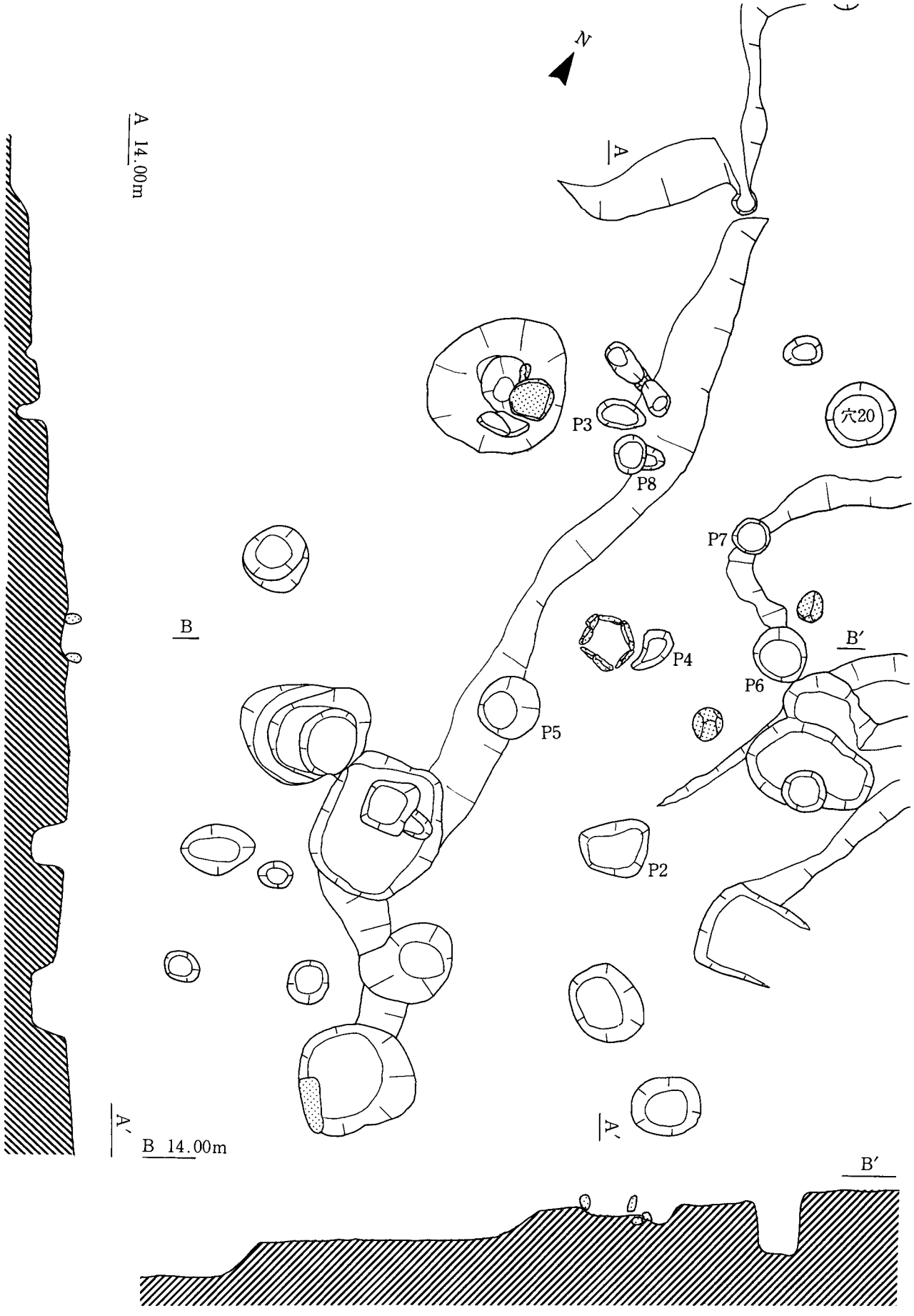
第41図　第32号住居跡



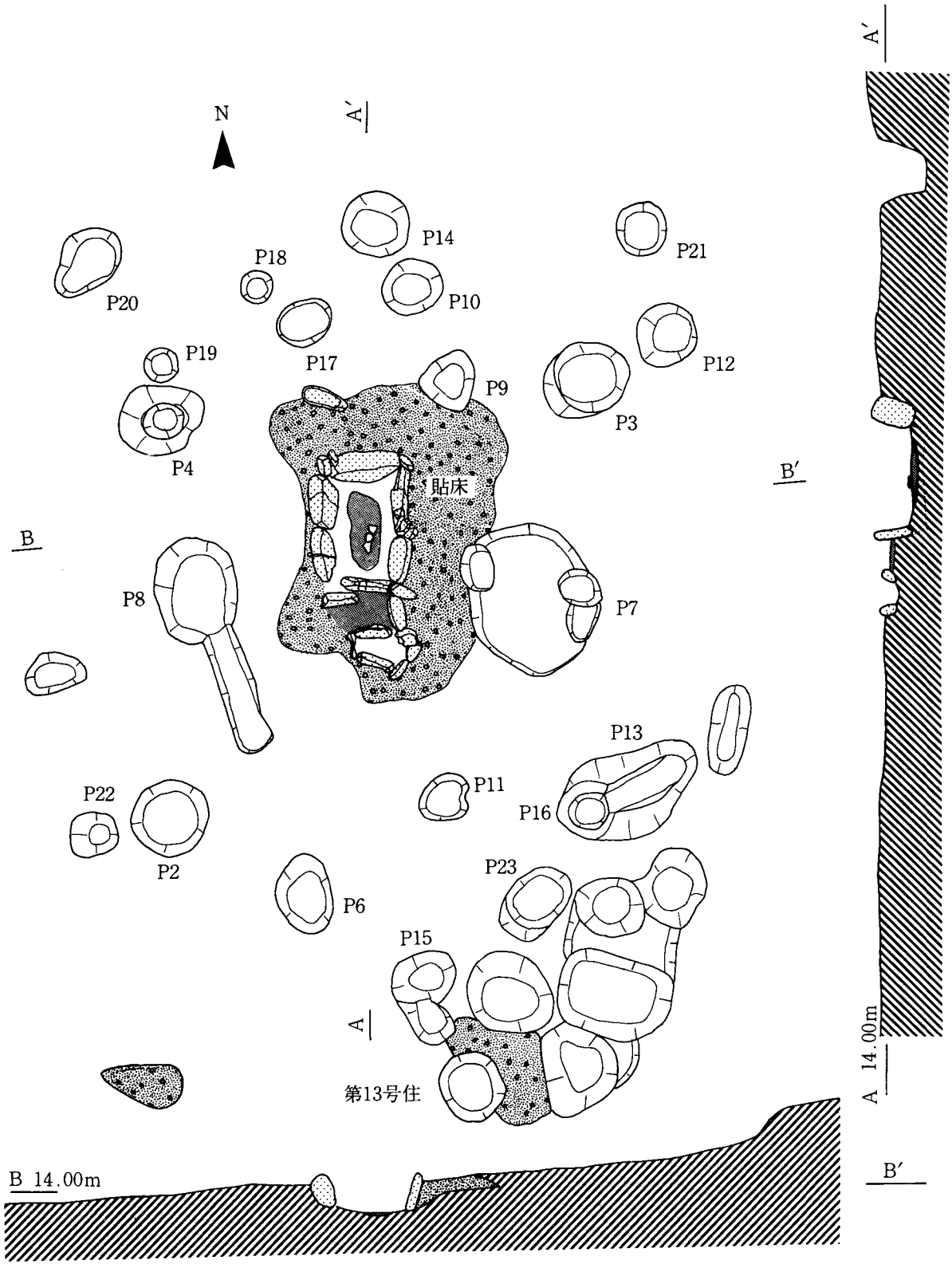
第42図　第25号住居跡



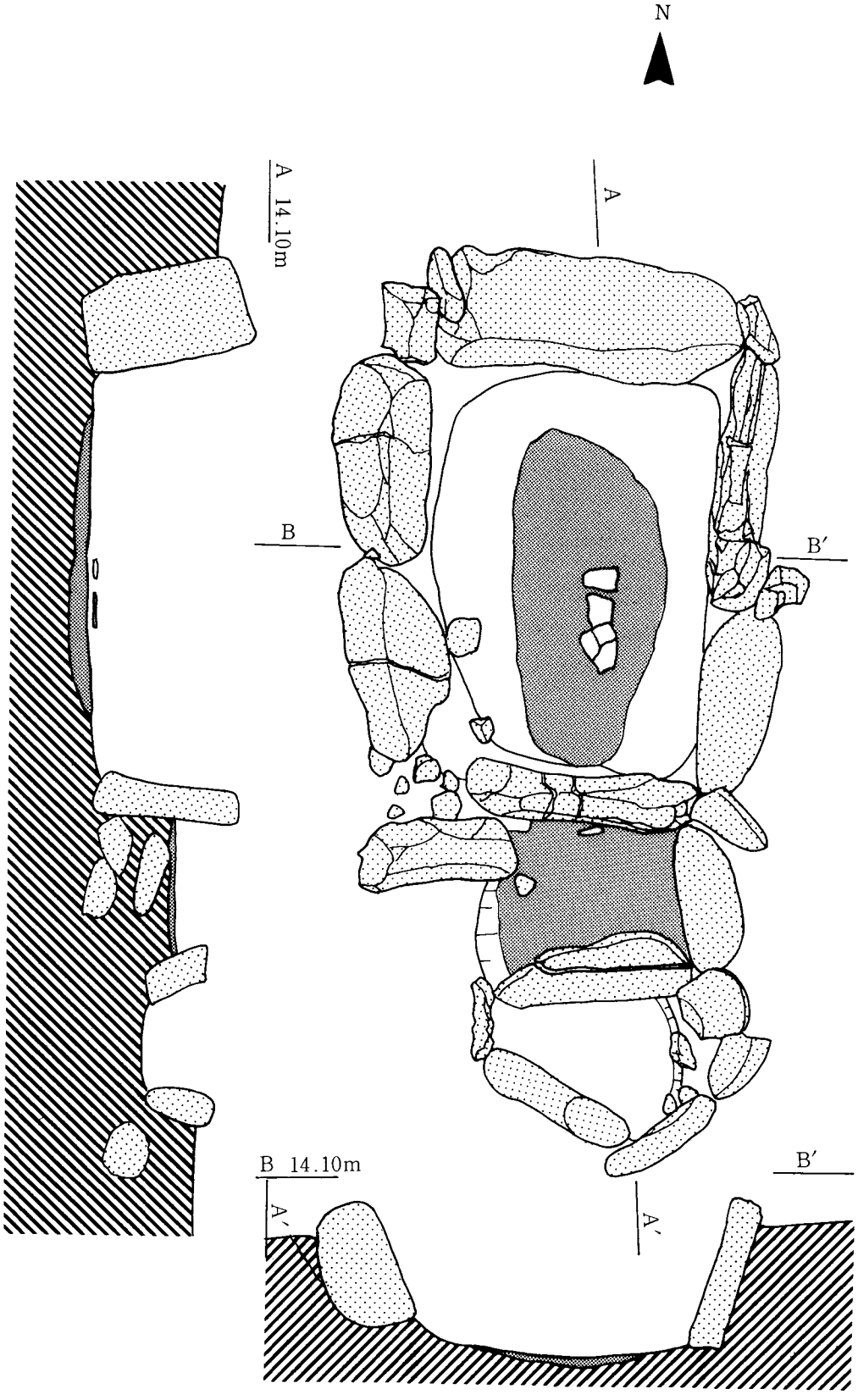
第43図　第18・25号住居跡炉



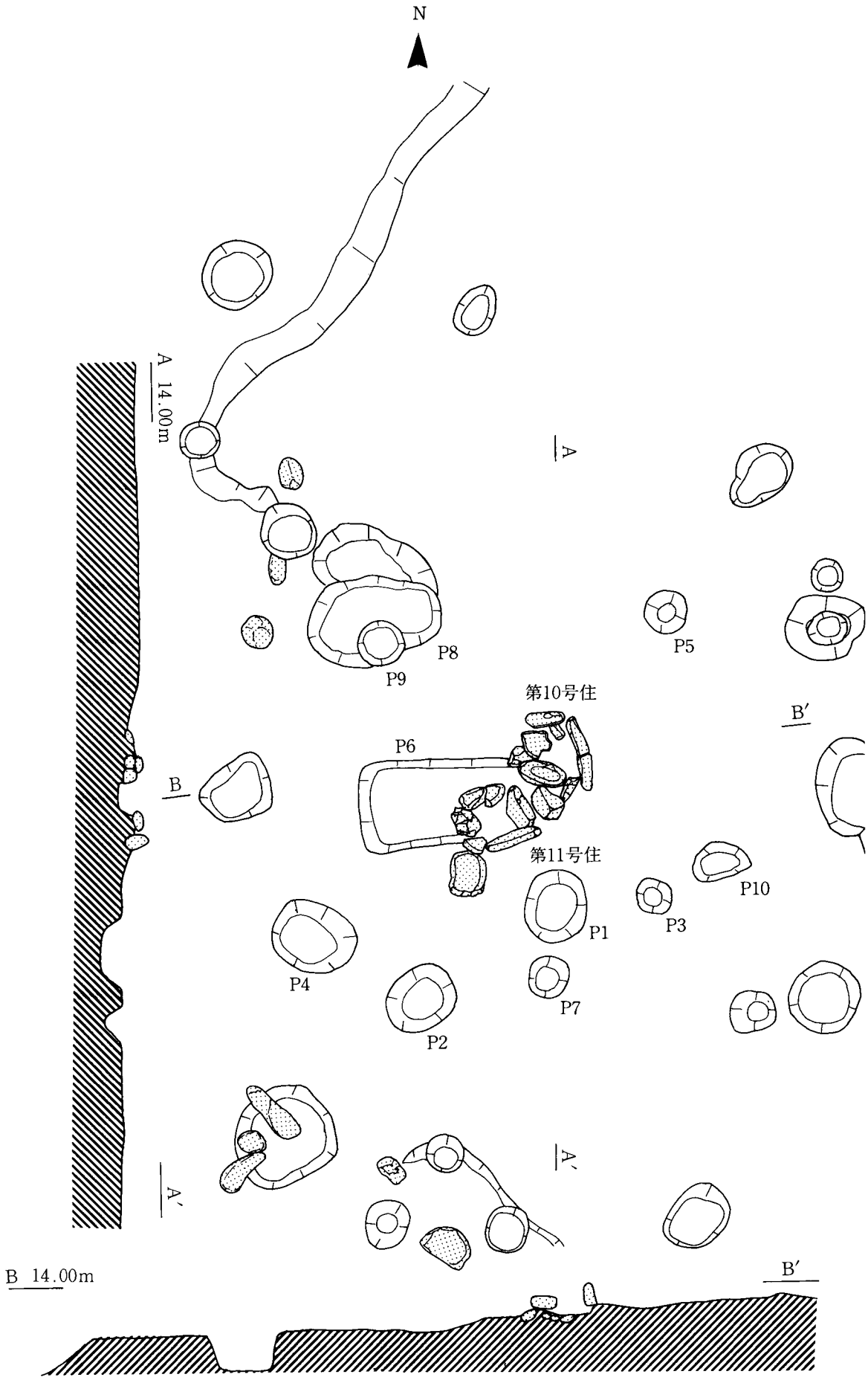
第44図　第18号住居跡


N
A′
A′
P14
P21
P18
P20
P10
P19
P17
P12
P9
P3
P4
貼床
B′
B
P8
P7
P13
P11
P22
P16
P2
P23
P6
P15
A
第13号住
A 14.00m
B 14.00m
B′

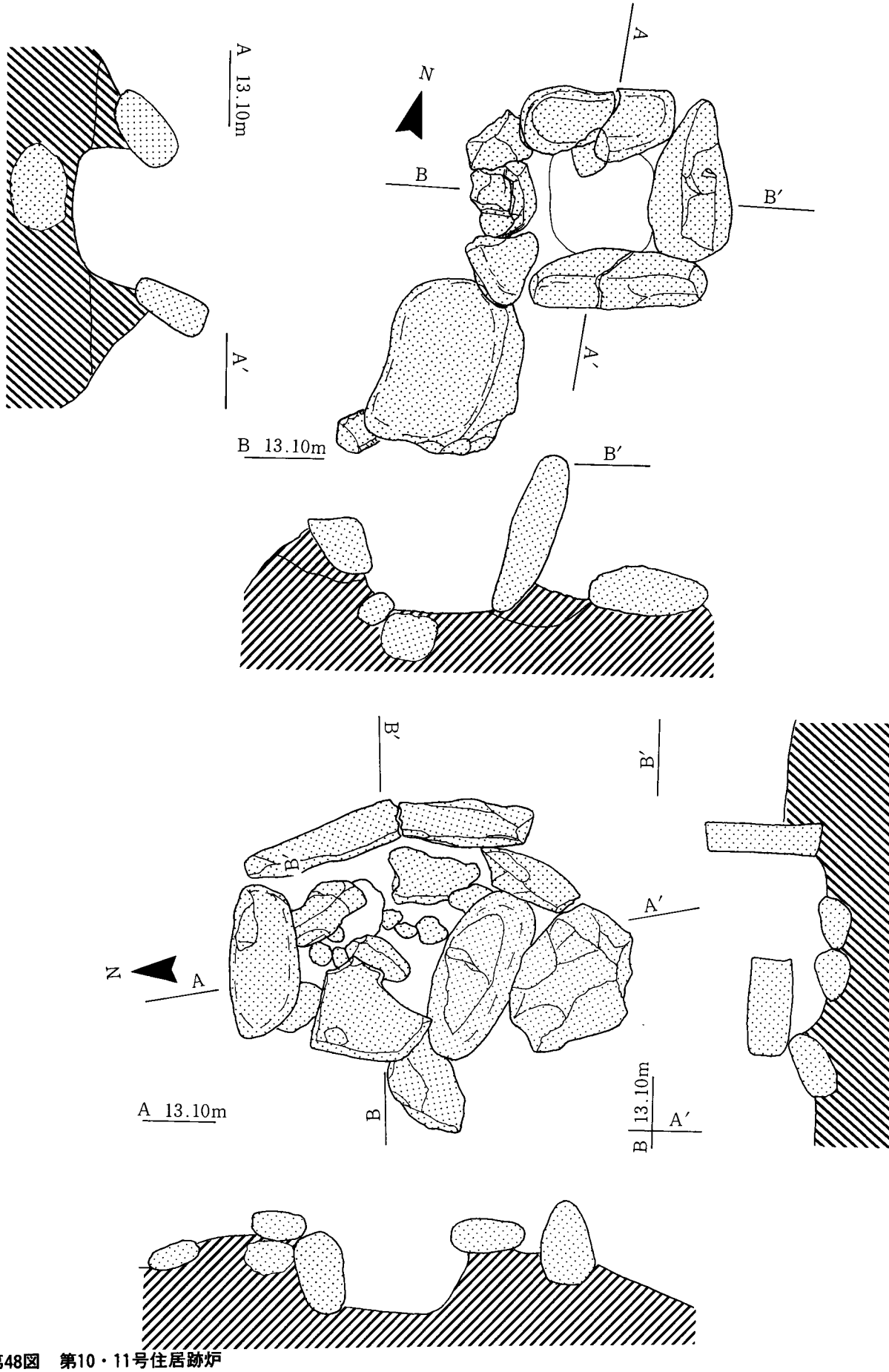
第45図　第９号住居跡



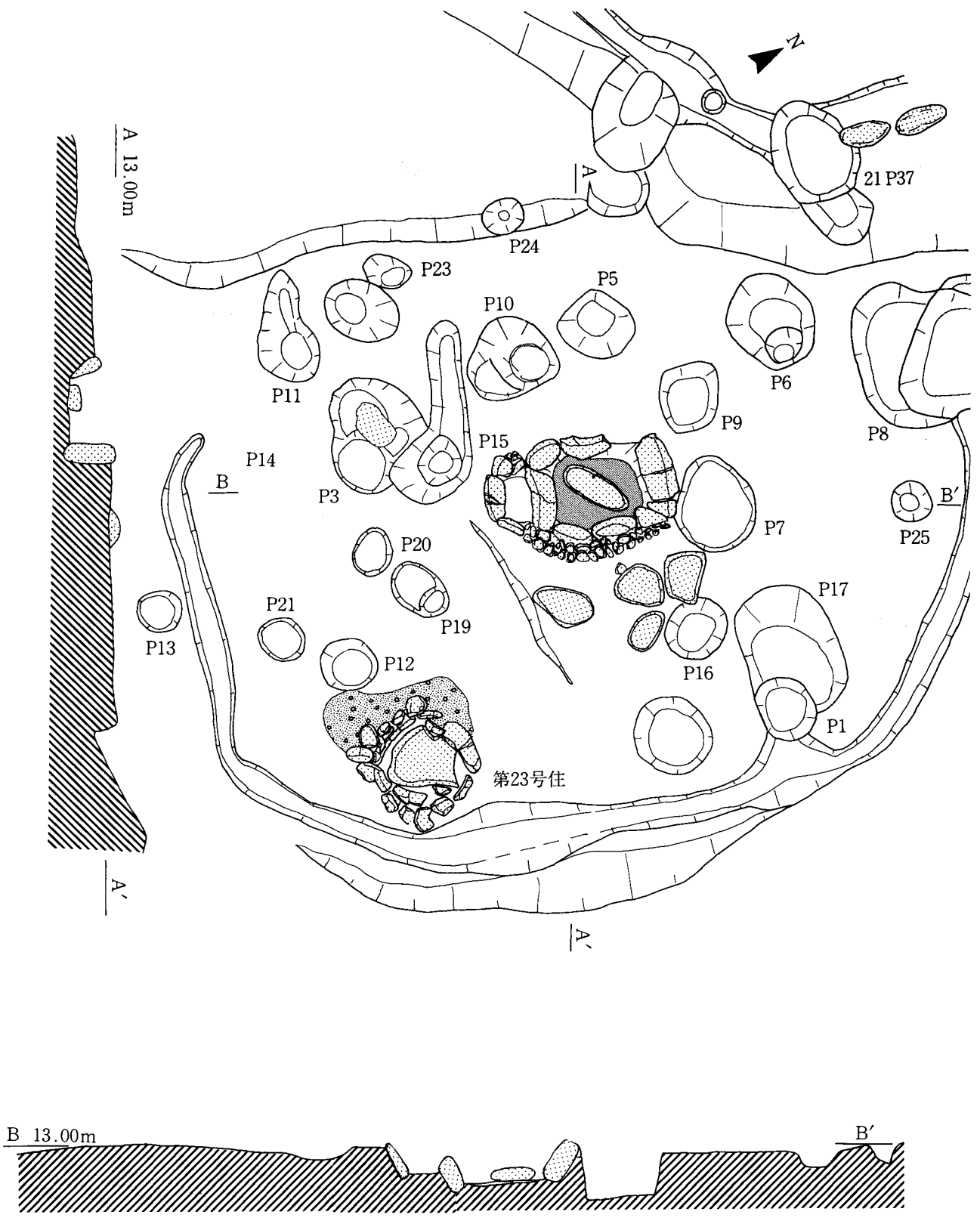
第46図　第９号住居跡炉



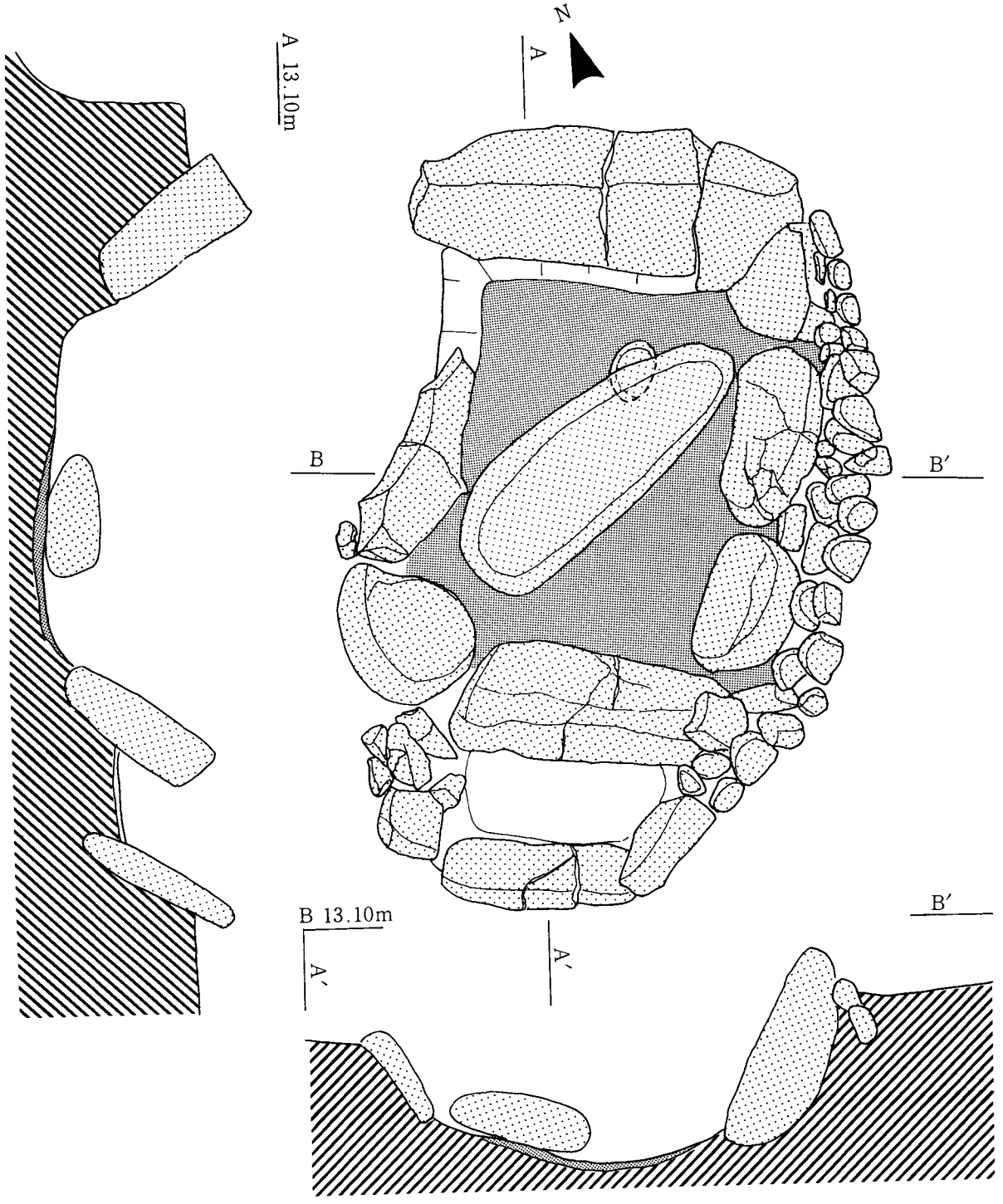
第47図　第10・11号住居跡



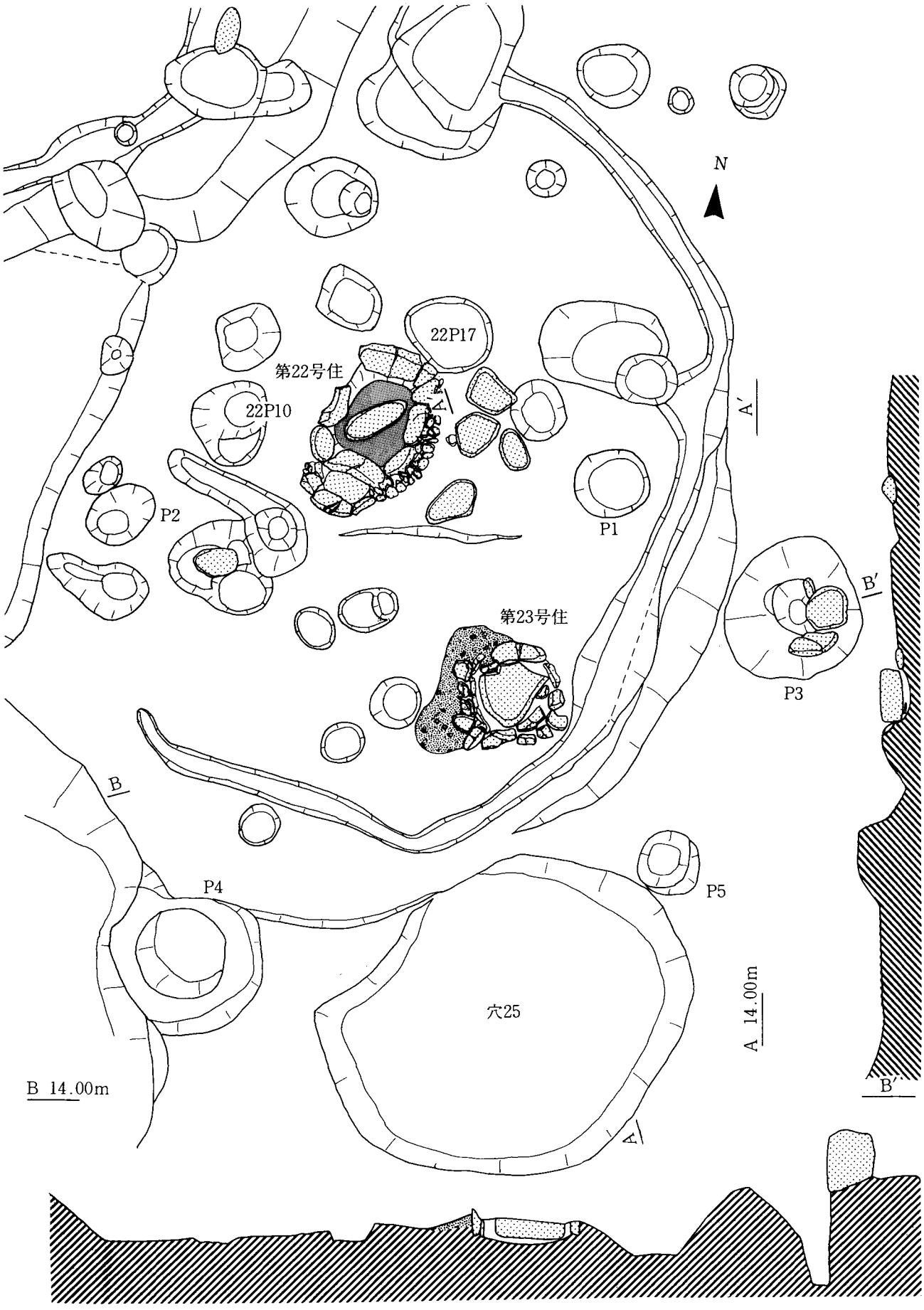
第48図　第10・11号住居跡炉



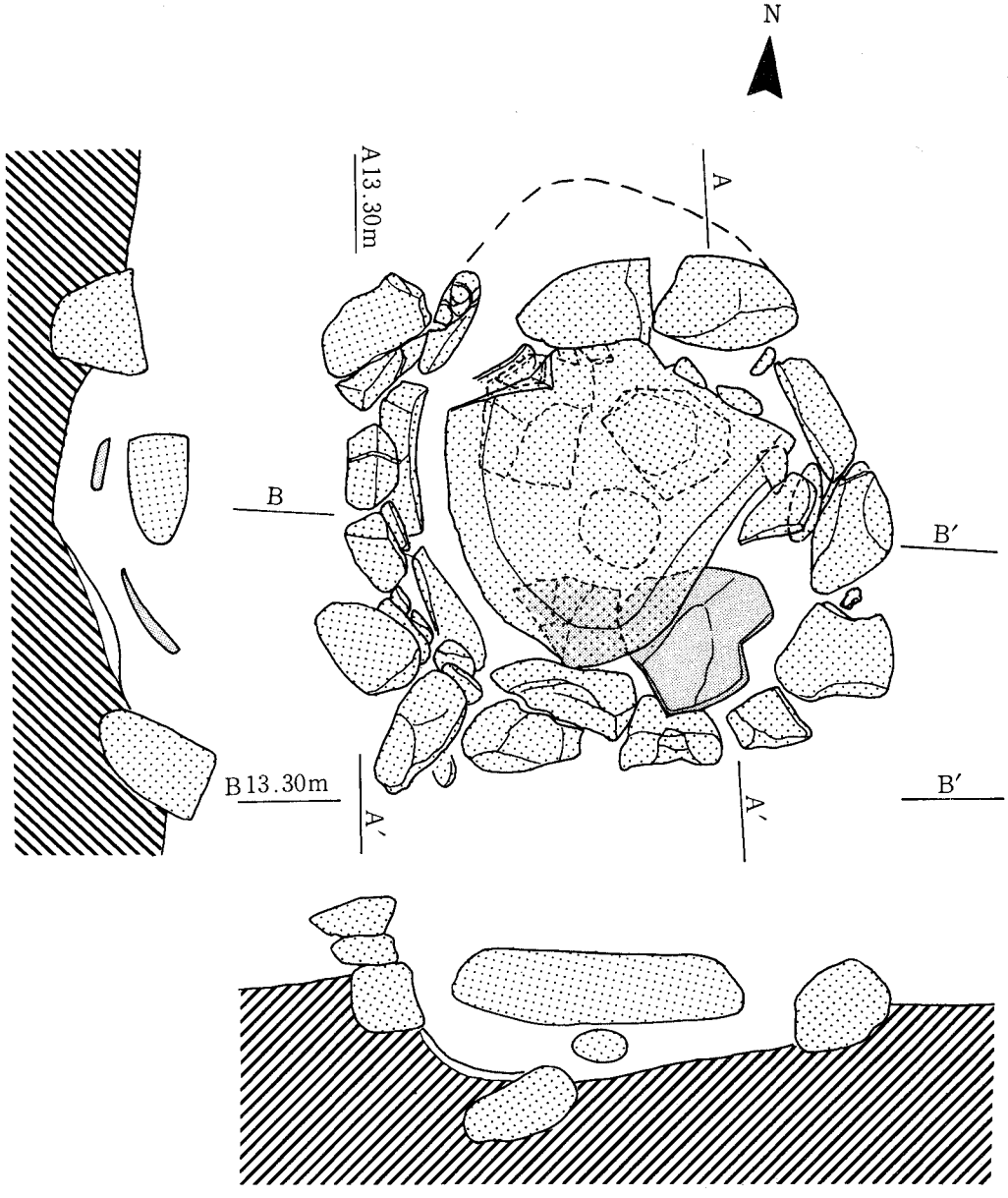
第49図　第22号住居跡



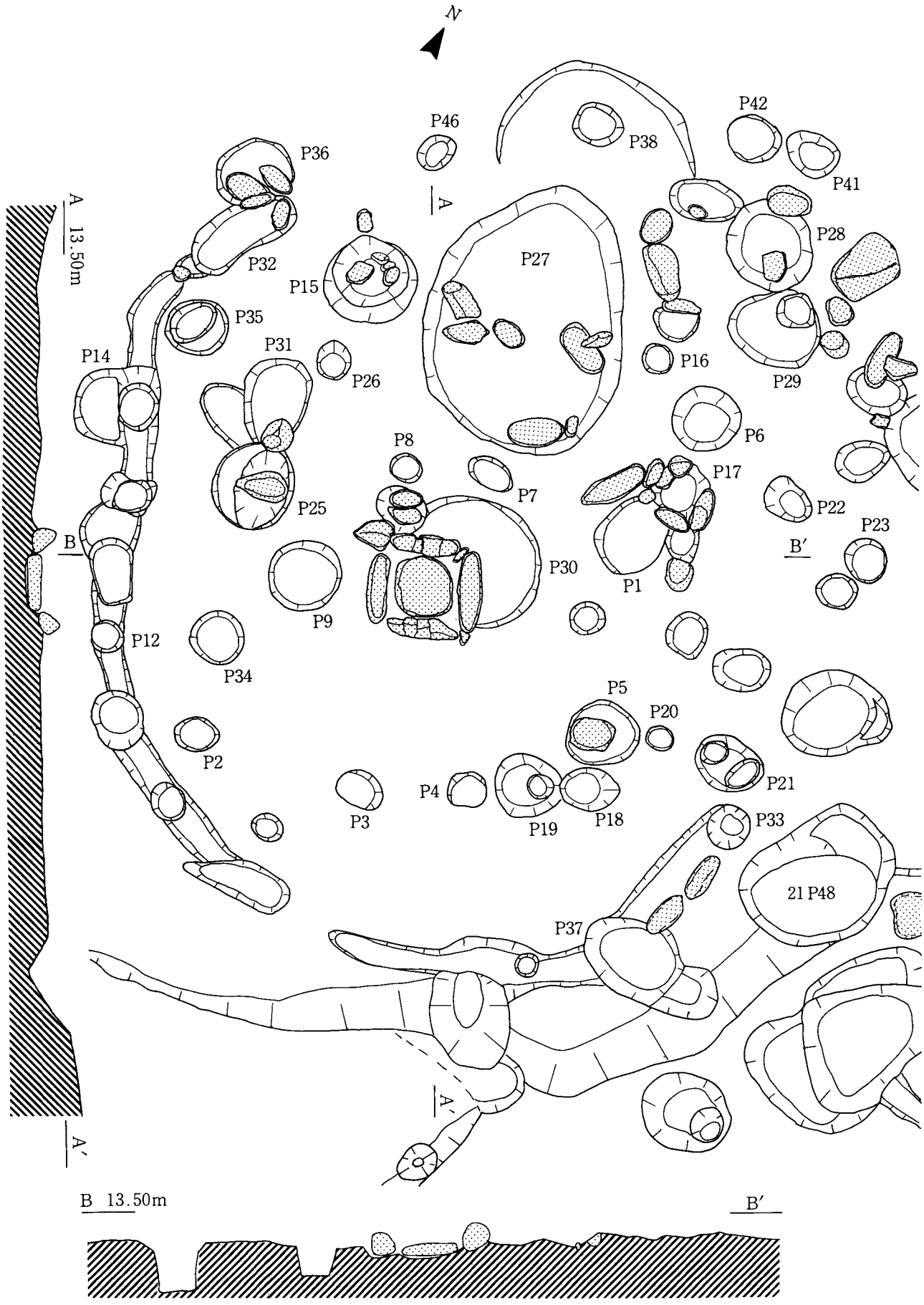
第50図　第22号住居跡炉



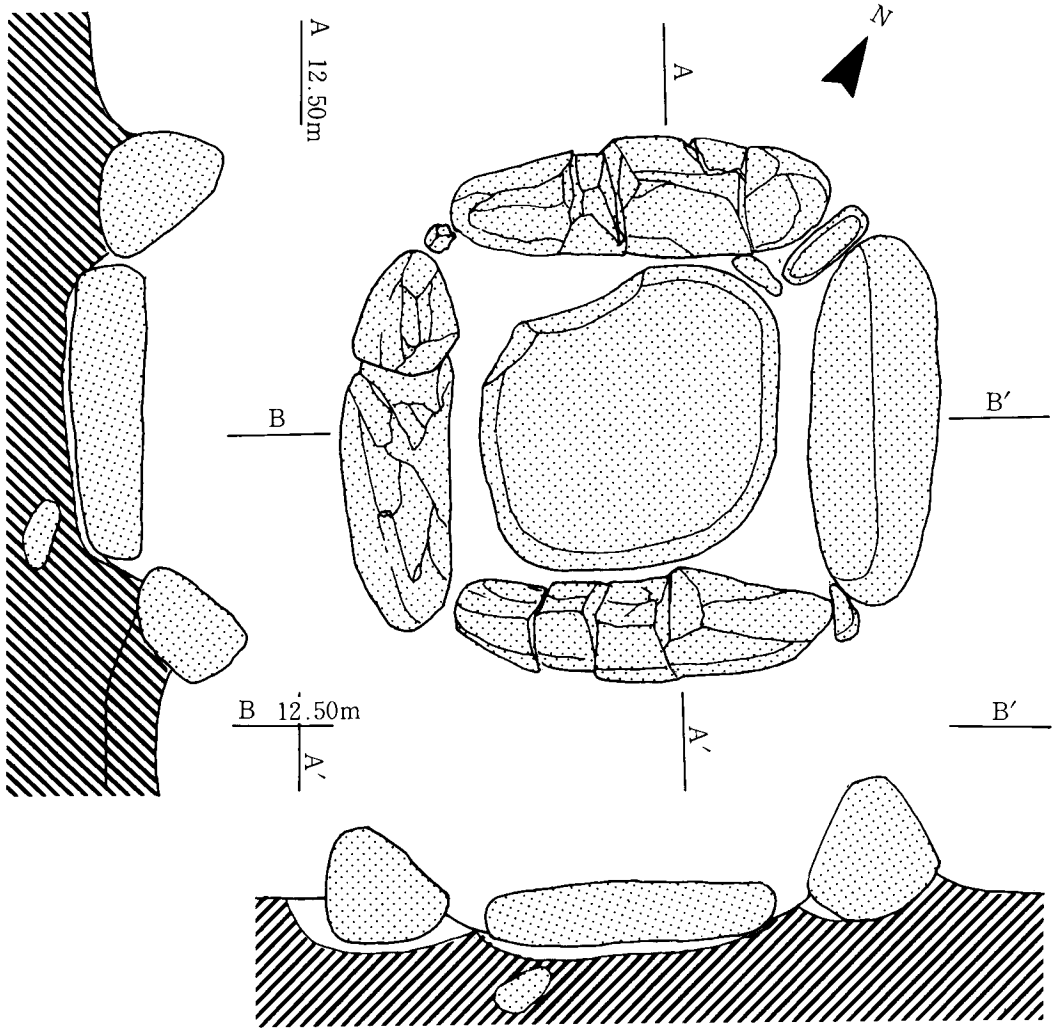
第51図　第23号住居跡



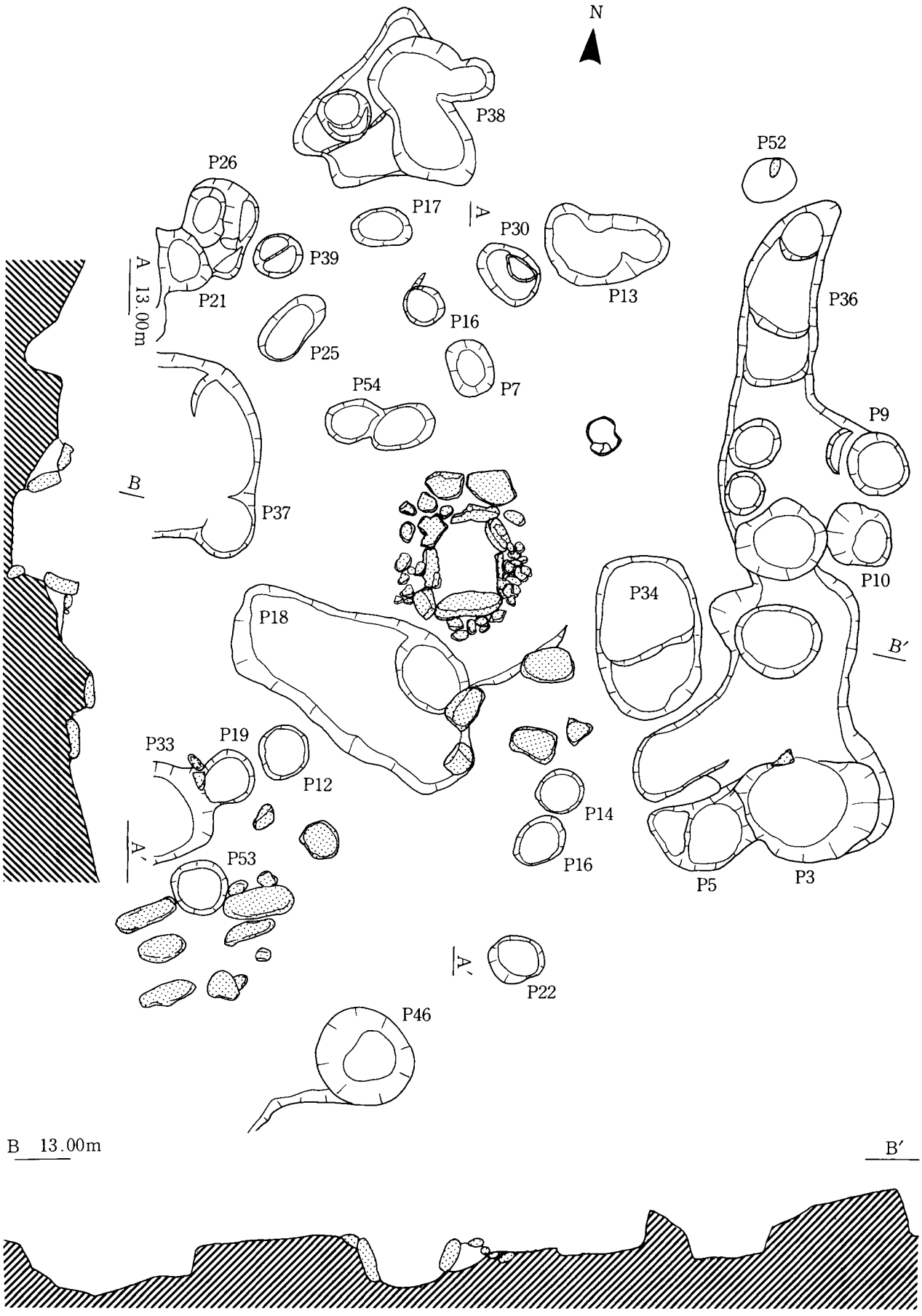
第52図　第23号住居跡炉



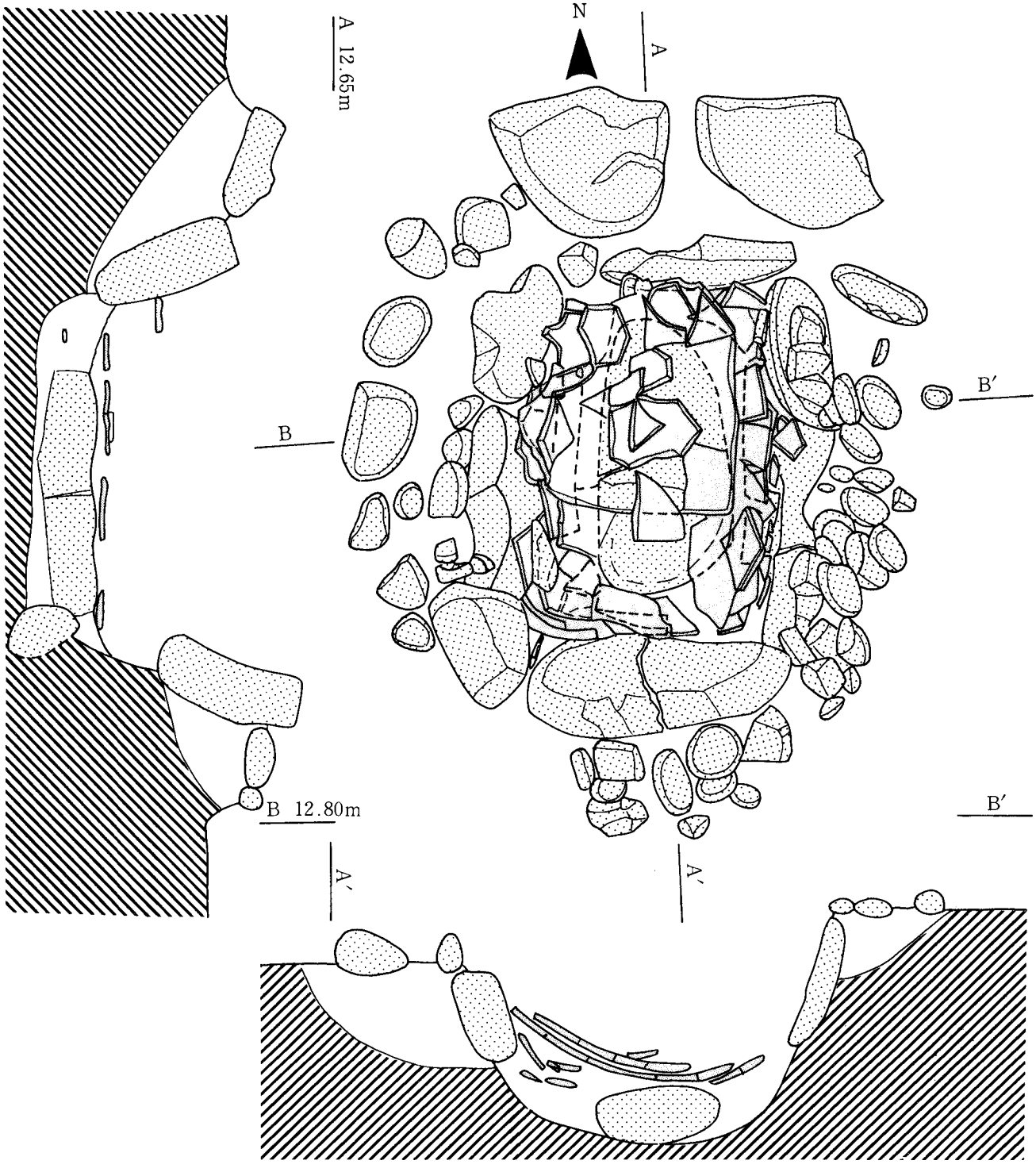
第53図　第21号住居跡



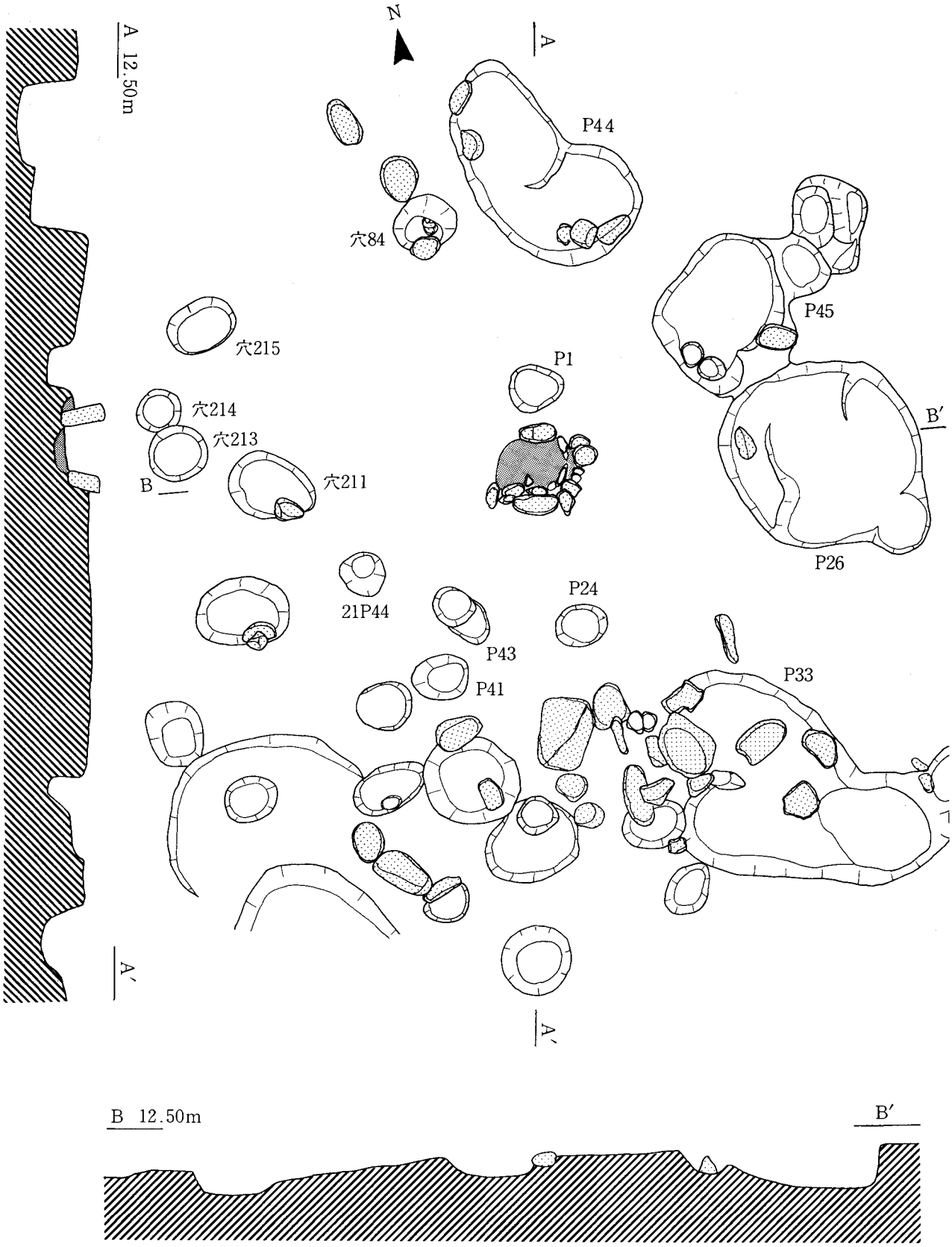
第54図　第21号住居跡炉



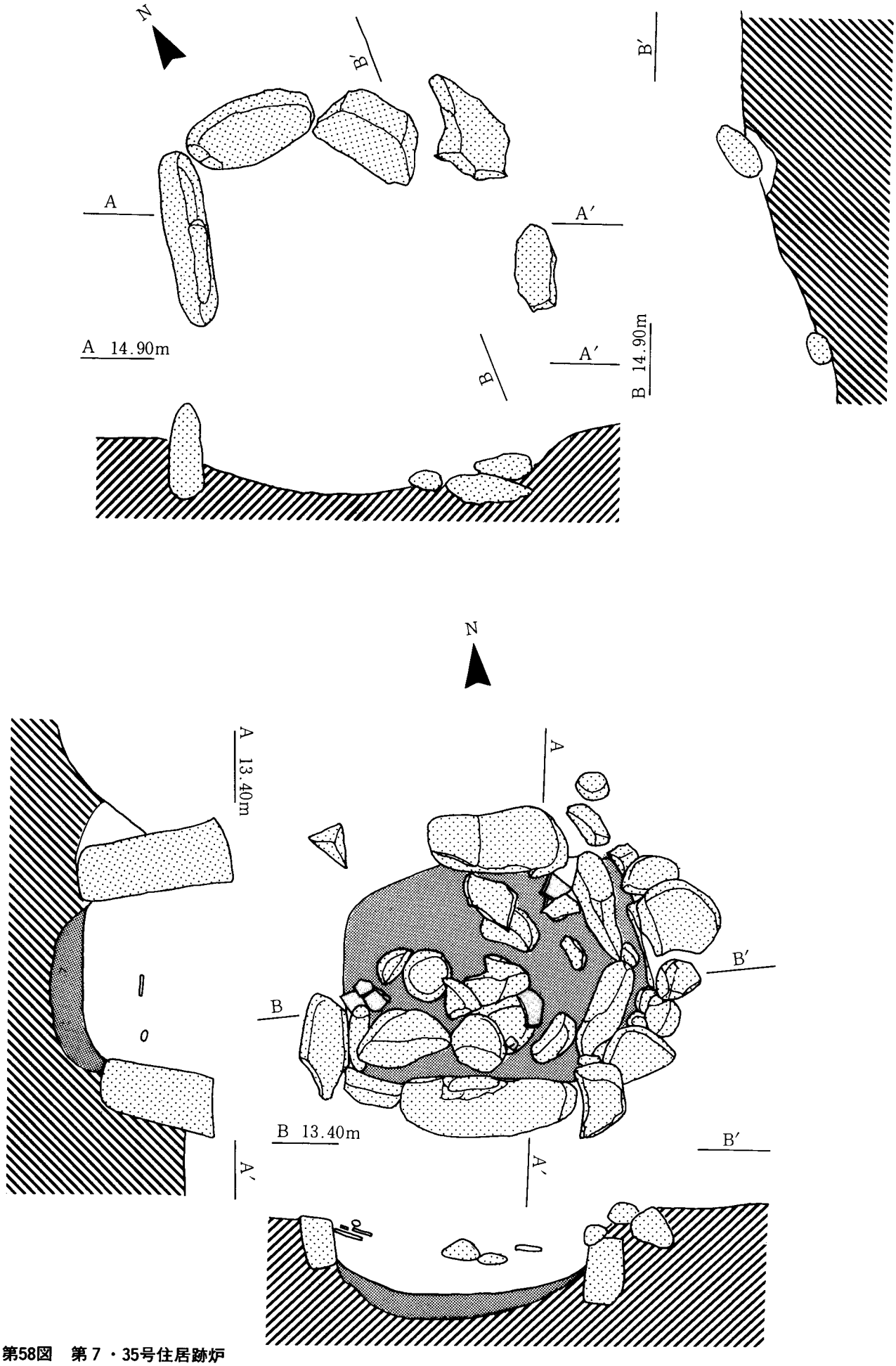
第55図　第26号住居跡



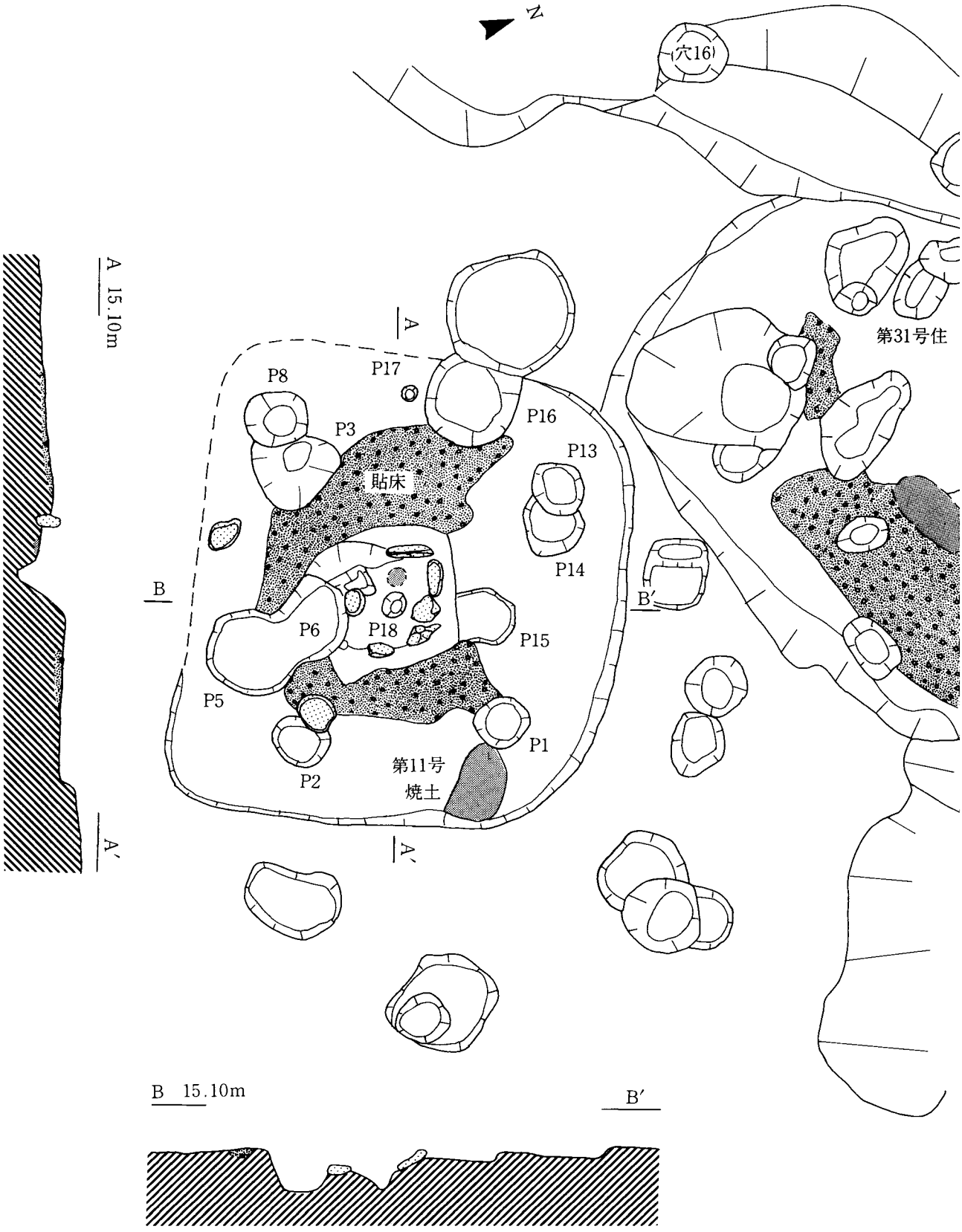
第56図　第26号住居跡炉



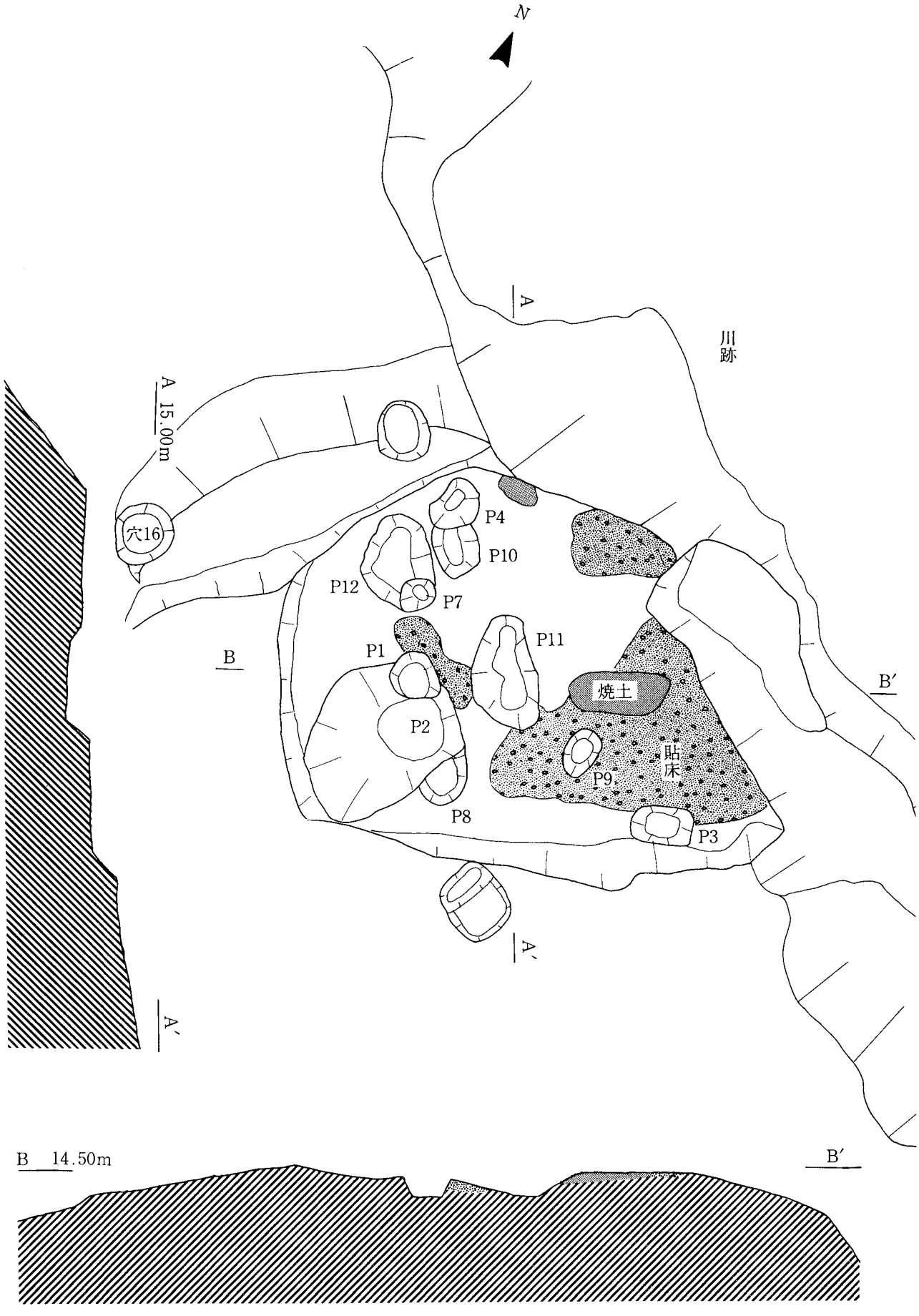
第57図　第35号住居跡



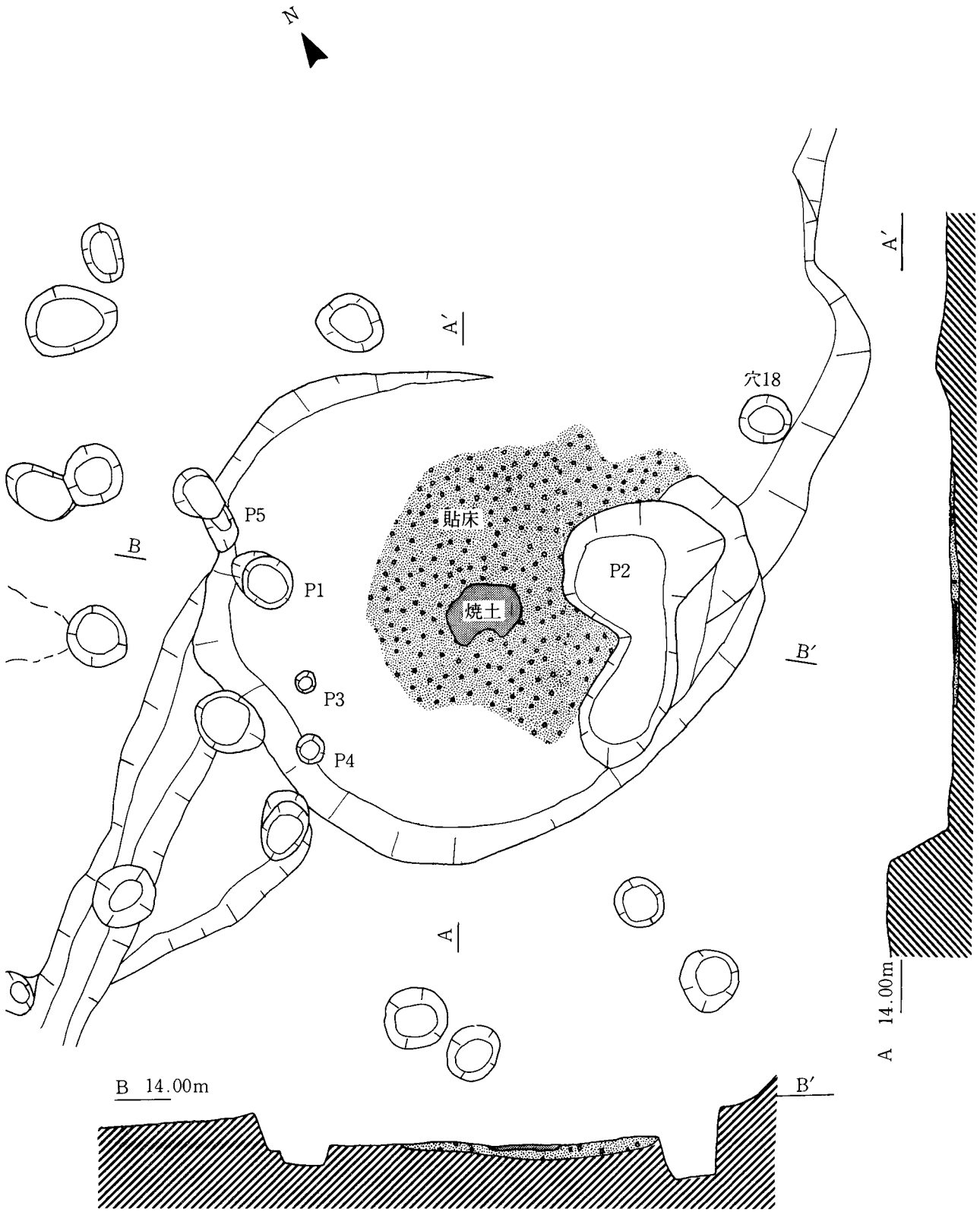
第58図　第７・35号住居跡炉


N
(穴16)
第31号住
A 15.10m
A
A′
P8
P17
P3
P16
P13
貼床
P14
B
B′
P6
P18
P15
P5
P1
P2
第11号
焼土
B 15.10m
B′

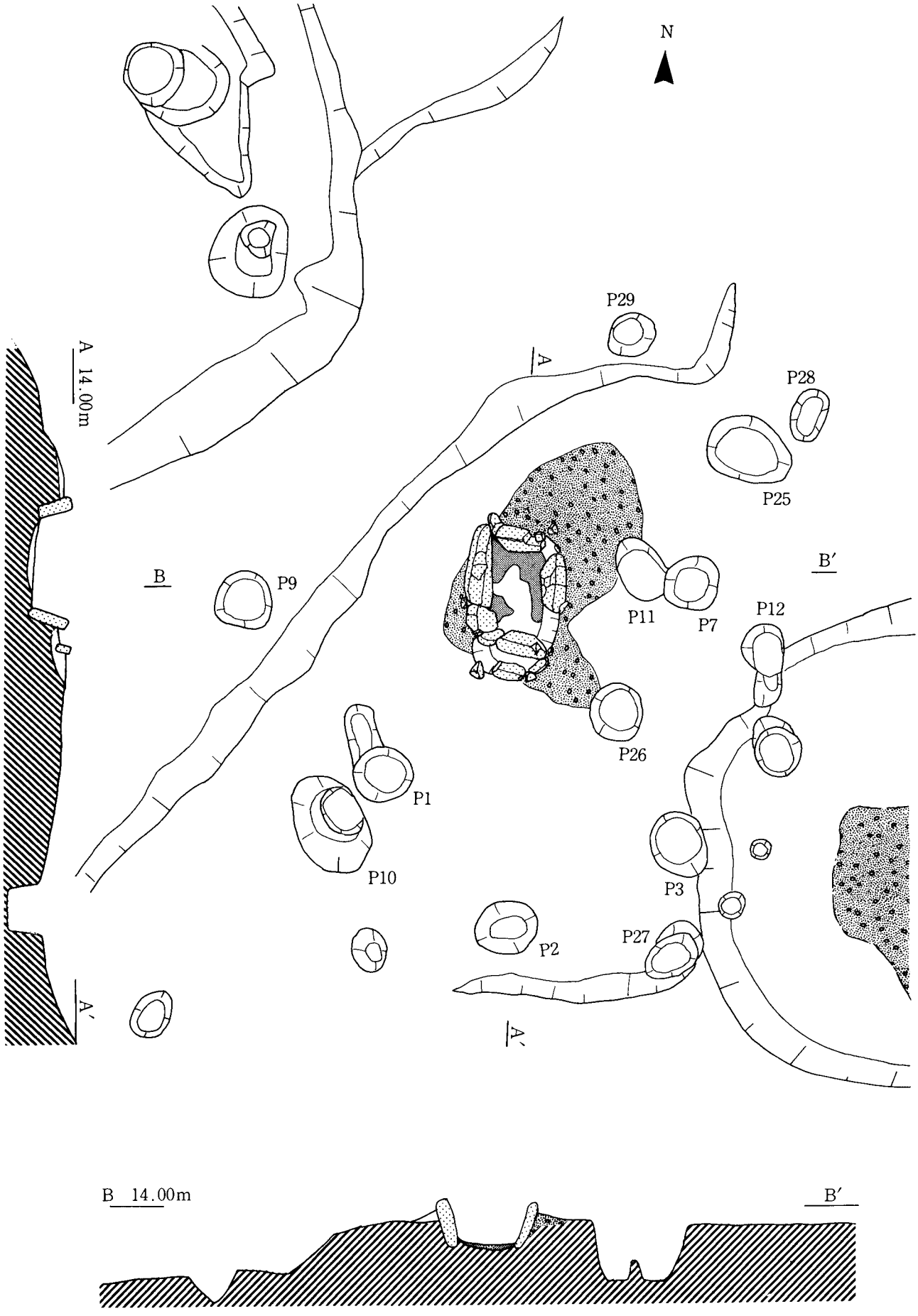
第59図　第７号住居跡



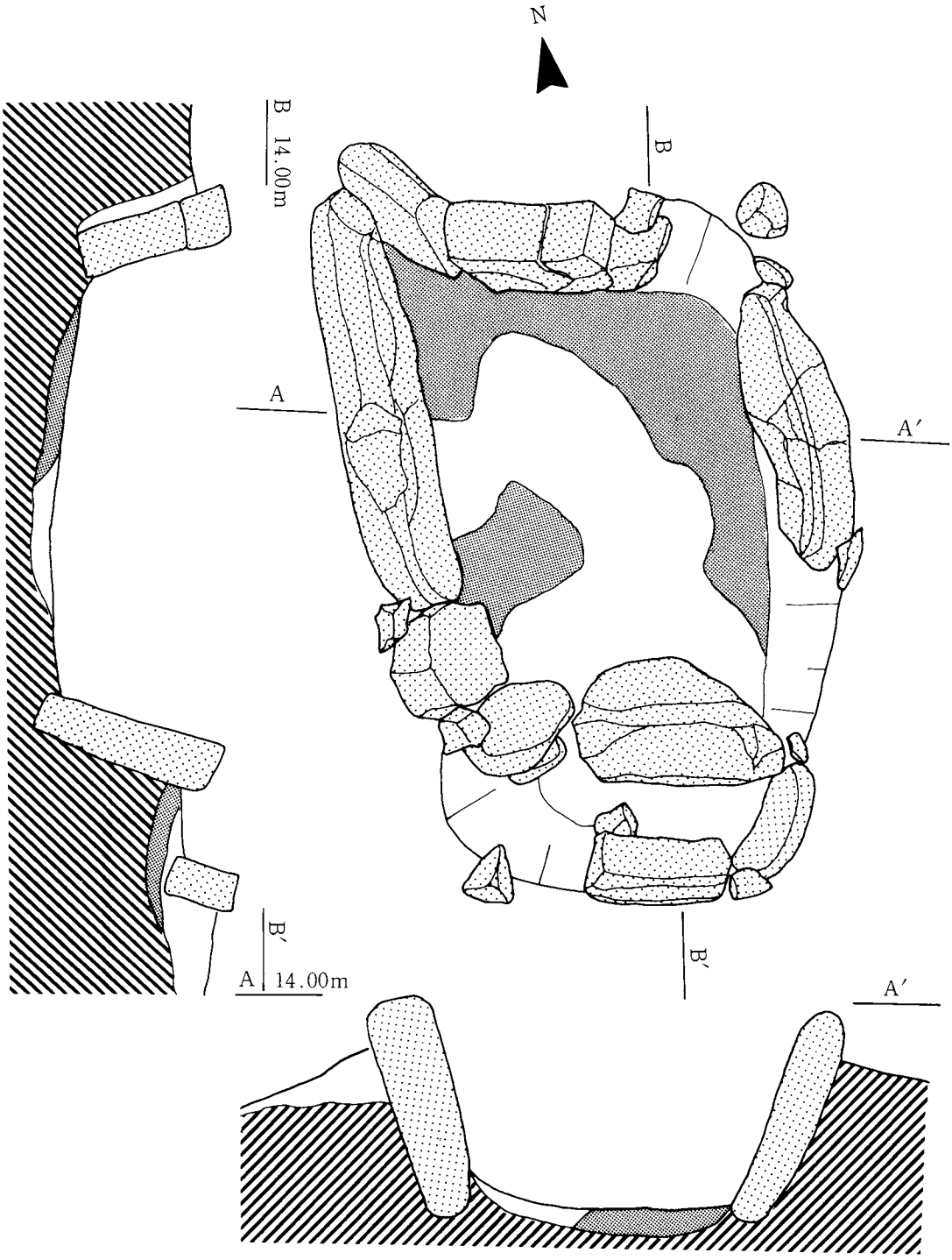
第60図　第31号住居跡



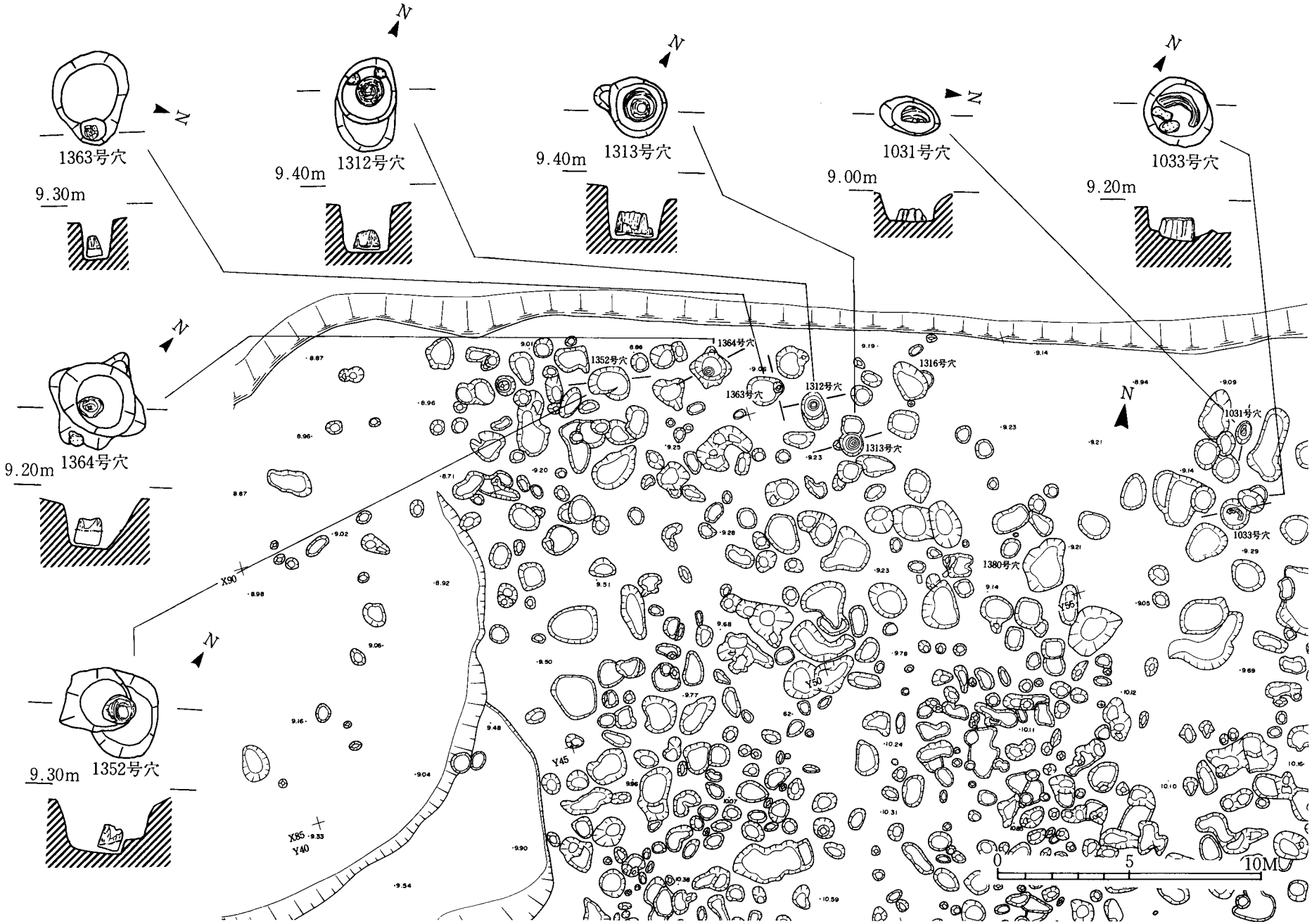
第61図　第16号住居跡



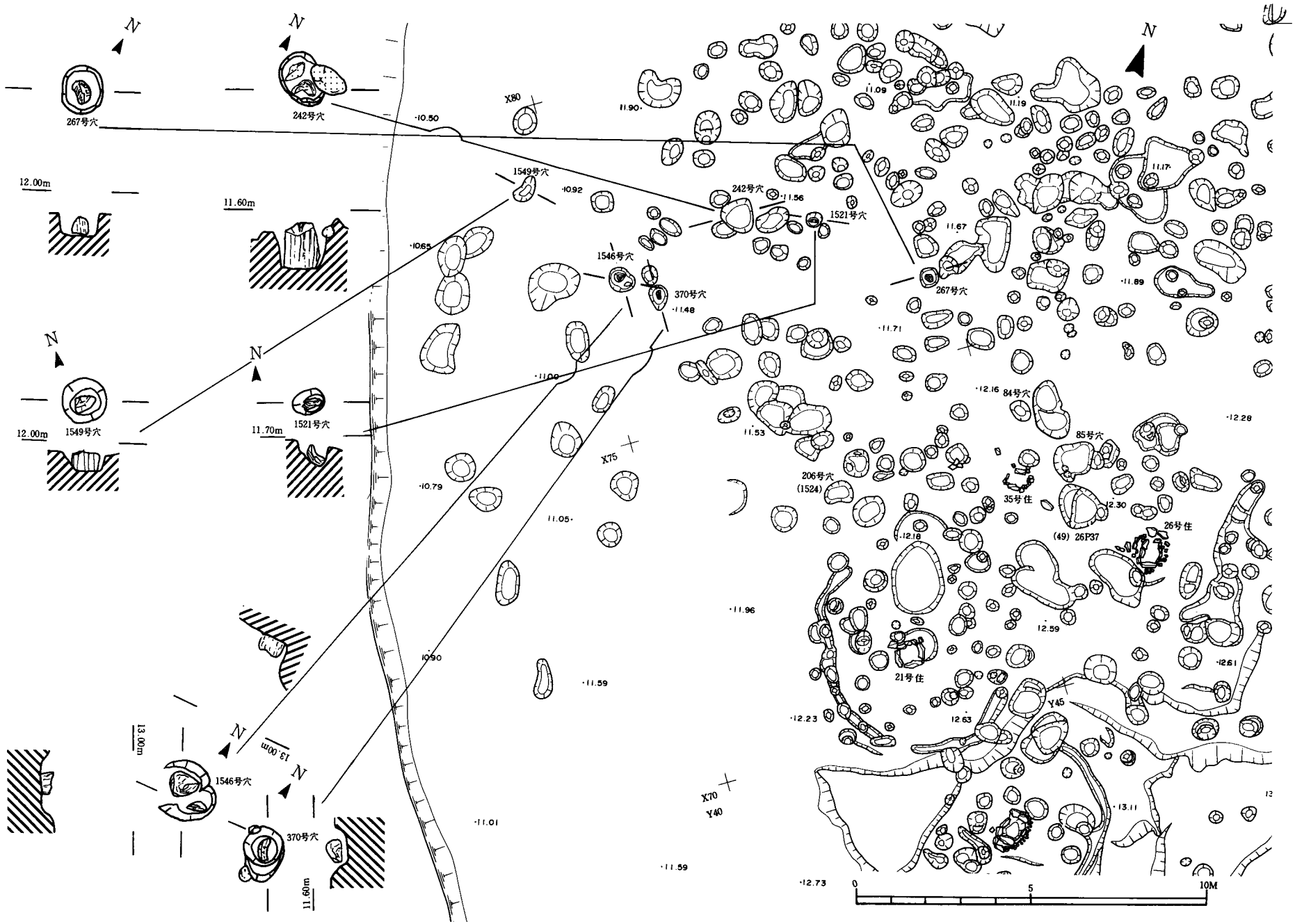
第62図　第17号住居跡



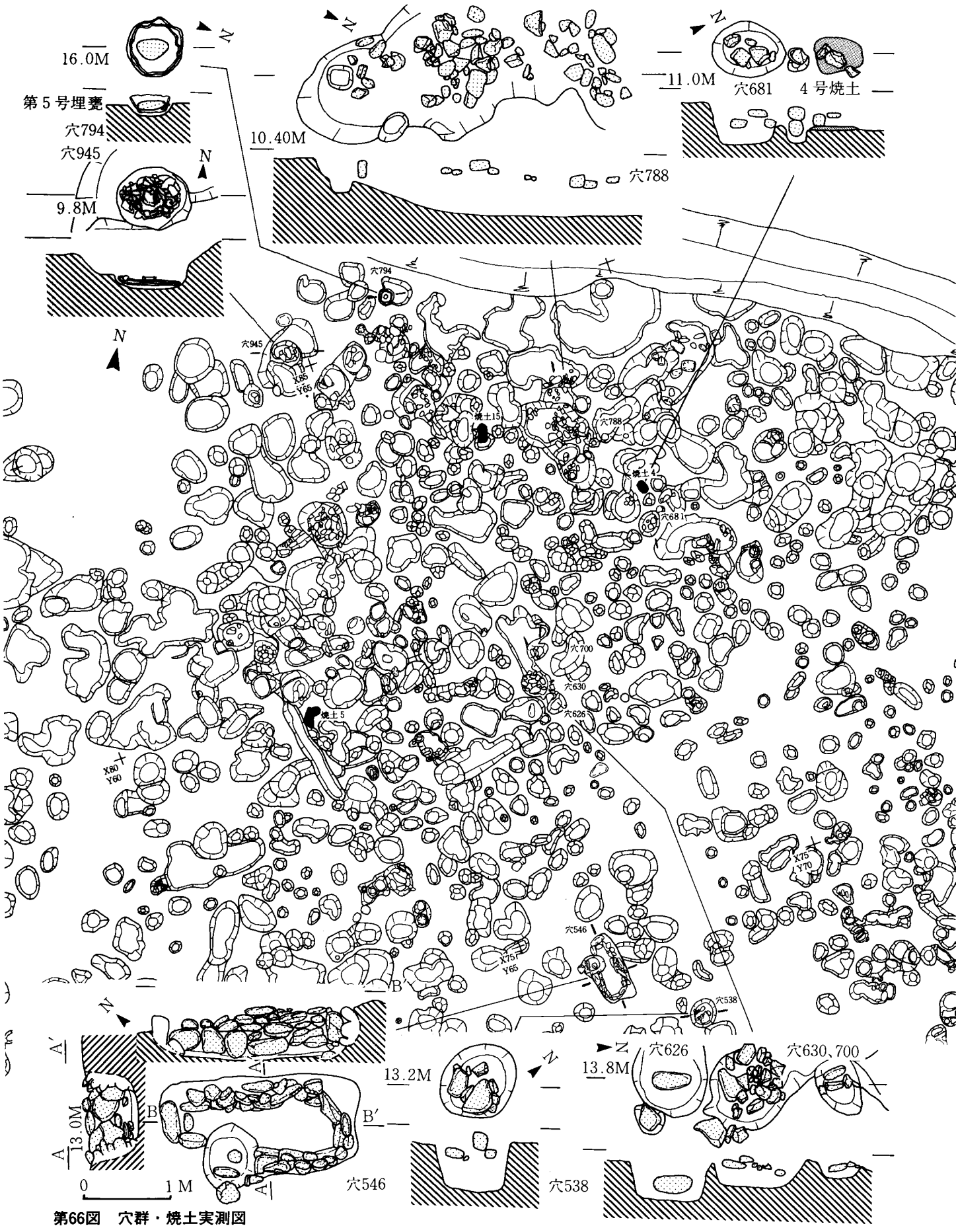
第63図　第17号住居跡炉



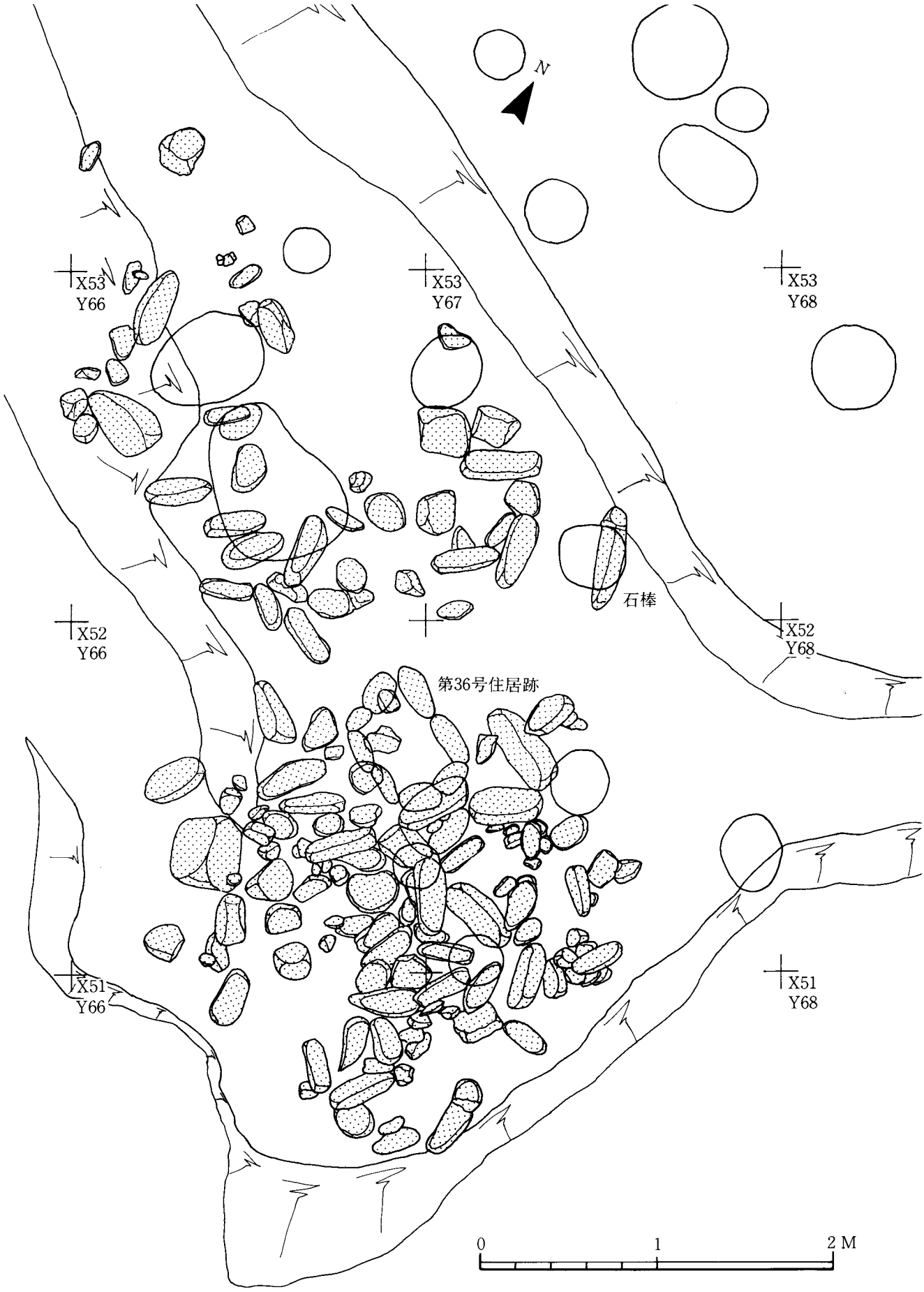
第64図　木柱痕出土穴実測図



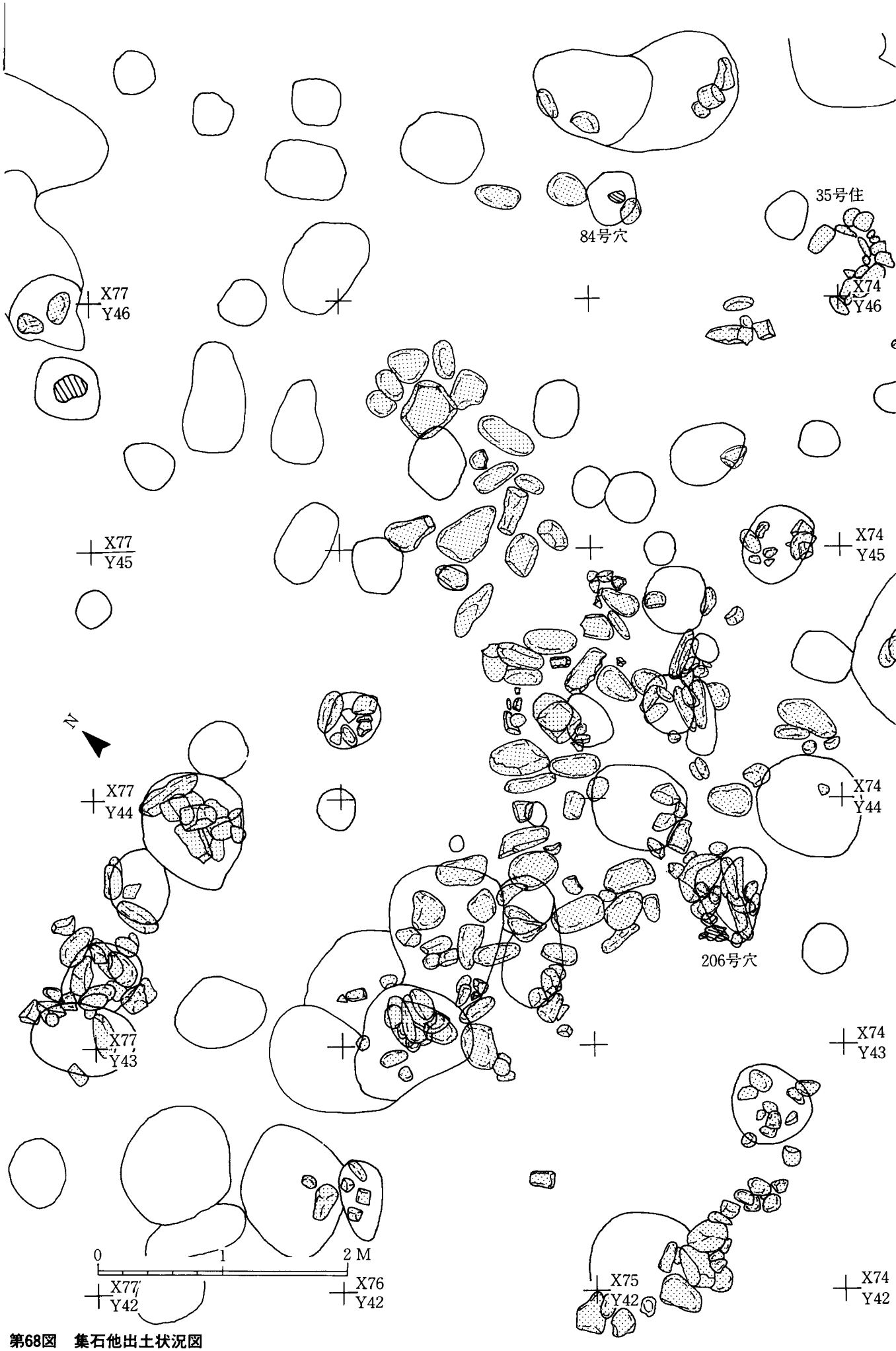
第65図　木柱痕出土穴実測図



第66図　穴群・焼土実測図



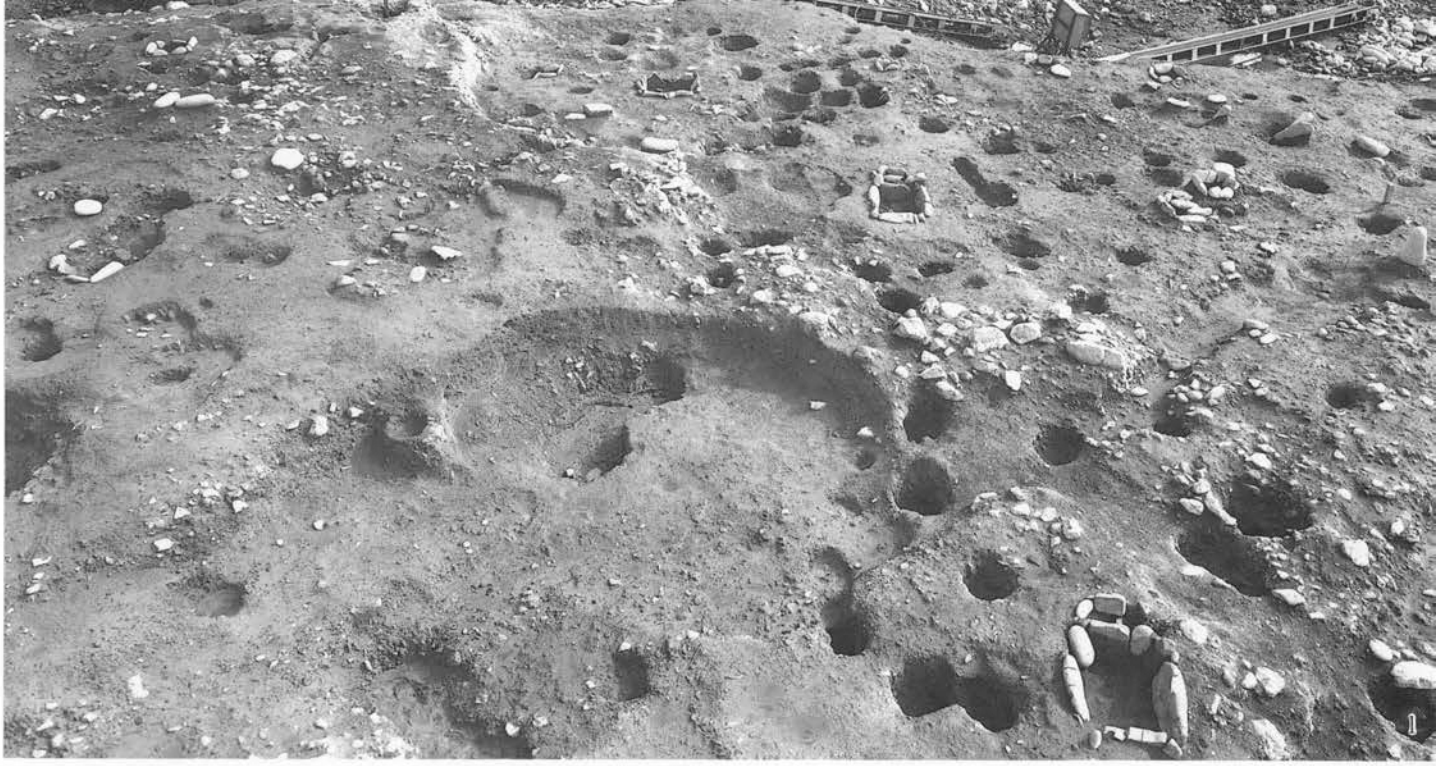
第67図　集石他出土状況図



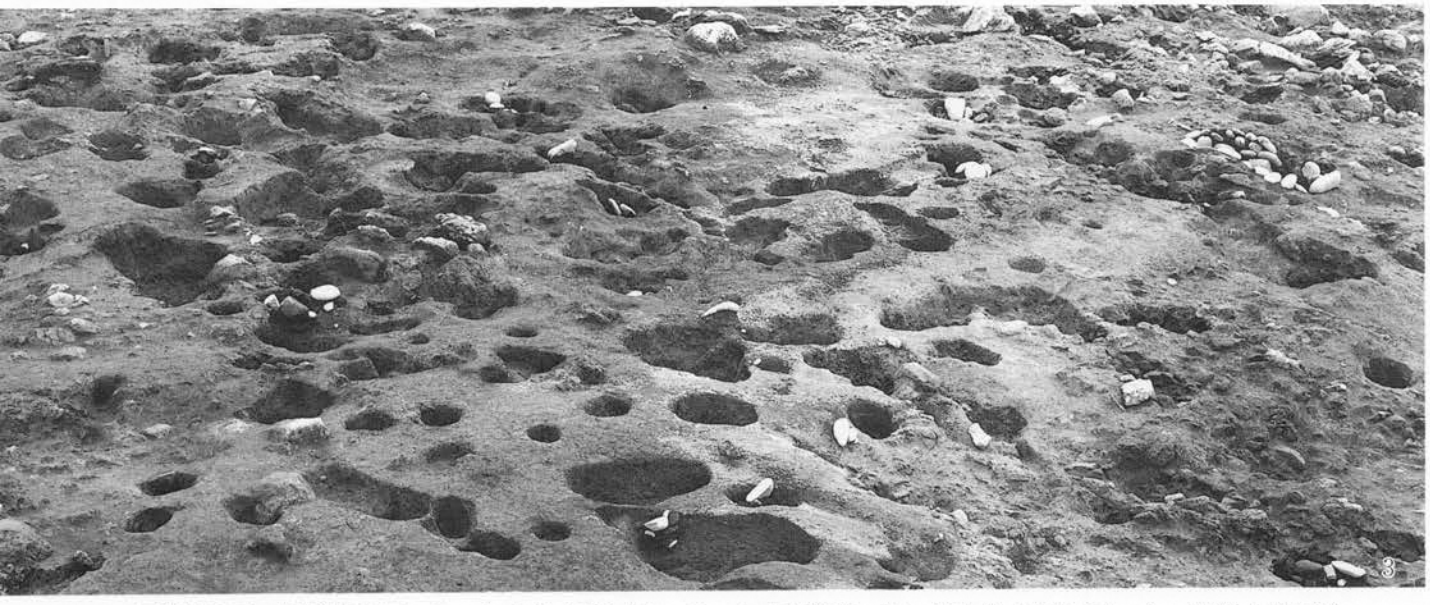
第68図　集石他出土状況図

写　真　図　版

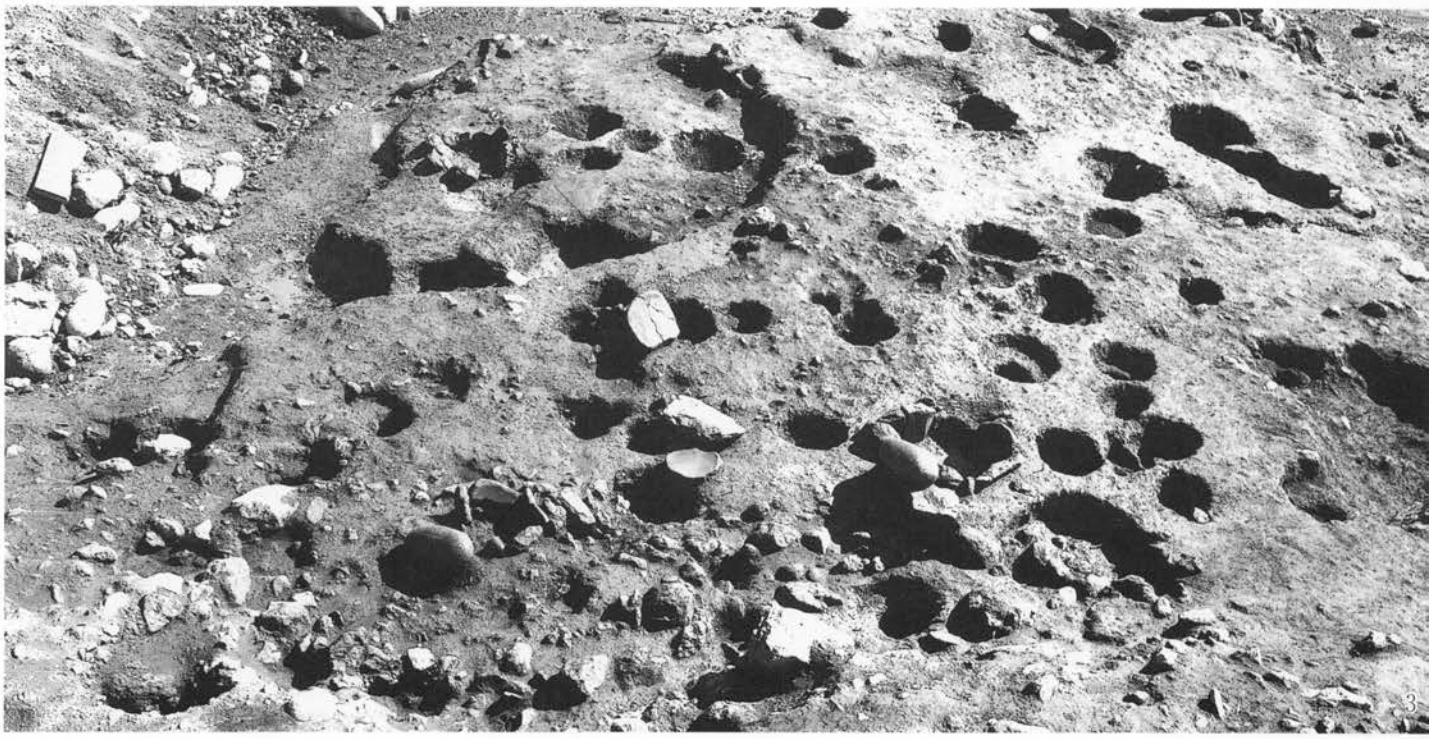
図版第1図　全景　1．全景（西より）　2．全景（南より）　3．全景（西より）



図版第２図　遺構集中区　１．中央部（北より）　２．中央部（南より）　３．中央部（東より）

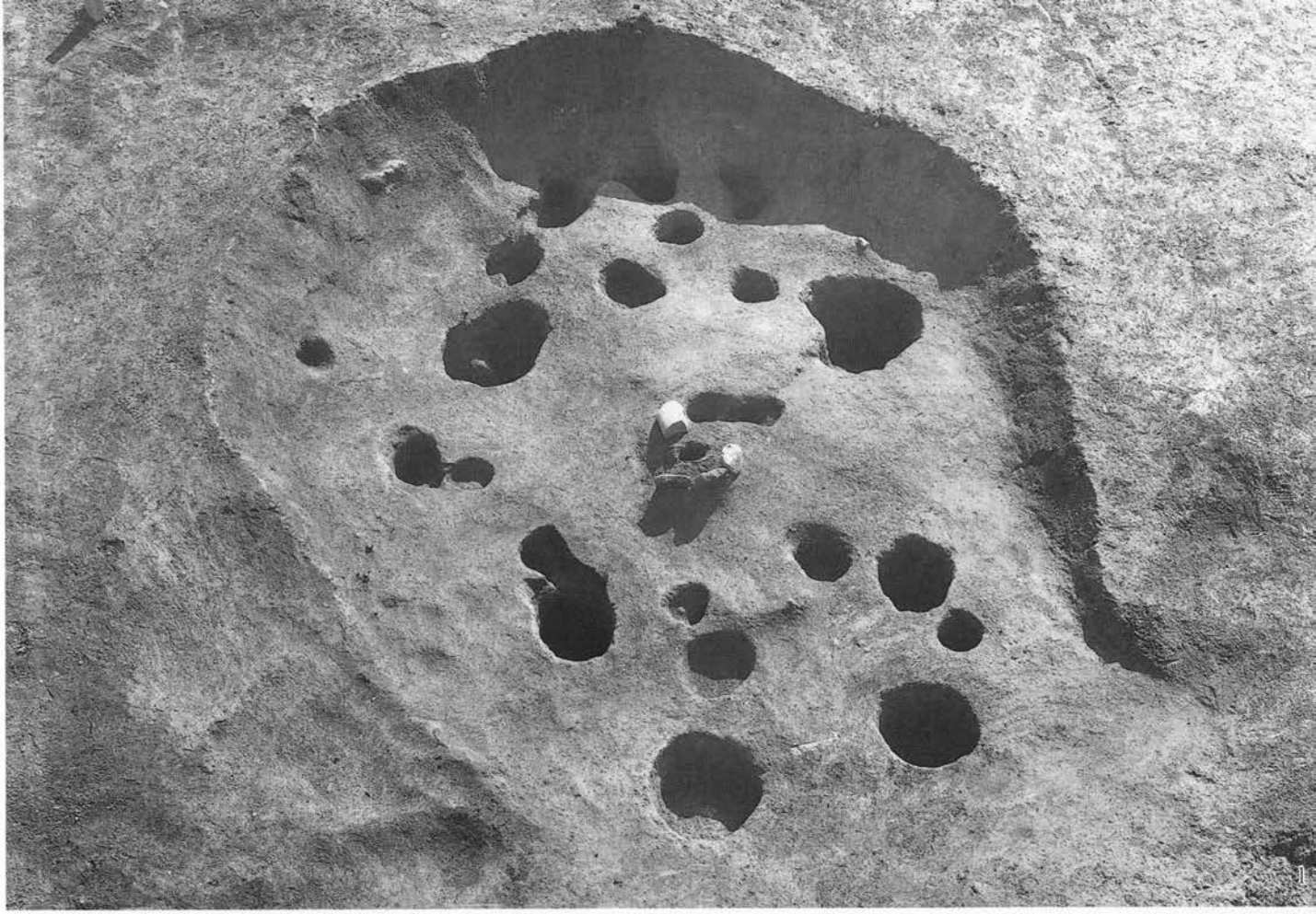


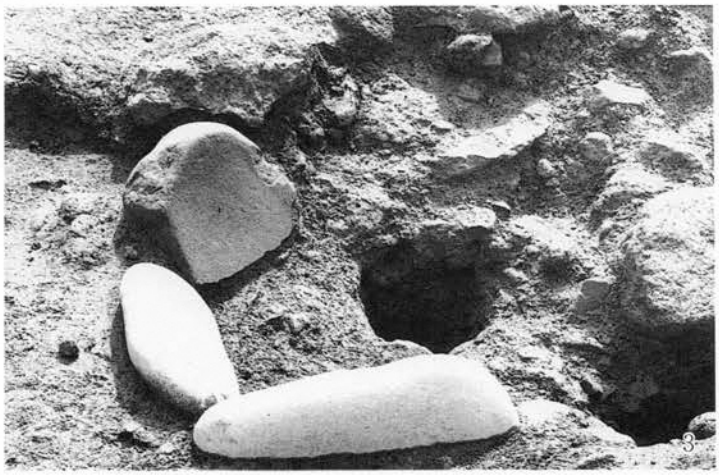
図版第３図　遺構集中区　１．中央部（西より）　２．中央部第29・30・33号住（南より）　３．穴群（北より）



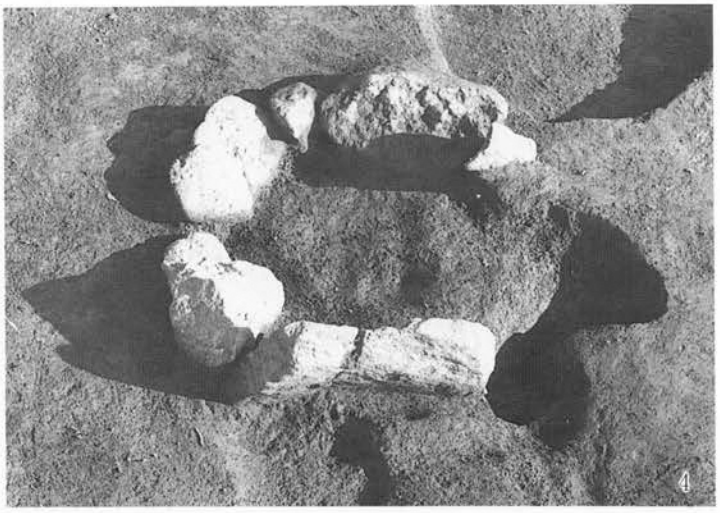
図版第４図　遺構集中区　１．中央部（東より）　２．第１・15・28・36号住居跡と集石（南より）
３．第１・15・28・36号住（東より）

図版第5図　第4・5号住居跡　1．全景（西より）　2．全景（南より）　3．全景（西より）



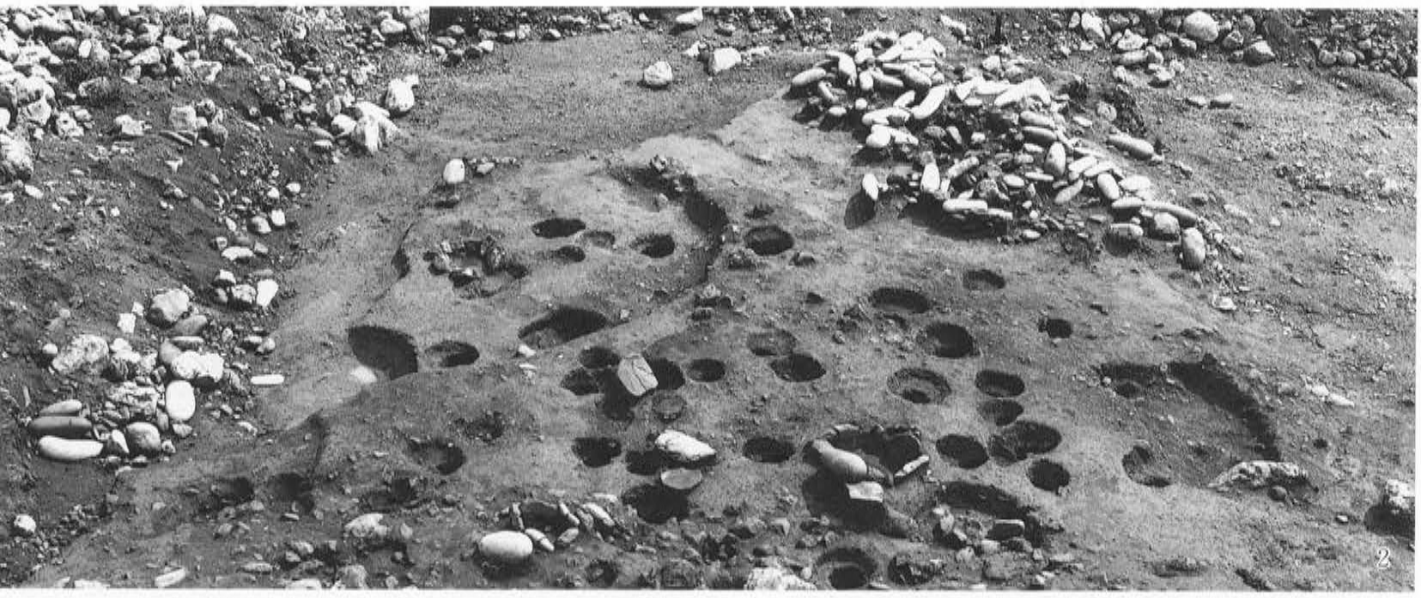


図版第6図　第4号住居跡　1．全景（西より）　2．遺物出土状況　3．炉（南より）　4．炉内埋設土器

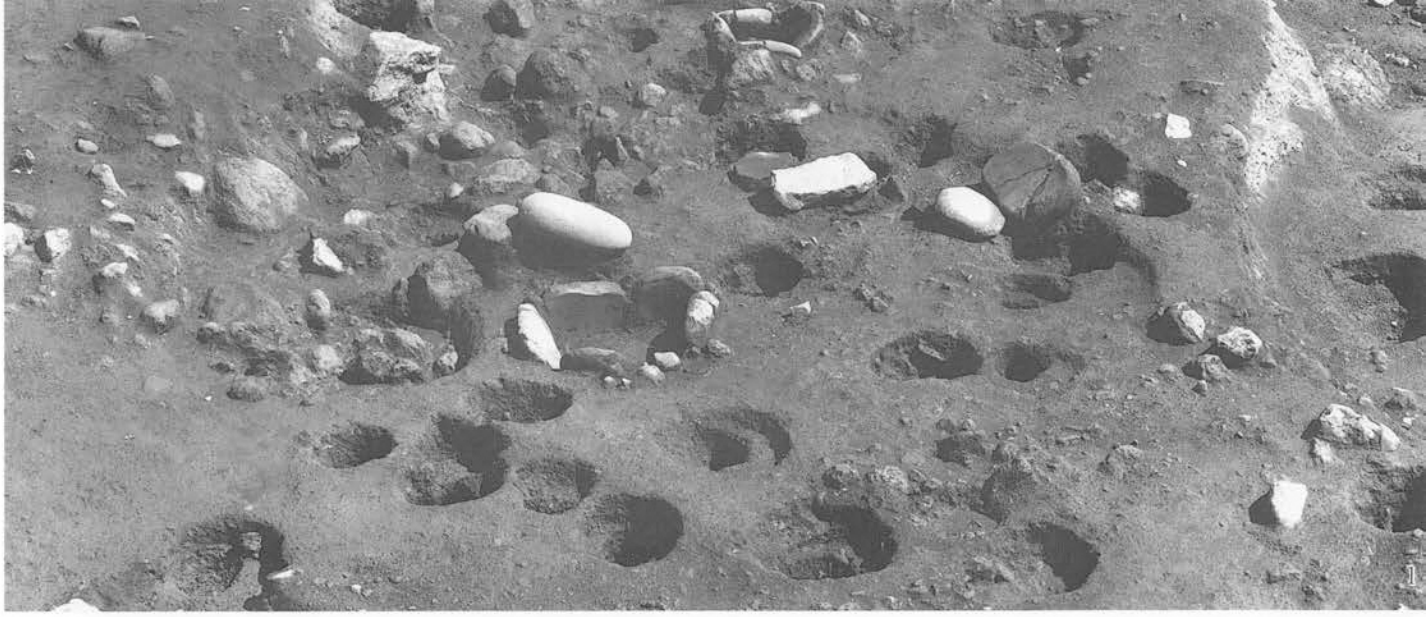


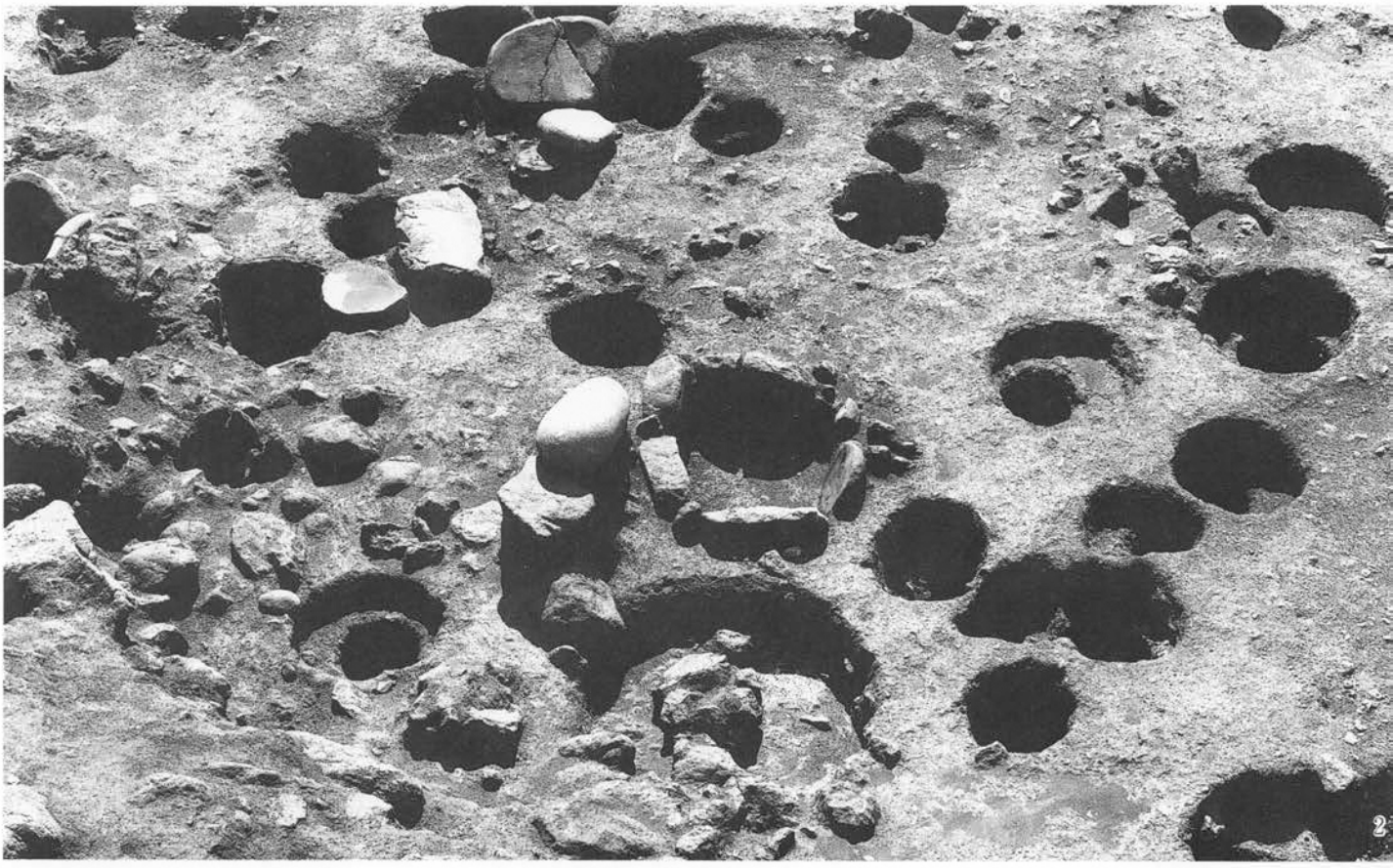
図版第７図　第５号住居跡　１．全景（南より）　２．全景（西より）　３．炉（南より）　４．炉（西より）

図版第8図　第5号住居跡　1．全景（西より）　2～5．遺物出土状況

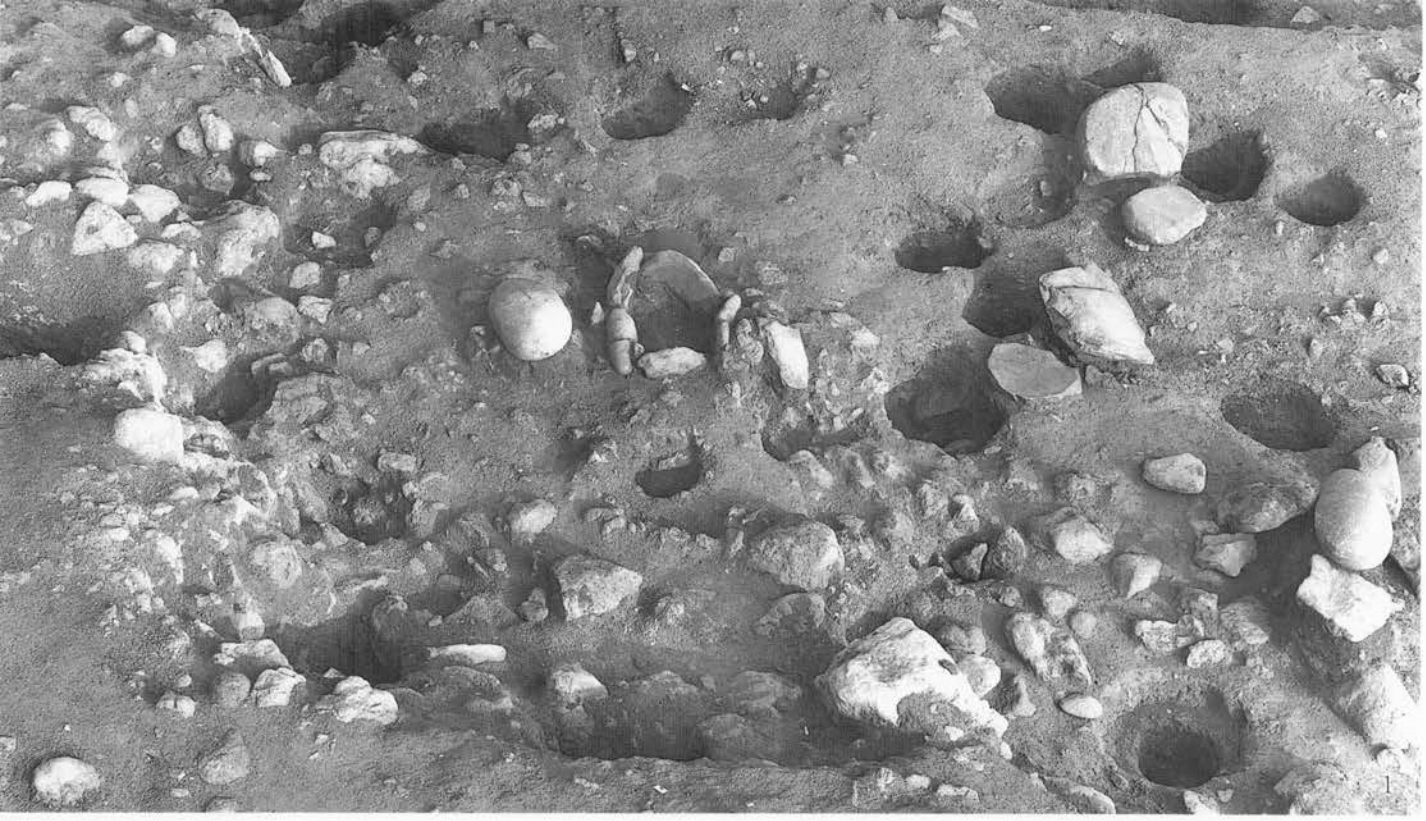


図版第９図　第１・15・28・36号住居跡　１．全景（北より）　２．全景と集石状況（北より）　３．全景と集石状況（西より）

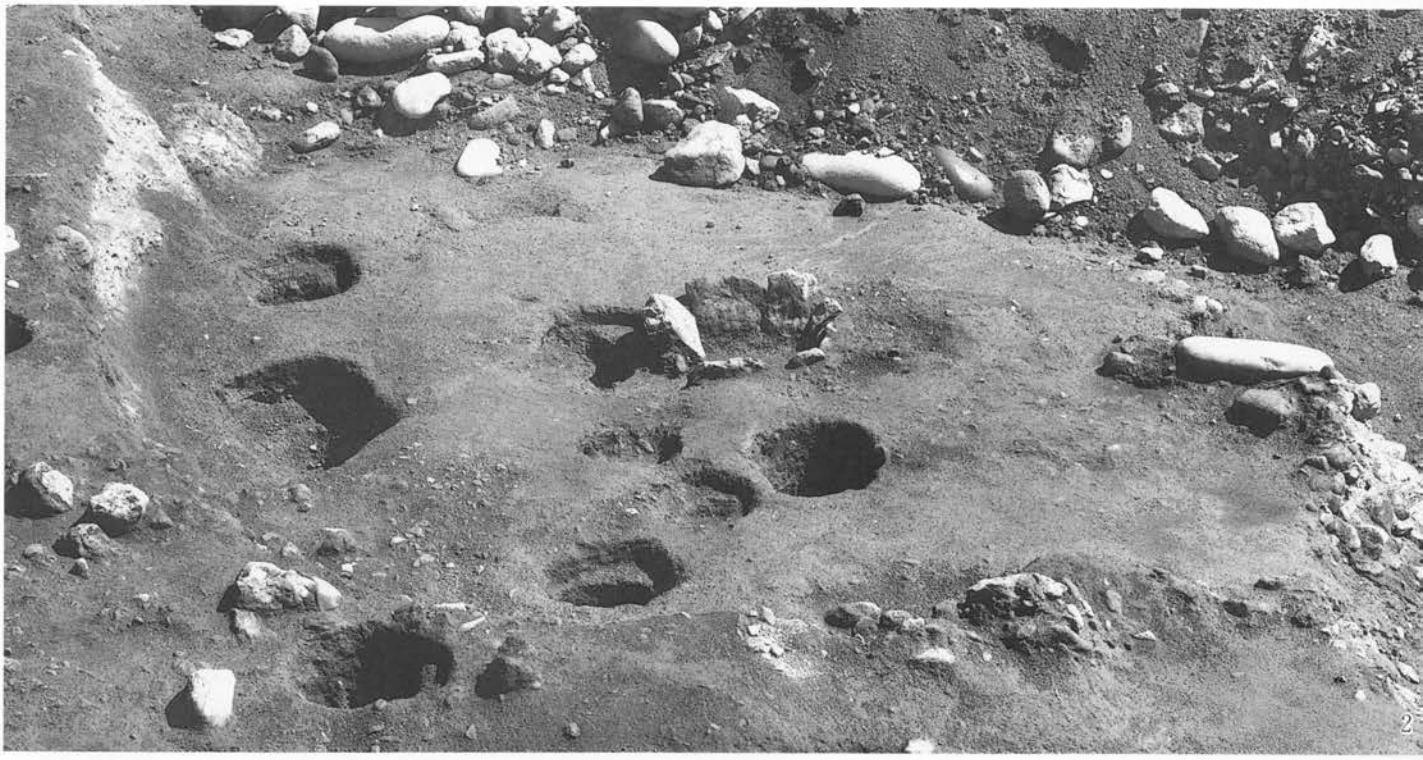




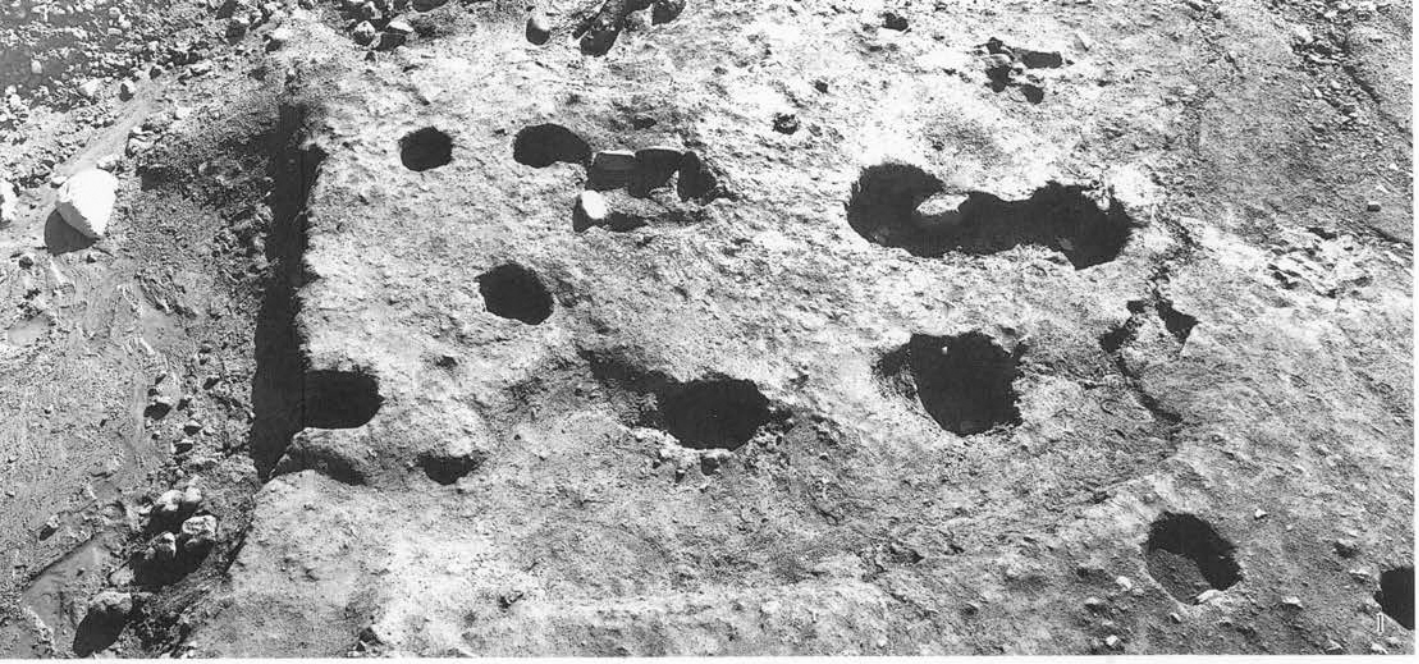
図版第10図　第1号住居跡　1．全景（西より）　2．全景（北より）　3．炉（南より）　4．炉（東より）

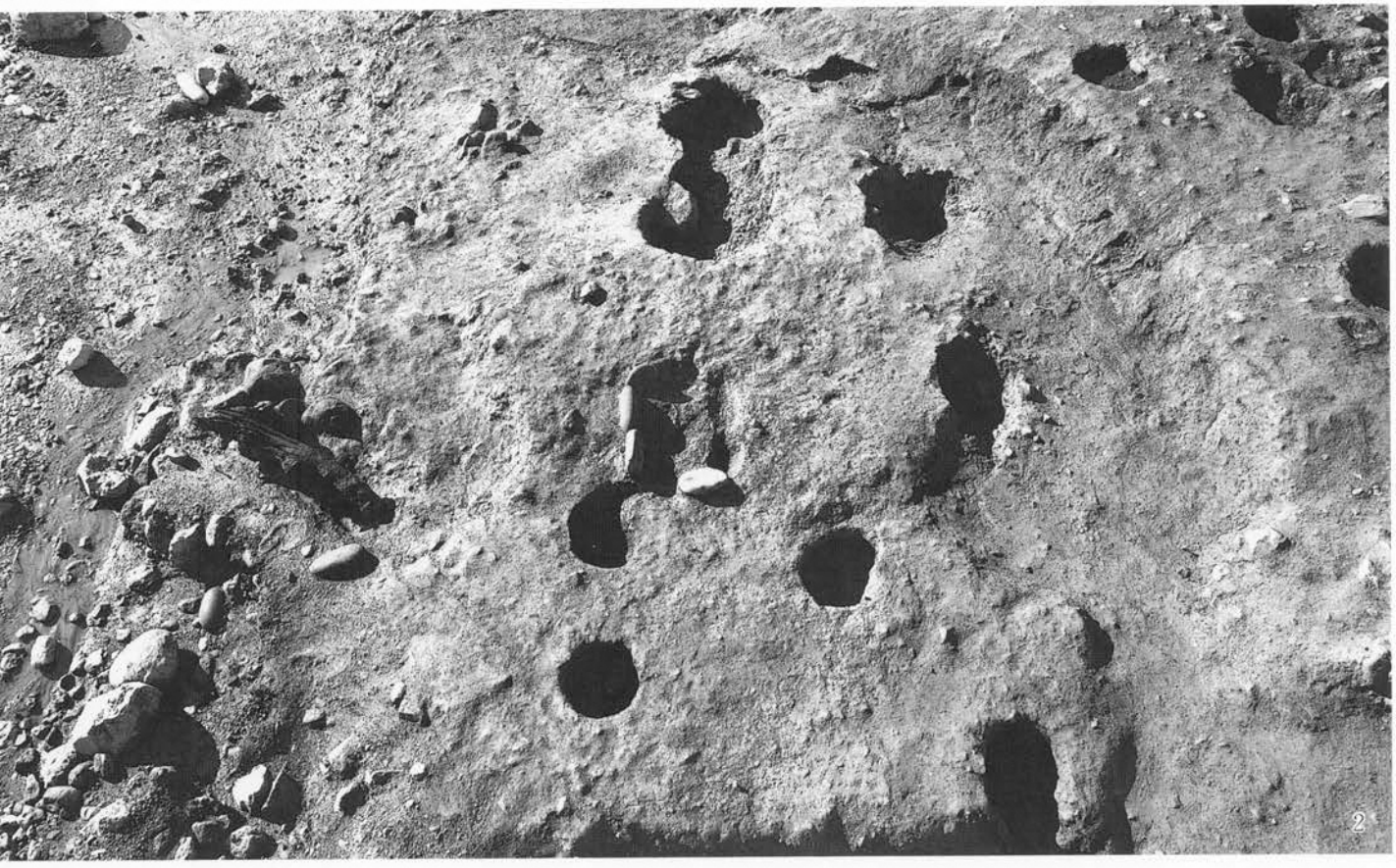


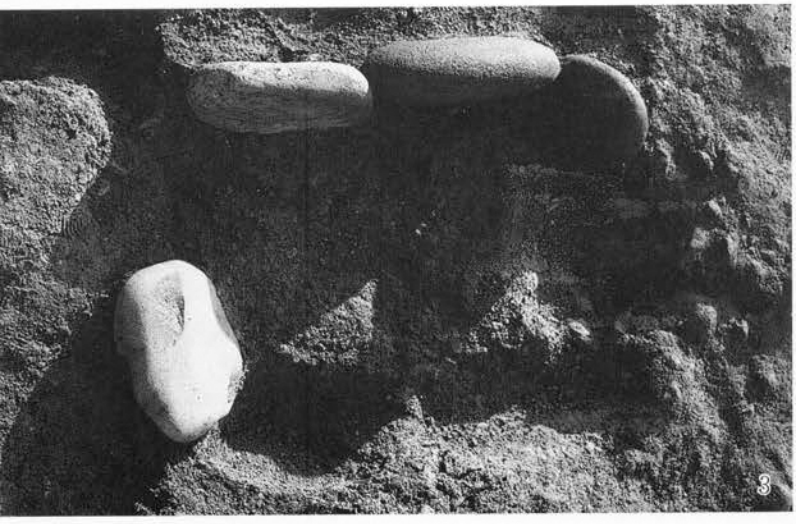
図版第11図　第15号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（西より）　4．炉（北より）



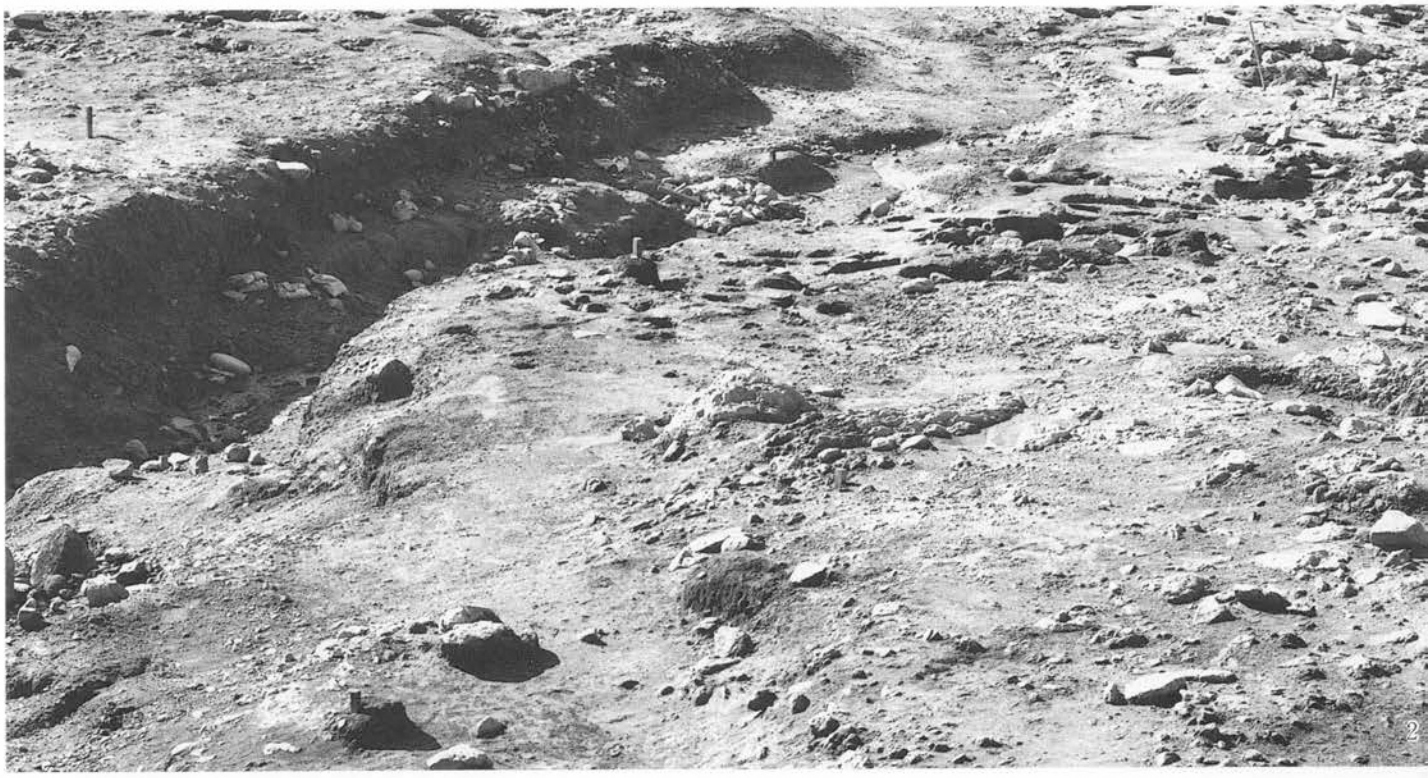
図版第12図　第28号住居跡　1．全景（西より）　2．全景（北より）　3．炉（西より）　4．炉（南より）





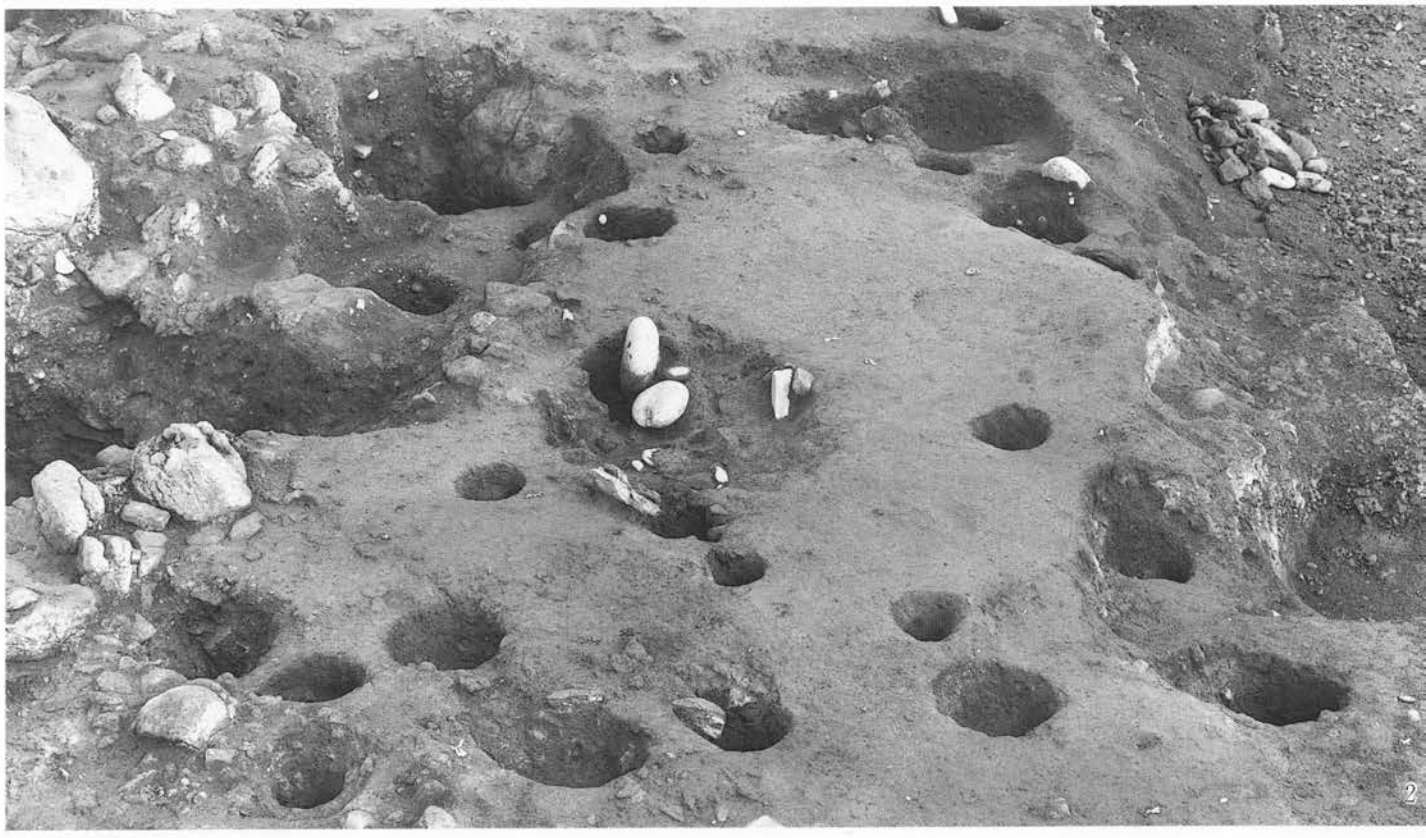


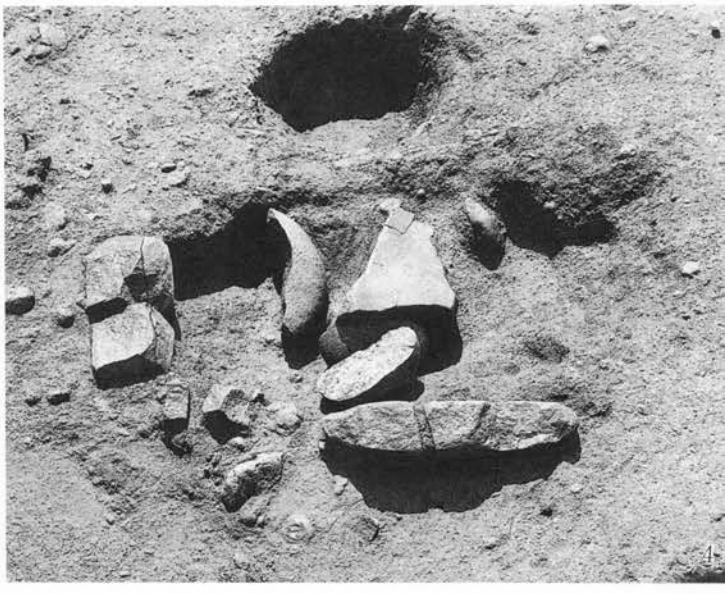
図版第13図　第36号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（東より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）



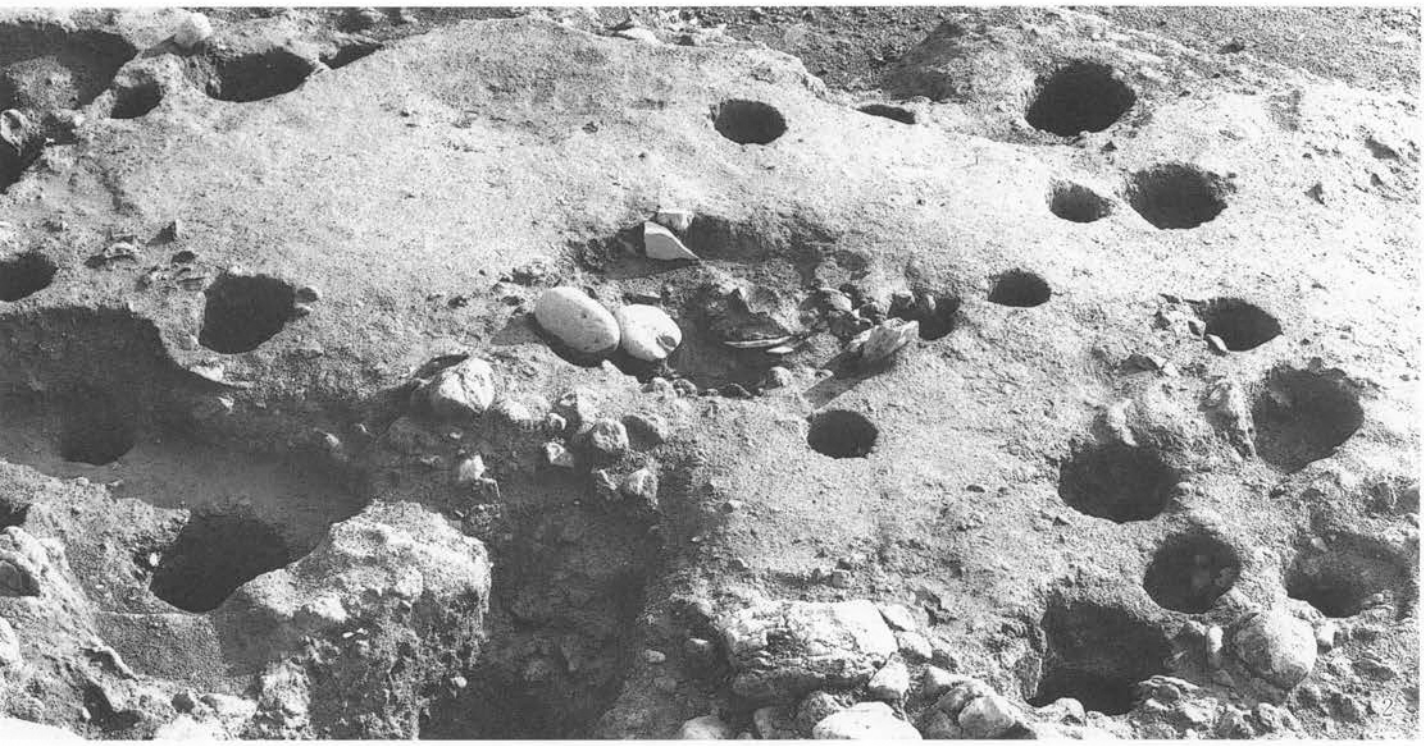
図版第14図　第29・30・33号住居跡　1．全景（南より）　2．全景（東より）　3．ブロック近景（東より）

図版第15図　第29号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（西より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）

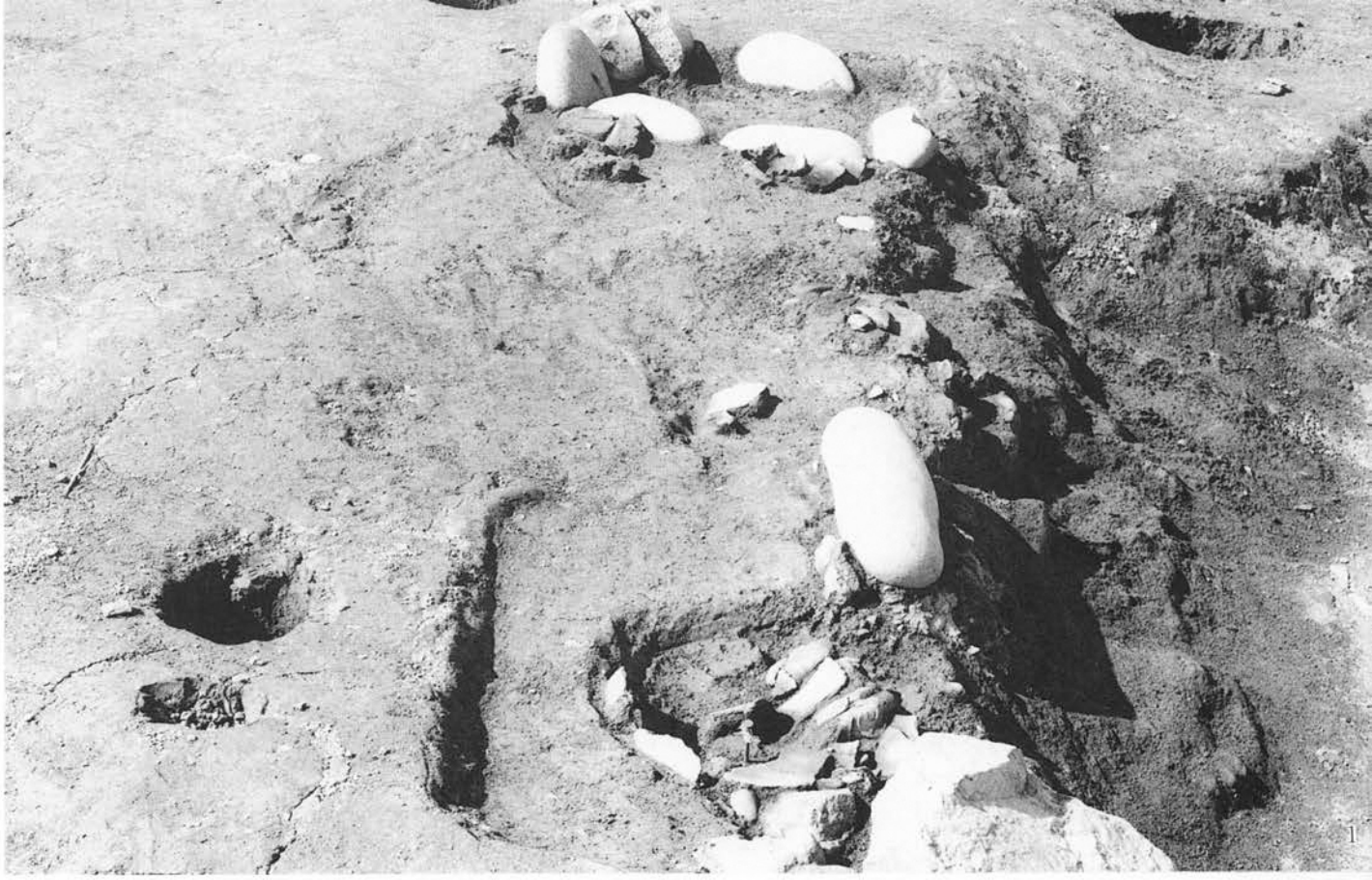


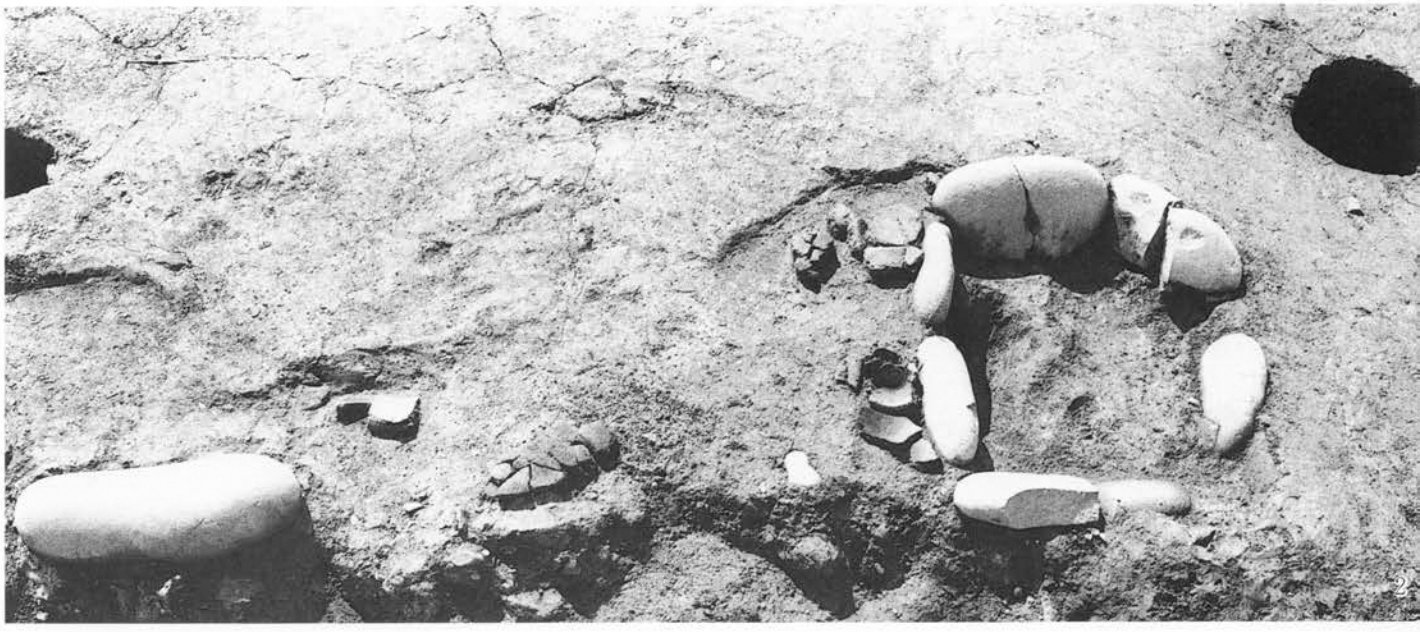


図版第16図　第30号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（南より）　4．炉（東より）

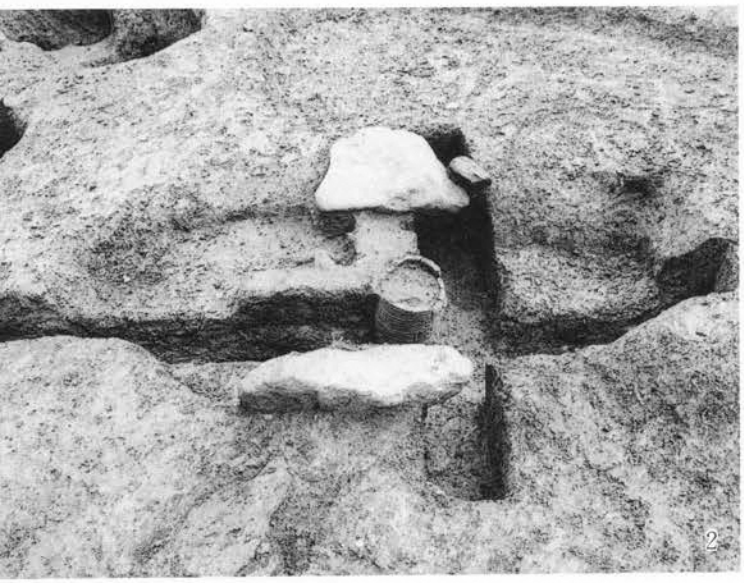


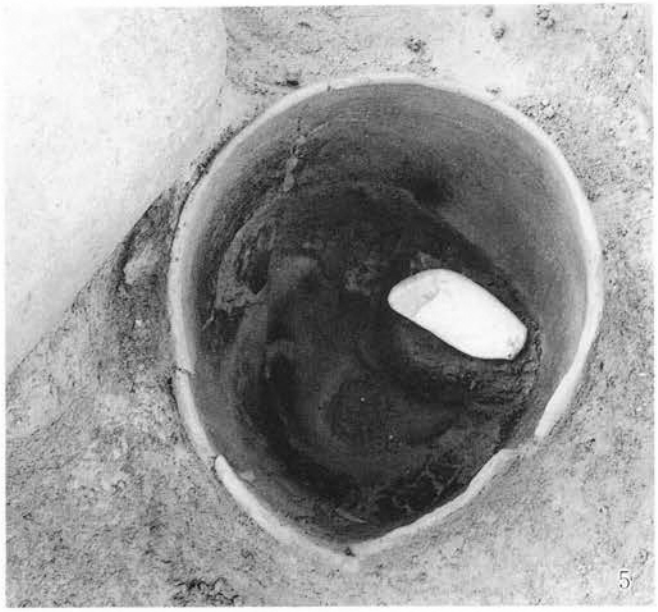
図版第17図　第33号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（東より）　3．炉（南より）　4．炉（西より）





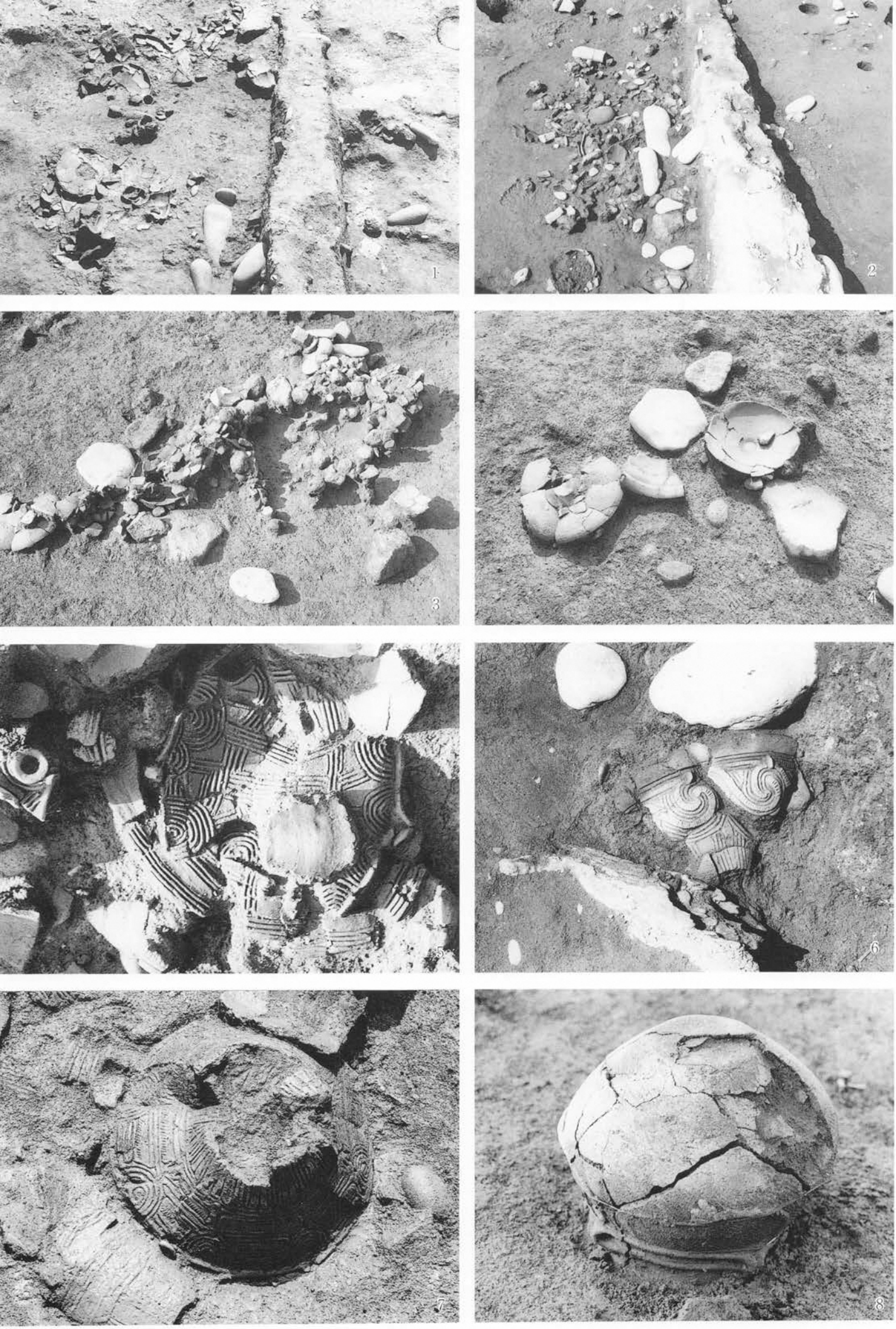
図版第18図　第２号住居跡　１．全景（南より）　２～４．遺物出土状況



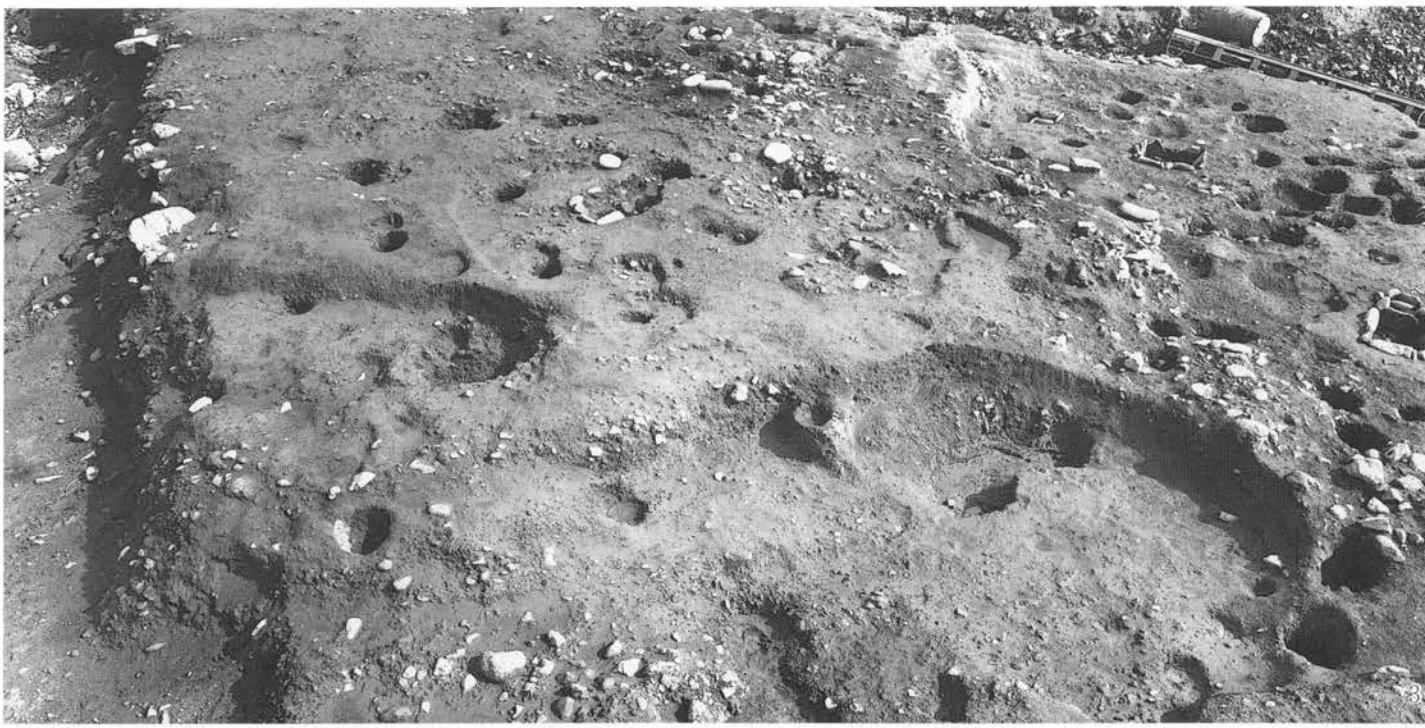


図版第19図　第19号住居跡　1．全景（北より）　2～3．炉（東より）　4．第32号穴　5．第4号埋甕

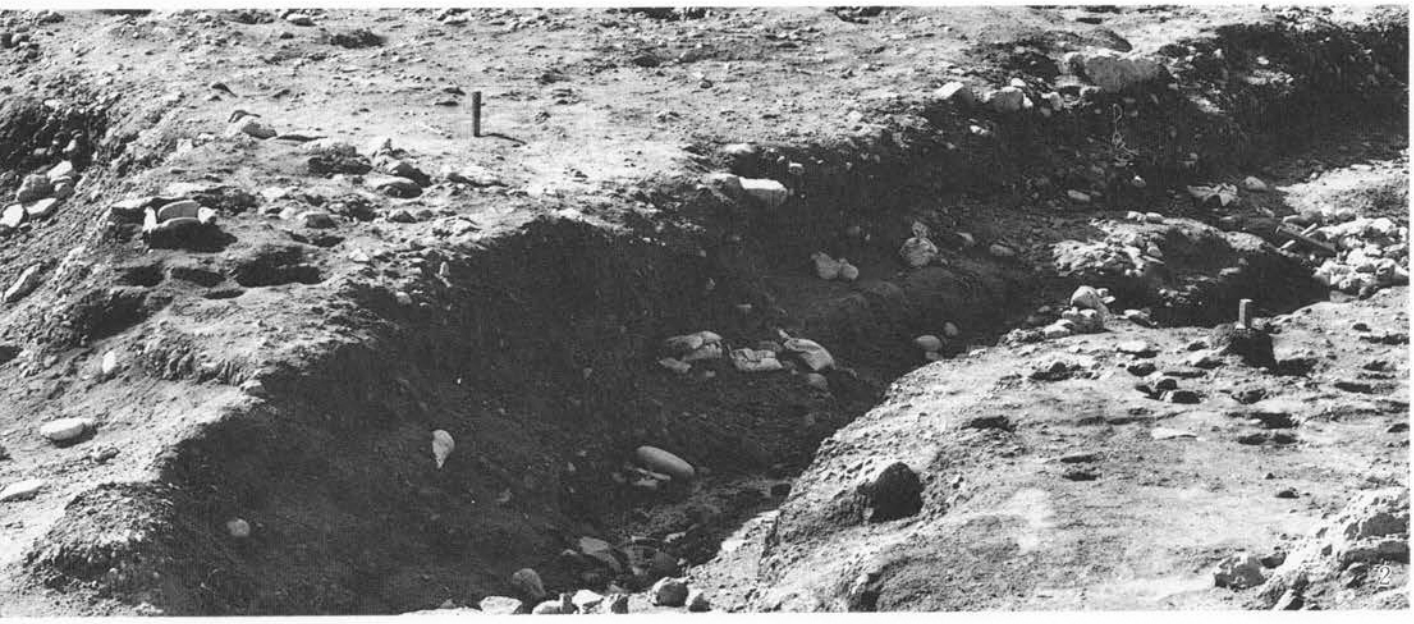
図版第20図　第20号住居跡　1．全景（南より）　2～4．遺物出土状況



図版第21図　第20号住居跡　1～8．遺物出土状況

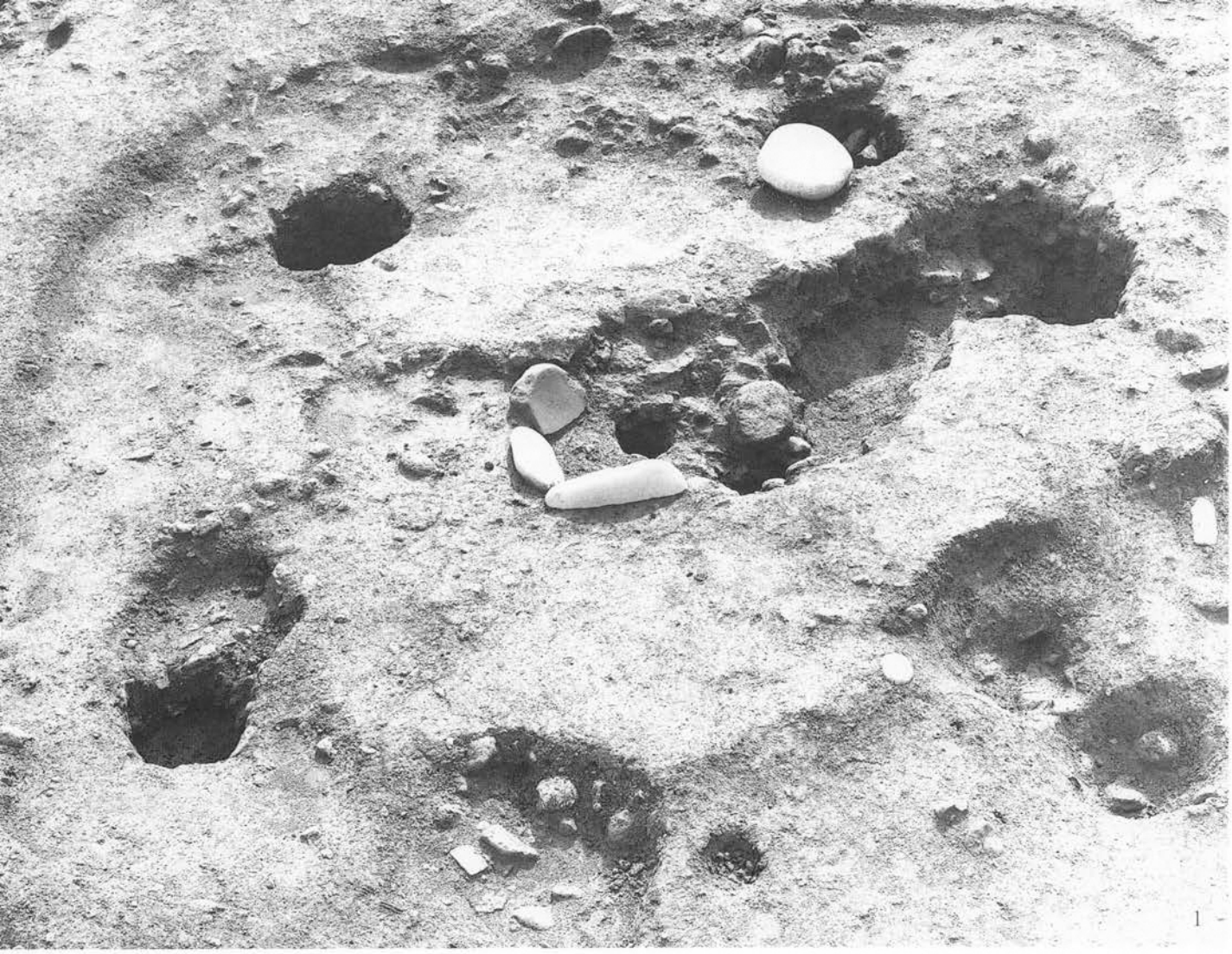


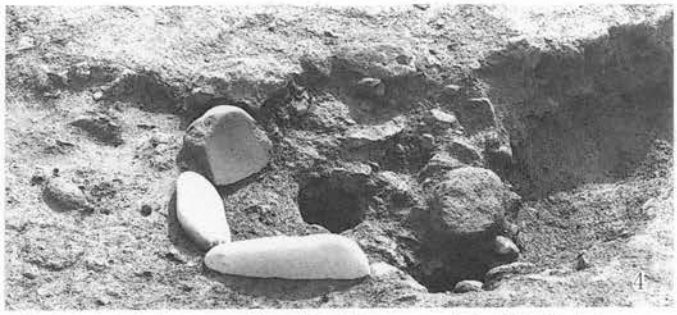
図版第22図　第３・６～14・16～18・21～26・31・32・35号住居跡　１．全景（東より）　２．全景（北より）
３．全景（北より）



図版第23図　第３号住居跡　１．全景（北より）　２．全景（南より）　３．炉（東より）　４．炉（北より）

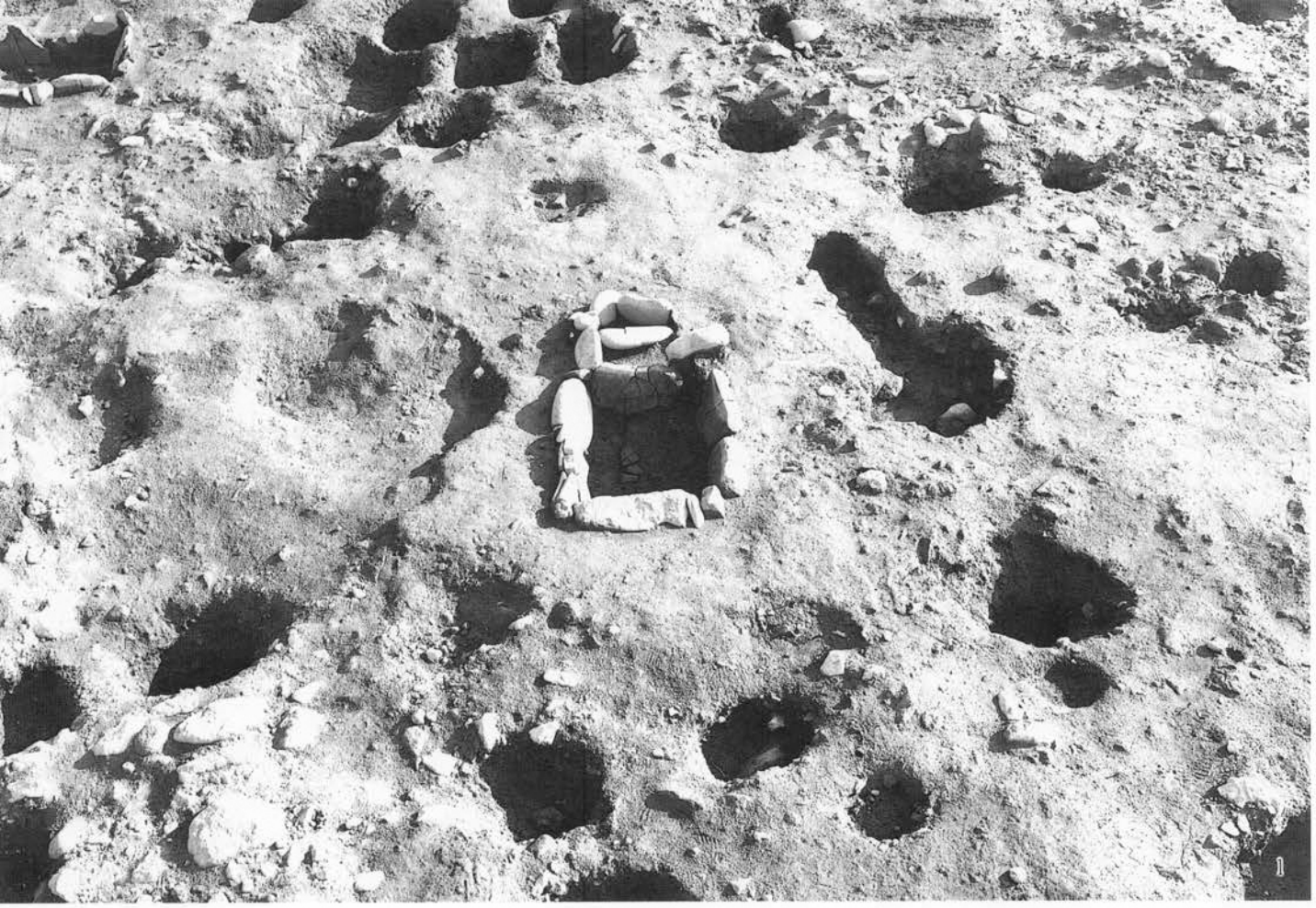
図版第24図　第6号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（東より）　4．炉（北より）

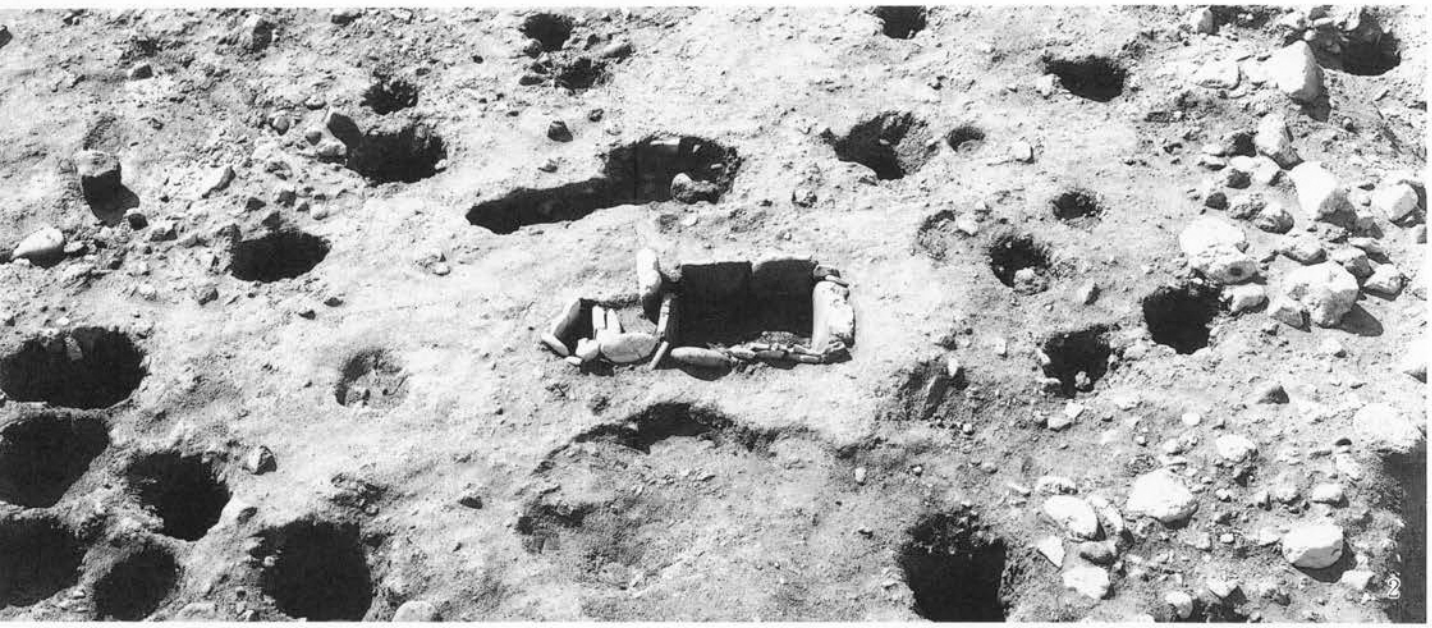




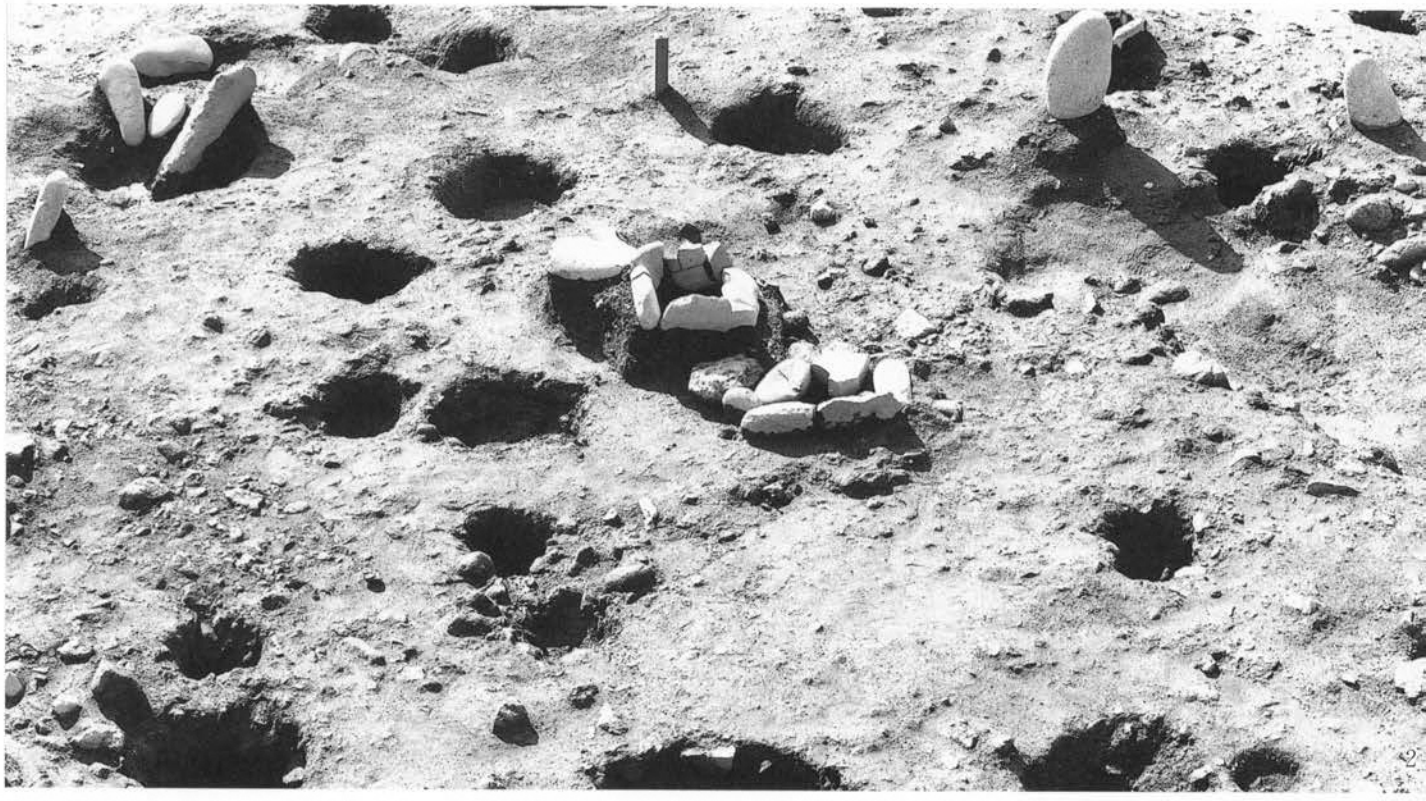
図版第25図　第７号住居跡　１．全景（北西より）　２．全景（東より）　３．炉（東より）　４．炉（北西より）

図版第26図　第８号住居跡　１．全景（北より）　２．全景（東より）　３．炉（北より）　４．炉（西より）



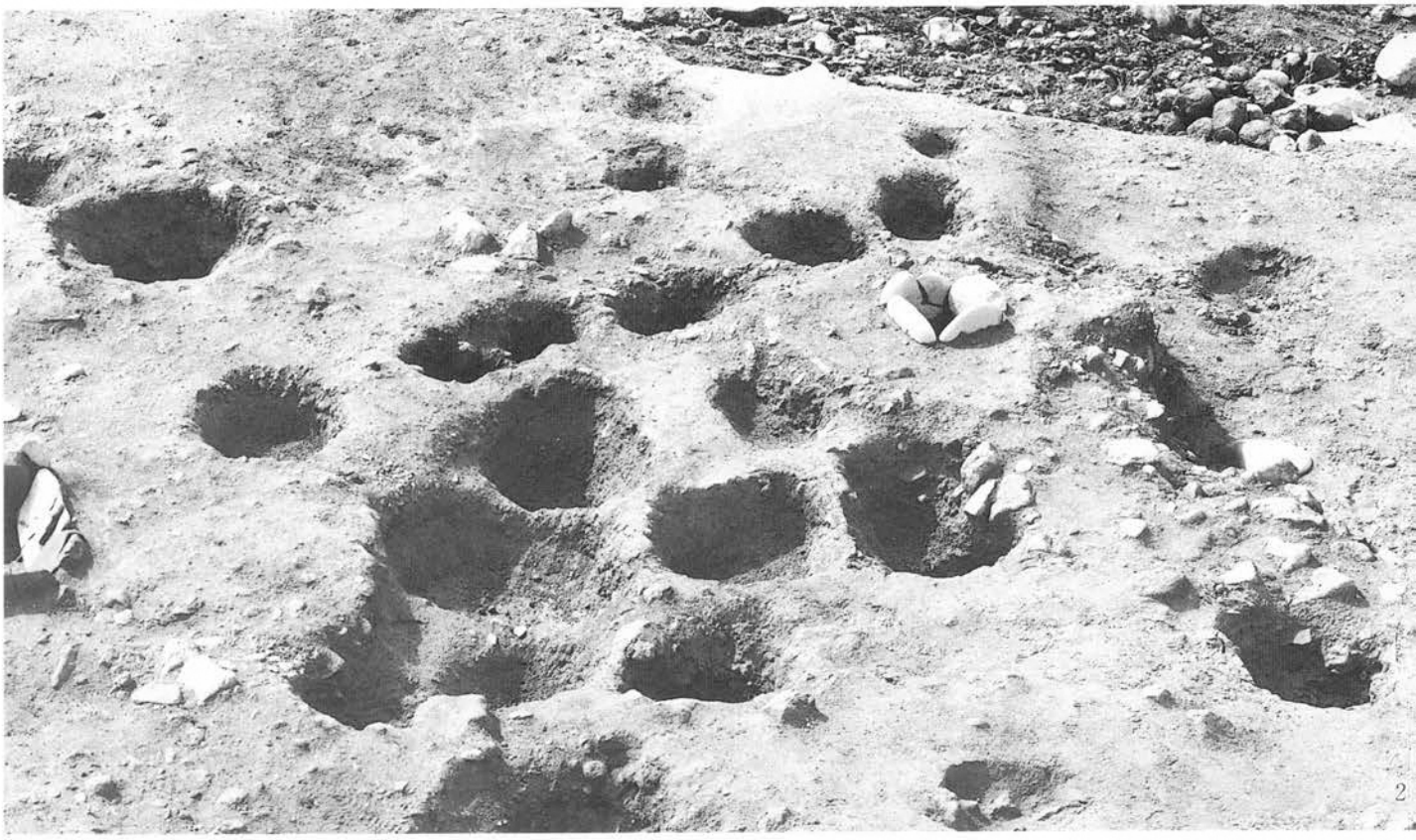


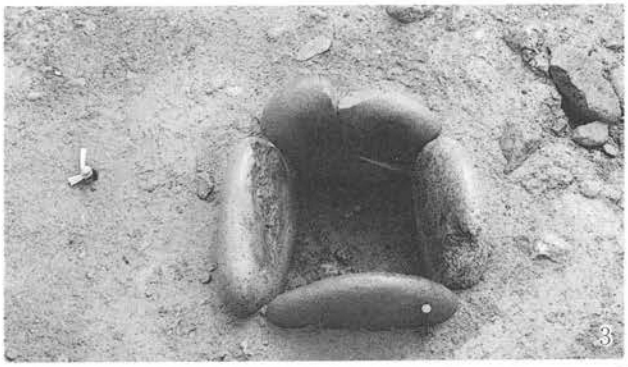
図版第27図　第９号住居跡　１．全景（北より）　２．全景（東より）　３．炉（北より）　４．炉（西より）



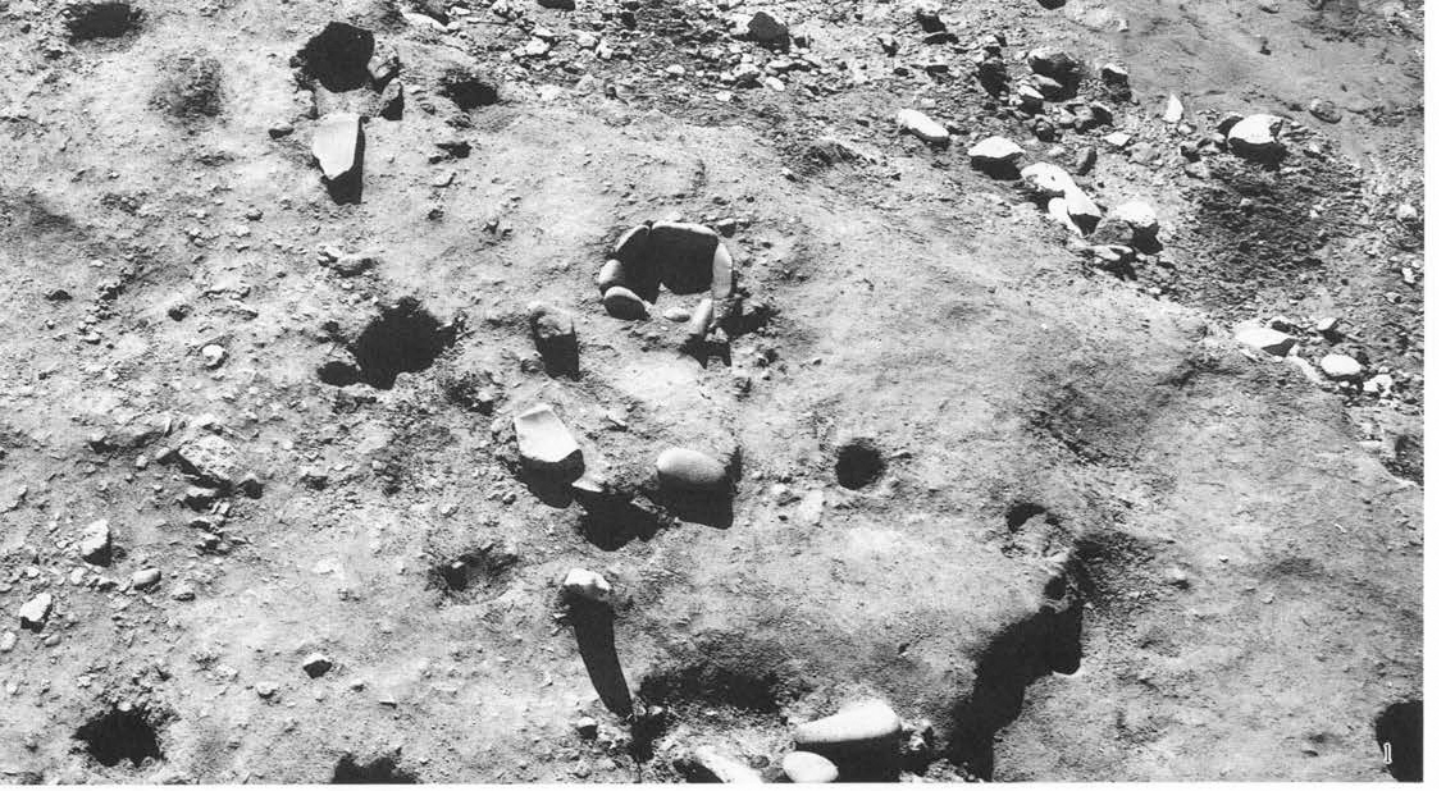
図版第28図　第10・11号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（北より）　4．炉（西より）

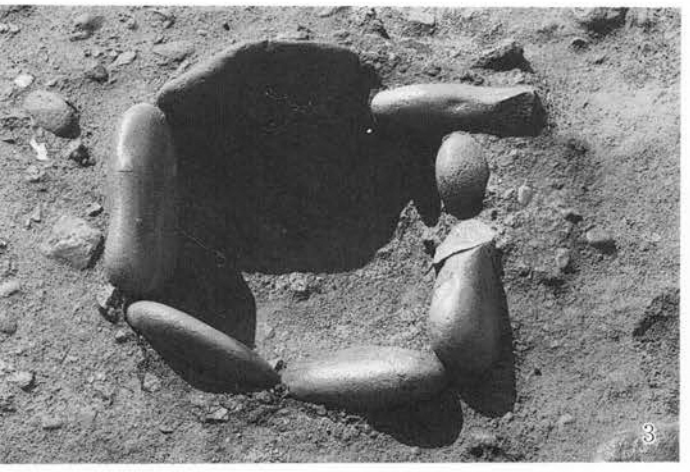
図版第29図　第12号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（南より）　4．炉（西より）

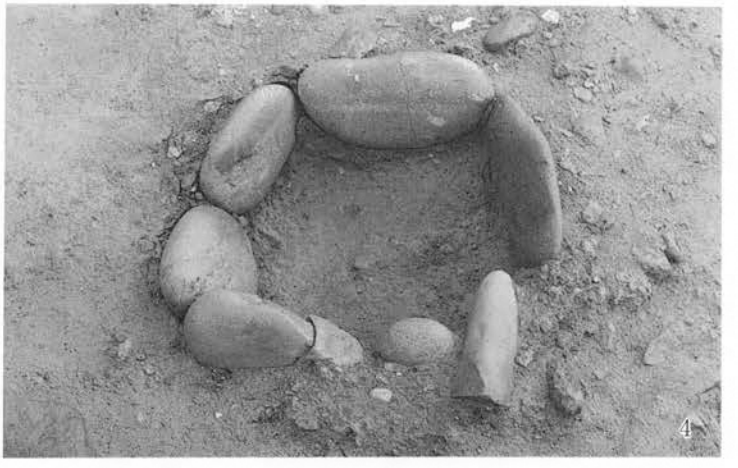




図版第30図　第13号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）





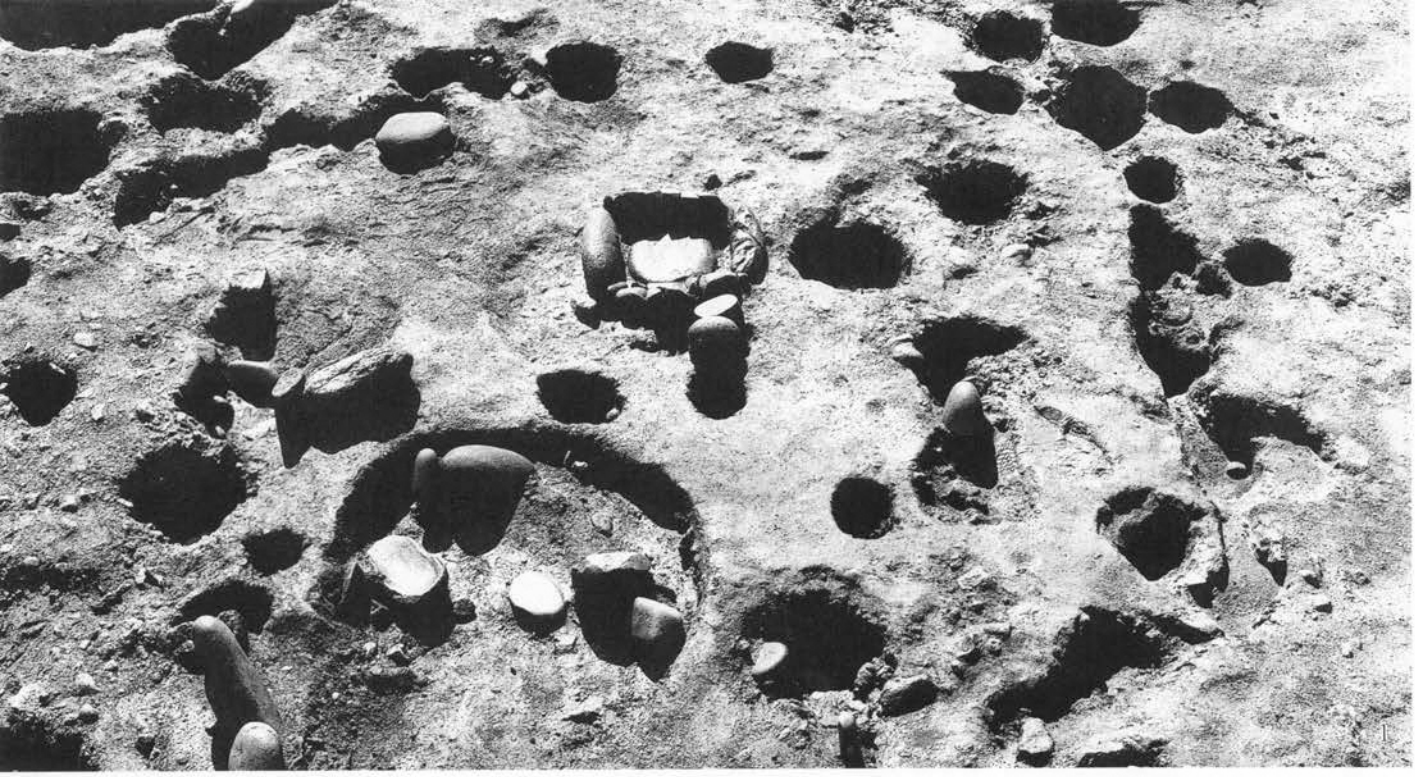


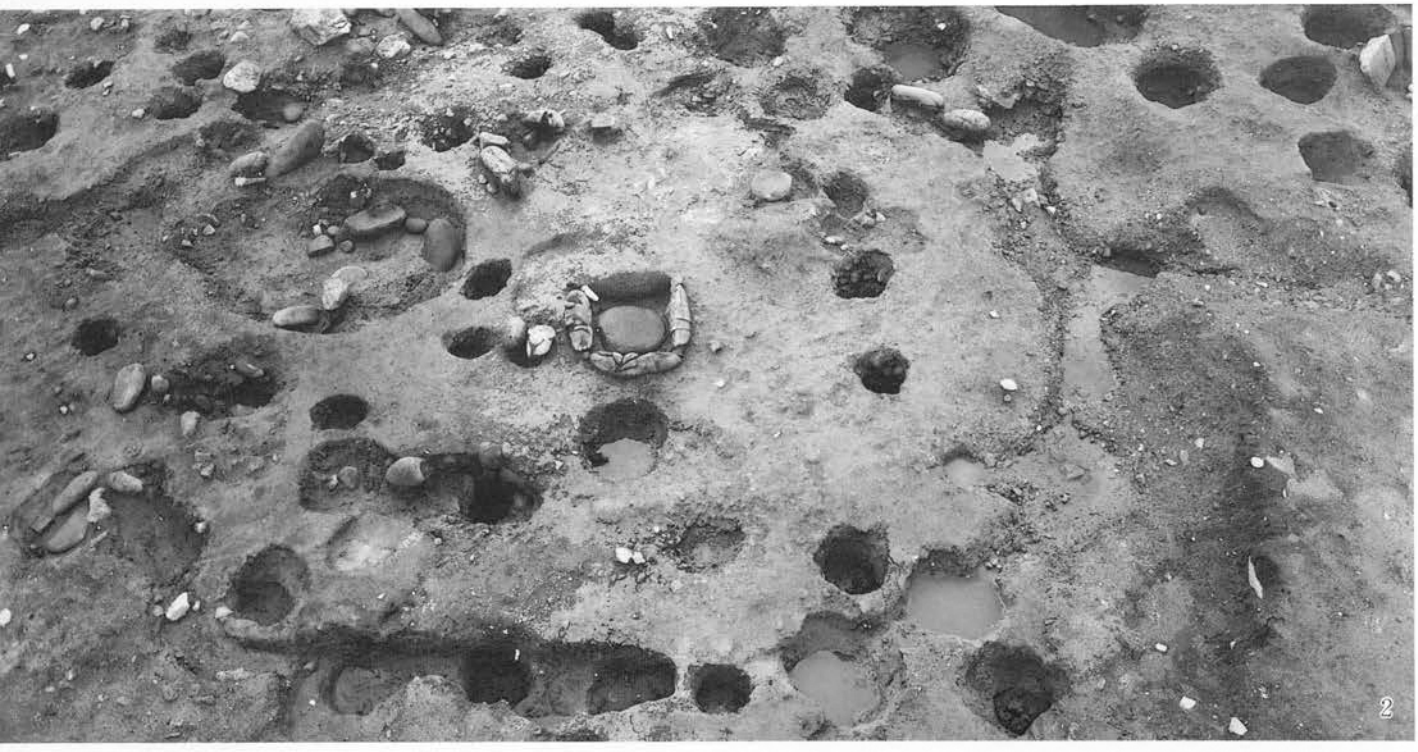
図版第31図　第14号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（東より）　3．炉（東より）　4．炉（北より）

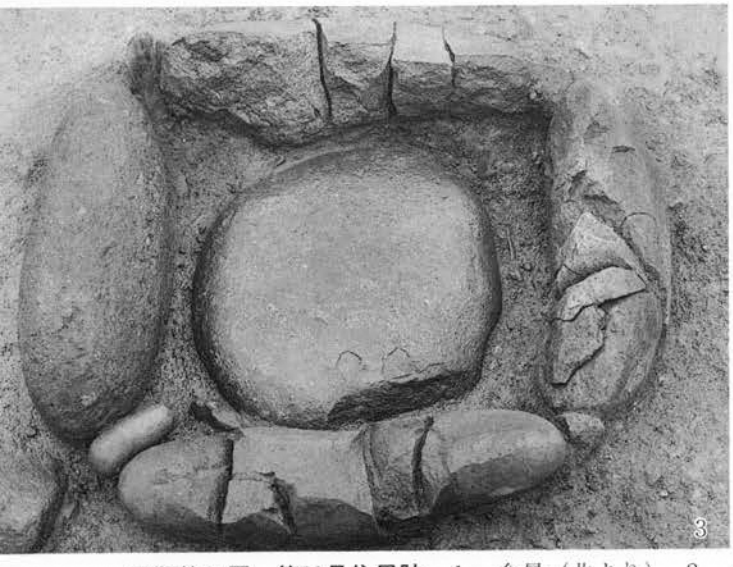
図版第32図　第16号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．遺物出土状況

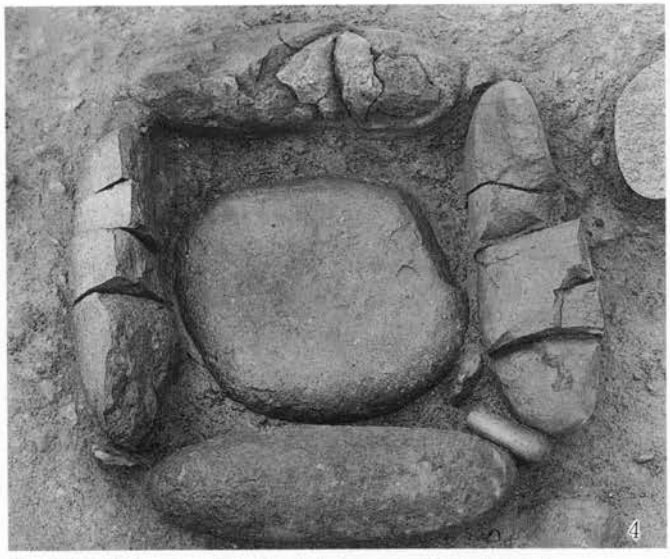
図版第33図　第17号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（東より）　4．炉（北より）

図版第34図　第18号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（西より）　4．炉（北より）

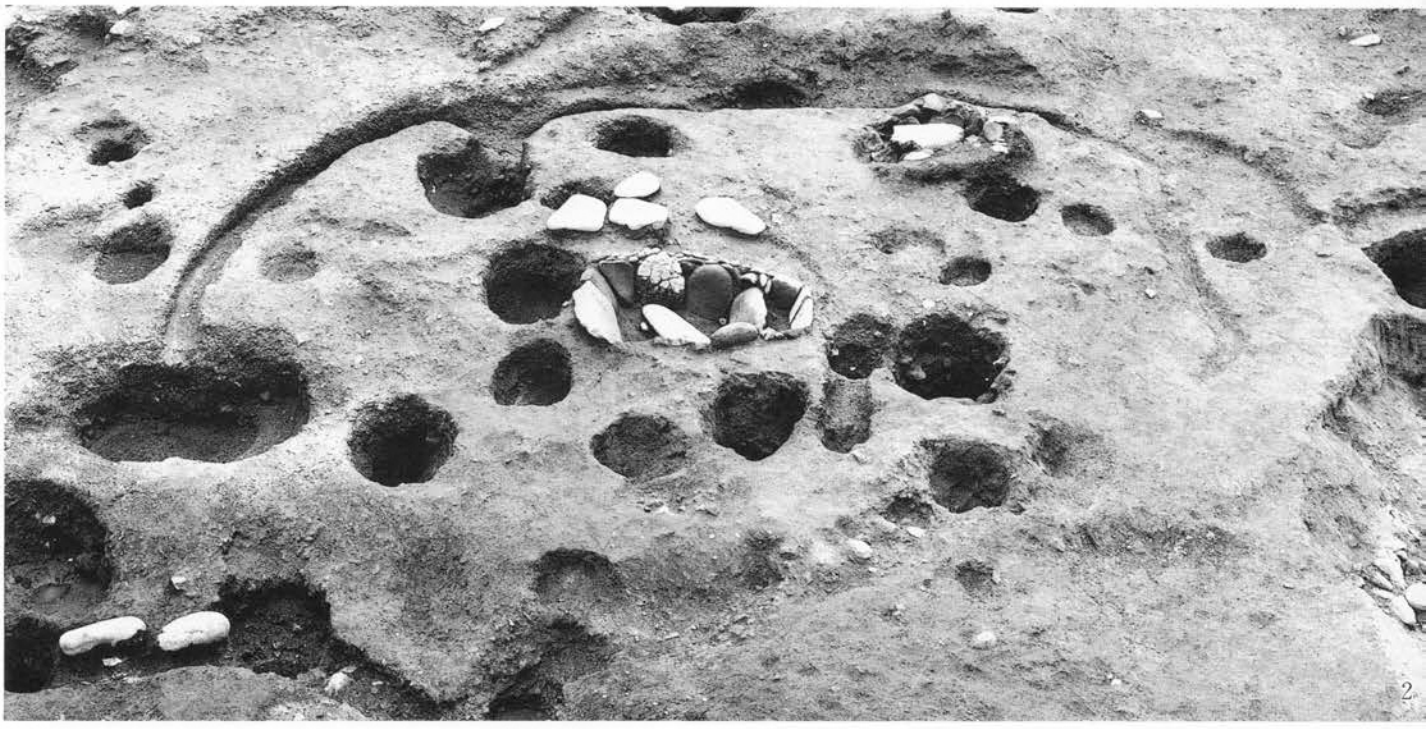






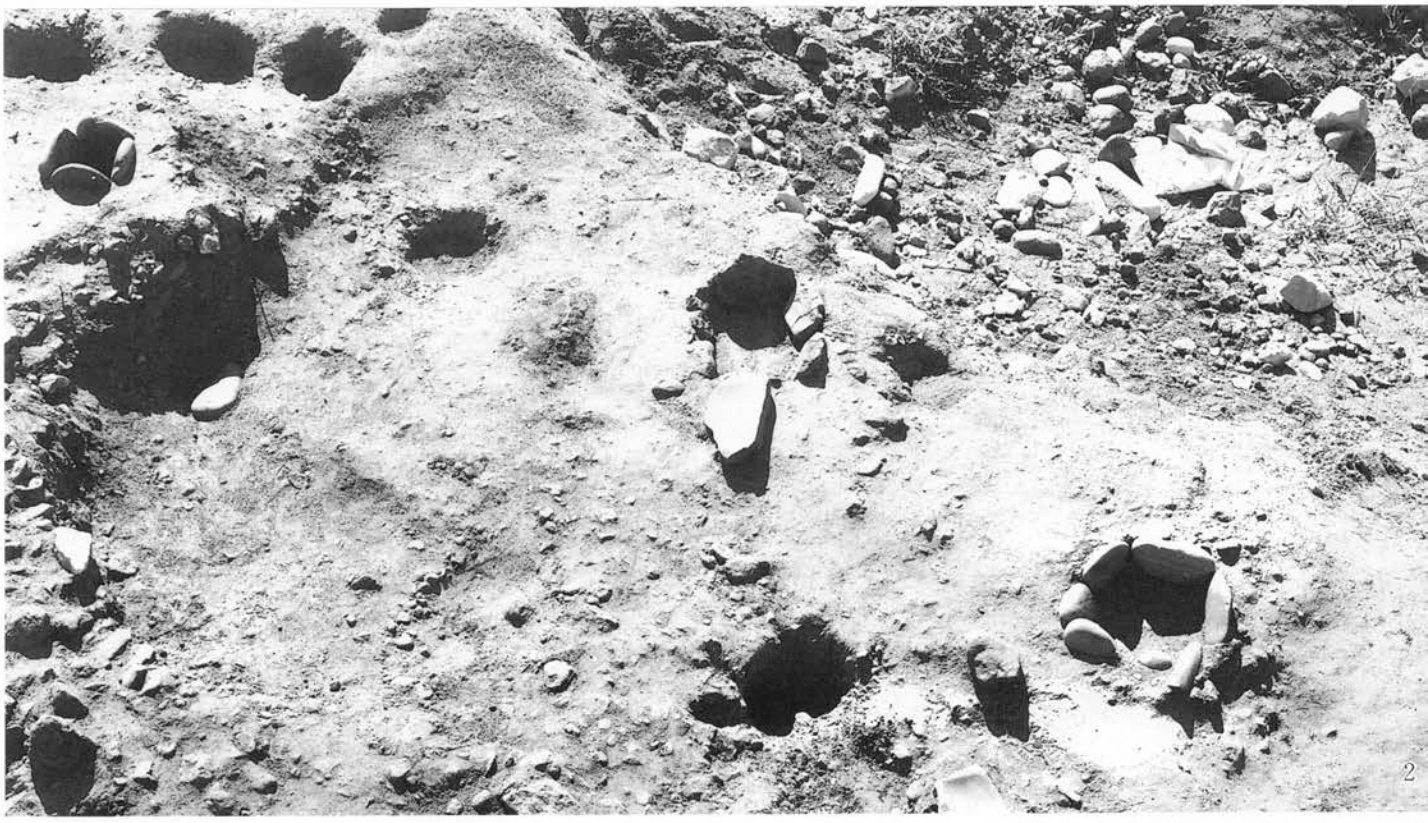


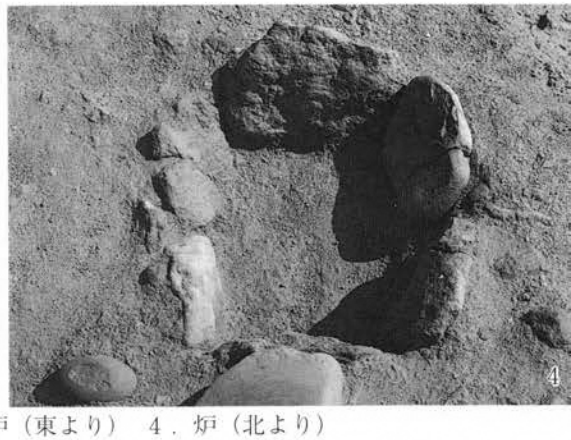
図版第35図　第21号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）



図版第36図　第22号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（西より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）

図版第37図　第23号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）

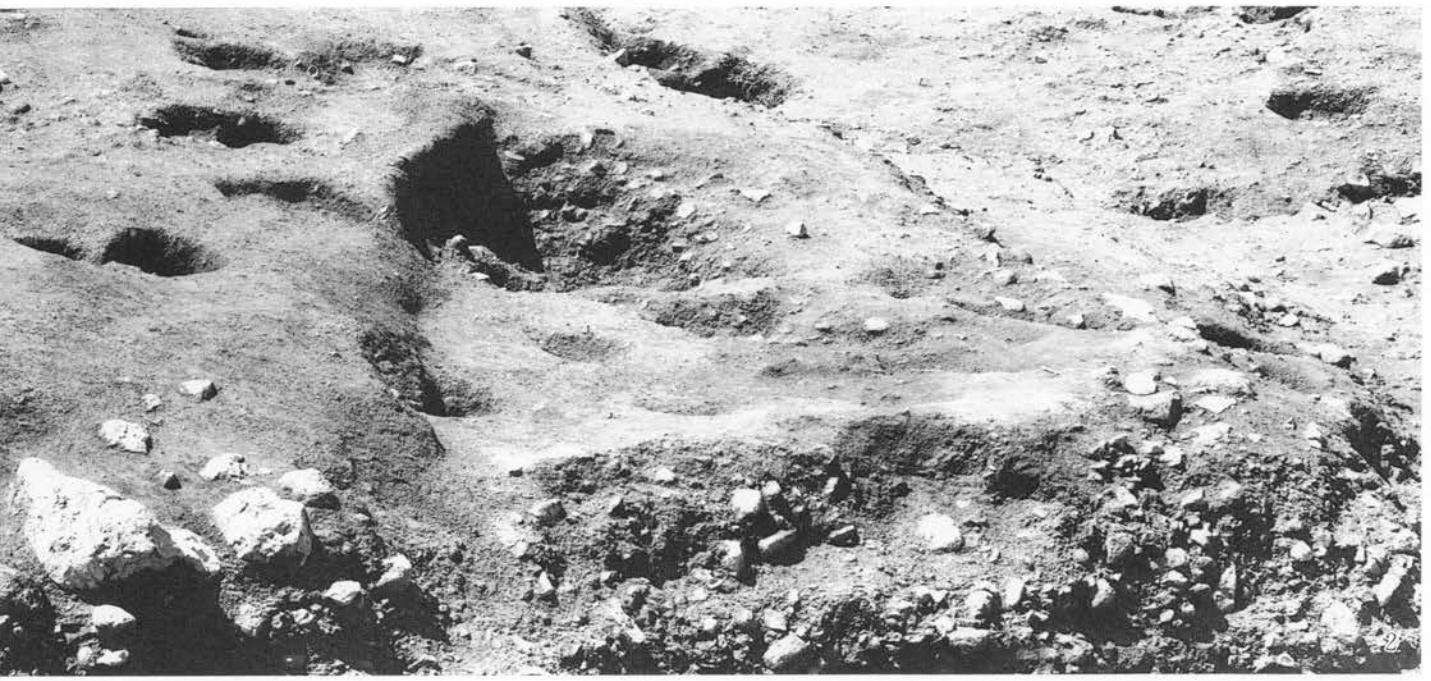




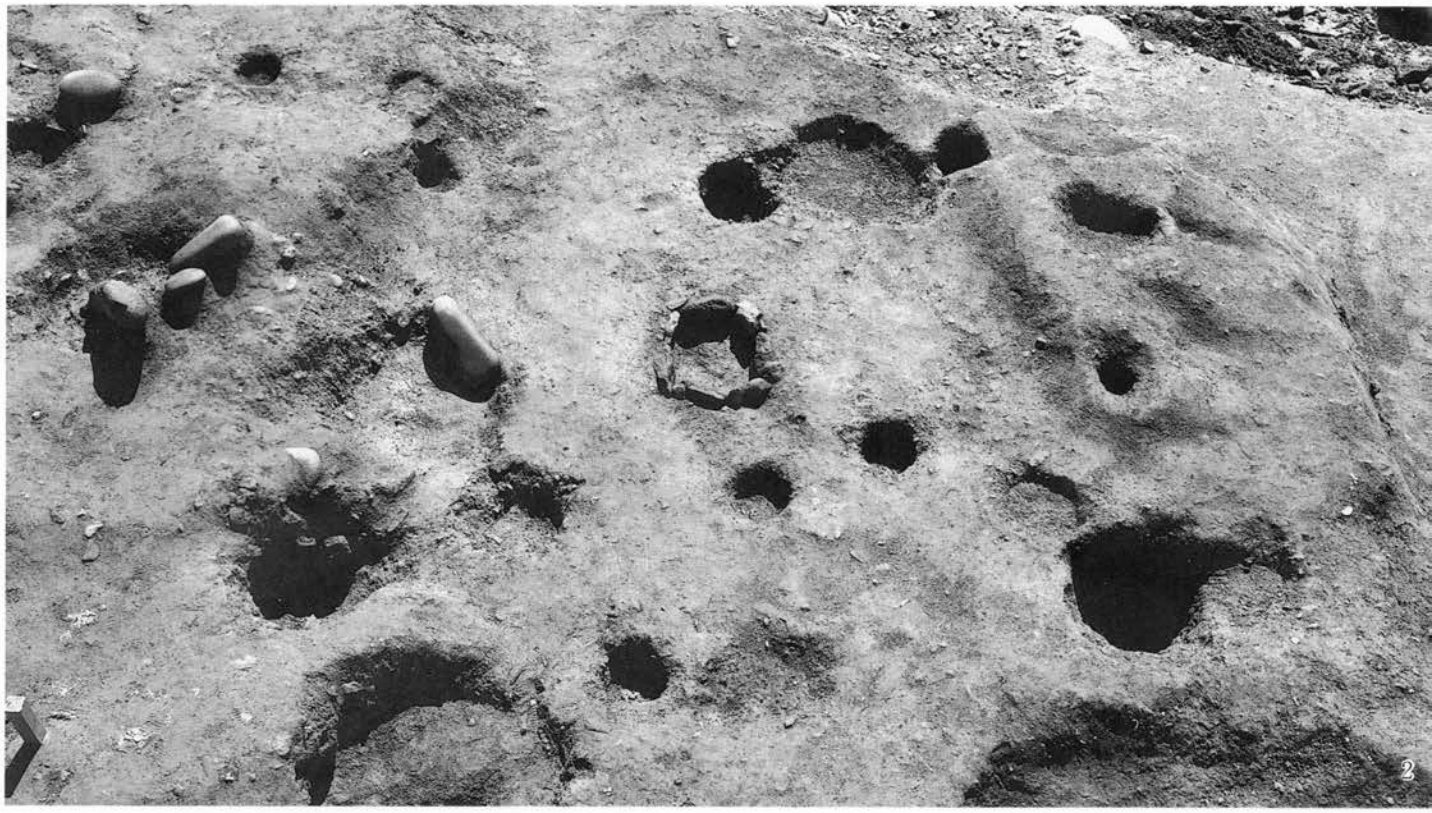
図版第38図　第24号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（東より）　4．炉（北より）

図版第39図　第25号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（東より）　3．炉（東より）　4．炉（北より）

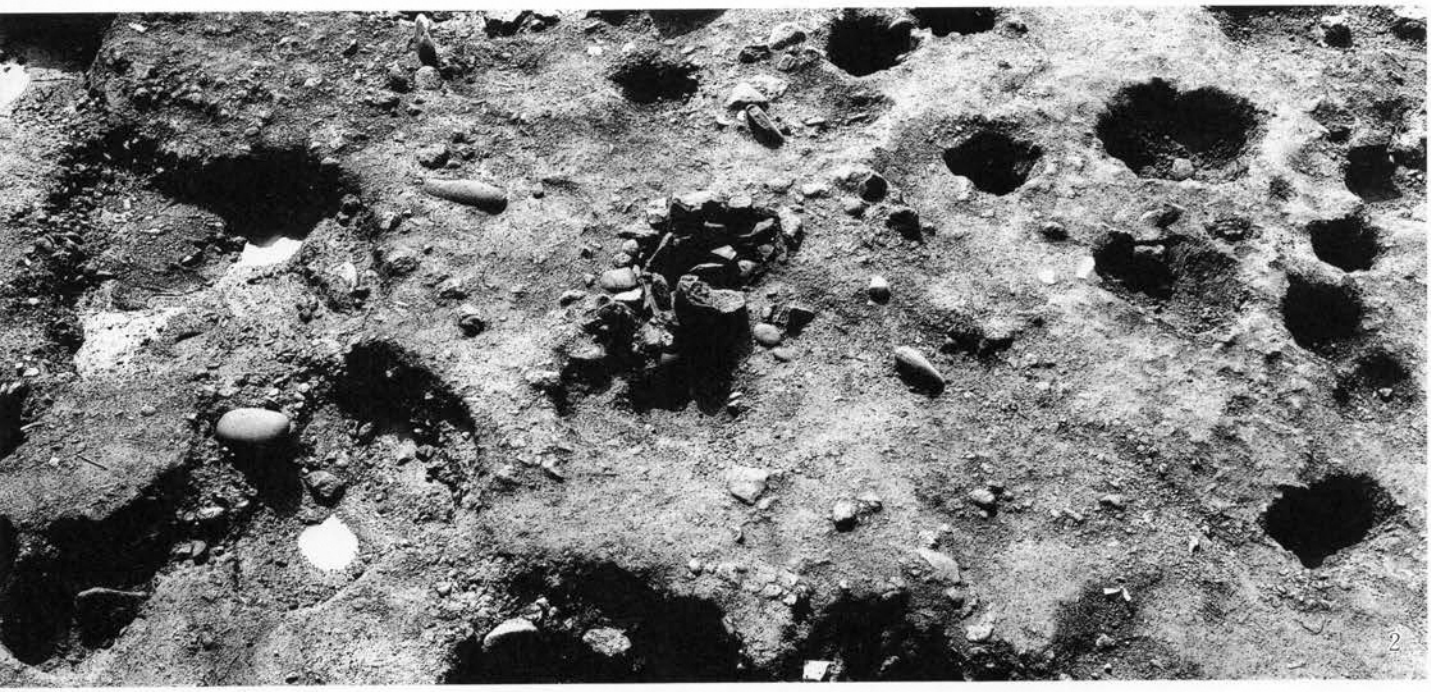
図版第40図　第26号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）



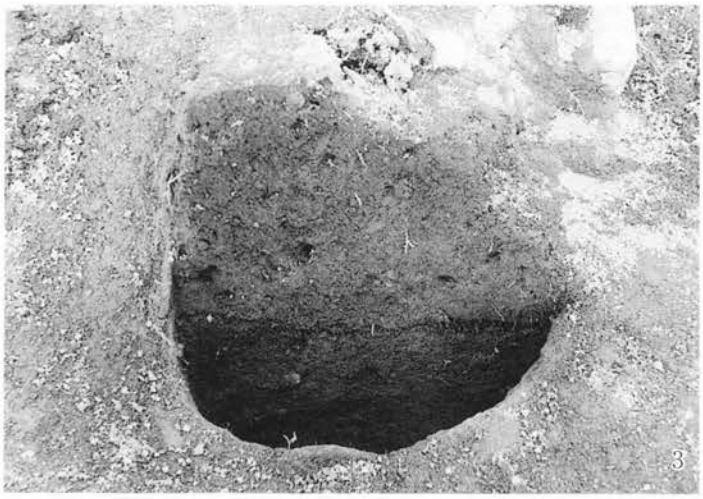
図版第41図　第31号住居跡　1．全景（北より）　2．全景（東より）　3．全景（北東より）

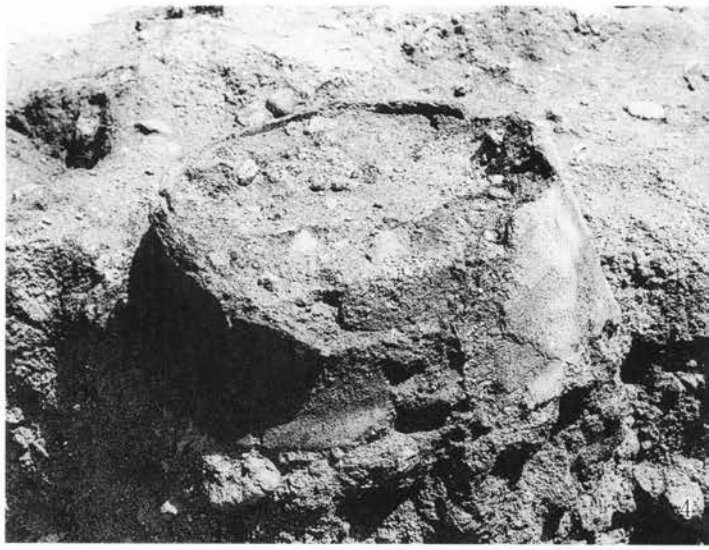


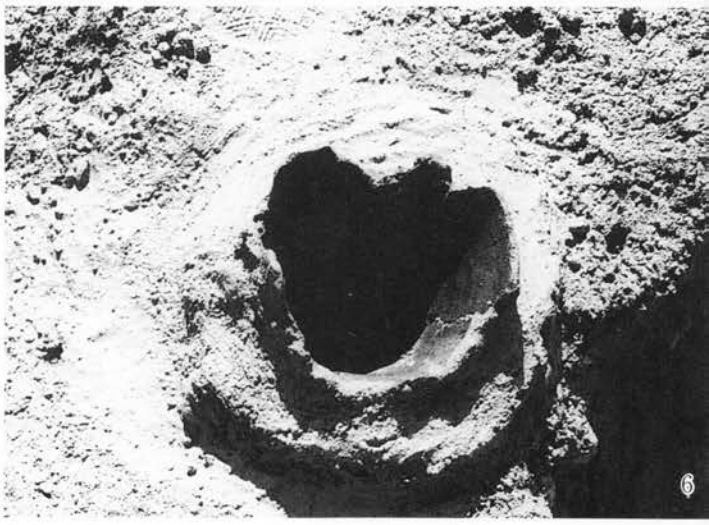
図版第42図　第32号住居跡　1．全景（東より）　2．全景（北より）　3．炉（北より）　4．炉（東より）

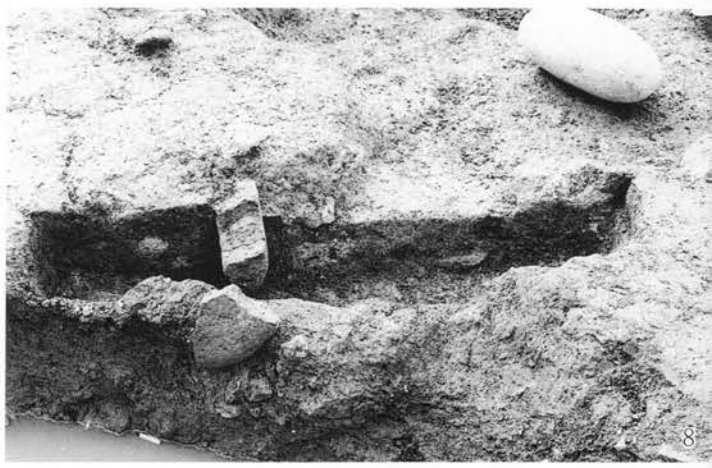


図版第43図　第35号住居跡　1．全景（西より）　2．全景（北より）　3．炉（北より）　4．炉（西より）

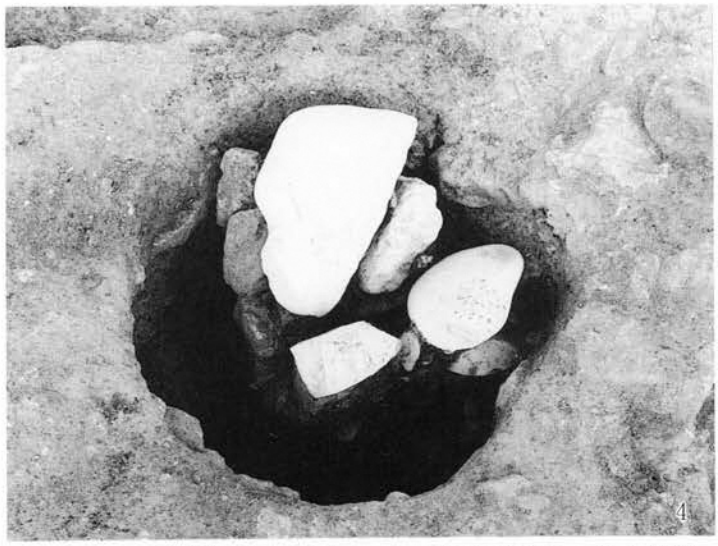




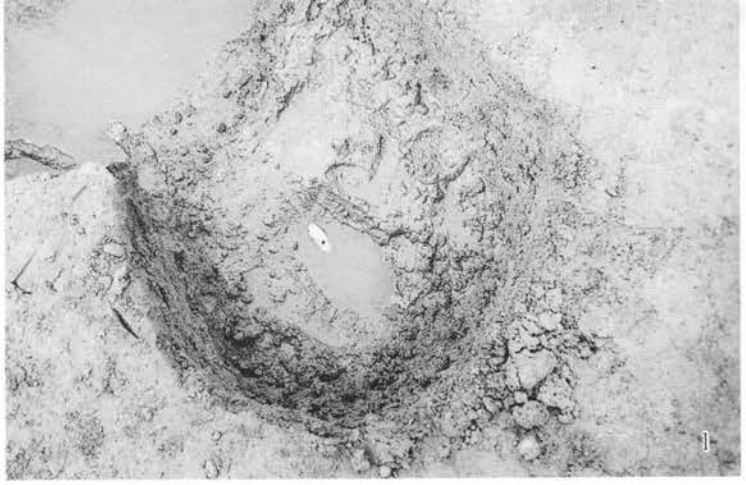


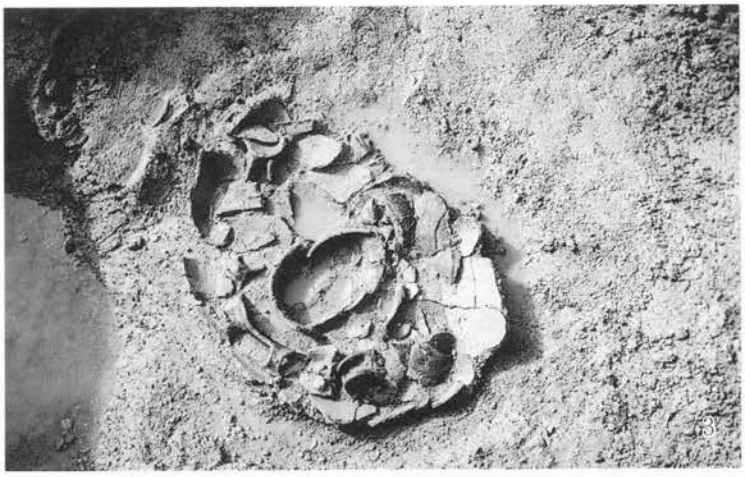
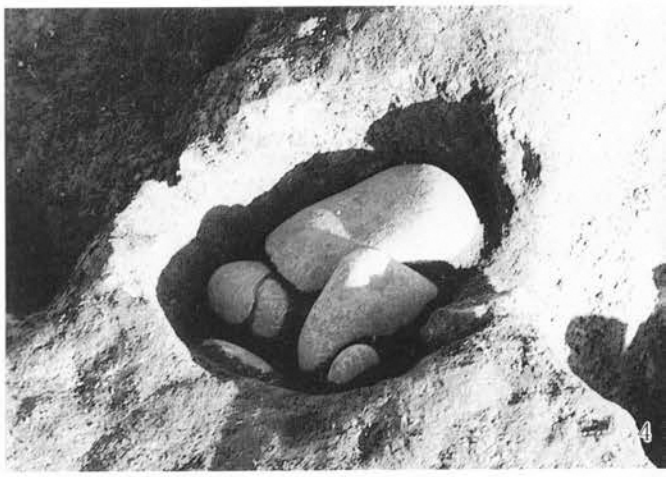


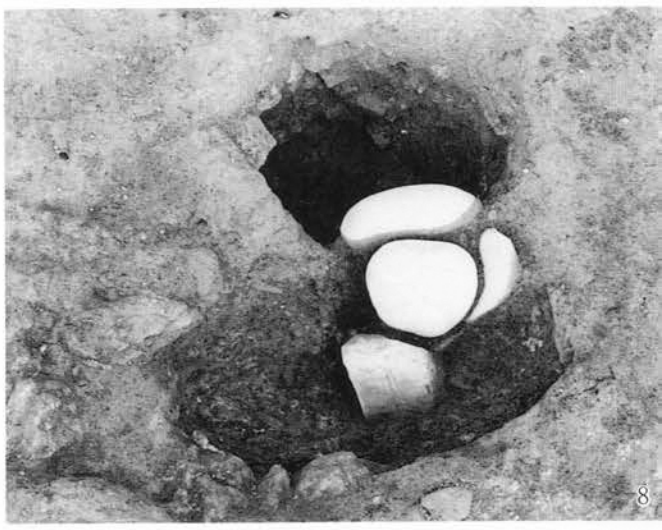
図版第44図　第1～3・5号埋甕　第3号焼土他 1～2．第1号埋甕　3．第2号埋甕　4．第3号埋甕　5．第5号埋甕
Y66区出土状況　6．X64Y44出土状況　7．第　号焼土　8．第3号焼土



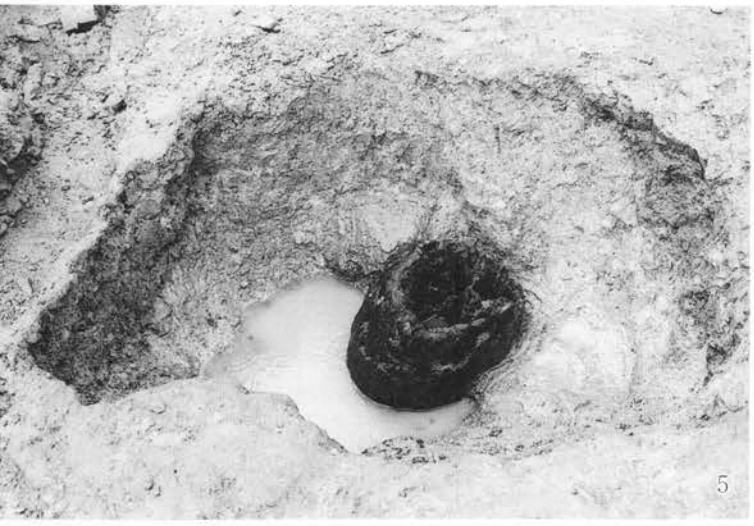
図版第45図　穴集中区全景・出土状況　1．全景（西より）　2．穴群東側（西より）　3．第630号穴遺物出土状況
4．第538号穴遺物出土状況

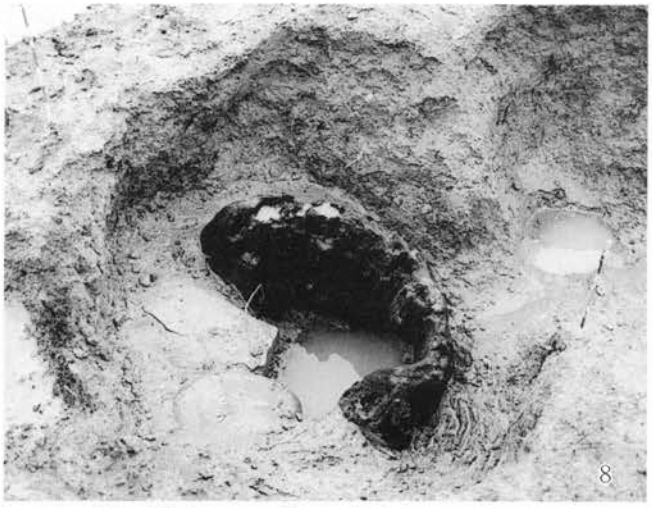




図版第46図　穴出土状況　1．第988号穴　2．第929号穴　3．第945号穴　4．第703号穴
5．第590A号穴　6．第162号穴　7．第748号穴　8．第535号穴





図版第47図　穴出土状況　1．第546号穴　2．第1031号穴　3．第242号穴　4．第1321号穴　5．第1352号穴
6．第1313号穴　7．第1549号穴　8．第1033号穴

発掘調査参加者一覧表

藤野良子・北川美佐子・高畑寿恵・吉田正人・大竹　豊（以上富山大学学生及び卒業生）・河村　浩・青木啓三・伊藤光博・上原政吉・折谷助松・勝田市左ヱ門・勝田義雄・勝原信行・加藤　徹・川瀬重信・小林　実・込尾検治・斎藤清志・坂藤正義・島　竹松・下沢嘉栄・末上一弘・砂田良弘・宝田二作・竹内澄男・竹内正幸・竹内　基・武村仙太郎・田中敬喜知・田中三次・田中俊雄・田中好巳・谷口堅造・寺田弥与松・徳井三之助・長井栄次郎・長井恵二・長井賢二・長井佐恵松・長井清治・長井久雄・萩原時雄・濱　文吉・浜川信作・林　清則・平川正雄・深松五之助・藤田雅樹・舟川伊之助・舟本宗太郎・古川保忠・本松義雄・松井信之・松井雅之・松田初郎・水島栄蔵・水島重政・水島武儀・山崎信吉・山田岩吉・吉田盛太郎・米田稔和・脇山隆一・荒川よし・石原笑子・石原友子・石原ハルエ・和泉はるの・伊藤美代子・稲葉ふさえ・岩城美与志・大角ふみ子・扇谷あきえ・扇谷いと・大平英子・折谷キク・折谷真知子・嘉義はつえ・嘉義二三子・勝田ハナ・勝原澄子・草　古子・北尾久子・久里仲子・久里ミサオ・車キクエ黒坂君子・沢田美喜・島　明子・下坂玲子・下沢ミツエ・末上光枝・瀬川　薫・高城せつ・宝田富子・竹内幸子・竹内杉子・竹内澄子・竹内孝子・竹内寛子・竹谷カツエ・竹谷久子・田中栄子・田中和子・田中キヨ・田中テル・田中ナツエ・田中正子・田中丸子・谷口はな・常石治子・長井あい・長井アキエ・長井秋子・長井初枝・長井ハル・長井フサ・長井マツエ・中瀬倶子・波間八重・坂東はるえ・広多ハツエ・深松シイ・深松ハルエ・舟川のぶ・古田友枝・宝泉キヨ・本田喜美子・松田幸代・松原千代枝・松本スミ子・三島数枝・水島英美子・水島かせ・水島かつ子・水島クメ・水島幸代・水島サツエ・光主静枝・蓑田クニエ・村田蓉子・室イヨ子・柚木みのる・吉田かづい・善田セツ子米沢浜子

北陸自動車道遺跡調査報告

朝日町編4

境A遺跡―遺構編―

発行日　平成元年3月31日
編集者　富山県埋蔵文化財センター
発行者　富山県教育委員会
印刷者　㈲日本海印刷